

恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報

III

—都営本町四丁目団地建替工事に伴う調査—

2003年3月

国分寺市遺跡調査会

志ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅲ 正誤表

頁	行	誤	正
iv	17	1/1	1/1 1/3
9	7	梁行	桁行
9	13	梁行	桁行
9	26	梁行	桁行
10	2	梁行	桁行
16	9	N-30° -E	N-50° -E
19	17	N-45° -E	N-75° -E
第27表	117-19	1行削除	
第30表	105-4	床直・29、6・32、0・14、6・1、8	覆土・42、2・39、9・18、0・10、8
第30表	105-5	覆土・42、2・39、9・18、0・19、1	床直・29、6・32、0・14、6・19、2
第30表	107-10	P-50	P-6
第31表	109-6	1行削除	
第31表	118-5	P-16	P-14
第33表	115-10	P-15	P-9
第33表	115-12	P-29	P-11
第37表	130-7	P-10	P-2
第37表	131-6	P-19	P-3
第40表	138-5	P-25	P-10
図面47	SI94J炉平面図	C-C'	C'-C
図面50	SI132J埋甕平面図	C-C'	C'-C
尚、観察表のSB・SI・SK・SXにはJを付す			



調査区遠景（南から）



調査区全景



S121 J 柄鏡形敷石住居



S127J



S119J



S114J



SU1



S132J



S137J



S163J



S138J



M-2



S134J



SK225J



H-4



S129J



S128J

序

野川の源流地付近の丘陵上には、縄文時代中期の大集落の形成が見られ、それらに対してはすでに機会を得て発掘調査が実施されてきた。恋ヶ窪東遺跡も、広義の恋ヶ窪遺跡の東方に位置する中期の大集落である。この地には、東京都の“都営本町第四用地”が存在してきたが、平成2年11月から平成8年8月にかけて、同用地の建替工事に伴って事前調査が実施された。かつて『恋ヶ窪東遺跡』のⅠ・Ⅱとして報告した地に連続する地域にあたり、中期集落の中心的地域として考えられてきた地であった。12,643.30㎡の範囲内に掘立柱建物5棟と敷石住居跡5を含む竪穴住居跡189軒、屋外埋壘7、集石を含む土坑61、土坑341などが検出され、それに伴って多量の遺物（土器・石器など）が出土した。それは中期の阿玉台式・勝坂式～加曾利E式期にかけてのものであり、限定された空間に重複して見いだされた。その状態はきわめて複雑であり、住居個々の重複状態の把握・切り合いの前後関係の認定理解に難事を呈したのである。

加えて、縄文時代草創期の土器（隆線文・爪形文）、早期の住居跡5軒と竪穴2、そして土器（燃糸文・押型文・条痕文系）、前期の土器（踏磯式・十三菩提式）、また、後期の土器（称名寺式・堀之内式）、晩期の土器（大洞系）など、中期を中心に縄文時代の草創期から晩期にいたる各時期の土器が量の多少の差はあれ出土したことは、恋ヶ窪東遺跡が縄文時代のすべての時代を通じて、生活の適地であったことを物語っている。さらに、旧石器時代に遡る石器の出土地点も確認され、野川の源流地は、まさに石器時代の集落選地として稀にみる好適地であったことが知られる。野川に臨む台地上に選地した縄文人にとって、豊富な水量の有する湧水地の存在と後背に連なる豊かな植生林の存在こそ生活の糧として不可欠であったことは容易に推察することができる。

この度の調査の結果、従来の知見をさらに前進させる資料が検出され、この地域における縄文時代中期の集落構成の把握にきわめて貴重な資料が加えられたのである。

長期間にわたって、調査にご理解と格別のご協力を願った東京都住宅局、実際に諸事万般にわたってご高配を下された東京都多摩南部住宅建設事務所の皆様方に対して感謝の意を表させていただきます。

平成15年3月31日

国分寺市遺跡調査会

会長 坂 詰 秀 一

例 言

1. 本書は、東京都国分寺市本町4丁目、東窓ヶ窪1丁目・2丁目地内に所在する窓ヶ窪東遺跡において、都営本町四丁目団地建替工事に伴う事前調査の成果をまとめたものである。
2. 発掘調査は、工事の都合により平成2年11月19日から平成4年4月28日までを第一期調査、平成6年11月18日から平成8年8月23日までを第二期調査として実施した。報告書作成作業は発掘調査終了後に着手し、平成15年3月31日の刊行とした。
3. 発掘調査は板倉歎之・岩崎玲子・滝嶋和子が専従した。
4. 本書の執筆・編集は吉田 格・永峯光一（平成14年7月8日退任）・大川 清・板詰秀一の監修のもとに、上敷領 久が担当し、有吉重蔵・福田信夫・上村昌男・岩崎玲子がこれを助けた。
5. 本書のトレース・版下作成は主に、野村美智子・永尾美智子・古野千賀子・佐藤令・田島雅子・渡辺良重・折原覚があたり、小池和彦・小林幸江・山口啓子・大下ゆみ・大羽正子が補佐した。写真撮影作業および写真図版作成は主に、嶋田圭吾がこれにあたった。
6. 縄文土器の実測および遺構トレースは株式会社こうそくに委託し、石器の実測・黒曜石の原産地推定および観察表作成は株式会社アルカに委託した。
7. 縄文土器の観察報告および観察表作成については黒尾和久氏にお願ひし、中山真治・武川夏樹・柳編茂・井出浩正の各氏の協力を得た。一部旧石器時代資料の分類・実測は井上慎也・国武貞克両氏の協力を得た。
8. 発掘調査及び整理作業に参加者（敬称略、五十音順）

発掘作業

稲井亮・井上寧・太田立也・奥田敏子・小山智・島田智博・戸山歌・西垣裕美・長谷川大輔・畑山豊・原田瑞江・本田壮・三巻良子・宮沢高司・宮戸人志・森安敏子・安原誠・山下哲郎・山田遠・山本克・株式会社白木建設

整理作業

有吉陽美・石井泰子・石関洋子・石田勝男・石田美恵子・岩崎正枝・岡崎チヅエ・唐沢順子・木村初枝・倉田陽子・黒木康嘉・黒崎基英・小林京子・佐藤静枝・島田智博・宿谷紗貴子・須崎幸子・相馬しのぶ・千葉則子・剣馬律子・内藤靖子・長瀬哲二・櫛岡ゆうこ・西垣裕美・野口木綿子・長谷川光子・畑中由布・林美喜・東清子・水村洋子・宮保正美・森安敏子・若林砂絵子

凡 例

本 文

1. 遺構は遺跡をとおしてほぼ発見順に連続番号を付し下記の遺構記号を冠して表示する。縄文時代の遺構については末尾に J を付けた。また、本文中においては「S1131J住居」「SK904 J土坑」のように記述した。

S B J 掘立柱建物 S I J 住居 S K J 土坑・炉穴・陥穴 P J 小穴
S U 屋外埋壙 S S 集石土坑 S X J 特殊遺構

2. 遺物の記述は一覧表によった。表記法は下記の通りである。

- ①出土遺物の番号は図面番号を用いた。例えば「15-1」とあれば「図面15-1」を指す。
②出土位置の内、「S1101J」は101号住居跡、「SK78J」は78号土坑、A-9はA-9グリッド出土を指す。

図面・図版

1. 遺構

- (1) 遺構配置図表示の数字は下記の設定基準に基づく。

- a. 国分寺市の基準点に基づく国家座標第9系統による。(-30,000, -30,000)を原点とする。
b. 南北軸は2m毎にアルファベット3文字の組合わせで表示する。例-33,300は「DGA」
第1列は1000m毎にA・B・C・D・E・Fとする。
第2列は 50m毎にA・B・C・……S・Tとする。
第3列は 2m毎にA・B・C・……X・Yとする。
c. 東西軸は2m毎に-30,000を0として数字で表示する。例-32,500は「1250」
d. 区画(グリッド)の呼称は10m×10mの最小区画のみに与える。

- (2) 断面図表示の数字は水系レベルで、海拔高を示す。

- (3) スクリーントーンの指示は次の通りである。

	焼土		受熱部分		炭化物
	硬質面1		硬質面2		地山
	小穴	【敷石住居で遺物取り上げ前に確認された小穴 (S119J・S129J) 2軒の住居の推定プランが重なり、所属未確定の為両方の住居に作図した小穴 (S171JとS1128J)】			


- (4) 縮尺は次の通りである。

遺構配置図 1/1000 住居跡 1/60 炉・埋壙・遺物出土小穴 1/30

屋外埋藏 1/30 集石土坑 1/30 土坑 1/30・1/60

2. 遺物

(1) 土器のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。

 赤彩部分

(2) 写真図版の内、出土遺物の番号は図面番号と対照にした。例えば「15-1」とあれば「図面15-1」のことを示す。

(3) 遺物の縮尺は次のとおりに統一したが、一部異なるものがある。

[図面]

石器類	1/2	1/3	3/4	1/4	1/6
土器類(破片)	1/1	1/3			
土器類(復元・完形)	1/6	1/8			
土製品類	1/3				

[図版]

石器類	1/1	1/2	1/3	1/4
土器類(破片)	1/2			
土器類(復元・完形)	1/3			
土製品類	1/1			

目 次

序	i
例言	ii
凡例	iii
I 調査に至る経過	1
II 調査地区の概観	2
1. 調査地区の位置・立地	2
2. 周辺の遺跡	2
3. 層序	3
III 発掘経過	8
IV 検出遺構	9
V 出土遺物	31
1. 土器	31
2. 石器	36
VI 小 結	72
1. 恋ヶ窪東遺跡の概要	72
2. 土器について	72
3. 石器について	73
4. 遺構について	73
5. 今後の課題	74
参考文献	75
VII 総 括	77
国分寺市遺跡調査会組織	78
報告書抄録	79

挿図目次

- 第1図 遺跡の位置
- 第2図 周辺地形図
- 第3図 周辺の遺跡
- 第4図 基本層序模式図

表目次

第1表	土坑群観察表
第2表	草創期・早期の土器
第3～4表	早期の土器
第5～6表	前期の土器
第7～18表	中期の土器
第19表	後期・晩期の土器
第20～40表	石器観察表

図面目次

図面1	住居遺構配置図	図面26	S129J 住居
図面2	掘立柱建物・屋外埋甕・集石土坑・土坑・陥穴・特殊遺構・炉穴遺構配置図	図面27	S130J 住居
図面3	SB1J 掘立柱建物	図面28	S132J 住居
図面4	SB2・3J 掘立柱建物	図面29	S134J 住居
図面5	SB4・5J 掘立柱建物	図面30	S135J 住居
図面6	S19J 住居	図面31	S136J 住居
図面7	S110J 住居	図面32	S138J 住居
図面8	S112J 住居	図面33	S139J 住居
図面9	S114・16J 住居	図面34	S140J 住居
図面10・11	S118J 住居	図面35	S145・81J 住居
図面12・13	S119J 住居	図面36	S147J 住居
図面14	S120J 住居	図面37	S152J 住居
図面15・16	S121J 住居	図面38	S158J 住居
図面17	S122J 住居	図面39	S152・58J 住居内炉
図面18	S123J 住居	図面40	S157J 住居
図面19	S124J 住居	図面41	S195J 住居
図面20	S125J 住居	図面42・43	S163J 住居
図面21・22	S126J 住居	図面44	S171J 住居
図面23・24	S127J 住居	図面45	S1126J 住居
図面25	S128J 住居	図面46	S187J 住居
		図面47	S194J 住居
		図面48	S1101J 住居
		図面49	S1117J 住居
		図面50	S1132J 住居
		図面51	S1136J 住居
		図面52	S1138J 住居
		図面53	S1150J 住居
		図面54	S1204J 住居
		図面55	SU1・5～9 屋外埋甕
		図面56	SS9・15・21・26・33・35 集石土坑
		図面57	SS43・44・48・63・65・67 集石土坑

図面58	SS68 集石土坑 SK119・129・168・170・263・ 279・346J 土坑	図版1~6	SB1J 掘立柱建物
図面59	SK111・144・171・273・388・ 462・551J 土坑	図版7・8	SB2J 掘立柱建物
図面60	SK69・161・219・234・240・ 286・294・421・436J 土坑	図版9・10	SB3J 掘立柱建物
図面61	SK422・479・491・497・520・ 550J 土坑、土坑群	図版11・12	SB4J 掘立柱建物
図面62	土坑群セクション	図版13~15	SB5J 掘立柱建物
図面63	SK52・68・74・88J 陥穴 SX42J-1・2特殊遺構	図版16	SI9J 住居
図面64・65	SK101J 炉穴	図版17	SI10J 住居
図面66	SK102J 炉穴	図版18	SI12J 住居
図面67	縄文時代 草創期・早期の土器 (1)	図版19	SI14J 住居
図面68・69	縄文時代 早期の土器 (2)・(3)	図版20	SI14・16J 住居
図面70・71	縄文時代 前期の土器 (1)・(2)	図版21	SI18J 住居
図面72~90	縄文時代 中期の土器 (1)~(19)	図版22~24	SI19J 住居
図面91・92	縄文時代 後期の土器 (1)・(2)	図版25・26	SI20J 住居
図面93	縄文時代 晩期の土器	図版27~30	SI21J 住居
図面94	縄文時代の土製品・土器片鏟 ・土製円板	図版31	SI22J 住居
図面95~97	旧石器時代の遺物 (1)~(3)	図版32	SI23J 住居
図面98~138	縄文時代の遺物 (1)~(41)	図版33・34	SI24J 住居
		図版35・36	SI25J 住居
		図版37~39	SI26J 住居
		図版40	SI27J 住居
		図版41	SI28J 住居
		図版42・43	SI29J 住居
		図版44	SI30J 住居
		図版45	SI32J 住居
		図版46	SI34J 住居
		図版47	SI35J 住居
		図版48	SI36J 住居
		図版49	SI38J 住居
		図版50	SI39J 住居
		図版51	SI40J 住居
		図版52・53	SI45・81J 住居
		図版54	SI47J 住居
		図版55	SI52J 住居

図版目次

巻頭図版	1. 調査区透景 調査区全景
	2. SI21J 柄杓形敷石住居
	3. 出土遺物1(縄文土器) S=1/5
	4. 出土遺物2(石製装飾品)
	S=1/1

図版56	S157・95J	住居	図版89	SK263J	土坑
図版57	S158J	住居	図版90	SK171・551・111J	土坑
図版58	S163J	住居	図版91	SK388J	土坑
図版59	S171J	住居	図版92	SK462J	土坑
図版60	S187J	住居	図版93	SK273J	土坑
図版61	S194J	住居	図版94	SK69・219J	土坑
図版62	S1101J	住居	図版95	SK234・240・294J	土坑
図版63	S1117J	住居	図版96	SK286・421J	土坑
図版64	S1132J	住居	図版97	SK422・479J	土坑
図版65	S1136J	住居	図版98	SK491・497J	土坑
図版66	S1138J	住居	図版99	SK520・550J	土坑
図版67	S1150J	住居	図版100~108	土坑群	
図版68	S1204J	住居	図版109	SK101J	炉穴
図版69	SU5・6	屋外埋壙	図版110	SK102J	炉穴
図版70	SU7・8	屋外埋壙	図版111	SK52J	陥穴
図版71	SU11・SU9	屋外埋壙	図版112	SK68・74J	陥穴
図版72	SS9	集石土坑	図版113	SK74・88J	陥穴
図版73	SS15	集石土坑	図版114・115	SX42J-1・2	特殊遺構
図版74	SS21	集石土坑	図版116	縄文時代 草創期・早期の土器 (1)	
図版75	SS26	集石土坑	図版117・118	縄文時代 早期の土器 (2)・(3)	
図版76	SS33	集石土坑	図版119	縄文時代 早期 (4)・前期の土器 (1)	
図版77	SS35	集石土坑	図版120~122	縄文時代 前期の土器 (2)~(4)	
図版78	SS43	集石土坑	図版123~161	縄文時代 中期の土器 (1)~(39)	
図版79	SS44・65	集石土坑	図版162~165	縄文時代 後期 (1)~(4)・晩期の土器	
図版80	SS48	集石土坑	図版166	縄文時代の土製品・土器片錘 (1)	
図版81	SS63	集石土坑	図版167	縄文時代の土器片錘 (2)・土製円板 (1)	
図版82	SS67	集石土坑	図版168・169	縄文時代の土製円板 (2)・(3)	
図版83	SS68	集石土坑			
図版84	SK129J	土坑			
図版85	SK119J	土坑			
図版86	SK168J	土坑			
図版87	SK170J	土坑			
図版88	SK346J	土坑			

図版170～173 旧石器時代の遺物 (1)～(4)

図版174～218 縄文時代の遺物 (1)～(45)

I 調査に至る経過

東京都住宅局は、老朽化した都営住宅の建替えを行っており、平成2年度から市内4か所の建替え工事が計画され、東京都多摩南部住宅建設事務所より（平成10年度からは東京都多摩西部住宅建設事務所に組織編成されており、以下住宅局と略す）埋蔵文化財発掘の通知が国分寺市教育委員会に提出された。今次調査に該当する遺跡は以下のとおりである。

都営国分寺第十三住宅 平成2年6月28日付 国教社文収第140号 恋ヶ窪東遺跡

これを受けて、国分寺市教育委員会では、当該地区がすべて周知の遺跡にあたり、既往の調査成果及び周辺地域の調査結果から事前調査が必要であるとし、その旨を回答した。本報告である都営国分寺第十三住宅については、平成2年10月20日付 国教社文収第255号の住宅局からの埋蔵文化財の発掘調査について協力依頼文を受けた。これにより発掘調査に向けて本格的な事前協議が開始され、基本的な合意事項について、平成2年11月13日付 国教社文発第50号にて協力依頼に対する回答を行った。なお、これは、調査期間及び費用についても提示した「都営住宅建替え工事地区 埋蔵文化財に関する協定書案」として回答された。

1. 発掘調査の体制について

平成2年度から13年度までの長期間にわたり、国分寺市遺跡調査会において対応することになるが、同調査会における事業計画の著しい変動により体制に大幅な変更が生じる場合には、別途協議して期間を変更することとした。

2. 調査委託契約の一括契約及び執行について

事業の実施に当っては、より簡素な事務内容が必須となる。

そこで、団地毎に調査委託契約を締結するのではなく一本化し（但し、予算書と決算書においては団地毎の区分を示すこととする。このうち、決算書において団地毎の区分ができない部分は面積などの按分で算出することとする）、執行することなどにより事務内容を簡素にする。

3. 事務の体制について

事業の実施にあたっては、前項と合わせて十分な事務体制が必須となるため、住宅局の全面的な協力のもとに発掘調査事務の経験者を東京都退職職員より人選し、事務統括責任者とする。

4. 総合防災工事の施工

事業区域は住宅地にあるので、現場における発掘作業が安全且つ迅速に行えるように、周辺家屋事前調査・山留工・排水設備工などの総合防災工事について住宅局が施行することとした。

この回答をもとに最終的な事前協議が行われ、調査体制、調査方法、所要経費などの最終的な合意に達し、平成4年3月30日に住宅局と国分寺市教育委員会と国分寺市遺跡調査会間で「都営住宅建替え工事地区 埋蔵文化財に関する協定書」が締結された。

II 調査地区の概観

1. 調査地区の位置・立地

国分寺市は、東京都全域からみればほぼその中央に位置し、東西約5.68km、南北約3.86km、面積は11.4km²である。その経緯度は、おおむね東経139度28分、北緯35度42分である。

本市の東隣は小金井市、南は府中市と国立市、西は立川市、北は小平市である。交通はJR中央線で新宿駅から西に直進して約21kmで国分寺駅に至る。昭和48年、国立駅との中間に武蔵野線の開通にともない西国分寺駅が開業した。

市域の大部分は武蔵野段丘上にあり、段丘の両端が国分寺崖線となつて一段下る立川段丘になる。立川段丘は府中市域の南で現在の多摩川の流路のある低地を隔てて多摩丘陵と相対する。国分寺崖線の下には野川があり、崖側各所からの湧水を集めて流れる。国分寺崖線は、古多摩川が武蔵野台地を削ってつくった浸食崖で、崖の高さは市内西町五丁目と約5m、光町一丁目と約11m、西元町で約12m、東元町一丁目と南町の境で約16mと上流から下流に向かって崖高は大きくなっている。これは崖上の武蔵野段丘に対して崖下の立川段丘が西から東に向かって急傾斜しているからである。

恋ヶ窪東遺跡は、国分寺崖線上にあり、国分寺崖線にそつては、古くは先土器文化時代からの先史時代遺跡があり、野川谷頭付近には武蔵国の国分寺が営まれ、また野川ぞいには古くから水田が作られたなど、この崖線ぞいはいわば古代武蔵の銀座通りであった。

国分寺崖線の成因は、武蔵野台地を古多摩川の水流が横から削りとつたことによる。このため、武蔵野ローム層以下同礫層さらに基盤の連光寺互層の上部まで深くえぐりとする浸食崖をつくり、その旧河底に礫層（立川礫層）を堆積しさらに上に立川ロームが2～3m積もつた。この立川ロームは二層に分かれており、下部は黄褐色の厚さ約2m、上部は青柳ロームとも呼ばれる赤褐色の厚さ約1mの層である。恋ヶ窪谷で見ると、すでに武蔵野ローム形成時に流水を集めて上面に窪みをつくっていた水流が次第に谷を開折し立川ローム形成時にも及び深い谷になる。従つてその谷壁斜面に国分寺崖線と同じ地質構造を見ることができる。これはさんや谷、殿ヶ谷戸谷、本多谷でも同様であるが、谷の深さが10m以上では関東ローム（赤土）だけの露出にとどまっている。今次調査区はこのさんや谷の東側に位置する。

2. 周辺の遺跡

本遺跡の西側には比高差約12mで台地を区切るように南北に延びるさんや谷があり、谷をはさんだ対岸には縄文時代中期の敷石住居跡や竪穴住居跡、屋外埋壘、土坑、集石土坑などが発

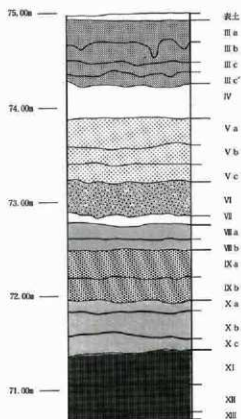
掘調査によって検出されている羽根沢遺跡がある。さらにその西側の同一台地上に小支谷をばさんで、縄文時代中期の勝坂式期より加曾利E式期の竪穴住居跡が多数検出されている窓ヶ窪遺跡が立地している。本遺跡の南側には地つづきに花沢西遺跡があり、発掘調査により縄文時代中期前半・後半それに後期の遺構、遺物が発見されている。

調査区は本町4丁目17番地内で本遺跡のほぼ中央に位置し、西側にあるさんや谷より東に約100m台地内に入った地点である。調査区の周辺地域においてこれまでに店舗工事や公共下水道管埋設工事、電気ケーブル埋設工事に伴う発掘調査を4次にわたり実施している。その結果、縄文時代中期の勝坂式期や加曾利E式期の竪穴住居跡、屋外埋壘、土坑、集石土坑が検出されている。その他、住宅建設やガス管・水道管等の埋設工事に際して立会い調査も行っており、そこから中期の遺物が出土していることから縄文時代中期の遺構、遺物が包蔵されている遺跡と推察される。

3. 層 序

調査区は武蔵野段丘に位置する。堆積状況は、既存の都営住宅基礎工事のために歴史時代の堆積層は全て削平されており、アスファルトを撤去すると縄文時代の確認面あるいはローム層まで攪乱が及んでいた。なお、基本層序について以下に記した。

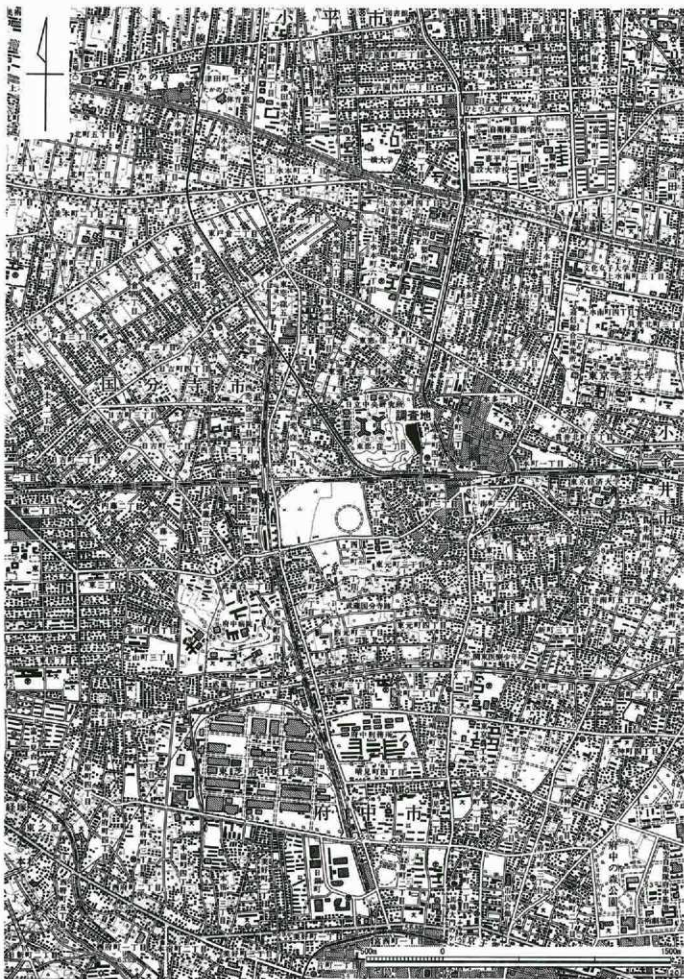
- | | |
|----------|--------------------------------|
| III a 層 | 暗茶褐色土 |
| III b 層 | 暗茶褐色土 |
| III c 層 | 茶褐色土 |
| III c' 層 | 漸移層 |
| IV 層 | 暗茶褐色軟質ローム層 |
| V a 層 | (立川ローム第IV層上部)
黄褐色ローム層 |
| V b 層 | (立川ローム第IV層中部)
暗灰褐色ローム層 |
| V c 層 | (立川ローム第IV層下部)
黄褐色ローム層 |
| VI 層 | (立川ローム第V層)
暗褐色ローム層・第1黒色帯 |
| VII 層 | (立川ローム第VI層)
明黄褐色ローム層・A T包含層 |
| VII a 層 | (立川ローム第VII層) |



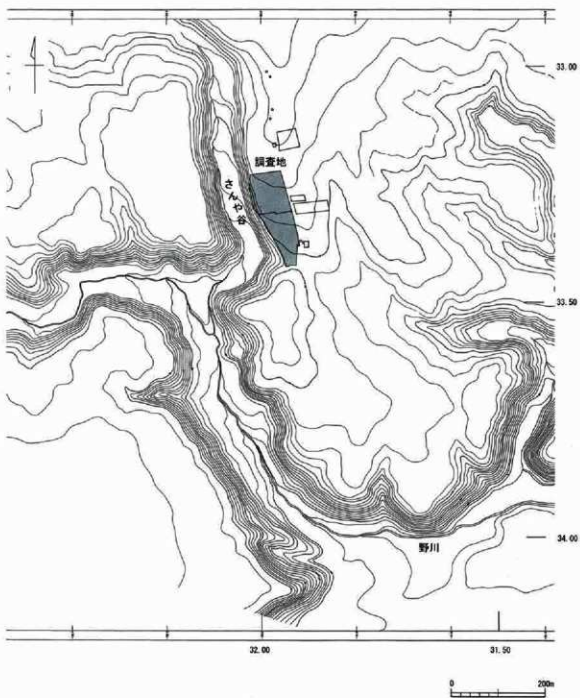
第4図 基本層序模式図

褐色ローム層・第2黒色帯上部

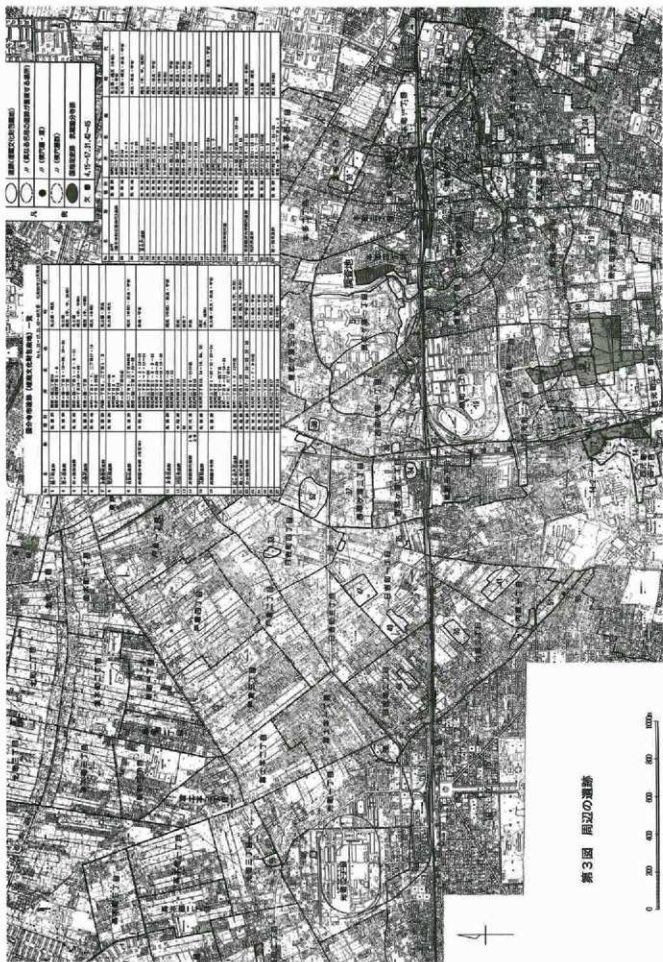
- VII b層 (立川ローム第IX層上部) 暗褐色ローム層・第2黒色帯上部
- IX a層 (立川ローム第IX層中部) 黒褐色ローム層・第2黒色帯下部
- IX b層 (立川ローム第IX層下部) 黒褐色ローム層・第2黒色帯下部
- X a層 (立川ローム第X層上部) 黄褐色ローム層
- X b層 (立川ローム第X層中部) 暗黄褐色ローム層
- X c層 (立川ローム第X層下部) 黄褐色ローム層
- X I層 (立川ローム第X I層) 黄褐色ローム層・相模野第2スコリア包含層
- X II層 (武蔵野ローム層) 暗黄褐色ローム層
- X III層 (武蔵野ローム層) 褐色ローム層



第1図 遺跡の位置



第2図 周辺地形図



第3図 周辺の環境

Ⅲ 発掘経過

①平成2年度 H2.11.19～H3.3.31 (84日間)

窓ヶ窪東遺跡の中央部に位置する2ヶ所である。いずれの調査区においても、市内で例の少ない縄文時代早期の住居跡が検出されている。

②平成3年度 H3.4.1～H4.3.31 (261日間)

遺跡内で1ヶ所の調査を行った。本調査区は、遺跡のほぼ中央に位置し西側には比高差約10mを測る谷が南から開折しており、いくつかの湧水が存在している。

平成2年度に試掘調査が行われ、先土器時代及び縄文時代早期から後期にかけての遺構・遺物が発見された為、引き続き本調査を実施した。

③平成4年度 H4.4.1～H4.4.28 (20日間)

1ヶ所の調査を実施した。これは平成2～3年度において都営本町四丁目団地建替工事に伴う第一期調査に引き続き平成4年3月から4月までの2ヶ月間、事業用地東側の道路沿いにおいて排水管部分の調査を行ったものである。

④平成6年度 H6.10.28～H7.3.31 (90日間)

平成3年度に調査区南側の第一期調査を終了しており、第二期調査として、平成6年度は南側の公園予定地と北側の現場事務所設置予定地A地区を先行して調査を実施した。

⑤平成7年度 H7.4.1～H8.3.31 (227日間)

平成6年度から第二期調査に着手した。調査の結果当初の遺構検出予測数量を大幅に越える住居跡群と土坑群が確認されたため、調査期間内の終了が不可能と判断され、終了時期を平成8年8月31日に変更した。

⑥平成8年度 H8.4.1～H8.8.23 (93日間)

当該年度を以って国分寺本町四丁目17番地に所在する都営本町四丁目団地建替工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、事前調査として平成2年11月に調査を開始、平成8年8月を以って12,643.30㎡の調査を終了した。

IV 検出遺構

本次調査において、縄文時代の掘立柱建物跡5棟、柄鏡形歌石住居跡5軒を含む竪穴住居跡189軒、屋外埋壘7基、集石土坑61基、土坑341基、炉穴2基、陥穴4基、特殊遺構35基を検出し、その内全容が把握可能な遺構について以下記述する。

建物跡

SB1 J 掘立柱建物（図面3、図版1～6）

グリッドU-10・N/S, V-10・Nに位置する。主軸は梁行でN-20°-Eである。8個の柱穴を検出した。建物の規模は東西1間（3.5m）、南北3間（9.8m）の南北棟掘立柱建物である。柱間は桁行3.5m、梁行2.0mである。柱穴の平面形は径約120～60cmの不整形円形を呈する。確認面からの深さは約90～40cmを測り、断面形は箱形を呈する。埋め土はローム粒子、ロームブロックを含み、緻密で締まりのある黒褐色土が主体である。

SB2 J 掘立柱建物（図面4、図版7～8）

グリッドG-2・S, H-2・Nに位置する。主軸は梁行でN-11°-Eである。4個の柱穴を検出した。建物の規模は東西1間（2.8m）、南北1間（4.2m）の南北棟掘立柱建物である。ただし攪乱等で滅失した柱穴が存在する可能性もある。柱穴の平面形は径約60～90cmの円形を呈する。確認面からの深さは45～50cmを測り、断面形はU字形を呈する。埋め土はローム粒子、ロームブロックを含み、緻密で締まりのある黒褐色土が主体である。

SB3 J 掘立柱建物（図面4、図版9～10）

グリッドE-4・Nに位置する。主軸はほぼ北向きである。4個の柱穴を検出した。建物の規模は東西1間（2.3m）、南北1間（3.3m）の南北棟掘立柱建物である。ただし攪乱等で滅失した柱穴が存在する可能性もある。柱穴2-1・2-2間の距離が短く、建物の平面形はやや歪んでいる。柱穴の平面形は径約70～50cmの円形を呈する。確認面からの深さは68～30cmを測り、断面形はU字形を呈する。埋め土はローム粒子、ロームブロックを含み、緻密で締まりのある黒褐色土が主体である。

SB4 J 掘立柱建物（図面5、図版11～12）

グリッドX-3・S, Y-3・Nに位置する。主軸は梁行でN-28°-Eである。4個の柱穴を検出した。建物の規模は東西1間（2.8m）、南北1間（3.6m）の南北棟掘立柱建物である。ただし攪乱等で滅失した柱穴が存在する可能性もある。柱穴の平面形は径約60～50cmの円形を呈する。確認面からの深さは34～5cmを測り、断面形はU字形を呈する。建物の平面形はほぼ長方形である。柱穴の埋め土はローム粒子、ロームブロックを含み、緻密で締まりのある黒褐色土が主体である。

SB5 J 掘立柱建物 (図面5、図版13~15)

グリッドU-4・N/Sに位置する。主軸は梁行でN-25°-Wである。4個の柱穴を検出した。建物の規模は東西1間(2.7m)、南北1間(3.4m)の南北棟掘立柱建物である。ただし攪乱等で滅失した柱穴が存在する可能性もある。柱穴の平面形は径約170~80cmの円形を呈する。今次調査で検出された建物の中で最も規模の大きな柱穴である。確認面からの深さは約130~10cmを測り、断面形は箱形を呈する。建物の平面形はやや歪んだ長方形である。柱穴の埋め土はローム粒子、ロームブロックを含み、緻密で締まりのある黒褐色土が主体である。

住居

SI9 J 住居 (図面6、図版16)

グリッドB-2・Nに位置する。早期の住居で、中央部からやや南より長方形の炉を検出した。住居の規模は南北4.2m、東西3.0mを測り、平面形は方形である。壁高は約20cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層はスコリア・ローム粒子をやや多く含む黒褐色土が主体である。炉は床面を一边約80cm、深さ約20cmの方形に掘り込んだ炉である。炉の堆積土層はローム粒子を多く含む暗褐色土が主体である。また住居床面には、45個の小穴を検出した。これらの小穴の内どれが柱穴とすべきかは判然としなかった。

SI10 J 住居 (図面7、図版17)

グリッドA-3・S、B-3・N/Sに位置する。早期の住居で、中央部に長方形の炉を検出した。部分的な削平を受け住居の残存規模は南北6.2m、東西5.7mを測り、平面形は方形である。壁高は約20cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層は暗褐色土が主体である。炉は床面を一边約80cm、深さ約30cmの方形に掘り込んだ炉で、炉の堆積土層はローム粒子を多く含む暗褐色土が主体である。また住居床面には、91個の小穴を検出した。これらの小穴の内どれが柱穴とすべきかは判然としなかった。

SI12 J 住居 (図面8、図版18)

グリッドB-3・S、C-2/3・Nに位置する。早期の住居で、中央部に長方形の炉を検出した。削平が著しく住居の残存規模は南北5.0m、東西6.2mを測り、平面形は方形である。壁高は約20cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層は暗褐色および明褐色土が主体である。炉は床面を一边約70cm、深さ約60cmの方形に掘り込んだ炉で、炉の堆積土層はローム粒子を多く含む暗褐色および明褐色土が主体である。また住居床面には、95個の小穴を検出した。これらの小穴の内どれが柱穴とすべきかは判然としなかった。

SI14 J 住居 (図面9、図版19~20)

グリッドD-2/3・S、E-2/3・Nに位置する。削平が著しく住居北隅のみを確認した。平面形は方形である。壁高は約20cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層は暗褐色土が主体である。炉は床面を一边約70cm、深さ約60cmの方形に掘り込み更に内

側を板状の礫で囲んでいる。堆積土層は焼土粒子と炭化物を多く含む暗褐色土が主体である。住居床面には、16個の小穴を検出した。これらの小穴の内どれが柱穴とすべきかは判然としなかった。出土遺物(図面81-1・図版138・巻頭図版3)から中期後葉の住居である。

S116J住居(図面9、図版20)

グリッドE-1/2・S、F-1/2・Nに位置する。早期の住居である。規模は南北3.7m、東西4.3mを測り、平面形は方形である。壁高は約30cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層は暗褐色および明褐色土が主体である。炉は検出されなかった。床面には、54個の小穴を検出した。これらの小穴の内どれが柱穴とすべきかは判然としなかった。

S118J住居(図面10~11、図版21)

グリッドC-5・S、D-5・Nに位置する。勝坂式期末から加曾利E式期の住居で、攪乱が著しく炉は滅失している。また住居内に深鉢形土器(図面90-14、図版161)が横倒しの状態で出土した。住居の残存規模は南北5.9m、東西5.2mを測り、平面形は円形と推定する。壁高は35cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦であり中央部は著しく硬質化している。堆積土層はローム粒子をやや多く含む暗褐色土が主体である。また住居床面には、54個の小穴を検出した。これらの小穴の内P-1~6が柱穴と考えられる。出土遺物より、中期中葉の住居跡である。

S119J住居(図面12~13、図版22~24)

グリッドD-4、N/Sに位置する。主体部は直径4.0mの円形プランで、そこに幅1.8m、長さ2.0mの張出部がつく柄杓形敷石住居跡である。張出部から奥壁までの全長は5.6mを測る。遺構確認面からの掘り込みは壁際で32cm、主体部中央部で48cmと深く、壁面は明瞭でしっかりしている。張出部も主体部と同程度の掘り込みである。床面の状態は、周縁部敷石内・外共に比較的堅いローム層である。主軸はN-25°-E方向を示す。

覆土はローム粒子・スコリア粒子を含んだ暗褐色土層となっている。壁際や床面近くはロームブロックやローム粒子を多く含む暗黄褐色土層となっている。

敷石は主体部の炉辺部と壁周縁にほどこされているが、やや壁よりに長方形に敷かれ、敷石上面が平坦な面になるように組まれている。敷石には約20~30cm前後の礫が用いられ、数点は石皿などの石器も含まれる。礫と礫の間には小さな礫を詰め、隙間を埋めるようにしている。敷石面のレベルは住居跡床面より5~6cm高く、平坦面の作出は礫面のうち平坦部の広い部分を上にし、更に形に合わせて住居跡床面下へ掘り込みで調整している。

周縁部敷石は円形主体部の壁際に沿って帯状に廻っている。奥壁部が遺存状態良好なのに対し、西側は欠失する部分もある。尚、出入口部の敷石は全体にやや少ない。

敷石を除去した段階で、壁際から柱穴が検出された。この事から周縁部敷石は住居廃絶後、住居の上屋がなくなった状態の時に施されたものと考えられるが、床面の敷石と壁際の敷石との

敷かれた時間差を認めることは出来なかった。

炉は主体部中央に位置し、炉縁西側に石を据えた部分的な石囲炉である。125×180cmの楕円形を呈し、炉石の一部は炉辺部敷石の中に組み入れられ一体化している。住居跡床面からは約60cm程の掘り込みがあり、底面は被熱により赤化している。炉石は炉辺部敷石とほぼ同じレベルで、住居跡床面より約10cm程飛び出ている。覆土は暗茶褐色土で少量の焼土粒子を含む。

柱穴配置は主体部の壁周縁に小ピットを廻らした壁柱穴タイプである。小ピットは周縁部敷石の下部より31基が検出され、約30cm程の間隔をもって主体部を廻っている。いずれも直径が約20cm前後の小さいもので、細かいローム粒子を含む茶褐色土を覆土としている。床面からの深さは約10～30cmを測りやや浅い。また、出入口部には主体部から張出部に向かって主体部を廻るものと同規模のピットが対に穿たれている。床面からの深度は約20cm前後で主体部の浅いものと同じ位である。張出部先端には長径約50cm、短径約20cm、深さ約40cmほどのピットが検出され称名寺期のほぼ完形の深鉢（図面91-3、図版162・巻頭図版3）が出土した。出土遺物より、後期初頭の住居跡である。

S120 J 住居（図面14、図版25～26）

グリッドF-3/4・N/Sに位置する。主体部の半分以上が削平され、残存規模は直径4.7mで平面は円形プランであったと推定される。遺構確認面からの掘り込みは壁際で約40cm、主体部中央部で45cmと深く、壁面は明瞭でしっかりしている。ただし柄部が著しく削平されており、その形状はやや不明瞭である。

覆土はローム粒子・焼土粒子・炭化物を含んだ暗褐色土および明暗褐色土層となっている。敷石が約20cm程度の幅で壁周縁に沿って帯状に廻っており、床面には認められない。約20～30cm前後の礫が用いられ、礫と礫の間には小さな礫を詰め、隙間を埋めるようにしている。

敷石を除去した段階で、壁際から柱穴が検出された。この事から周縁部敷石は住居廃絶後、住居の上屋がなくなった状態の時に施されたものと考えられるが、床面覆土の堆積面と壁際の敷石との間に著しい間隔が認められないことから、住居廃絶の時期と壁際の敷石が敷かれた時間差はそれ程離れていないことが推測されよう。

炉は主体部中央に位置し、直径約70cmの不正円形を呈す。住居跡床面からは約40cm程の掘り込みがあり、底面は被熱により赤化している。覆土は暗茶褐色土で少量の焼土粒子を含む。

柱穴配置は主体部の壁周縁に小ピットを廻らした壁柱穴タイプである。小ピットは周縁部敷石の下部より18基が検出され、約20cm程の間隔をもって主体部を廻っている。いずれも直径が15cm前後の小さいもので、細かいローム粒子を含む暗褐色土を覆土としている。床面からの深さは13～30cmを測りやや浅深にばらつきがある。出土遺物より、中期後葉の住居跡である。

S121 J 住居（図面15～16、図版27～30）

グリッドG-4・S、H-4・Nに位置する。主体部は直径5.2mの円形プランで、そこに

幅1.8m、長さ2.2mの張出部がつく柄鏡形敷石住居跡である。張出部から奥壁までの全長は7.0mを測る。遺構確認面からの掘り込みは壁際で約40cm、主体部中央部で45cmと深く、壁面は明瞭でしっかりしている。張出部も主体部と同程度の掘り込みである。床面の状態は、平坦で周縁部敷石内・外側共に比較的堅いローム層である。主軸はN-30°-E方向を示す。

覆土はローム粒子・焼土粒子を含んだ暗褐色土層となっている。

敷石は主体部の炉部南側から張出部にかけて比較的板状の礫と拳大の礫を組み合わせて床面に食い込むように敷き、壁周縁にはやや大きめの砂利がほどこされている。

周縁部敷石は円形主体部の壁際を円形に区画するように幅約20~30cmで帯状に廻っている。周縁部敷石面の底面は、炉辺部敷石と異なり住居跡床面に食い込むことがなく僅かに浮いた状態で検出され、敷石の下部からは周溝が廻り、そこに柱穴が検出された。これらの事から周縁部敷石は住居廃絶後、住居の上屋がなくなった状態の時に施されたものといえる。但し、敷石と床面との隙間が僅かであることなどからみて住居廃絶とさほど時間的隔たりはないと考えられる。

炉は主体部中央に位置し、炉縁全周を石で囲った石囲炉である。約90×106cmの楕円形を呈し、住居跡床面からは約40cm程の掘り込みがあり、底面は被熱により赤化している。炉石は炉辺部敷石とほぼ同じレベルで、住居跡床面より約10cm程飛び出ている。覆土は暗褐色土で少量の焼土粒子を含む。

柱穴は主体部の壁周縁に小ピットを廻らした壁柱穴タイプである。小ピットは周縁部敷石の下部より26基が検出され、約20cm程の間隔をもって主体部を廻っている。いずれも直径が約20cm前後の小さいもので、細かいローム粒子を含む茶褐色土を覆土としている。床面からの深さは約40cmを越すものが1本を数え、他の柱穴はやや浅い。また、出入口部柱穴は主体部から張出部に向かって「ハ」字状に開く。また張出部の先端部にも相対する2箇所の柱穴が穿たれていた。埋壘は認められなかった。後期初頭の住居跡である。

S122J住居（図面17、図版31）

グリッドH-4・N/Sに位置する。住居の規模は南北3.0m、東西2.9mを測り、平面形は円形である。壁高は35cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層はローム粒子をやや多く含む暗褐色土が主体である。炉は住居中央部にあり南北0.7m、東西0.5mを測り、平面形は楕円形。深さは15cmを測り、断面は皿状を呈する。焼土の堆積は少なく暗褐色土が主体である。住居床面には、10個の柱穴を検出した。

S123J住居（図面18、図版32）

グリッドG-4/5・S、H-4/5・Nに位置する。北東と西側の一部が削平されているため、住居の残存規模は南北3.5m、東西3.3mを測り、平面形は円形である。壁高は約30cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層はローム粒子をやや多く含む暗褐色

土・明褐色土が主体である。炉は住居中央やや北よりにある埋燵炉である。規模は直径約30cmのやや歪んだ円形。深さは約30cmを測る。断面は逆三角形を呈し、底部を打ち欠いた深鉢(図面75-8・図版129)を埋めている。焼土の堆積は少なく暗褐色土が主体であるが炉周辺のロームは被熱が著しい。住居床面には、柱穴と考えられる6個の小穴を検出した。出土遺物より、中期中葉の住居跡である。

S124J住居(図面19、図版33~34)

グリッドF-6・Sに位置する。全体に削平が著しく、特に削平された西側には、礫が敷かれている形状から柄鏡形敷石住居跡と判断した。残存する主体部は直径2.8mの円形プランで、敷石から推測される張出部は幅0.6m、長さ1.0mである。残存する敷石西端から奥壁までの全長は3.8mを測る。遺構確認面からの掘り込みは壁際で約10cm、主体部中央部で22cmである。

張出部の形状は不明。床面の状態は、平坦で周縁部敷石内・外側共に比較的堅いローム層である。

覆土はローム粒子・焼土粒子を含んだ暗褐色土層となっている。敷石は主体部の壁際周辺と主体部と張出し部の接続部付近に多く残存している。削平が著しいが、特に炉の周辺に敷かれた形跡は無い。

敷石の下部から柱穴が検出された。削平のため、住居断絶とさほど時間的關係については不明である。

炉は主体部中央に位置し、礫を部分的に炉縁に部分的に埋置する。規模は約60×50cmの楕円形を呈し、住居跡床面からは約50cm程の掘り込みがあり、覆土は暗褐色土で少量の焼土粒子を含む。底面は被熱により赤化している。また、西側に胴部上半を打ち欠いた台付き深鉢(図面85-7・図版149)が斜位に埋置されている。出土遺物より、中期後葉の住居跡である。

S125J住居(図面20、図版35~36)

グリッドE-4・S、F-4・Nに位置する。主体部中央を南北に削平され、推定される規模は直径5.0mの円形プランで、そこに西側が部分的に削平された残存規模幅0.9m、長さ1.0mの張出部がつく柄鏡形敷石住居跡である。張出部から奥壁までの全長は6.0mを測る。遺構確認面からの掘り込みは東壁際が2段になっており確認面から約10~45cm、西壁際は45cm、主体部中央部で約50cmと深く、壁面は明瞭でしっかりしている。張出部も主体部と同程度の掘り込みである。床面の状態は、平坦で周縁部敷石内・外側共に比較的堅いローム層である。

覆土はローム粒子・焼土粒子を含んだ暗褐色土層となっている。敷石は東壁際一段目に集中し、張出部にわずかに見られる。炉は主体部中央に位置し、直径約70cmの円形を呈し、住居跡床面からは約50cm程の掘り込みがあり、底面は被熱により赤化している。覆土は暗褐色土で少量の焼土粒子を含む。

柱穴は主体部の一段目壁周縁3個、3段目に壁にそってほぼ全周する36個が検出された。可

館性としては、本来柄鏡形敷石住居であった住居が埋没したか、あるいは埋め戻した後に、小ピットを廻らした壁柱穴タイプの住居を掘りなおしたと推測される。

埋没は認められなかった。出土遺物より、後期初頭の住居である。

S126 J 住居 (図面21～22、図版37～39)

グリッドA-6/7・S, B-6/7・Nに位置する。住居の規模は直径5.4mを測り、平面形はほぼ円形である。壁高は約60cmを測り断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層はローム粒子と炭化物、焼土粒子をやや多く含む暗褐色土が主体である。炉は住居中央部にあり深鉢(図面78-2・図版132)を埋置した埋壺炉と周辺近くに礫を埋置した石囲炉状の焼土堆積がある。埋壺炉は直径約70cmのやや歪んだ円形で深さは約30cmを測り、断面は楕円状を呈する。焼土の堆積は少なく暗褐色土が主体である。石囲炉状の焼土堆積は明確な掘りこみは持たない。

住居床面には、54個の小穴を検出した。これらの小穴の内P-1・5・4は西壁から約40cm内側で東側はほぼ壁際に沿う周溝状の浅い溝で円形に連結されているのに対し、その他の小穴は、東壁際に沿う。これらの観察から、最初に石囲炉をもつ住居が構築され、次に埋壺炉をもつ住居に拡張されたと推測される。但し、厳密にどの小穴がどちらの炉に伴う柱穴であるかは判然としなかった。ミニチュア土器(図面90-15・図版38・161)が出土した。出土遺物より、中期中葉の住居跡である。

S127 J 住居 (図面23～24、図版40)

グリッドB-6・N/S, C-6・Nに位置する。住居の規模は南北6.8m、東西5.2mを測り、平面形は隅丸長方形である。壁高は約50cmを測り、床面は平坦である。堆積土層はローム粒子と炭化物、焼土粒子をやや多く含む暗褐色土が主体である。炉は住居中央部にあり南北約70cm、東西72cmの隅丸方形で、深さ25cmを測り、断面は逆台形を呈する。覆土は焼土粒子と被熱したロームブロックを少量含む暗褐色土が主体である。

住居床面には、47個の小穴を検出した。これらの小穴の内P-11～14は小穴間の距離が約1.0mのほぼ正方形に結ばれる。これに対しP-1～10は周溝状の浅い溝で長方形に連結されている。建替えによる構造変化を示しているのか、単独の住居そのものの構造を示しているのかは明らかではない。出土遺物(図面77-1・図版131・巻頭図版3)より、中期中葉の勝坂1a～3a式期の住居跡である。

S128 J 住居 (図面25、図版41)

グリッドD-5・N/S, E-5・Nに位置する。早期の住居で、中央部からやや南より長方形の炉を2箇所検出した。住居の規模は長辺7.1m、短辺5.0mを測り、平面形は長方形である。壁高は約30cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層は暗褐色土が主体である。炉1は長辺約100cm、短辺約60cm、深さ6cm、炉2は長辺95cm、短辺約70cm、深さ

6cmを測り、いずれも少量の焼土を含むまたは住居床面には、142個の小穴を検出した。これらの小穴の内どれが柱穴とすべきかは判断としなかった。時期については、住居の平面形態と炉の形態から見ると早期と考えてよいであろう。また、壁が不整合な部分もあり2軒の切り合いと、中期中葉勝坂2式の土器を伴う住居が更に重複した可能性もある。

S129 J 住居 (図面26、図版42~43)

グリッドB-7/8・N/Sに位置する。主体部は長径4.4m、短径3.9mのやや楕円形円形プランで、そこに幅0.8m、長さ1.2mの張出部がつく柄鏡形敷石住居跡である。張出部から奥壁までの全長は5.4mを測る。遺構確認面からの掘り込みは壁際で18cmを測るが上面は大きく削平されており、堆積土も不明確である。主軸はN-30°-E方向を示す。

敷石は壁周縁にはやや多く認められる。特に壁際の隙は床面に突き立てるように配置されていた。

炉は主体部中央に位置し、炉縁一部を石で囲ってある。直径約80cmの不整形円形を呈し、住居跡床面からは22cm程の掘り込みがあり、底面は被熱により赤化している。覆土は暗褐色土で比較的良好的な焼土堆積が認められる。

張出部の先端部に埋壔は認められた。装飾品(図面138-10・11・図版218・巻頭図版4)が出土した。中期後葉の住居跡である。

S130 J 住居 (図面27、図版44)

グリッドE-4/5・N/Sに位置する。削平が著しく石田炉と埋壔の存在および柱穴と考えられる小穴から住居と判断した。石田炉は長さ約20~30cm程度の礫で断面皿状の掘りこみを囲っており、長径約50cm、短径約40cmの楕円形で、深さ約20cmを測る。埋壔は直径約40cmの円形で、深さ約30cmを測り、断面皿状の掘り込みに底部を打ち欠いた深鉢(図面91-1・図版44・162)を埋置している。

S132 J 住居 (図面28、図版45)

グリッドA-7・S、B-7・Nに位置する。住居の規模は直径3.7mのほぼ円形である。壁高は約20cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層はローム粒子をやや多く含む暗褐色土が主体である。炉は明確ではなく住居中央部に薄い焼土堆積が認められる。住居床面には、9個の小穴を検出した。これらの小穴の内P-1~3が柱穴と考えられる。

ほぼ完形の深鉢(図面76-2・図版130・巻頭図版3)が出土した。

出土遺物より、中期中葉の勝坂2b式あるいは阿玉台Ⅲ~Ⅳ式期の住居跡である。

S134 J 住居 (図面29、図版46)

グリッドS-7・S、T-7・Nに位置する。住居の南東隅から中心付近にかけて削平されているが、直径6.0mのほぼ円形である。壁高は約70cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層はローム粒子をやや多く含む暗褐色土が主体である。炉は埋壔炉で中

中央や北よりに1箇所認めらる。長径約90cm、短径約80cm、深さ約20cm程掘り込みに、底部を打ち欠いた深鉢を正位置に埋置する。

周溝は壁から内側に約40cmの位置に廻っている。72個の小穴を検出したが、P-1~16までは周溝にて連結される。また壁際には直径約10cm程度の小穴が廻っている。連結された小穴と壁際の小穴に時間差があるか否かについては把握する事ができなかった。

装飾品(図面138-7・図版218・巻頭図版4)が出土した。

出土遺物より、中期中葉乃至中期後葉加曾利E1式期の住居跡である。

S135 J 住居(図面30、図版47)

グリッドS-5・S、T-5・Nに位置する。南半分が削平され、残存規模は直径3.4mで、平面はほぼ円形と推測される。壁高は35cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層は暗褐色土を主体とするが、床面直上には焼土粒子、炭化物が比較的厚く堆積する。炉は埋壘炉である。8個の小穴を検出した。柱穴については判然としない。

なお、炉は直径約40cmの円形で、深さ約30cmを測る逆台形の掘り込みに底部を打ち欠いた深鉢(図面75-3・図版128)が埋置されている。炉出土遺物より、中期中葉の住居跡である。

S136 J 住居(図面31、図版48)

グリッドT-8/9・S、U-8・Nに位置する。規模は直径4.8mで、平面はほぼ円形である。壁高は約40cmを測り、断面は皿状を呈し、床面は平坦である。堆積土層は暗褐色土を主体とする。炉は埋壘炉で底部を打ち欠いた深鉢(図面77-3・図版131)を埋置している。35個の小穴を検出した。これらの小穴の内、P-5を共有しながらP-5・7・9・2・4を結ぶ柱穴とP-5・6・8・1・3を結ぶ柱穴に分けて柱穴配列を観察すると、住居の拡張を行ったと考えられる。しかしながらP-6・7、P-9・8、P-1・2、P-3・4として2個一組の柱穴の可能性も指摘されよう。出土した出土遺物より、中期中葉勝坂3式期の住居跡である。

S138 J 住居(図面32、図版49)

グリッドT-4/5・Nに位置する。削平が著しく住居の残存規模は明確ではない。平面はほぼ円形と推測される。壁高は約20cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層は暗褐色土を主体とするが、床面直上には焼土粒子、炭化物が比較的厚く堆積する。炉は焼土の堆積が厚い。17個の小穴を検出した。柱穴については判然としない。装飾品(図面138-5・図版218・巻頭図版4)が出土した。

S139 J 住居(図面33、図版50)

グリッドY-8・S、Z-8・Nに位置する。南半分が削平され住居の残存規模は長径4.5mで、平面は楕円形と推測される。壁高は約40cmを測り周溝が廻る。断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層は暗褐色土を主体とする。炉は埋壘炉で底部を打ち欠いた深鉢(図

面74-5・図版127)を埋置している。26個の小穴を検出した。柱穴については判然としない。

出土遺物より、中期中葉勝坂1b式期乃至勝坂2式期の住居跡である。

S140J住居(図面34、図版51)

グリッドY-9/10・N/Sに位置する。削平が著しく、北・南壁の一部が残存する。推定規模は直径5.4mで、平面はほぼ円形と推測される。壁高は約40cmを測る。堆積土層は黒褐色土を主体とする。

埋壙は住居南壁際に直径約40cmの円形で、深さ約70cmを測る掘り込みに底部を打ち欠いた深鉢(図面79-4・図版135)を埋置している。

出土遺物より、中期後葉加曾利E1式期の住居跡である。

S145・81J住居(図面35、図版52~53)

グリッドT-4・S、U-4・Nに位置する。削平が著しく住居の南東隅が残存し、S181Jの上面にS145Jが構築される。炉は不明である。出土遺物より、中期中葉勝坂2式期の住居跡である。

S147J住居(図面36、図版54)

グリッドT-7/8・S、U-7/8・Nに位置する。住居の中央を東西に削平されているが、直径4.9mのほぼ円形である。壁高は約50cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層はローム粒子をやや多く含む暗褐色土が主体である。炉は2箇所認められる。中央を削平されているが、住居中央部にあり、いずれも床面から約30cm程掘り込まれ焼土粒子を少量含んだ堆積が認められる。住居床面には2条の周溝が廻り、72個の小穴を検出した。2箇所の炉と2条の周溝の存在から、拡張された住居と考えられる。

S152J住居(図面37・39、図版55)

グリッドX-9・N/Sに位置する。削平が著しく、北東壁と床面が残存する。推定規模は直径5.0mで、平面はほぼ円形と推測される。壁高は35cmを測り周溝が廻る。堆積土層は暗褐色土を主体とする。炉は住居のほぼ中央部に南北約100cm、東西約60cm、深さ約30cmの掘り込みに、底部を打ち欠いた深鉢(図面78-5・図版133)を埋置した埋壙炉である。42個の小穴が検出された。柱穴については判然としない。出土遺物より、中期中葉の住居跡である。

S158J住居(図面38・39、図版57)

グリッドU-7・N/Sに位置する。削平が著しく北壁の一部と床面の一部が残る。残存規模は長径5.3mで、平面形は不明である。壁高は46cmを測る。堆積土層は暗褐色土を主体とする。炉も削平を受けており、住居のほぼ中央部に南北約130cm、東西約90cmを測る隅丸の方形で、深さ約30cmの皿状の掘り込みに、焼土を多く含む堆積が認められる。27個の小穴が検出された。柱穴については判然としない。出土遺物より、中期中葉勝坂1b式期乃至阿玉台II新式期の住居跡である。

S157 J 住居 (図面40、図版56)

グリッドT-6・S、U-6・Nに位置する。北半分が削平され、推定規模は長径4.2mで、平面はほぼ円形と推測される。炉は確認されなかった。床面には31個の小穴を検出した。柱穴については判然としない。

なお、埋壘は住居南壁際に直径約50cmの円形で、深さ約20cmを測る掘り込みに浅鉢(図面90-2、図版160)を埋置している。

S195 J 住居 (図面41、図版56)

グリッドT-6・S、U-6・Nに位置する。規模は直径4.1mで、平面は楕円形である。壁高は42cmを測り、断面は皿状を呈し、床面は平坦である。堆積土層は暗褐色土を主体とする。炉は床面の中央からやや北よりに南北78cm、東西約50cmの楕円形で深さ約40cmの鉢状を呈する掘り込みである。床面には31個の小穴を検出した。これらの小穴の内P-1~4が柱穴と考えられる。

S163 J 住居 (図面42~43、図版58)

グリッドX-9/10・Nに位置する。北半部が全て削平されており残存状況は悪い。残存状況から推定される主体部は直径4.7mの円形プランで、そこに幅1.0m、長さ1.4mの張出部がつく柄杓形敷石住居跡である。張出部から奥壁までの全長は6.1mと推定される。上面の削平も著しく遺構確認面からの掘り込みは25cmある。主軸はN-45°-E方向を示す。覆土は暗褐色土層となっている。敷石は主体部の炉部南側から張出部にかけて拳大の礫を敷き、壁周縁にはやや大きめの礫を突き刺すように埋置している。さらに周縁部敷石は円形主体部の壁際を方形に区画するように廻っている。

炉は主体部中央に位置する。掘り込みが浅く直径約80cm、深さ15cmで底面には比較的良好な焼土堆積が認められる。しかしながら、上面を使用時とは時間差が認められる礫が覆っていた。柱穴は主体部の壁周縁に小ピットを廻らした壁柱穴タイプである。さらに壁外にもピットが規則的に廻っている。さらに3基の埋壘が検出されたが張出し部先端の埋壘2(図面87-7・図版155)、主体部と張出し部の接続部の埋壘1(図面87-6・図版155)、さらに主体部南壁際の埋壘3(図面86-7・図版152)を比較すると、埋壘1・2は掘り込みの中に深鉢を埋置されているのに対し、埋壘3に掘り方は認められなかった。

炉を覆う礫、柱穴の配置状況、埋設形態の異なる埋壘といったやや少ない情報であるが、あるいは住居使用時から廃絶とその後にかけて段階的な利用があったことを推測させる。

埋壘の観察から中期後葉の住居跡である。装飾品(図面138-4・図版218・巻頭図版4)が出土した。

S171 J 住居 (図面44、図版59)

グリッドV-8・S、W-8・Nに位置する。削平が著しく北壁の一部と床面の一部が残る。

推定規模は直径6.3mで、平面形は不明である。炉は、住居のほぼ中央部に直径約60cm、楕円形で、深さ約20cmの皿状の掘り込みに、焼土を多く含む堆積が認められる。25個の小穴が検出された。柱穴については判然としない。

S1126 J 住居 (図面45)

グリッドV-8・N/S, W-8・Nに位置する。削平が著しく推定規模および平面形は不明である。炉の位置と小穴の配置から住居と判断した。炉は中央部にあり、浅い掘り込みに焼土が堆積していた。出土遺物より、中期中葉阿玉台Ⅱ新式期の住居跡である。

S187 J 住居 (図面46、図版60)

グリッドX-8・Sに位置する。削平が著しく東西壁の一部と床面の一部が残る。推定規模および平面形は不明である。炉は、住居のほぼ中央部に残存規模直径約60cmを測り、深さ約20cmの皿状の掘り込みに、焼土を少量含む堆積が認められる。出土遺物より、中期中葉の住居跡である。

S194 J 住居 (図面47、図版61)

グリッドY-6・S, Z-6・Nに位置する。西壁が削平されているが推定規模は直径4.6mで、平面は円形である。壁高は45cmを測り、断面は皿状を呈し、床面は平坦である。堆積土層は暗黄褐色土を主体とする。炉は床面の中央に直径約70cmの円形で深さ25cmの擂鉢状を呈する掘り込みである。壁に沿って周溝が廻っている。17個の小穴を検出した。柱穴については判然としない。出土遺物より、中期中葉～後葉の住居跡である。

S1101 J 住居 (図面48、図版62)

グリッドY-3/4・S, Z-3/4・Nに位置する。西壁の一部と南東壁が削平されているが推定規模は直径5.7mで、平面は円形である。壁高は36cmを測り、断面は皿状を呈し、床面は平坦である。堆積土層は暗黄褐色土を主体とする。炉は床面の中央に直径約80cmの円形で深さ約30cmの擂鉢状を呈する掘り込みである。壁に沿って周溝が廻っており、21個の小穴を検出した。これらの小穴の内P-1～6が柱穴と考えられる。出土遺物より、中期後葉の住居である。

S1117 J 住居 (図面49、図版63)

グリッドY-9/10・S, Z-9/10・Nに位置する。西壁の一部と南東壁が削平されているが推定規模は直径5.0mで、平面は円形である。壁高は約20cmを測り、断面は皿状を呈し、床面は平坦である。堆積土層は暗黄褐色土を主体とする。炉は埋燬炉である。床面中央のやや北よりに直径約30cmの円形で深さ約20cmの擂鉢状を呈する掘り込みに底部を打ち欠いた深鉢(図面72-13・図版124)を埋置している。壁に沿って部分的に周溝が廻っている。68個の小穴を検出した。柱穴については判然としない。

S1132J住居（図面50、図版64）

グリッドY-4/5・N/S, Z-4・Nに位置する。削平が著しく推定規模および平面形は不明である。炉の位置と小穴の配置から住居と判断した。炉は床面のほぼ中央部に直径45cmの円形で、深さ約20cmの皿状の断面である。35個の小穴が検出され、特にP-8の上には土器片が集中する。また西側に埋壘が検出された。規模は直径45cm、深さ35cmで平面形は円形を呈し、断面はU字形を呈する掘り込みに深鉢（図面82-1・図版140）が埋置されている。

S1136J住居（図面51、図版65）

グリッドU-4・N/Sに位置する。削平が著しく推定規模は直径5mのほぼ円形と考えられる。確認面からの深さは約50cmを測り、床面に礫が多量に分布することから、柄鏡形敷石住居の可能性も指摘される。炉は床面のほぼ中央部にあり、規模は直径約80cm、深さ約25cmで平面形は円形を呈し、断面は皿状を呈する。周溝が確認され14個の小穴が検出されたが柱穴の配置状況については明らかではない。出土遺物（図面86-4・87-3・図版151・154）より、中期後葉の住居跡である。

S1138J住居（図面52、図版66）

グリッドV-3・N, V-4・N/Sに位置する。削平が著しく推定規模および平面形は不明である。炉の位置と小穴の配置から住居と判断した。炉の規模は長径120cm、短径60cm、深さ15cmで平面形は円形を呈し、断面は皿状を呈する。

S1150J住居（図面53、図版67）

グリッドV-10・N/Sに位置する。削平が著しく西から南壁および床面の一部が残存する。推定規模は直径6.5mのほぼ円形である。壁高は32cmを測り、周溝が廻る。断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層はローム粒子をやや多く含む暗黄褐色土が主体である。炉は明確ではなく住居中央部に薄い焼土堆積が認められる。

S1204J住居（図面54、図版68）

グリッドZ-6・S, A-6・Nに位置する。削平が著しく推定規模および平面形は不明である。炉の位置と小穴の配置から住居と判断した。炉は長径約120cm、短径85cmを測る不正楕円形で、深さ約10cmを測り、断面が皿状を呈する。

埋 壘

SU1 屋外埋壘（図面55・84-1・図版71・146・巻頭図版3）

グリッドA-7・Sに位置する。中期後葉の深鉢の底部から口縁を一部残して、上面は削平されている。土坑は直径0.7m、確認面からの深さ30cmで楕円形を呈する。

SU5 屋外埋壘（図面55・84-2・図版69・147）

グリッドT-7・N/Sに位置する。中期後葉の深鉢を、長径0.75m、短径0.5m、確認面からの深さ20cmの楕円形を呈する土坑中に口縁を正位置にして埋められており、底部は打ち欠

かれています。

SU6 屋外埋壘 (図面55・85-8・図版69・149)

グリッドT-7・Nに位置する。中期後葉の深鉢を、長径0.7m、短径0.56m、確認面からの深さ20cmの楕円形を呈する土坑中に口縁を正位置にして埋められている。

SU7 屋外埋壘 (図面55・85-11・図版70・150)

グリッドT-6・Sに位置する。中期後葉の深鉢の底部を残しており、上面は削平されている。土坑の様相は明らかではない。

SU8 屋外埋壘 (図面55・85-1・図版70・148)

グリッドZ-6・Sに位置する。中期後葉の深鉢の底部から口縁を一部残して、上面は削平されている。土坑の様相は明らかではない。

SU9 屋外埋壘 (図面55・82-6・図版71・142)

グリッドX-4・Nに位置する。中期後葉の深鉢で、長径1.4m、短径1.12m、確認面からの深さ30cmの比較的大型で楕円形を呈する土坑中に口縁を正位置にし、底部は打ち欠かれて埋められている。

集石土坑

SS9 集石土坑 (図面56・図版72)

グリッドE-2・Nに位置する。直径80cmの範囲内に75個の礫が集積されている。土坑は長径1.0m、短径0.8m、確認面からの深さ20cmで楕円形を呈する。

SS15 集石土坑 (図面56、図版73)

グリッドE-6・Nに位置する。直径135cmの範囲内に1475個の礫と土器片67個、石器12個が集積される。礫は土坑の上面から底面まで全体に集石されている。土坑の規模は上面で直径1.35mの不正円形で確認面からの深さ約30cmを測り、断面は不整形な楕円状を呈する。

SS21 集石土坑 (図面56、図版74)

グリッドG-5・Sに位置する。直径1.3mの範囲内に621個の礫、土器片14個が集積されている。礫は土坑の上面から底面まで全体に集石されている。土坑の規模は上面で直径1.3~1.2mの楕円形で確認面からの深さ34cmを測り、断面は皿状を呈する。

SS26 集石土坑 (図面56、図版75)

グリッドI-4/5・Nに位置する。南半分が一部削平されており、残存状況は悪い。直径0.5mの範囲内に293個の礫が集積されている。集石は土坑中心部に上面に集中する。土坑の規模は上面で直径1.4~1.0mの楕円形で確認面からの深さ24cmを測り、断面は浅い箱形を呈する。

SS33 集石土坑 (図面56、図版76)

グリッドI-2・Sに位置する。南半分が完全に削平されており、残存状況は悪い。直径1.5mの範囲内に1173個の礫が集積されている。礫は土坑から底面にかけて集積する。土坑の

残存規模は上面で直径1.6~0.6mで確認面からの深さ36cmを測り、断面はやや歪んだ箱形を呈する。

SS35集石土坑 (図面56、図版77)

グリッドI-1・Sに位置する。南半分が完全に削平されており、残存状況は悪い。直径1.04mの範囲内に約270個の礫が集積されている。礫は主に土坑上面に集中する。土坑の残存規模は上面で直径1.04~0.34mで確認面からの深さ約30cmを測り、断面は皿状を呈する。

SS43集石土坑 (図面57、図版78)

グリッドT-11・Sに位置する。直径1.1mの範囲内に328個の礫と土器片59個、石器19個が集積されている。集石は土坑上面に集中し、土坑下部にはほとんど入り込んでいない。土坑の規模は上面で長径1.4m、短径0.8mの楕円形で深さ24cmを測り、断面は不整形な皿状を呈する。

SS44集石土坑 (図面57、図版79)

グリッドT-9/10・Sに位置する。北半分が完全に削平されており、残存状況は悪い。直径1.4mの範囲内に135個の礫と土器片13個、石器4個が集積されている。礫は主に土坑上面に集中する。土坑の残存規模は上面で長径1.6m、短径0.5mで確認面からの深さ約40cmを測り、断面は皿状を呈する。

SS48集石土坑 (図面57、図版80)

グリッドS-8・Nに位置する。直径1.3mの範囲内に192個の礫と土器片81個、石器7個が集積されている。集石は土坑上面に集中し、土坑下部にはほとんど入り込んでいない。土坑の規模は上面で長径1.44m、短径0.7mの楕円形で深さ約20cmを測り、断面は皿状を呈する。

SS63集石土坑 (図面57、図版81)

グリッドZ-5・Sに位置する。南半分が完全に削平されており、残存状況は悪い。直径0.76mの範囲内に約191個の礫と土器片3個、石器5個が集積されている。礫は主に土坑上面から中位に集中する。土坑の残存規模は上面で長径0.9m、短径0.65mで確認面からの深さ38cmを測り、断面は撚鉢状を呈する。

SS65集石土坑 (図面57、図版79)

グリッドU-9/10・Nに位置する。北半分が完全に削平されており、残存状況は悪い。直径0.8mの範囲内に約509個の礫と土器片22個、石器9個が集積されている。礫は主に土坑上面に集中する。土坑の残存規模は上面で長径1.1m、短径0.65mで確認面からの深さ38cmを測り、断面は皿状を呈する。

SS 67集石土坑 (図面57、図版82)

グリッドU-10・Nに位置する。南約1/4が削平されており、残存状況は悪い。直径1.3mの範囲内に約247個の礫と土器片183個、石器3個が集積されている。礫・土器片は主に土坑上面に集中する。土坑の残存規模は上面で長径1.3m、短径1.1mで確認面からの深さ約30cmを

測り、断面は皿状を呈する。

加曾利E式期の深鉢（図面80-2、図版137）が出土した。

SS68集石土坑（図面58、図版83）

グリッドA-9・Sに位置する。上面をSS50によって削平されており、残存状況は悪いが礫と土器片が集中する。直径1.7mの範囲内に296個の礫と土器片15点、石器4個が集積されている。礫・土器片は主に土坑上面から中位にかけて集中する。土坑の残存規模は上面で長径1.8m、短径1.4mで確認面からの深さ48cmを測り、断面は凹凸のある皿状を呈する。

土坑

SK129 J土坑（図面58、図版84）

グリッドS-7・Sに位置する。規模は長径2.2m、短径1.5mを測り、浅い掘り込みの平面形は直径0.3mの円形を呈する。深さは15cmを測り、断面はやや深い皿状を呈する。堆積土層は1~2mm大の赤色スコリアを多く含み、ローム細粒を少量含む暗茶褐色土が主体である。また底面近くにローム粒子・ロームブロックを含む。土器片171個、石器3個、礫29個が出土した。

SK119 J土坑（図面58、図版85）

グリッドT-7・N/Sに位置する。規模は長径0.74m、短径0.52mを測る楕円形。深さは20cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。焼土の出土量が多く土器片178個、石器5個、礫27個が出土した。中期後葉の深鉢（図面83-7、図版144）が出土している。

SK168 J土坑（図面58、図版86）

グリッドW-6・Sに位置する。規模は長径1.56m、短径1.14mを測り、平面形は不正楕円形を呈する。確認面からの深さは42cmを測り、断面は箱形を呈する。地積土層は焼土、炭化物を多量に含む暗赤褐色土が主体である。土器片39個、石器2個、礫213個が出土した。

SK170 J土坑（図面58、図版87）

グリッドX-5/6・Nに位置する。北・南の一部を削平されており残存規模は長径1.48m、短径0.84mを測り平面形は円形を呈する。確認面からの深さは60cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層は焼土、炭化物を含む暗褐色土が主体である。土器片20個、石器10個、礫171個が出土した。中期中葉（勝坂1b）式期の深鉢（図面73-13、図版126）が出土している。

SK263 J土坑（図面58、図版89）

グリッドZ-6・Sに位置する。SK279 J土坑の南側の一部を切って重複する。規模は長径1.08m、短径0.75mを測り平面形は楕円形を呈する。確認面からの深さは36cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片20個、石器1個、礫4個が出土した。

SK279 J土坑（図面58）

グリッドZ-6/7・Sに位置する。SK263 J土坑に南側の一部を切られ、北側は削平され

ている。また、SUS埋壺（図面85-1、図版148）が掘り込まれている。残存規模は長径1.76m、短径1.5mを測り平面は隅丸の長方形と推測される。確認面からの深さは30cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片69個、石器9個、礫4個が出土した。

SK346 J 土坑（図面58、図版88）

グリッドW-7・Nに位置する。上面半分以上削平されており残存規模は長径1.44m、短径1.2mを測り平面は円形であると推測される。確認面からの深さは80cmを測り、断面は箱形を呈するが底部に直径34cm、深さ28cmの小穴を有する。堆積土層は炭化物を含む暗褐色土が主体である。土器片29個が出土した。

SK551 J 土坑（図面59、図版90）

グリッドZ-7・S、A-7・Nに位置する。攪乱が著しく、残存規模は長径1.14m、短径0.83mを測り平面は楕円形と推測される。確認面からの深さは26cmを測り、断面は皿状を呈する。また、周囲を囲むように、浅い小穴が7個廻っている。堆積土層は焼土・炭化物・被熱したロームが混入する暗褐色土が主体である。土器片102個、石器2個、礫5個が出土した。

SK111 J 土坑（図面59、図版90）

グリッドT-5/6・Sに位置する。規模は長径0.9m、短径0.74mを測り、平面形は楕円形を呈する。確認面からの深さは24cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片6個、石器6個、礫10個が出土した。

SK171 J 土坑（図面51、図版90）

グリッドX-7・Nに位置する。南側を一部削平される。規模は長径1.54m、短径0.72mを測り、平面形は楕円形を呈する。確認面からの深さは44cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片60個、礫2個が出土した。

SK388 J 土坑（図面51、図版91）

グリッドY-8/9・Sに位置する。規模は長径1.1m、短径0.48mを測り、平面形は楕円形を呈する。確認面からの深さは50cmを測り、断面は摺鉢状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。石棒が覆土層から出土した。

SK462 J 土坑（図面59、図版92）

グリッドU-7・Sに位置する。攪乱が著しいため残存規模は長径0.96m、短径0.6mを測り、平面形は不正楕円形を呈する。確認面からの深さは58cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層は暗黄褐色土が主体である。土器片33個、石器2個が出土し、下層からほぼ完形の加曾利Ⅱ式期の小形深鉢（図面86-8、図版152）が出土した。

SK144 J 土坑（図面59）

グリッドS-6・Nに位置する。東側の一部を削平されており残存規模は長径0.7m、短径0.56mを測り、平面形は円形を呈すると推測される。確認面からの深さは30cmを測り、断面は

皿状を呈する。堆積土層は焼土を多く含む暗黄褐色土が主体である。土器片14個、石器4個、礫5個が出土した。

SK273 J 土坑 (図面59、図版93)

グリッドZ-6・S、A-6・Nに位置する。規模は長径1.8m、短径1.3mを測り、平面形は楕円形を呈する。確認面からの深さは40cmを測り、断面は皿状を呈する。図面には記載されていないが堆積土中に焼土、焼礫、炭化物が多量に集中しており、暗褐色土が主体である。土器片123個、石器25個、礫603個が出土した。

SK69 J 土坑 (図面60、図版94)

グリッドJ-2・Nに位置する。南側の一部を削平されており残存規模は長径1.15m、短径0.9mを測り、平面形は円形を呈すると推測される。確認面からの深さは32cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は炭化物を少量含む暗褐色土が主体である。土器片81個、石器3個、礫9個が出土した。

SK161 J 土坑 (図面60)

グリッドX-9・Nに位置する。規模は長径0.9m、短径0.46mを測り、平面形は不正楕円形を呈する。確認面からの深さは36cmを測り、断面はやや凹凸のある皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片3個、礫4個が出土した。

SK219 J 土坑 (図面60、図版94)

グリッドA-7・Nに位置する。擾乱のため残存規模は長径1.25m、短径1.0mを測り、平面形は楕円形を呈すると推測される。確認面からの深さは90cmを測り、断面は漏斗状を呈する。柱穴の可能性もある。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片3個、石器2個、礫2個が出土した。

SK234 J 土坑 (図面60、図版95)

グリッドA-8・Sに位置する。南半分が削平され残存規模は長径1.56m、短径1.3mを測り、平面形は楕円形を呈すると推測される。確認面からの深さは60cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は暗黄褐色土が主体である。土器片12個、石器8個、礫24個が出土した。

SK240 J 土坑 (図面60、図版95)

グリッドA-7/8・Nに位置する。規模は長径1.94m、短径1.2mを測り、平面形は不正楕円形を呈する。確認面からの深さは30cmを測り、断面はやや凹凸のある皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片3個、石器2個、礫5個が出土した。

SK286 J 土坑 (図面60、図版96)

グリッドY-7・Nに位置する。北側半分が完全に削平されており残存規模は長径1.5m、短径0.62mを測り、平面形は不明。確認面からの深さは50cmを測り、断面はやや凹凸のある皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。完形ミニチュア (図面94-4、図版166) を

含む土器片19個、石器19個、礫6個が出土した。

SK294 J 土坑 (図面60、図版95)

グリッド Y-7・N に位置する。北側半分が一部削平されており残存規模は長径1.42m、短径1.3mを測り、平面は円形。確認面からの深さは約60cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層は焼土・炭化物を含む暗褐色土が主体である。土器片46個、石器21個、礫18個が出土した。

SK421 J 土坑 (図面60、図版96)

グリッド V-9・S に位置する。西側が一部削平されており残存規模は長径1.14m、短径0.86mを測り、平面は楕円形と推測される。確認面からの深さは約90cmを測り、柱穴の可能性があるが周辺に関係する遺構は検出されなかった。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片19個、石器1個、礫3個が出土した。

SK436 J 土坑 (図面60)

グリッド V-9・S に位置する。西側がSK421 J に一部削平されており残存規模は長径0.6m、短径0.52mを測り、平面は楕円形と推測される。確認面からの深さは44cmを測り、断面は揺鉢状である。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片6個、石器2個、礫1個が出土した。

SK422 J 土坑 (図面61、図版97)

グリッド V-9・S、W-9・N に位置する。攪乱が著しく残存規模は長径1.92m、短径1.56mを測り、平面は不正楕円形と推測される。確認面からの深さは32cmを測り、断面は皿状である。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片131個、石器13個、礫30個が出土した。

SK479 J 土坑 (図面61、図版97)

グリッド V-7・S に位置する。東側が一部削平され残存規模は長径0.9m、短径0.8mを測り、平面は不正楕円形と推測される。確認面からの深さは24cmを測り、断面は皿状である。堆積土層は褐色土が主体である。粗製石匙2個(図面108-7・8、図版184)が出土した。

SK491 J 土坑 (図面61、図版98)

グリッド Z-6・N に位置する。西半分が完全に削平され残存規模は長径1.26m、短径0.60mを測り、平面は不正楕円形と推測される。確認面からの深さは52cmを測り、断面は皿状である。堆積土層は暗黒褐色土が主体である。図面には記載しなかったが出土遺物は多く土器片90個、石器1個、礫16個が出土した。中期中葉(勝坂 I a) 式期の円筒形の鉢(図面73-5、図版125)を出土している。

SK497 J 土坑 (図面61、図版98)

グリッド V-9・S、W-9・N に位置する。上面が削平され残存規模は長径0.96m、短径0.84mを測り、平面は楕円形と推測される。確認面からの深さは約20cmを測り、断面は皿状である。堆積土層は焼土・被熱ロームを多く含む暗褐色土が主体である。土器片55個、礫2個が出土した。

SK520 J 土坑 (図面61、図版99)

グリッド Z-7・N/S に位置する。規模は長径1.06m、短径0.8mを測り、平面は楕円形。確認面からの深さは約70cmを測り、柱穴の可能性はあるが周辺に關係する遺構は検出されなかった。堆積土層は暗褐色土が主体である。土器片8個、石器1個が出土した。

SK550 J 土坑 (図面61、図版99)

グリッド Z-6・S に位置する。北側の一部が削平されており残存規模は長径1.18m、短径0.82mを測り、平面は楕円形。確認面からの深さは66cmを測り、柱穴の可能性はあるが周辺に關係する遺構は検出されなかった。堆積土層は炭化物を微量に含む暗褐色土が主体である。石器1個が出土した。

土坑群 (図面61～62、図版100～108)

グリッド W-7/8・S、X-7/8・N に位置する。17基の土坑 (SK165・175・176・189～200・227・290 J) が同心円状に集中している。これらの土坑群が意図的な配列がなされているか否かは判然としないが、表1に示したように、同心円の中心に当たるSK227 J 土坑は規模・出土遺物ともに最も充実しているようにも看取られる。

第1表 土坑群観察表

遺構名	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	平面形	覆土	遺物			重複関係
						土器	石器	障	
165	140	92	20	楕円形	暗褐色	1	0	8	195を切る
175	124	110	24	楕円形	暗褐色	0	0	0	196を切る
176	130	90	20	楕円形	暗褐色	6	1	0	単独
189	142	98	32	楕円形	暗褐色	11	6	0	単独
190	170	98	22	楕円形	暗褐色	23	2	9	197・290を切る
191	164	83	18	楕円形	暗褐色	3	1	3	198を切る
192	154	110	20	楕円形	暗褐色	7	2	14	199・200を切る
193	136	66	16	楕円形	暗褐色	0	3	7	200を切る
194	144	90	20	楕円形	暗褐色	13	2	4	200を切る
195	166	92	20	楕円形	暗褐色	1	3	13	165に切られる
196	104	90	22	楕円形	暗褐色	3	0	0	175に切られ、227を切る
197	166	92	18	楕円形	暗褐色	9	7	8	190に切られる
198	150	92	18	楕円形	暗褐色	2	5	2	191に切られる
199	118	60	18	楕円形	暗褐色	0	3	1	192に切られ、227を切る
200	166	106	18	楕円形	暗褐色	12	0	3	192～194に切られる
227	212	140	16	楕円形	暗褐色	52	10	3	196・199に切られる
290	156	84	16	楕円形	暗褐色	8	2	2	190に切られる

陥穴

SK52 J 陥穴 (図面63、図版111)

グリッドC-3・Nに位置する。南半分以上が完全に削平され様相は不明。残存規模は長径約1.0m、短径0.7mを測る。確認面からの深さは約45cmである。堆積土は暗褐色土主体である。

底面に3個の小穴が認められた。遺物は出土していないが、早期の住居であるS112に切られている。

SK68 J 陥穴 (図面63、図版112)

グリッドC-6・Nに位置する。東半分が完全に削平され残存規模は長径約1.5m、短径0.95mを測り、平面は隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは約90cmで、断面は逆台形を呈する。堆積土は暗褐色土主体である。底面に4個の小穴が認められた。土器片1個、石器2個、鏝4個が出土した。

SK88 J 陥穴 (図面63、図版113)

グリッドB-8・Nに位置する。南半分が削平され残存規模は長径約1.9m、短径0.66mを測り、平面は隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは約60cmで、断面は漏斗状を呈する。堆積土は暗褐色土主体である。底面に3個の小穴が一列に並んで認められた。

SK74 J 陥穴 (図面63、図版112~113)

グリッドI-2・Nに位置する。北半分の上面が削平され残存規模は長径2.15m、短径0.9mを測り、平面は隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは約80cmで、断面はややフラスコ状を呈する。堆積土は暗褐色土主体である。底面に7個の小穴が一列に並んで認められた。遺物は出土しなかった。

特殊遺構

SX42 J-1 (図面63、図版114)

グリッドY-5・Nに位置する。規模は長径0.84m、短径0.8mを測り、平面は円形。確認面からの深さは22cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。粗製石匙3個(図面108-2~4、図版183)が出土した。

SX42 J-2 (図面63、図版114~115)

グリッドX-5・S、Y-5・Nに位置する。SX42 J-1の北西0.35mにあり、規模は直径0.88mを測り、平面は円形。確認面からの深さは34cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は暗褐色土が主体である。粗製石匙2個(図面108-1・6、図版183)が出土した。

炉穴

SK101 J 炉穴 (図面64~65、図版109)

グリッドL-2/3・S、M-2/3・Nに位置する。北西部の撻乱が著しく全体の様相は不明。残存規模は長径4.2m、短径1.8mを測る。確認面からの深さは約90cmである。堆積土は

焼土と褐色土が交互に堆積しており、特に底面付近に厚い焼土堆積層が認められた。また周辺に7基の小穴が廻る。いずれも直径約20～30cmで平面は円形を呈し、深さ15～20cmで断面皿状である。

土器片19個、石器12個、礫10個が出土した。

SK102 J 炉穴 (図面66、図版110)

グリッドM-2・Nに位置する。攪乱が著しく全体の様相は不明。残存規模は長径3.2m、短径1.8mを測る。確認面からの深さは約35cmである。堆積土は焼土と褐色土が交互に堆積しており、特に底面付近に厚い焼土堆積層が認められた。

土器片1個と礫5個が出土した。

V 出土遺物

1. 土器

縄文土器の6大別(山内1969)のすべてが認められ、中でも住居跡の検出された草創期末葉～早期初頭(撚糸文系土器)、前期後葉(諸磯a・b式)、中期中・後～末葉(勝坂2式・加曾利E3～4式)、後期初頭(称名寺I式)が量的に多い。各個体の詳細は観察表を付したので、ここでは出土土器の概要を述べる。なお土器観察は、武川夏樹・額綱茂・井出浩正が行い、本稿は武川が記述し、黒尾和久が全体の調整をはかった。

(1) 草創期～早期の土器(図面67-1～69-15)

早期はあきる野市引谷ヶ谷戸地区の土器分類(黒尾・瀧1998)に準拠、草創期と早期の大別区分は岡本東三の見解(岡本1987)にしたがった。それによって撚糸文系土器の前半が草創期末葉、後半が早期初頭に分断されるが、今回出土の大半は後者に属し、記載に不都合はない。

隆線文土器・爪形文土器(図面67-1・67-2) 草創期前半の隆線文土器と爪形文土器がそれぞれ1点ずつ出土した。小林謙一氏(総合研究大学院大学)のご教示によれば、隆線文土器(67-1)は、やや細い隆線を多条に配することなどから小林謙一分類の「IIb期」(小林1993・1994・1999)に該当し、やや内傾する口縁の爪形文土器(67-2)も、隆線文土器と同時併行期の所産である可能性が留保されるという。

撚糸文系土器(図面67-3～68-26) 撚糸文系土器の型式細分に関しては、原田昌幸の研究に準拠している(原田1991)。草創期末葉の撚糸文系土器が67-3～67-8である。67-3は井草II式に、67-4・67-5は大丸式、67-6～67-8は夏鳥式に比定されよう。67-9～68-26が早期初頭になり、このうち67-9～67-16が稲荷台式である。口唇部が肥厚する個体は67-9のみで、丸頭状口唇の67-10～67-13は角頭状口唇の67-14・67-15とあまり変わらない。67-9のみ稲荷台式でも古相で、草創期最末期になる可能性が留保される。67-17・67-18は花輪台式、67-19～68-2は稲荷原式である。丸頭状口唇は67-19～67-21であり、新段階の資料と考えられよう。67-24～67-26は間隔施文された撚糸地文の胴部で、67-27～67-30は丸底気味の尖底土器であり、これらは稲荷原式に該当しよう。68-1～68-26は器面が無文ないし擦痕調整の土器である。68-3～68-16は東山式、68-17～68-26は平板式に分類される稲荷原式に併行する土器群である。稲荷原式と異なる点として、これら東山式・平板式土器は、胎土に黒曜石片を含む個体が多い。68-26は鋭い尖底の無文土器で、胎土から平板式の底部と考えた。

押型文系土器(図面68-27～68-35) 早期初頭の押型文土器は、山形押型文土器が大半で、

帯状施文(68-27~68-32)と密接施文(68-33・68-34)に分類できる。前者は樋沢式、後者は細久保式に比定できよう。68-35は格子目押型文を施す土器で、明瞭ではないものの帯状施文であって、樋沢式に含まれよう。出土した押型文系土器は器壁が薄く堅緻な個体が多い。

沈線文系土器(図面69-1)・**条痕文系土器**(図面69-2~69-15) 69-1は田戸下層式で、粗い単沈線を充填するように施す。69-2~69-8は網ヶ島台式で、69-2は細く鋭い沈線で区画と格子目文を描き、69-3~69-8は区画線上に竹管の円形刺突を施す。69-9~11は茅山上層式で、背を押圧した隆帯を貼り付ける。69-12~69-15は纖維を多量に含む胎土で、表裏には条痕調整が施される茅山下層~上層式と考えた。

(2) 前期の土器(図面70-1~71-30)

前期は、早期と同様に、引谷ヶ谷戸地区の土器分類(黒尾・瀧1998)に準拠している。出土量からみれば後葉・諸磯式を中心にする。

羽状縄文系の土器(図面70-5~70-10) 前期初頭~中葉の関東羽状縄文系土器の出土は少なく、70-5の花櫃下層式、70-6の関山Ⅰ式、70-7~70-10の関山Ⅱ式を図示したのみである。

諸磯a式(図面70-1・70-11~70-15) 細い半截竹管による横位波状文や鋸歯文を施す土器が多く、諸磯a式でも中~新段階が多い。70-1は薄手精製した胎土の小形深鉢で、爪形文で連続三角形区画を構成しつつ、さらに三角形に区画して帯状に赤彩が施される。また赤彩のみを行う区画もある。70-11は爪形文区画内に竹管の刺突を充填する。70-12・70-14・70-15は横走する爪形文による文様帯を構成する。70-13は波状口縁で縦位・斜位に細い半截竹管で平行沈線を巡らせる。「米」字文を構成する可能性があり、諸磯a式古段階に該当するかもしれない。

諸磯b式(図面70-2・70-16~71-12) 70-2は爪形文で区画し、区画内に爪形文で崩れかかった木葉文を充填する。諸磯b式古段階の個体だろう。70-16は幅広爪形文で文様を描くb式古段階の資料である。70-17~70-22、71-4は縄文地文を施して、半截竹管で横走・斜行する平行沈線を施文する沈線文系の諸磯b式古~中段階の個体である。71-1~71-3は沈線文系の断面突起である。同一個体の可能性が高いが、縄文原体の違いで断定は避けた。71-5~71-8は沈線文系の諸磯b式だが、竹管の幅がやや広い。71-9~71-12は浮線文系の諸磯b式中~新段階の土器で、粘土肌上に細かい刻みを加えられている。

諸磯c式(図面70-3・71-13~71-28) 諸磯c式~十三菩提式は包含層の出土土器が多く、遺構に伴わない。しかし当該期における土地利用の証拠となろう。70-3は諸磯c式古段階の資料で、前橋市芳賀北曲輪遺跡12号住出土土器に類似する(今村2000)。大きく内湾する口縁で、口唇に結節浮線文列が施され、口縁下半には縦長棒状貼り付けとボタン状貼り付けが発達する。71-13~71-15は半截竹管による集合沈線文で区画内を矢羽根状に充填する。71-16~71-28は櫛歯状工具による条線地文の土器である。口唇部には貼り付け文がみられる。

十三菩提式(図面70-4・71-29・71-30) 70-4はボタン状貼付文で小突起を形成し、突起間に粘土紐を楕円形に貼付する。口縁部には背が高いひだ状の隆帯を2条横走させる。胴部は半載竹管による浮線文列でモチーフを描き、切り取りを施している。71-29・71-30は口唇部を肥厚させ、下端に浮線文列と三角形の切り取りを施し、胴部に櫛歯状工具の集合沈線を施文する。

(3) 中期の土器(図面72-1~90-16)

中期土器については「多摩丘陵・武蔵野台地における縄文時代中期の時期設定」(黒尾・小林・中山1995:以下、新地平編年)に準拠した。「新地平編年1~4期」(五領ヶ台期)に該当する個体はなく、「5期」以降から確認される。目立ったのは「6~7期」、「12~13期」であった。深鉢形土器の後に、その他の器種を概観する。また、土器の変遷過程を考慮して、まず阿玉台式を、次いで勝坂式、その後に加曾利E式土器を報告する。なお中期中葉の土器に関して中山真治氏(府中市教育委員会)のご教示を得ている。

阿玉台式(図面72-1~72-15) 竹管を施文具とするIb式(72-1~72-4)、II式古段階(72-5)の個体は多くはなく、半載竹管を施文具とする72-6~72-9などの阿玉台II式新段階が中心となる。これらは後述の勝坂式では「6b期」に該当する個体となるだろう。72-10~72-13は文様が簡素化しているII式新段階の個体である。また阿玉台III式(72-14)そしてIV式(72-15)と目される個体もわずかながら出土している。多摩地域で阿玉台III・IV式が出土することは希であり、勝坂式との編年対比に課題を残している。しかし、隣接の恋ヶ窪遺跡に例があるように(秋山道生1982)、今回も住居S132に勝坂式に伴う阿玉台III・IV式土器(詳細な出土状況の観察ができないのが残念)がみられ、当該地域は、そうした課題に取り組むには好適な地域といえそうである。

勝坂式(図面73-1~78-19) 「新地平編年5~9期」を確認できたが、中でも勝坂1b式の後半から勝坂2式(藤内式)に該当する「6b~7期」の個体がまとまる。S139やS1138出土土器がその好例となろう。在地化した土器だけではなく、西多摩的な様相を持つ土器(76-4・76-5など)も出土している。「5期」の土器(73-1~73-8)は隆帯脇を角押文でおさえる土器群である。区画内に角押文列を充填させる「5c期」の土器は73-2・73-7で、73-2は口縁部のみに狭い文様帯を形成する。73-3は胴部だけが出土しており、阿玉台式の可能性もあるが、胎土などから73-2と同様の個体と捉えた。73-8は縦位区画文系土器の初現期の個体で、区画内に竹管刺突が充填されることが特徴である。神谷原遺跡出土土器(中西充1982)に類似しよう。「6期」の土器(73-9~74-9)は隆帯脇を三角押文で押さえる土器群である。三角押文のみ施される個体は少なく、幅広角押文とセットで施される「6b~7a期」の資料が多い。74-9は唯一の縦位区面の土器で、区画脇に刺突列を施す。「7・8期」の土器(75-1~76-3・78-7)は隆帯脇を幅広角押文で押さえる土器である。抽象

文系の胴部文様を持つ土器(75-5・75-7)や縦位区画の土器(76-1)は思った以上に限られているようで、楕円形区画の横帯文土器が多い。「9期」の土器(76-4~78-6、78-8~78-19)は隆帯脇を単沈線で押さえる土器で、隆帯上は加飾される。胴部上半に文様帯が集中し、下半が縄文になる土器(76-4・76-5・77-3~78-1など)が多い。78-14・78-17~78-19などは「9c期」の土器で、中葉~後葉への過渡期の土器群である。

加曾利E式・曾利式(79-1~90-16) 加曾利E式が大半である。なお、連弧文土器が盛行する「11b~12a期」の土器はなく、加曾利E3式が定着する「12b期」から急増する。中期後葉以降の土地利用の主体は「12b期~13期」から後期初頭の「14a期」にかけてである。なお、連弧文土器が見られないことは、連弧文土器を多量に出土する近傍の竈ヶ窪遺跡や多喜窪遺跡(中山2003)との土地利用の補完関係が示唆されよう。

「新地平編年10・11期」の土器(79-1~79-11)の出土量は少なく、図示したのも11点にすぎない。燃系地文(79-1~79-3)や縄文地文(79-4~79-6)の加曾利E1式が出土しているが、曾利1式に該当するような個体は見あたらない。「11期」に当たる加曾利E2式には浅鉢が出土している(79-7・79-8)。曾利式は縄文地文を持つ「武蔵野曾利縄文タイプ」(79-10)が出土している。「12・13期」の土器(80-1~89-6)の出土は非常に多い。なお加曾利E系統の土器は、後期初頭の「14期」にまで残存することが確実であるが、出土位置の観察ができないために中期後葉の土器として紹介することにした。おそらくは、後述する後期初頭「14a期」(称名寺1式古段階)の土器と共伴する個体もあるだろう。80-1~82-6は口縁部文様帯が形成されるものの、胴部文様の貫入がすでに始まっており、「12b期」の個体と判断できよう。83-1・83-4は口縁部文様帯が波状沈線に置換する。83-2・83-5・83-8・83-11・83-12などは口縁部文様帯が、沈線や隆帯で区画された狭い無文帯に置換している。83-3・83-6・83-7は口縁部文様帯が消失し、83-9・83-10は胴部文様と一体化などしている。85-2~85-7は胴部文様が2段構成になった土器である。胴部中位には円孔状の刺突列を施文する個体(85-2・85-3・85-5・85-6)もある。85-10~85-16は磨り消し縄文が確認できる胴部個体で、「12~13期」に該当する。86-1~86-13は隆帯・沈線などにより口縁部に幅狭の無文帯を形成し、橋状把手を持つ個体が多い。87-1~87-5は微隆起区画の「13期」(加曾利E4式)で無文部の幅も広い個体が多い。87-6~88-3は胴部区画を持たない土器で、口唇部に小突起を形成するもの(87-6)や、口縁に細い無文帯を形成するもの(87-7・87-8・88-2)などがある。地文は縄文だけではなく条線もある。鉢形に近い器形の土器(88-4~88-8)や双耳壺(88-9~88-13)も縄文・条線地文である。最後に曾利式土器・無文の深鉢を一括した(89-1~89-6)。「X」字状把手の退化した深鉢が89-1で「12期」に、粗大な刺突列を充填する深鉢が89-4で「13b期」に該当する。89-2・89-5は太い単沈線列を縦位に垂下させる個体で「12~13期」と捉えておきたい。無

文の深鉢は胎土から89-3は中葉に、89-6は後葉であろう。

浅鉢・その他の土器 (図面90-1~90-16) 90-1~90-7が中葉の浅鉢で、狭い口縁部文様帯に角押文や三角押文が施される個体が多いことから、深鉢と同じく「6期」の個体が多いと考えられよう。90-8~90-11は無文の浅鉢である。90-12は有孔貯付土器で上半部のみ遺存する。90-13は「9期」の深鉢台部で、方形の透かし孔を持つ。90-14は「8~9期」の縦位区画系の台付き鉢の鉢部である。台部には円形の透かし孔を持つようである。90-15・90-16はミニチュア土器の可能性もある小形の無文土器で、出土位置から90-16は「14期」に降る可能性が高い。

(4) 後期・晩期の土器 (図面91-1~93-3)

称名寺式 (図面91-1~92-7) 「新地平福年14a期」に該当する称名寺1式古段階の土器が目立つようである。91-1~92-7は称名寺1式に比定される土器で、91-1~91-8・91-10は内面に突出する深い単沈線で枠状のモチーフが描かれる。石井寛のA I群 (石井1992) に該当する。91-9・91-11・92-1・92-2は「闊沢類型」と呼称されるやや肥厚する口縁部に沿って刺突列が施される一群である。92-3~92-7は単沈線で「J」字モチーフを描き、縄文を充填する称名寺1式で石井分類のB II群 (石井1992) の土器である。

堀之内式・加曾利B式 (図面92-8~92-14) 92-8は単沈線で「J」字モチーフの退化文様を描く。下北原式と別称される堀之内1式である。92-9・92-10は複数の沈線列と縄文でモチーフを描く朝顔形深鉢の堀之内1式である。92-11は波状沈線を垂下させる。92-12・92-13は朝顔形に開く堀之内2式の精製深鉢で、口唇下に刻みのある細い隆帯を横走させる。92-14は加曾利B1式の深鉢で小突起をもち、口唇内面に細い文様帯を形成する。

大洞A式 (図面93-1~93-3) 当該時期の土器の出土は珍しく、周辺では日野市や府中市など沖積低地で出土する (芹澤・福田2002)。精製土器3個体を確認し、高瀬克範氏 (東京都立大学) のご教示を得ている。93-1は鉢の胴部下半で、無文の下半部は良く磨かれ、狭い文様帯を持つ鉢と想定していたが、深鉢の可能性もあるらしい。93-2は口唇下の内外面ともに平行沈線による細い文様帯をもつ。なお、焼成後に穿孔した補修孔とは別に、焼成前に穿孔した小孔がある。93-3は小突起をもち、突起下に工字文の崩れた三角形陰刻を加えている。

(5) 土製品 (図面94-1~94-47)

用途や時期の推定が困難な遺物も多く、まとめて紹介する。94-1の器台形土器は二孔一単位の透かし孔があげられ、台部径が大きい。94-2~94-4はミニチュア土器で、94-2は前~中期、94-3は中期末葉、94-4は後期の所産であろう。94-5は耳栓と思われる。94-6は土鍾で形状からは古代のものである可能性もある。94-7はいわゆる中空球状の土鈴と思われる。94-8は土偶の一部とおぼしき粘土塊で、文様は見あたらない。94-9は方形成形の粘土塊である。94-10~94-15は土器片鍾で、94-10~94-12は中期中葉、94-13・94-14は中

期後葉の土器片を再利用している。94-16~94-47は土製円板で、中期中葉の土器片の再利用が多いようだ。94-16~94-29には勝坂式に固有の押引文が確認できる。

2. 石 器

旧石器時代の石器 (図面95~97)

出土した石器は、95-1~3はIV層上部の石器である。1は小形の両面加工尖頭器の下半部。2・3は小形ナイフ形石器。4~11はIV層中部の石器である。4は男女倉型の有槌尖頭器。5は有槌尖頭器の削片。大型だが、表面に礫皮面を残し、裏面の器体の調整は進んでいない。6~8は彫器である。9は両設打面の石核。10は9と同様の石核の打面再生剥片。11は大形の両面加工石器。調整は粗く、尖頭部もしくは刃部の作出は認められない。帰属時期は検討を要する。12~14はIV層下部の石器で12はナイフ形石器。13・14は搔器である。

細石刃 (96-1~13)・細石刃核 (96-14・15)・碎片と接合する搔器 (96-16) いずれも縄文時代住居の小穴内より出土しており、正確な出土層位は不明である。

尖頭器 (図面97) については観察表に記した。

縄文時代の石器 (図面98~138)

縄文時代の石器は石鏃 (図面98~99)、有舌尖頭器 (有茎鏃) (図面100-1~7)、尖頭器 (図面100-8・9)、石錐 (図面101-1~4)、小形石匙 (図面101-5・6)、搔器・鏟器 (図面101-7・8)、毘状石器 (図面101-9)、石核・両極剥片、粗製石匙 (図面108-1~9)、礫核石器、打製石斧 (図面112~119)、磨製石斧 (図面120~121)、スタンプ形石器 (図面122~128)、敲石、凹石、磨石+敲石、磨耗礫、石皿、台石、多孔石 (図面133-3)、器種不明、石棒 (図面134~135)、棒状礫 (図面136~137-1~5)、自然礫、石錘 (図面137-6~9)、浮子 (図面138-1・2)、装飾品 (図面138-3~11) 全体については観察表に記した。ここでは特徴的な石器について述べる。

1. 石 鏃

形態は凹基鏃のみである。加工技術はソフトハンマーの押圧剥離である。石鏃の大きさには2種類あり、明らかに作り分けられている。3センチ前後の通常の大きさと2センチ以内の極小石鏃がある。本遺跡の石鏃形態は主に3種類ある。先端から直線状に脚部までに伸びる辺で尖頭部を形成し、股上の浅い凹基鏃がある。その中央から先端にかけて鋸歯縁が作られるものもある。一方、股上の深い石鏃は、脚部までがやや凸状に膨らみ、正三角形もしくはやや幅広い二等辺三角形に深い抉りを入れ、長い脚部作り出している。

極小石鏃は、正三角形に近いが、一方の脚部がやや長めに作られている。

2. 有舌尖頭器 (有茎鏃) 形態的には草創期の石器と見られるが、共存する土器群に草創期の土器と認められる資料が2点ある。しかしながら、後期に見られる有茎鏃の可能性については

後期の土器群の資料が多くあるため、あるいは後期以後の所産である可能性が極めて高い。

3. 搔器・削器（異系統石器）…ここにあげた2つの搔器・削器（101-7・101-8）は、通常では関東以西の在地の石器ではない。主に東北地方にみられる縄文石器である。こうした石器を先験的に旧石器時代と判断することは危険である。遺跡の出土状態や加工技術、周辺地域の様相など多様な要素を検討して判断を下すべきである。本稿では出土地層が縄文時代、使用痕が観察できる（旧石器時代の使用痕は希にしか観察できない傾向がある）、縄文前期の東北地方にはこの種の石器がある、悉ヶ窪東遺跡には縄文前期の遺物があるという点から時期を判断した。

4. 打製石斧

本遺跡を特徴づける器種の一つであり、大きく6類に仮分類することができた。以下、各類についての特徴を挙げる。

- 1類(112-1～15, 113-1～7)：素材剥片は、背面側に自然面を持つ横長剥片を用いて、側面の剥離技術はハードハンマーの直接打撃（HD）で整形し、厚みのある素材については、抉り部をハードハンマーの垂直打撃（HVD）で刃潰し加工が施される。側面の加工の特徴は、両側面で対称ではなく、どちらか一方の辺がより深い抉り部を作出される。その抉り部の位置は、石器中央部よりも上半部に偏る。刃部形態は、円刃、斜刃が主体的である。刃部の使用痕は、刃こぼれとわずかに摩耗しているものが大半である。
- 2類(113-8～19)：素材の特徴と剥離技術は1類と同じである。違いは、側面の抉りの施し方が1類ほど明瞭ではなくわずかである。また、1類は抉りの作出によって頂部が膨らむ形態をもっていたのに対し、2類は頂部が膨らまずに端部がほぼ平坦になっているのが特徴である。
- 3類(114-1～15)：素材の特徴と剥離技術は1類と同じである。違いは、側面の抉りの施し方が両側面でほぼ同じぐらいの位置と深さで作出されるという特徴がある。頂部は抉りを作出する結果、膨らみをもち、その形態は、1類と似ている。
- 4類(115-1～4)：素材の特徴と剥離技術は1類と同じである。違いは、どちらか一方の辺が内湾し、もう一方の辺が緩やかに外湾するようい整形されることである。
- 5類(115-5～7)：素材にやや厚みがあり、特に基部の部分に厚みがありしっかりしている。形態的には「なすび」のような形になるのが特徴である。刃部は、斜刃になるのが特徴である。
- 6類(115-8～17)：素材の特徴と剥離技術は、1類と同じである。違いは、側面に抉り部が作出されずにほぼ直線的で両側辺が同じように加工される。頂部形態に特徴があり、斜辺を持つのが特徴である。その斜辺は折取か剥離によって作られる場合と素材がもっている辺をそのまま利用する場合がある。

7類(116-1~4):素材の特徴と剥離技術は、1類と同じである。違いは、両側辺がほぼ同じように加工され、抉りは作出されないことと、刃部形態に特徴があり斜刃になることである。

8類(116-5~12):ずんぐりした形態をしており、どちらか一方の辺に抉り部が作出される。116-12は、表面側の刃部が研磨されており特徴的である。

9類(117-1~4):素材はやや厚みのある横長剥片を用いている。特に基部に厚みがある。基部は明確に意識されて作り出されており細長く作り出されている。刃部は円刃になる。

10類(117-5~13):細長い形態をしており刃部が凸刃になるのが特徴である。側辺には刃渡れがみられるものが多い。

11類(117-14~19):いわゆる分銅形と呼ばれている打製石斧である。両側辺の中央部に深い抉りが作出されるのが特徴である。また、頂部の側辺に急斜な辺をもつのも特徴である。刃部は円刃、斜刃になる。117-19は、未製品である。この種の打製石斧は縄文時代中期末から後期にかけて関東とくに北関東で主体的に見られる石器である。

5. 磨製石斧

小形磨製石斧は横断面形が楕円形を呈し、定角式ではない。刃部も片刃状に整形されており特徴的である。研磨行程前の成形加工については、研磨が入念に施されており不明である。

小形定角式磨製石斧は、横断面形が長方形あるいは角丸長方形を呈し、擦切によって成形されたと考えられる石器である。121-2は、刃部が先細りになる形態をしており特徴的である。

小形扁平磨製石斧は、厚みがなく扁平であり、剥離と研磨によって加工されているのが特徴である。

定角式磨製石斧は、成形段階で敲打の技術が用いられており、その後研磨を入念におこない定角式に整形した石器である。東北や北陸の定角式の磨製石斧は主に擦切によって成形されるのが特徴であるが、本遺跡の場合には擦切技術は用いられず、乳棒状磨製石斧にみられる敲打の技術によって加工されているのが特徴的である。

乳棒状磨製石斧は、剥離、敲打、研磨によって加工され、研磨については刃部以外にあまり入念にほどこされないようである。また、刃部は偏刃になるのが特徴である。121-17・19は、未製品である。このように本遺跡の磨製石斧には最低3種類以上の作り方の違いが見られる。

6. 装飾品

9点出土している(138-3~11)。穿孔が施されたものはすべて両面穿孔である。穿孔部は、紐ズレによる摩耗が顕著である。138-9はT字状に整形され特異なものである。穿孔部には紐ズレ痕があり穿孔部に紐などを通して吊り下げられていたものと推定される。138-10・11は、表面が非常に摩耗しており自然摩耗とは考えられず玉の素材あるいは、それ自体が装飾品として用いられていた可能性がある。

第2表 草創期・早期の土器

図面	図記	出土位置	時期	型式	部位	文様・外面調整	内面調整	胎土	色調	備考
67-1	116	F 6 グリ ツフ	草創期末	楕圓文系 前平	口縁部	口縁部に4本の無縁起線を斜 り付け→無縁起線をナデで磨 き	ナデ	雷母をごく微量、直径1 mm以下の砂を含む	黄褐色	焼成普通
67-2	116	C 8 グリ ツフ	草創期末	丸型文系 前平	口縁部	深い爪彫文	ナデ	直径1mm以下の砂・白色 粒を微量含む	暗褐色	焼成良好
67-3	116	S K 242	草創期末	楕圓文系 并草目式	口縁部	丸頭状の口縁、口唇部にほ の文を斜に彫文、口唇下はナ デ滑す。胴部は草目式を縦 位に密に施文	横位のナデ	石灰粒を微量、直径1mm 以下の砂・白色粒を含む	暗褐色	焼成良好
67-4	116	S 1 170	草創期末	楕圓文系 丸式	口縁部	やや外反する。楕圓Rを縦 位に密に施文	ナデ	1mm以下の砂を多量に、 雷母・石灰粒を微量含 む。	暗褐色	焼成良好
67-5	116	S K 471	草創期末	楕圓文系 丸式	口縁部	丸頭状の口縁、楕圓Rを縦位 に密に施文	ナデ	白色粒を少量、雷母・石 灰を微量、砂を含む。	暗褐色	焼成良好
67-6	116	S 1 19	草創期末	楕圓文系 夏島式	口縁部	丸頭状の口縁でやや外反、楕 圓Rをやや浅く斜位に密に施 文。	磨面荒れのため 不明	直径1mm以下の砂を多 量に、2~4mmの砂を少 量、雷母をごく微量含 む。	明褐色	焼成良好
67-7	116	S 1 89	草創期末	楕圓文系 夏島式	口縁部	角頭状の口縁、楕圓Rを縦位 に施文。口唇部は横ナデ。	磨面荒れのため 不明	チャート片・石灰粒を微 量、砂を含む。	暗褐色	焼成良好
67-8	116	Y 7 グリ ツフ	草創期末	楕圓文系 夏島式	口縁部	角頭状の口縁、楕圓Rを縦位 に密に施文。	ナデ	直径1mm以下の砂を多 量に、石灰粒・雷母を微 量含む。	褐色	焼成良好
67-9	116	S S 59	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	乳棒状に丸頭の口縁、楕圓R を浅く間隔をあけて施文。	ナデ	直径1~2mmの砂を多 量に、白色粒・石灰粒を 少量含む。	暗褐色	焼成良好
67-10	116	S 1 10	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	丸頭状の口縁、楕圓Rを縦位 に間隔をあけて施文。深凹。	ナデ	直径1mm以下の砂を少 量、2~4mmの砂を微量 含む。	褐色	焼成良好
67-11	116	G 5 グリ ツフ	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	丸頭状の口縁、楕圓Rを浅く間 隔をあけて施文。深凹。	擦痕	直径1mm以下の砂・白色 粒を含む。	明褐色	焼成良好
67-12	116	G 4 グリ ツフ	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	丸頭状の口縁、楕圓Rを縦位 に浅く間隔をあけて施文。	ナデ	直径1~2mmの砂、石灰 粒を少量、1mm以下の 砂・白色粒を含む。	褐色	焼成良好
67-13	116	X 7 グリ ツフ	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	丸頭状の口縁、楕圓Rを浅く間 隔をあけて施文。	ナデ・磨面荒れ	直径1mm以下の砂を多 量に、石灰粒・長石を少 量、加礫石を微量含む。	暗褐色	焼成良好
67-14	116	A 8 グリ ツフ	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	角頭状の口縁、深い楕圓Rをラ ンダムに間隔をあけて施文。	ナデ・磨面荒れ	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量に、石灰粒・長 石を微量含む。	暗褐色	焼成良好
67-15	116	S 1 16	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	角頭状の口縁でやや外反する。 楕圓Rを間隔をあけて施文。	磨面荒れのため 不明	砂を多量に、長石を少量 含む。	暗褐色	焼成普通
67-16	116	K 1 グリ ツフ	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	やや外反する口縁。楕圓Rを 縦位・斜位にランダムに間隔 をあけて施文。	ナデ	砂・長石・黒曜石を少量 含む。	暗褐色	焼成良好
67-17	116	K 2 グリ ツフ	早期初頭	楕圓文系 石輪台式	口縁部	丸みを帯びた角頭状の口縁。楕 圓Rを密に施文。口唇下に竹管 の痕跡を認め、	ナデ	直径1mm以下の砂を多 量に、白色粒・雷母、2 ~4mmの砂を微量含む。	褐色	焼成良好
67-18	116	トレンチ 28	早期初頭	楕圓文系 石輪台式	口縁部	外頭状の口縁、口唇下に楕圓R を密に施文。口唇下に楕圓R を密に施文。口唇下に竹管 の痕跡を認め、	磨面荒れのため 不明	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量に、雷母・加礫 石・3~5mmの砂を微量 含む。	暗褐色	焼成良好
67-19	116	K 1 グリ ツフ	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	丸頭状の口縁で外反する。口唇 部は横ナデ。楕圓Rを施文。	ナデ	加礫石・チャートを微 量、直径1mm以下の砂を 含む。	明褐色	焼成良好
67-20	116	S 1 32	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	丸頭状の口縁、口唇下に排状工 具による草目式を縦位に施文 大形の楕圓Rを浅く間隔をあ けて施文。ナデ。	ナデ	白色粒・石灰粒を少量、 雷母を微量、直径1mm以 下の砂を含む。	褐色	焼成良好
67-21	116	H 4 グリ ツフ	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	丸頭状でやや外反する口縁。楕 圓Rを縦位に密に施文。	やや磨面荒れ	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量、加礫石・石灰 粒、2~3mmの砂を微量 含む。	褐色	焼成良好
67-22	116	S 1 16	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	角頭状の口縁。口唇下は凹頭 状。大形の楕圓Rを施文。ナデ	ナデ	黒礫石を微量、砂・白色 粒を含む。	暗褐色	焼成良好
67-23	116	D 7 グリ ツフ	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	口縁部	外頭状の口縁。口唇下に棒状 工具による横位の草目式。 ナデ。	ナデ・擦痕	砂・白色粒・黒礫石を少 量含む。	暗褐色	焼成良好 補修あり
67-24	116	S 1 10	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	胴部	楕圓Rを間隔をあけて施文。 ナデ。	ナデ	砂を多量に、黒礫石・チ ャートを微量含む。	外部暗褐色 内面暗褐色	焼成良好
67-25	116	S 1 10	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	胴部	楕圓Rを間隔をあけて施文。 ナデ。	磨面荒れのため 不明	砂・白色粒を多量に、2 ~5mmの砂・石灰粒を少 量含む。	褐色	焼成普通
67-26	117	S 1 16	早期初頭	楕圓文系 縦筒台式	胴部	楕圓Rを浅く間隔をあけて施 文。	ナデ	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量、2~3mmの 砂・雷母を微量含む。	外面明褐色 内面暗褐色	焼成良好

第3表 草創期・早期の土器

図番	図例	出土位置	時期	型式	部位	文様・外組模様	内面調整	胎土	色澤	備考
67-27	117	S 129	早期初頭	器系文系 細高脚式	腹部	器系Rを倒置をあけて施文。	捺痕	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量に、黒粒をごく 微量含む。	明褐色	焼成良好
67-28	117	S 116	早期初頭	器系文系 細高脚式	腹部	器面荒れのため不明	器面荒れのため 不明	砂を少量、直径3～7mm の砂を微量含む。	外面明褐色 内面明 褐色	焼成普通
67-29	117	S 149 覆土	早期初頭	器系文系 細高脚式	腹部	ナデ		砂を多量に、チャートを 微量、石英粒・黒曜石を 含む。	暗褐色	焼成良好
67-30	117	F 3 グラ ッド	早期初頭	器系文系 細高脚式	腹部	ナデ	ナデ	石英粒・チャートを多量 に、直径1mm以下の砂・ 白色粒を含む。	明褐色	焼成良好
68-1	117	S 112	早期初頭	器系文系 細高脚式	口縁部	丸みを帯びた角頭状の口縁。口 唇下に幅広い凹線。器面荒れ。 不明	器面荒れのため 不明	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量、石英粒・黒曜 石を含む。	外面明褐色 内面明 褐色	焼成普通
68-2	117	A 4 グラ ッド	早期初頭	器系文系 細高脚式	口縁部	丸頭状の口縁。口唇下に幅広い 凹線。器面を均等にあげて施 文。やや器面荒れ。ナデ。	ナデ	砂・白色粒を多量に、石 英粒・長石を微量含む。	灰白色	焼成普通
68-3	117	S 110	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	口唇下に棒状工具による横位 の沈線。捺痕。	ナデ	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量に、長石を少量 含む。	褐色	焼成良好
68-4	117	D 2 グラ ッド	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	丸頭状の口縁。口唇下に棒状工 具による半沈線を横位に施文。 ナデ。	ナデ・捺痕	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量、長石を微量含 む。	明褐色	焼成良好
68-5	117	E 3 グラ ッド	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	角頭状の口縁。口唇下に棒状工 具による横位の沈線。捺痕。	捺痕	砂・白色粒・黒曜石を含 む。	明黄褐色	焼成良好
68-6	117	S 1105 覆土	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	丸頭状の口縁。口唇下に片削さ 状の沈線。ナデ・捺痕。	ナデ・捺痕	黒曜石を少量、直径1mm 以下の砂・石英粒・黒曜 石を含む。	灰白色	焼成良好
68-7	117	S 156 覆土	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	角頭状の口縁。口唇下に片削さ 状の沈線。	器面荒れのため 不明	直径2～4mmの砂・黒曜 石・チャートを多量に、 石英粒を含む。	暗褐色	焼成良好
68-8	117	S 112	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	角頭状の口縁でやや外反する。 口唇下に片削さ状の沈線。	ナデ	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量に、2～4mm の砂を含む。	褐色	焼成良好
68-9	117	S 169	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	角頭状の口縁。口唇下に棒状工 具による横位の半沈線。ナデ・ 捺痕。	捺痕	黒曜石を多量に、直径 1～2mmの砂を少量、石英 粒・チャートを微量含 む。	明褐色	焼成良好
68-10	117	S 128	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	角頭状の口縁。口唇下に棒状工 具による横位の沈線。捺痕。	ナデ	砂・白色粒を含む。	褐色	焼成良好
68-11	117	S 156 覆土	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	角頭状の口縁。口唇下に棒状工 具による横位の沈線。捺痕。	捺痕	直径1～2mmの砂・黒曜 石を多量に、チャート・ 石英粒を微量含む。	暗褐色	焼成良好
68-12	117	S X21 覆土	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	角頭状の口縁。口唇下に棒状工 具による横位の半沈線。ナデ。	ナデ	黒曜石・チャートを少 量、直径3～5mmの砂を 微量、1mm以下の砂・白 色粒を含む。	暗褐色	焼成良好
68-13	117	S 128	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	角頭状の口縁。口唇下に棒状工 具による横位の沈線。捺痕。	ナデ	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量に、2～5mm の砂を含む。	褐色	焼成良好
68-14	117	13 グラ ッド	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	外側ぎ状の口縁。口唇下に凹 線。一部に棒状工具による浅い 沈線。捺痕。	ナデ	砂・白色粒を多量に、石 英粒・黒曜石・長石を微 量含む。	褐色	焼成良好
68-15	117	B 2 グラ ッド	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	やや外側ぎの角頭状の口縁。捺 痕。	ナデ	黒曜石を微量、直径1mm 以下の砂・白色粒を含 む。	暗褐色	焼成良好
68-16	117	S 110	早期初頭	器系文系 梨山式	口縁部	丸頭状の口縁。口唇下に浅い沈 線を部分的に施文。捺痕。	捺痕	直径3mm程度の砂を微 量、黒曜石をごく微量、 1mm以下の砂を含む。	褐色	焼成良好
68-17	117	15 グラ ッド	早期初頭	器系文系 平腹式	口縁部	丸頭状の口縁。ナデ・捺痕。	ナデ	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量、石英粒を微量 含む。器面。	褐色	焼成良好
68-18	117	G 5 グラ ッド	早期初頭	器系文系 平腹式	口縁部	丸みを帯びた外側ぎ状の口縁。 ナデ・捺痕。	ナデ・捺痕	黒曜石を少量、白色粒・ 長石を微量、砂を含む。	明褐色	焼成良好
68-19	117	S 148 覆土	早期初頭	器系文系 平腹式	口縁部	丸頭状の口縁。口唇は横ナデ。 捺痕。	捺痕	直径1～2mmの砂・白色 粒を微量、1mm以下 の砂を含む。	明褐色	焼成良好
68-20	117	D 2 グラ ッド	早期初頭	器系文系 平腹式	口縁部	外側ぎ状の口縁でやや外反する。 ナデ。	捺痕	砂・白色粒を少量、黒曜 石・チャートを微量含 む。	明褐色	焼成良好
68-21	118	H 2 グラ ッド	早期初頭	器系文系 平腹式	口縁部	角頭状の口縁でやや外反する。 ナデ・捺痕。	ナデ	黒曜石・石英粒を微量、 砂を含む。	明褐色	焼成良好
68-22	118	B 2 グラ ッド	早期初頭	器系文系 平腹式	口縁部	角頭状の口縁。ナデ。	捺痕	砂を多量に、白色粒を少 量、黒曜石・チャートを 微量含む。	暗褐色	焼成良好
68-23	118	S 109	早期初頭	器系文系 平腹式	口縁部	角頭状の口縁。捺痕。	ナデ	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量に含む。	褐色	焼成良好
68-24	118	S 112	早期初頭	器系文系 平腹式	口縁部	やや外側ぎの角頭状の口縁。 ナデ。	ナデ	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量に、黒曜石・ 石英粒を含む。	暗褐色	焼成良好
68-25	118	S 116	早期初頭	器系文系 平腹式	口縁部	角頭状の口縁。ナデ。やや器面 荒れ。	ナデ	直径1mm以下の砂・白色 粒を多量に、黒曜石・ 長石を少量含む。	明褐色	焼成良好

第4表 草創期・早期の土器

図番	図版	出土位置	時期	型式	部位	文様・外面調整	内面調整	胎土	色調	備考
69-26	118	S 110	早期初期	赤褐色系 平底式	底部	器面荒れ。ナデか?	ナデ?	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量に含む。	外面赤褐色 内面黒褐色	焼成普通
69-27	118	S K 101	早期初期	押型文系 縄文式	口縁部	山形押型文を口唇部に横位、以 下を縦位に施文。	山形押型文を口 唇部に縦位に間 隔をあけて施文	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量、黒のちごく微 量を含む。	明褐色	焼成良好
69-28	118	U10 グリ ッド	早期初期	押型文系 縄文式	口縁部	山形押型文を間隔をあけて帯 状に施文。	山形押型文を縦 位に間隔をあけて 施文。	直径1mm以下の砂を少量 に、3~5mmの砂を少 量、黒磁石を微量含む。	暗褐色	焼成良好
69-29	118	K 2 グリ ッド	早期中期	押型文系 縄文式	胴部	山形押型文を間隔をあけて帯 状に施文。	ナデ	直径1mm以下の砂を少 量に、繊維を少量含む。	灰褐色	焼成良好
69-30	118	T10 グリ ッド	早期中期	押型文系 縄文式	胴部	山形押型文を間隔をあけて帯 状に施文。	ナデ?	器母を少量、直径1mm以 下の砂を少量に、長石を少 量含む。	褐色	焼成良好
69-31	118	M 2 グリ ッド	早期中期	押型文系 縄文式	胴部	山形押型文を間隔をあけて帯 状に施文。	ナデ	器母を少量、直径1mm以 下の砂を含む。	外面灰褐色 内面黒褐色	焼成良好
69-32	118	S 1 41 覆土	早期初期	押型文系 縄文式	胴部	山形押型文をやや間隔をあけて 施文。	ナデ	直径1mm以下の砂を少 量、3~5mmの砂を少量 含む。	灰褐色 断面ラッ クダイヤ 状	焼成良好
69-33	118	S 5 45	早期中期	押型文系 縄文式	胴部	山形押型文を全体に施文	ナデ	器母を少量、直径1mm以 下の砂を少量に、石英粒・長 石を少量含む。	褐色	焼成良好
69-34 1-2	118	L100のフ Z100のフ 3.SR1	早期初期	押型文系 縄文式	胴部	山形押型文を全体に施文	ナデ?	器母を少量、黒磁石・石 炭粒を少量、直径1mm以 下の砂を少量に、長石を少 量含む。	褐色	焼成良好
69-35 1-2	118	S 1 98	早期初期	押型文系 縄文式	胴部	格子目押型文を間隔をあけて 施文。	ナデ	直径1mm以下の砂・器母 を含む。	褐色	焼成良好
69-1	118	S S 57	早期前期	赤褐色系 田戸下層 式	口縁部	口唇上にするどい成形文。幅3 ~4mmの沈線列を完成。	横線	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量に、繊維を中平 含む。	明褐色	焼成良好 開口縁か
69-2	118	S 1 183 覆土	早期後半	赤褐色系 縄文式	口縁部	口唇部に竹管の腹の押圧によ る窪み、口唇下に断面三角形の 細い帯を貼り付け、その上 による窪みで窪みに格子目文。横 位の条痕。	横位のやや粗い 条痕	繊維を少量に、直径1~ 2mmの砂・白色粒・長石 を含む。	暗褐色	焼成良好
69-3	118	Y 9 グリ ッド	早期後半	赤褐色系 縄文式	胴部	沈線で区画→区画線上に竹管 による円形刺突→区画内に竹 管による調列や内押文。横 位の条痕。	横位の条痕	繊維・直径1mm以下の 砂・白色粒を少量に、長 石を少量含む。	褐色 断面ラッ クダイヤ 状	焼成良好
69-4	118	S 1 40	早期後半	赤褐色系 縄文式	胴部	沈線で区画→区画線上に竹管 による円形刺突。横位の粗い条 痕。	横位の粗い条痕	繊維を少量に、砂・白色 粒を少量、黄鉄・石英粒 を少量含む。	明褐色	焼成良好
69-5	118	S S 56	早期後半	赤褐色系 縄文式	胴部	沈線で区画→区画線上に竹管 による円形刺突→区画内に沈 線列を完成。横位の条痕。	横位の条痕	繊維・直径1mm以下の 砂・白色粒を少量に、長 石を少量含む。直径1mm 以下の砂を少量に、白色 粒を含む。	褐色	焼成良好
69-7	118	S 1 117	早期後半	赤褐色系 縄文式	胴部	沈線で区画→区画線上に竹管 による円形刺突→区画内に沈 線列を完成。横位の条痕。	横位の粗い条痕	繊維・砂・白色粒を少量 に、器母を少量含む。	外面暗褐色 内面明褐色	焼成良好
69-8	118	Z 9 グリ ッド	早期後半	赤褐色系 縄文式	胴部	竹管による刺突。横位の粗い条 痕。	横位の粗い条痕	繊維・直径1mm以下の 砂・白色粒を少量に、長 石を少量含む。	褐色	焼成良好
69-9	118	K 4 F 7 ナ	早期後半	赤褐色系 平山土層 式	口縁部	粘土却で断面三角・台形の鉄帯 を貼り付け一帯の上に竹管 の腹による刺突→口唇上に同じ 列み。	横位の浅い条痕	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量、1mm程度の砂・ 繊維を含む。	赤褐色 断面ラッ クダイヤ 状	焼成良好
69-10	119	K 4 F 7 ナ	早期後半	赤褐色系 平山土層 式	口縁部	粘土却で断面三角・台形の鉄帯 を貼り付け一帯の上に竹管 の腹による刺突→口唇上に同じ 列み。	横位の浅い条痕	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量、1mm程度の砂・ 繊維を含む。	赤褐色 断面ラッ クダイヤ 状	焼成良好
69-11	119	K 3 F 7 ナ	早期後半	赤褐色系 平山土層 式	口縁部	粘土却で断面三角・台形の鉄帯 を貼り付け一帯の上に竹管 の腹による刺突→口唇上に同じ 列み。	横位の浅い条痕	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量、1mm程度の砂・ 繊維を含む。	赤褐色 断面ラッ クダイヤ 状	焼成良好
69-12	119	C 5 グリ ッド	早期後半	赤褐色系 平山土層 式	口縁部	横位・斜位の特に深い条痕。	ナデ	砂を少量、大粒の砂、長 石を少量、繊維を含む。	明赤褐色	焼成良好
69-13	119	S 1 87	早期後半	赤褐色系 平山土層 式	胴部	横位の塊々とした条痕を部分的 に施文。	縦位・横位の太 い条痕	直径1mm以下の砂・白色 粒・繊維を少量に、2~ 3mmの砂を少量含む。	明赤褐色 断面ラッ クダイヤ 状	焼成普通
69-14	119	Y 9 グリ ッド	早期後半	赤褐色系 平山土層 式	胴部	横位の粗い条痕	横位の粗い条痕	繊維・直径1mm以下の 砂・白色粒を少量に、長 石を少量、器母を少量含む。	褐色	焼成良好
69-15	119	S 1 16	早期後半	赤褐色系 平山土層 式	底部	斜位の太い条痕。	器面荒れのた り不明	直径1mm以下の砂・白色 粒を少量に、繊維を含む。	外面褐色 内面暗褐色	焼成普通

第5表 前期の土器

図番	図尺	出土位置	時期	型式	部位	文様・外周装飾	胎土	色調	備考
70-1	119	S 1206	前期	講談c式	胴部	半蔵竹管による押し引き・平行沈線による菱形・三角形区画→区画内に赤彩→区画内に半蔵竹管の押し引きにより三角形区画	直径1mm以下の砂・白色粉を含む	明赤褐色	焼成良好 赤彩による文様
70-2	119	M2グラッド	前期	講談b式	口縁部	半蔵竹管の押し引きで横線に区画→区画内に赤彩	直径2～3mmの砂を含む	赤褐色	焼成良好
70-3	120	S 1157 覆土	前期	講談c式	口縁部	半蔵竹管の押し引きによる平行沈線をも階位に共通→口縁部→半蔵竹管の押し引きによる複数の菱形区画→階位に青の高い帯を施す→階位に黒い帯を施す→口縁部→半蔵竹管による細い→モザイク装飾を施す	直径1mm以下の砂を少量含む	褐色	焼成良好
70-4	120	B2グラッド	前期	十三番辰式	口縁部	口縁下にボタン状の飾り付け→口縁部に背を階位に押し出した横線の高い帯を施す→口縁部に黒い帯を施す→階位に半蔵竹管による細い→モザイク装飾を施す	直径1～2mmの砂を少量含む	灰褐色	焼成良好
70-5	120	S 1116	前期	芝居下層式	胴部	漆塗体を基調的に施文→半蔵竹管の押し引きによる赤彩	横線を含む	暗褐色	焼成良好
70-6	120	S 1197	前期	岡山1式	口縁部	竹管の刺突を施す	横線を含む	暗褐色	焼成良好
70-7	120	Y8グラッド	前期	岡山2式	口縁部	附加糸の施文を施文→竹管によるコンパス文	直径1mm以下の石灰粒を少量含む	褐色	焼成良好
70-8	120	S 1130	前期	胴部	附加糸の施文を施文→竹管によるコンパス文	横線を含む	褐色	焼成良好	
70-9	120	Y8グラッド	前期	岡山2式	胴部	附加糸の施文を施文→竹管によるコンパス文	横線を含む	褐色	焼成良好
70-10	120	S 1130 覆土	前期	岡山2式	胴部	附加糸の施文を施文→竹管によるコンパス文	横線を含む	褐色	焼成良好
70-11	120	L2グラッド	前期	講談a式	口縁部	半蔵竹管の押し引き・平行沈線をも2本平行に引いて区画→区画内に竹管による凸状の平行沈線	直径1mm以下の砂を少量含む	褐色	焼成良好
70-12	120	J2グラッド	前期	講談a式	口縁部	半蔵竹管の押し引き・平行沈線をも2本平行に引いて区画→区画内に半蔵竹管による凸状の平行沈線	直径1mm以下の砂・石灰粒を少量含む	灰褐色	焼成良好
70-13	120	J3グラッド	前期	講談a式	口縁部	甲斐細文を斜位に施文→半蔵竹管による平行沈線で区画	直径1mm以下の砂・白色粉を少量含む	灰褐色	焼成良好
70-14	120	H2グラッド	前期	講談a式	口縁部	甲斐細文を斜位に施文→半蔵竹管による凸状の平行沈線	直径1mm以下の砂を少量含む	明赤褐色	焼成良好
70-15	120	トレンキ7	前期	講談a式	口縁部	半蔵竹管による爪形文で区画	器人物少ない	明赤褐色	焼成良好
70-16	120	L3グラッド	前期	講談b式	口縁部	半蔵竹管による爪形文で区画→区画内に爪形文でモチーフを施す→区画縦間に押付工具による溝状	直径2mm以下の砂・石灰石を少量含む	灰褐色	焼成良好
70-17	121	S 1177	前期	講談b式	口縁部	口縁部中央の飾り線を階位に施文→半蔵竹管による平行沈線で横線に区画	直径1mm以下の砂・チタートを少量含む	灰褐色	焼成良好
70-18	121	S 1177	前期	講談b式	口縁部	口縁部中央の飾り線を階位に施文→半蔵竹管による平行沈線で横線に区画	直径1mm以下の砂・チタートを含む	灰褐色	焼成良好
70-19	121	M2グラッド	前期	講談b式	口縁部	甲斐細文を階位に施文→半蔵竹管による平行沈線で横線に区画	直径1mm以下の砂・石灰粒を含む	灰褐色	焼成良好
70-20	121	K3グラッド	前期	講談b式	口縁部	甲斐細文を階位に施文→半蔵竹管による平行沈線で区画→口縁部に短い粘土粒を施す	直径1mm以下の砂を少量含む	灰褐色	焼成良好
70-21	121	S 1185 覆土	前期	胴部b式	口縁部	半蔵竹管による平行沈線でモチーフを施す	直径1～2mmの砂を少量含む	灰褐色	焼成良好
70-22	121	A10グラッド	前期	講談b式	口縁部	半蔵竹管による平行沈線でモチーフを施す	直径1mm以下の砂・石灰石を少量含む	灰褐色	焼成良好
71-1	121	S K210	前期	講談b式	口縁部	口縁部中央の飾り線を階位に施文→半蔵竹管による平行沈線で区画	直径1～2mmの砂・チタートを少量含む	褐色	焼成良好
71-2	121	Z7グラッド	前期	講談b式	口縁部	口縁部中央の飾り線を階位に施文→半蔵竹管による平行沈線で区画	直径1～2mmの砂を少量含む	褐色	焼成良好
71-3	121	S 1206	前期	講談b式	口縁部	口縁部中央の飾り線を階位に施文→半蔵竹管による平行沈線で区画	直径1～2mmの砂を少量含む	褐色	焼成良好
71-4	121	S 1191	前期	講談b式	口縁部	甲斐細文を斜位に施文→半蔵竹管による平行沈線で区画→区画内に半蔵竹管の平行沈線列を施す	直径1mm以下の砂を少量含む	灰褐色	焼成良好
71-5	121	K3グラッド	前期	講談b式	口縁部	半蔵竹管の平行沈線でモチーフを施す	直径1mm以下の砂・石灰粒を少量含む	灰褐色	焼成良好
71-6	121	B5グラッド	前期	講談b式	口縁部	半蔵竹管の平行沈線でモチーフを施す	直径1mm以下の砂・石灰粒を少量含む	灰褐色	焼成良好
71-7	121	S 1118	前期	講談b式	口縁部	半蔵竹管の平行沈線でモチーフを施す	直径1mm以下の砂・白色粉を少量含む	灰褐色	焼成良好
71-8	121	H5グラッド	前期	講談b式	口縁部	半蔵竹管の平行沈線でモチーフを施す	直径1mm以下の砂・石灰石を含む	明赤褐色	焼成良好
71-9	121	トレンキ	前期	講談b式	口縁部	甲斐細文を斜位に施文→短い粘土粒を施す→口縁部に短い粘土粒を施す	直径1mm以下のチタートを少量含む	灰褐色	焼成良好
71-10	121	A5グラッド	前期	講談b式	口縁部	甲斐細文を斜位に施文→短い粘土粒を施す→口縁部に短い粘土粒を施す	直径1mm以下の砂・白色粉を少量含む	褐色	焼成良好
71-11	121	S 121	前期	胴部b式	胴部	甲斐細文を斜位に施文→短い粘土粒を施す→口縁部に短い粘土粒を施す	直径1mm以下の白色粉を含む	褐色	焼成良好
71-12	121	S 122	前期	胴部b式	胴部	甲斐細文を斜位に施文→短い粘土粒を施す→口縁部に短い粘土粒を施す	直径1mm以下の白色粉を含む	褐色	焼成良好
71-13	122	J3グラッド	前期	講談c式	口縁部	口縁部中央の飾り線を半蔵竹管による平行沈線で区画→区画内に平行沈線をも階位に施文→区画内に半蔵竹管による凸状の平行沈線	直径1mm以下のチタート・石灰石を含む	灰褐色	焼成良好
71-14	122	C5グラッド	前期	講談c式	胴部	半蔵竹管による平行沈線で横線に区画→区画内に半蔵竹管による凸状の平行沈線	直径1mm以下の砂・石灰石を含む	褐色	焼成良好
71-15	122	L1グラッド	前期	講談c式	胴部	半蔵竹管による平行沈線で横線に区画→区画内に半蔵竹管による凸状の平行沈線	器人物少ない	褐色	焼成良好

第6表 前期の土器

図面	図版	出土位置	時期	型式	部位	文様・外面調査	胎土	色調	備考
71-16	122	K 2 グリ ッド	前期	踏織c式	口縁部	口唇に押圧→斜位の条線を光填→ボタン状隆起の貼り付け	直径1~2mmの砂を微量含む	淡褐色	焼成良好
71-17	122	トレンチ 23	前期	踏織c式	口縁部	条線を横位・斜位に施文→口唇に粘土粒を突起状に貼り付け	直径1mm以下の砂を少量含む	明赤褐色	焼成良好
71-18	122	S 1117	前期	踏織c式	口縁部	条線を横位・斜位に施文→口唇に粘土粒を突起状に貼り付け	直径1mm以下の砂・貝石を少量含む	明赤褐色	焼成良好
71-19	122	S 6 グリ ッド	前期	踏織c式	口縁部	条線を横位・斜位に施文→口唇に粘土粒を突起状に貼り付け	直径1mm以下の砂を微量含む	明赤褐色	焼成良好
71-20	122	S 6 グリ ッド	前期	踏織c式	口縁部	条線を横位・斜位に施文→口唇に粘土粒を突起状に貼り付け	混入物少ない	明赤褐色	焼成良好
71-21	122	S 134	前期	踏織c式	口縁部	条線を横位・斜位に施文→口唇に粘土粒を突起状に貼り付け	直径5mmほどのチャートをごく微量含む	明赤褐色	焼成良好
71-22	122	S 6 グリ ッド	前期	踏織c式	口縁部	条線を横位・斜位に施文→口唇に粘土粒を突起状に貼り付け	直径1mm以下の砂・石灰粒を微量含む	明赤褐色	焼成良好
71-23	122	K 2 グリ ッド	前期	踏織c式	口縁部	口唇部に押圧→条線を斜位に施文	混入物少ない	淡褐色	焼成良好
71-24	122	S 127	前期	踏織c式	胴部	条線を斜位に施文	器母をごく微量含む	明赤褐色	焼成良好
71-25	122	S 6 グリ ッド	前期	踏織c式	胴部	条線を斜位に施文	直径1mm以下の砂・貝石を微量含む	褐色	焼成良好
71-26	122	S 134	前期	踏織c式	胴部	条線を斜位に施文	直径1mm以下の砂・石灰粒を微量含む	明赤褐色	焼成良好
71-27	122	S 6 グリ ッド	前期	踏織c式	胴部	条線を斜位に施文	直径1mm以下の砂を微量含む	明赤褐色	焼成良好
71-28	122	S 6 グリ ッド	前期	踏織c式	胴部	条線を斜位に施文	直径1mm以下の石灰粒を微量含む	明赤褐色	焼成良好
71-29	122	13 グリ ッド	前期	十三番英式	口縁部	口唇部に低い隆起を貼り付け→隆起上に竹管による網文列→胴部に条線を施文→隆起を三角形状に切り取り	直径1mm以下の砂・白色を微量含む	淡褐色	焼成良好
71-30	122	J 3 グリ ッド	前期	十三番英式	口縁部	口唇部に低い隆起を貼り付け→隆起上に竹管による網文列→胴部に条線を施文→隆起を三角形状に切り取り	直径1mm以下の砂・白色を微量含む	淡褐色	焼成良好

第7表 中期の土器

図版	図名	出土位置	時間	新地平	器形	文様の施文行書ほか	色面	胎土	部位 存在状況	備考
72-1	123	1-4 グラ ッド	中期中葉 阿玉台1b式	5c期	深鉢	断面三角形の隆帯で口縁と胴部を区画→ 隆帯で口縁部と胴部に横閉形区画→ 口縁に屈状把手の痕跡の内形突起、突起 上に竹管の押圧を施し、突起内に竹管に よる屈曲の痕跡や隆帯を竹管による 組紐な網突刺→胴部に突起による 屈状把手→胴部には網突刺を 伏状工具による屈状把手→胴部には網 突刺を伏したひだ状痕	暗褐色	雲母、石英粒、白色 灰を多量に含む。	口縁部→ 胴部上半 1/6 残存	焼成良好
72-2	123	C3 グラ ッド	中期中葉 阿玉台1b式	5c期	深鉢	短い屈位の心脚状突起を貼り付け一 つおきの突起下層にやや高い断面カ マボコ形の隆帯を竹管の内側に貼り付 け→口縁と腹帯部は竹管の網突刺による 角押文を複数施文	褐色	直径1mm以下の白色 灰を多量に、1~2 mmの砂を含む。	口縁部→ 胴部下半 4/5 残存	焼成良好
72-3	123	S130 覆土	中期中葉 阿玉台1b式	5c期	深鉢	屈状把手を形成→隆帯により口縁部に 横閉形区画、胴部を縦位に区画→口縁部 の隆帯上に竹管の押圧による網み→区 画の隆帯部を竹管による網突刺で押さ える→区画内には屈状の網突刺→胴部 にはY字状モチーフの隆帯を垂下、隆帯上 に網み→胴部と胴部上半に押し引きに よる網突刺→胴部には網突刺を伏し たひだ状痕	暗褐色	直径1mm以下の白色 灰を多量に、1~2 mmの砂を含む。	口縁部→ 胴部下半 1/3 残存	焼成良好
72-4	123	S161 床面	中期中葉 阿玉台1b→ II式	5c~ 6期	鉢	背の高い隆帯で口縁部を横閉形区画→ 隆帯の交点に屈状把手を形成→隆帯上 に竹管による角押文や竹管の押圧に よる網み→区画内には竹管の 施文	暗褐色	石英粒・白色灰を含む。	口縁部→ 胴部1/3 残存	焼成良好
72-5	123	S1205	中期中葉 阿玉台II式	6期	深鉢 4単位 伏状口縁	断面三角形の隆帯で口縁部と三角形区 画、胴部に伏状に垂下→隆帯部に手 管の押し引きによる1ないし2本の網 帯を斜突刺→胴部にはヘラによるす どい痕跡→胴部には網帯を伏した ひだ状痕	暗褐色	直径1~2mmの白色 灰を多量に、 雲母を含む。	口縁部→ 胴部中位 1/8 残存	焼成良好
72-6	123	S1126 砂	中期中葉 阿玉台II新式	6b期	深鉢 が 残 り 出 す	断面三角形の隆帯を横位に伏し大きく 屈状に貼り付け→屈状隆帯に沿うよう に粘土線を小波状に貼り付け→隆帯部 を平手竹管による平行沈積列ないし半 屈竹管の押し引きによる角押文列で押 さえる	褐色	雲母を多量に、直径 1~2mmの砂、石英 粒を少量含む。	胴部中位 1/10 残存	焼成良好
72-7	123	S158	中期中葉 阿玉台II新式	6b期	深鉢 4単位 伏状口縁	断面三角形の隆帯で口縁、胴部を区画→ 口縁部や胴部に三角形区画、胴部に逆 U字状モチーフ→隆帯部を平手竹管に よる平行沈積で押さえる→区画内に手 管による平行沈積を施文	褐色	直径1~3mmの雲 母、砂を多量に含む。	口縁部→ 胴部上半 1/4 残存	焼成良好
72-8	124	S1203 覆土	中期中葉 阿玉台II新式	6b期	深鉢	屈位の隆帯で胴部を区画、胴部に1字 の隆帯を組み合わせた屈状の隆帯を垂 下→隆帯部を平手竹管による2条1本の 角押文列で押さえる	暗褐色	直径1mmほどの石英 粒を数粒、白色灰を 含む。	胴部から 底面2/5 残存	焼成良好
72-9	124	S158 P1	中期中葉 阿玉台II新式	6b期	深鉢 2単位	断面三角形の隆帯を縦位に垂下、隆帯部 を逆U字状の隆帯で縁部→隆帯で屈状 のモチーフ→隆帯部を平手竹管による 平行沈積で押さえる→胴部モチーフ に平手竹管による平行沈積による屈位 の屈状沈積列	暗褐色	雲母、直径1~2mm の石英粒を多量に、 2~3mmの砂を含む。	胴部下半 1/4 残存	焼成良好 内面に灰 化層付着
72-10	124	S1168	中期中葉 阿玉台II新式	6b期	深鉢 4単位	口料部を肥厚→背が高く、短い隆帯を4 単位単位に貼り付け→胴部には屈曲の あいた屈位の爪形文を複数施さる	暗褐色	雲母を多量に、直径 1~3mmの砂を含む。	口縁部→ 胴部2/3 残存	焼成普通 断面荒れ
72-11	124	S1138	中期中葉 阿玉台II新式	6b期	深鉢	断面三角形の隆帯で胴部を区画→隆帯部 に屈状把手文を複数施す→胴部は逆 U字状モチーフの隆帯を胴部に伏状に 垂下→胴部には屈曲のあいた屈位の爪 形文を複数施さる	褐色	直径1~2mmの雲 母、1mmほどの白色 灰を多量に、1mmほ どの石英粒を含む。	口縁部→ 胴部下半 1/8 残存	焼成良好
72-12	124	S139	中期中葉 阿玉台II新式	6b期	深鉢	口料部を低い隆帯で肥厚→背が高く、幅 の広い断面三角形の短い隆帯を口料 部に縦位に貼り付け	暗褐色	雲母を多量に、直径 1mm以下の石英粒、 白色灰を少量、1~ 3mmの砂を少量含 む。	口縁部→ 胴部1/3 残存	焼成良好
72-13	124	S1117 砂層	中期中葉 阿玉台II新式	6期	深鉢	短い断面カマボコ形の隆帯を縦位に垂 下	暗褐色	直径1mm以下の白色 灰を多量に含む。	口縁部→ 胴部中位 1/4 残存	焼成良好 内面荒れ
72-14	125	S132	中期中葉 阿玉台III式	7~8 期	深鉢 4単位 伏状口縁	口唇をやや肥厚→屈位の隆帯で口縁と 胴部を区画→口縁部を帯帯で三角形区 画→突起部より隆帯を屈状、縦位に垂下 →胴部に屈位の隆帯を垂下→区画内に 半手竹管による沈積列→隆帯部を大きく 屈い半沈積で押さえる。胴部区画隆帯部 を屈状角押文で押さえる。	褐色	直径1~2mmの砂を 多量に、雲母を少量 含む。	口縁部→ 胴部上半 3/5 残存	焼成良好
72-15	125	S132	中期中葉 阿玉台IV式	8~9 期	深鉢 3単位	断面カマボコ形の隆帯で胴部を区画→ 胴部には途中に内形モチーフを付 け、隆帯を帯帯に垂下→隆帯部を屈状 で押さえる→屈状角押文を縦位に垂下	褐色	直径1mm~3mmの 雲母、雲母を多量に、 石英粒を少量含む。	胴部中位 1/4 残存	焼成普通 全断面 荒れ

第8表 中期の土器

西暦	図版	出土位置	時期	新地平	器形	文様の施文行程ほか	色調	胎土	部位 遺存率	備考
73-1	125	14 グリ ッド	中期中葉 勝取1a式	5 b期	深鉢	細い隆帯で口縁と胴部を区画→口縁部に 方形・楕円形区画→胴部に隆帯をクラン ク状に書き→胴位の隆帯の一部に心棒状 隆帯→胴部を半角押圧による角押文で 押さえる	褐色	直径1mmほどの砂 を微量、石英粒を ごく少量、1mm以 下の白色粒を含む	口縁部→ 胴部1/3 残存	焼成良好 内面荒れ
73-2	125	13 グリ ッド	中期中葉 勝取1a式	5 c期	深鉢	口縁に竹管による1本の角押文列、角押 文列により楕円区画を形成→区画内に縦 位の角押文列、列間に竹管を斜突→胴部 には横筋を施したひだ状痕	暗褐色	直径1～2mmの砂 を少量、白色粒・粉 を含む	口縁部→ 胴部1/3 残存	焼成良好 新代積る
73-3	126	S10 グリ ッド	中期中葉 勝取1a式	5 c期	深鉢	胴部に横筋を施したひだ状痕	褐色	白色粒、直径1mm ほどの砂を含む	胴部→底 部1/2残存	焼成良好 胎面やや荒れ
73-4	125	S127	中期中葉 勝取1a式	5 b期	深鉢	底辺部の口縁上に竹管の押圧による斜突 →細い隆帯で楕円形・半円形に区画→口 縁位・隆帯部を角押文で押さえる→口 縁部および半円形区画内に角押文列を施 す	赤褐色	直径1mm以下の石 灰・白色粒を少量 含む	口縁部→ 底辺部1/3 残存	焼成良好
73-5	125	S K431	中期中葉 勝取1a式	5 b期	深鉢	口縁に張り出すように隆帯を貼り付け→ 隆帯下に横位の角押文、胴部には「日」 字状に角押文で区画→単線隆帯を施 す	明褐色	直径1mm程度の砂、 1mm以下の白色 粒・雲母・石英 粒を微量含む	口縁部→ 底辺部ほぼ 完全	焼成良好
73-6	125	V6 グリ ッド	中期中葉 勝取1a式	5 c期	深鉢	細い隆帯により口縁部に縦位の楕円形区 画、その下に半円形区画、半円形区画の 下端から縦位の隆帯を下し、下端に横 位の波状の隆帯→底上隆帯下に短い心 棒帯を貼り付け→底辺部を角押文で押 さえる	赤褐色	直径1mmほどの白 色粒・雲母・石 灰粒を少量を含む	口縁部→ 底辺部2/3 残存	焼成良好 内面やや荒れ
73-7	126	トレンテ 22	中期中葉 勝取1a式	5 c期	深鉢	口縁に横筋状の隆帯で小波状口縁を形 成→細い隆帯で口縁部を方形区画、その 下に2段の楕円形区画と方形区画→隆帯 部を角押文で押さえる→口縁部区画内に 縦位の角押文、下部の楕円形区画内に 角押文列や波状の角押文	暗褐色	直径1～3mmの砂 を微量、1mm以 下の白色粒・砂を少 量含む	口縁部→ 底辺部下半 1/2残存	焼成良好
73-8	126	S1138 床直ほか	中期中葉 勝取1a式	5期	深鉢	横位の2本の角押文列→縦位の隆帯を貼 り付け、隆帯の背を指差押圧→隆帯部を竹 管による角押文で押さえる、2本の角押 文列で区画の4分状に区画→区画内に竹管 の斜突を施す	赤褐色	石英粒を少量、雲 母・石英粒を 1mm以上の大粒の砂 を含む	胴部1/4 残存	焼成良好
73-9		S1138 床直ほか 7口縁部 は張り出 しつつ 内湾	中期中葉 勝取1b式	6 b期	深鉢	隆帯により口縁に両向きセナーフの小突 起→断面カマゴコ状の隆帯で区画→隆帯部 をペン先状工具による二角押文で押さ える→区画内に三角押文列や波状の三角押 文を施す	暗褐色→ 暗赤褐色	石英粒・白色粒を 微量に、直径1mm 以下の砂を含む	口縁部→ 底辺部3/5 残存	焼成良好
73-10		S1138 P28	中期中葉 勝取1b式	6 b期	深鉢	隆帯により横位の楕円形区画→隆帯部を ペン先状工具による二角押文で押さ える→細い波状の三角押文を施す	赤褐色	直径1～2mmの 砂・雲母・石英粒 を微量、1mm以 下の砂・白色粒を 含む	底辺のみ 残存	焼成良好
73-11	126	S1138 覆土	中期中葉 勝取1b式	6 b期	深鉢	断面カマゴコ状の隆帯を拡張、縦位の底 下→隆帯部をペン先状工具による三角押 文で押さえる→三角押文列を施す	褐色	直径1mm以下の砂 を少量に、石英粒 を含む	底辺のみ 残存	焼成普通
73-12	126	S158 P4	中期中葉 勝取1b式	6 b期	深鉢	隆帯による連続三角形区画→隆帯部を 区画内に三角押文・三角文を施す	暗褐色→ 褐色	直径1mm以下の石 灰・白色粒を少量 含む	底辺のみ 残存	焼成良好
73-13	126	S K170 底直	中期中葉 勝取1b式	6 b期	深鉢	やや粗粒の隆帯を「J」字や「く」字状 に貼り付け→隆帯部を角押文で押さ える	明褐色	直径1～5mmの砂 を多量に含む	胴部下半 1/5残存	焼成普通 器面荒れ
74-1	126	S1138 床直	中期中葉 勝取1b式	6 b期	深鉢	隆帯により口縁部に半円形区画・三角形 区画→胴部には隆帯により連続三角形区 画→胴部をペン先状工具による二角押 文で押さえる→口縁部区画内に竹管の斜突 による円孔と鋭い切り取り状の沈線による 玉座三叉文状のセナーフ→胴部には棒 状工具による斜位の沈線列	暗褐色	直径1mm以下の白 色粒・雲母を多量 に含む	口縁部→ 胴部上半 1/4残存	焼成良好
74-2	126	S1138 伏罨	中期中葉 勝取1b式	6 b期	深鉢	底辺部に隆帯による両向きセナーフ→隆帯によ り口縁部と胴部を区画→隆帯により口縁 部区画に半円形および三角形区画を形 成、三角形区画右側に鋭いもち状の突起、 胴部上半に連続三角形区画を形成→胴部 下半には隆帯を筆→隆帯部をペン先状 工具による三角押文で押さえる→区画内 にペン先状工具による三角押文	褐色	直径1mmほどの砂 を多量に、雲母・ 石英粒を少量含 む	口縁部→ 胴部上半 1/2残存	焼成普通
74-3	127	S139	中期中葉 勝取1b式	6 b期	深鉢	口縁上に竹管の押圧による斜突→断面三 角形の隆帯を横位の角押文に貼り付け、 斜位の隆帯により連続三角形区画→口縁部区画内 に半円形区画と円形の角押文	暗褐色	直径1mmほどの 砂・石英粒・白色 粒を多量に含む	口縁部→ 底辺部4/5 残存	焼成良好

第9表 中期の土器

図面	図版	出土位置	時期	新地平	器形	文様の施文行程ほか	色調	胎土	部位 遺存率	備考
74-4	127	S 127	中期中葉 勝飯2 a 式	6 b ~ 7 a 期	深鉢 4単位 の小波 状口縁	胴帯により口縁部に連続三角形状区画、 口縁下部の三角形状区画の右側胴帯は背 が広く、棒状工具による波列列を施文。 胴帯に連続三角形状区画→胴帯の一部 にへうによる縞み→胴帯幅を幅広角押文 で押さえる→ペン先状工具による二 角押文を施文	褐色	直径1mm以下の砂を 多量に、白色粒、石 英粒を微量含む。	口縁部→ 胴部上中 2/3 残存	焼成良好
74-5	127	S 129 9 鉢	中期中葉 勝飯2 a 式	6 b ~ 7 a 期	深鉢 口縁部 は張り 出しつ つ内湾	口縁の幅面部に背の高い頂部の平帯な 胴帯を張り付け→胴帯上に位置の波列 列を交互に施文。二文を繋ぎ→胴帯は 横位の胴帯で反面、胴帯は背の高い胴帯 を直下→胴帯幅を幅広角押文で押さえる →ペン先状工具による二角押文を施 文	明褐色	直径1mm~3mmの砂 を多く含む。	口縁部→ 胴部上中 2/5 残存	焼成普通
74-6	127	S K 170	中期中葉 勝飯2 a 式	6 b ~ 7 a 期	深鉢?	口唇部に胴帯により捻りもも様のモチ ーフの突起→突起部を半載竹管の平行 沈堀で造形→半載竹管の斜交を横位 に施文→斜交下下に半載竹管の押し引 きによる連続角押文を持つ短い半載 器を下→胴帯に半載角押文を斜位に 施文	明褐色	直径1mmほどの砂を 多量に含む。	口縁部→ 胴部上中 1/10 残存	焼成普通 内・外 面欠れ
74-7	127	S 130 1 鉢直球心	中期中葉 勝飯2 a 式	6 b ~ 7 a 期	深鉢 口縁が 張り出 す	胴帯により口縁部および胴部上中を区 画、胴部区画はさらに連続三角形状に区 画→胴帯幅をペン先状工具による二角 押文で押さえる→区画内に三角押文を 並列状下に施文→胴部および胴部下 中に半載角押文を斜位に施文	明褐色	直径1mm以下の白色 粒を多量に、雲母を 微量含む。	口縁部→ 胴部上中 1/2 残存	焼成良好
74-8	128	S 139	中期中葉 勝飯2 a 式	6 b ~ 7 a 期	深鉢	ミニズ状肥子や縞帯文により波状 口縁を形成→横位の胴帯で口縁部と胴 部を区画→区画内に横位の胴帯により 連続三角形状区画→胴帯幅を幅広角押文 で押さえる→区画内にペン先状工具によ る二角押文と切り取り状の二文文→胴 部に横位の細く深い沈堀列	明褐色	直径1mmほどの砂、 白色粒を多量、雲母 を微量含む。	口縁部→ 胴部上中 1/5 残存	焼成普通 表面光 沢無い
74-9	128	S 1167	中期中葉 勝飯1 b 式	6 b 期	深鉢 胴部が ややふ くらむ	胴部と胴帯を半載竹管の半載器で横 位の胴帯を張り付け→胴帯により連続 下に半載竹管による縦位の波列列→口 縁部区画下部には半載竹管による平行沈 堀を格子目状に施文→胴帯は半載器 で行うによる斜交→胴帯は半載竹管 により縦位のミニズ状区画→ミニズ区画 の半載器に竹管による朝交	褐色	直径1~3mmの砂を 多量に、石英粒、雲 母を含む。	口縁部→ 胴部上中 1/3 残存	焼成普通 表面光 沢無い
75-1 -1-2	128	S 172	中期中葉 勝飯2 a 式	7 b 期	深鉢	胴帯により区画→胴帯幅を幅広角押文 で押さえる→区画内にペン先状工具によ る二角押文や棒状工具による波状沈 堀を施文	明褐色	直径1~3mmの石英 粒を多量に含む	口縁部→ 胴部の一 部残存	焼成良好
75-2	128	S 172	中期中葉 勝飯2 a 式	7 b 期	深鉢	口唇部に胴帯による突起→胴帯により 口縁部を区画→口縁部に半円形・三角 形状区画→胴帯幅を幅広角押文で押さ える→棒状工具による波状沈堀を施文	明褐色	直径1~3mmの石英 粒を多量に含む	口縁部→ 胴部残存	焼成良好
75-3	128	S 135 9 鉢	中期中葉 勝飯2 a 式	7 b 期	深鉢 縦向き に各反	口縁部に施文、胴部に「日」字状に断面 半型の胴帯を張り付け→胴帯により連 続三角形状区画→胴帯幅を幅広角押文 で押さえる→胴部区画内にペン先状工 具による三角押文を横位に施文	赤褐色	直径1~2mmの砂を 多量に、白色粒、雲 母を微量含む。	口縁部→ 胴部上 2/3 残存	焼成良好
75-4	128	S 145 P 1	中期中葉 勝飯2 式	8 期	深鉢	断面がミニズ状の胴帯で横円形区画、 胴帯の一部にへうにより斜交→胴帯 を半載器で押さえる→区画内にペン先 状工具による三角押文	褐色	直径1mmほどの砂を 多量に、白色粒、雲 母を微量含む。	胴部のみ 残存	焼成良好
75-5	128	S 130 9 鉢上	中期中葉 勝飯2 式	7 b ~ 8 期	深鉢 1単位 口縁は はやふ くらむ、 口唇のみ 内湾する。	口唇に胴帯による小波状の突起→胴帯を 斜位に張り付けて胴帯を筒帯状に 丸める→胴帯幅を幅広角押文を施文	赤褐色	石英粒・白色粒を微 量、直径1mmほど の砂を含む。	口縁部→ 胴部 4/5 残存	焼成良好
75-6	128	S 136 9 鉢上	中期中葉 勝飯2 a 式	7 b 期	深鉢	胴帯で横位の横円形区画→胴帯幅を幅 広角押文で押さえる、胴帯上の一部に同 一の工具による縞み→区画内に棒状工 具による波状沈堀	黄褐色	直径1mm以下の砂を 多量に含む。	胴部下中 →底部残 存	焼成良好
75-7	128	S 132	中期中葉 勝飯2 a 式	7 b ~ 8 a 期	深鉢 4単位 口縁部 はやふ くらむ、 内湾す る、胴 部は はやふ くらむ	縦い胴帯で口縁部を横位に区画→口縁 部に胴帯を方形・三角形・扇帯状に張 り付け→区画→胴帯は横位の胴帯で区 画→胴帯を縦位・斜位に直下させ、背 中に円形・筒帯状モチーフを形成→胴帯 上にへうによる縞み→胴帯幅を幅広角 押文で押さえる→棒状工具による波 状沈堀→胴部に幅広の浅い沈堀を斜位 に施文	褐色→明 褐色	直径1mmの砂を多 量に、白色粒を少量 含む。	口縁部→ 胴部 4/5 残存	焼成良好
75-8	129	S 123 9 鉢	中期中葉 勝飯2 b 式	8 a 期	深鉢	胴部に4単位の内形の肥子→肥子手間 を施文→胴帯上に半載竹管による 連続角押文→胴帯は横位の胴帯で区 画→区画内に竹管による朝交、交互朝交 →幅広角押文と半載竹管の朝交文を光 柄	明褐色	直径2~3mmの砂を 含む。	口縁部→ 胴部上中 1/2 残存	焼成良好 内面欠れ

第10表 中期の土器

図面	図版	出土位置	時期	新地層	器形	文様の描文行程ほか	色調	胎土	部位 遺存度	備考
75-9	129	S 132	中期中葉 勝取2 b式	8 a期	深鉢 口縁部 出歯 大	隆帯を横位・斜位に貼り付けて平行四辺形に区画。区画内を隆帯が幅寄せモチーフの隆帯で分節。隆帯の交点は高めに盛り上げる。隆帯上へは別み一隆帯輪を2本の単沈線で押さえる。一区内にへう状1島による幅広角押文と半横竹管の突列	明褐色	直径1〜3mmの砂を含む。	胴部下半 1/3 残存	焼成良好
75-10	128	S 127	中期中葉 勝取2 b式	8 a期	深鉢 底部分 やソノ パン 玉状に 乗り出 す	隆帯により頸部を区画。胴部は大形の二角形区画。一部に幅寄せモチーフによる区内の半分を縦位の単沈線列。半分は幅広角押文と半横竹管による突列。一隆帯輪を単沈線で押さえる。	褐色	直径3〜4mmの砂を多数。1〜2mmの砂を含む。	胴部下半 2/3 残存	焼成良好 内面丸れ
75-11	129	S 127	中期中葉 勝取2 b式	8 a期	深鉢	隆帯により幅広三角形区画・楕円形区画→楕円形区画の隆帯の一部に高み状に単沈線列→三角形区画の半分と楕円形区画内に縦位の単沈線列一隆帯輪を単沈線で押さえる。	黄褐色	直径1mmほどの砂を多数に。白色粒・石灰粒を含む。	胴部下半 1/2 残存	焼成良好 内面やや 丸れ
75-12	129	S U 4	中期中葉 勝取2 b式	8 a期	深鉢	口縁部は短文。若い衝刺カマゴコ形の隆帯で多数の楕円形区画→最上段の区画には一部に円形モチーフ→隆帯輪を単沈線で押さえる。楕円状工具による縦位の沈線列→口縁区画と底部分の隆帯上へ高み	明褐色	直径1mm以下の砂・白色粒を少量含む。	口縁部→ 底部分 3/5 残存	焼成良好 →底部分 削断
76-1	130	S 127	中期中葉 勝取2 b式	8 a期	深鉢 円形 胴部	隆帯を縦位に通下させ4単位に区画。隆帯上にはへう状による別み一楕円状工具による単沈線で押さえる。区画内→パネム区画内に縦位・斜位の沈線列や幅広角押文と三角竹管文を交互に施文	明赤褐色	直径3〜5mmの砂を少量。直径1mm以下の砂・白色粒を含む。	胴部下半 1/2 残存	焼成良好
76-2	130	S 132	中期中葉 勝取2 b式	8 b期	深鉢 胴部が よくら む輪形	口縁上および胴部2分の数のカマゴコ形の隆帯で区画→口縁上1単位の交互衝刺や別みを施す立体的な細手一隆帯上へ半横竹管による連続爪形文→口縁区画内に隆帯による円形および楕円形区画→中期モチーフの隆帯は骨を沈線で2分割し交互衝刺を施す。二角形区画では半横竹管による連続爪形文一隆帯輪を沈線で押さえる。一区内に縦位の沈線列。底部分の一部に交互突列→胴部には単横線文を縦位に施文	褐色	直径1mmの砂を多数に含む。	口縁部→ 底部分 ほぼ 完全	焼成良好
76-3	130	S 137 覆土	中期中葉 勝取2 b式	8 b期	深鉢	口縁に横位の細手。口縁を肥厚→口縁部に並行した沈線を連続させてY字状の区画→一隆帯に高みによる尖形の連続二角形区画→区内に半横竹管による連続爪形文と三角押文による二文文→口縁部下半と胴部に交互しを縦位に施文	明褐色	直径2mm以下の砂を少量。1mm以下の白色粒を多数。骨を含む。	口縁部→ 胴部 3/5 残存	焼成良好
76-4	130	S 134 床土ほか	中期中葉 勝取3 a式	9 a期	深鉢	口縁部は短文。1単位の大形肥厚。胴部に2文字形肥厚一細手の隆帯に細かに横位の別みや二文文→胴部に口縁部を単横線文を縦位に施文	明褐色	直径1〜2mmの石灰粒・骨殻を多数に。白色粒を含む。	口縁部→ 胴部 1/4 残存	焼成良好
76-5	130	S 187 覆土	中期中葉 勝取3 a式	9 a期	深鉢	口縁を肥厚→口縁部に断面カマゴコ形の隆帯により楕円形区画とこまごま状の細手→波状部から肥厚に連続した隆帯→一隆帯輪を単沈線で押さえる。一区内の隆帯上に連続爪形文→胴部には口縁部を単横線文を縦位に施文	明褐色	直径1mmほどの白色粒・骨殻を多数に。石灰粒を含む。	口縁部→ 胴部 1/6 残存	焼成良好 内面やや 丸れ
76-6	130	S K 491	中期中葉 勝取3 a式	9 a期	深鉢 胴部が よくら む輪形	口縁部に細手のモチーフを隆帯により突出→口縁部は幅寄せの細文帯で肥厚→高みで区画の楕円形区画。細帯を単沈線で押さえる。一区内の隆帯内には半横竹管による連続爪形文→区画内に縦位の沈線列や交互衝刺のモチーフ	赤褐色	直径2〜3mmの砂を多数に。白色粒を含む。	口縁部→ 胴部上半 3/5 残存	焼成良好
77-1	131	S 127 床直	中期中葉 勝取3 a式	9 a期	深鉢 1単位 の短手	口縁上に幅広角押文を施す立体的な細手→口縁部は短文。一部に幅寄せの隆帯で多数の楕円形区画。細帯は高みに盛りもち状のモチーフ。隆帯上へはへう状による別み一隆帯輪を2本の単沈線で押さえる。一区内に縦位の単沈線列	褐色	石灰粒を微量。骨殻・炭屑1〜3mmの砂を含む。	口縁部→ 胴部ほぼ 完全	焼成良好 内面丸れ
77-2	131	S 134 覆土上層	中期中葉 勝取3 a式	9 a期	深鉢	口縁部に隆帯を貼り付けて肥厚→一部に幅寄せモチーフ。胴部を2段の隆帯上へはへう状による別み→胴部に隆帯による楕円形区画。隆帯上へはへう状による別み一隆帯輪を単沈線で押さえる。一区内に縦位の沈線列	褐色	直径5〜7mmの小石を多数。1〜2mmの砂。1mm以下の白色粒を含む。	口縁部→ 胴部1/10 以下	焼成良好 内面丸れ
77-3	131	S 126 解体	中期中葉 勝取3 a式	9 a期	深鉢	断面カマゴコ形の低い隆帯で楕円形区画→区画右側の隆帯を高くして口縁部の突列による沈線列一隆帯輪を単沈線で押さえる。一区内には口縁4本の単横線文を横帯直下を斜位に、そのほかは縦位に施文	明褐色	炭屑を微量。直径1〜2mmの砂を含む。	胴部中位 1/2 残存	焼成良好

第11表 中期の土器

図面	図版	出土位置	時期	新地平	器形	文様の施文行程ほか	色澤	胎土	部位 遺存度	備考
77-4	131	S 136 覆土	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢	1 単位の山形の把手→口唇部に隆帯を貼り付けて胴部→把手の部分だけ深鉢瓜形文を加す→隆帯より胴部に傾内形区画。隆帯上に横帯に単文並列で写さる→区内に縦位の沈線列→沈線列間に交互刺突を挿入。沈線列内文→胴部に単文並列を縦位に施文	褐色～暗褐色	直径1mmほどの石炭粉を少量、1～3mmの砂を含む。	口縁部→胴部1/2 残存	焼成良好 傾内形状が内外面あり
77-5	132	S 136 覆土	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢 口縁部は張り出しつづき、胴部は内製または内製	口縁部は無文で、口唇を膨ませ、直下に単文並列を施す→胴部に隆帯で傾内形区画。隆帯上に横帯に単文並列で写さる→区内に横位の沈線列→沈線列間に交互刺突を挿入。沈線列内文→胴部に単文並列を縦位に施文	褐色	直径1mm以下の砂・白色粉を少量に、直径を少量の石炭粉を微量含む。	口縁部→胴部3/4 残存	焼成普通 内面寛れ
77-6	132	A 3 グリ ツド	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢	口唇を膨ら→胴部に隆帯による傾内形区画。隆帯上へへうによる斜位の帯み→隆帯の一部を単沈線で押さえる。区内面に横帯に横帯に横帯の虎斑列→口縁部→胴部に横帯を縦位に施文	赤褐色	直径1mmほどの石炭粉、直径を少量含む。	口縁部→胴部1/5 残存	焼成良好
78-1	132	S 118	中期中葉 勝坂3 b 式	9 b 期	深鉢	胴部に断面台形の隆帯を貼り付け→隆帯上へへうによる帯み→口縁部→胴部に透かしを縦位に施文	明褐色	直径1mm以下の石炭粉を微量、砂・白色粉を含む。	口縁部→胴部1/6 残存	焼成良好
78-2	132	S 126 9 体	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢 内凹形	口縁部に隆帯の無文で隆帯より2段の傾内形区画。区内右側の隆帯は高くなる。隆帯上へへうによる帯み→隆帯を少量の沈線で押さえる→区内に横位の沈線列。一部に交互刺突を施す→胴部に透かしを縦位に施文	明褐色	直径1～2mmの砂を少量含む。	口縁部→胴部上半2/5 残存	焼成普通
78-3	132	S 136	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢 柄形	青の低い隆帯を口唇直下に横帯に貼り付け→隆帯を単沈線で押さえる→隆帯の青を沈線で透かし→胴部に横帯。下部に傾内角押文を施文→胴部には単節織文を斜位に施文	赤褐色	直径1mmほどの砂を少量、3mmほどの砂をごく微量含む。	口縁部→底面3/4 残存	焼成普通
78-4	132	S K273 覆土	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢	胴部下部に断面台形の隆帯を横帯とさせる→隆帯上へへう工具による刻。	明褐色	直径1mm以下の白色粉をごく微量含む。	底面のみ 残存	焼成良好 内面灰黒色
78-5	133	S 152 9 体	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	口縁部 隆帯は張り出しつづき、内凹形	断面台形の低い隆帯により口縁部と胴部を区画→隆帯により口縁部に傾内形区画など。胴部には斜位の隆帯を中心に三角形状の刺突を挿入→7 a 体並列。口縁部の傾内形区画の隆帯の一部が高くなる。→隆帯上へへう工具による刻み→隆帯を太く深い沈線で押さえる→区内面に横帯工具による縦位の沈線列や傾内角押文と三文文を組み合わせる	明褐色	直径3～5mmの砂を少量に、石炭粉、骨粉を微量、白色粉を含む。	口縁部→胴部半1/3 残存	焼成良好 内面寛れ
78-6	133	S 136	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢 底部が丸くすぼまる内凹形	口唇直下に3条の横位の断面台形の隆帯を貼り付け、隆帯上に傾内角押文と交互刺突を施す→胴部には傾位の隆帯で区画→胴部上部に断面台形の隆帯により傾内形区画。隆帯上に帯み→区内に沈線列や傾内角押文を施す→胴部下半には0段多量の単節織文を斜位に施す	明褐色	直径1mm以下の砂を少量に、白色粉を含む。	口縁部→底面1/2 残存	焼成良好 2次焼成
78-7	133	S 127	中期中葉 勝坂2 式	8 期	深鉢	口縁部は無文→0段4条の単節織文を斜位に施文→胴部上半に先炊工具の押し込みによる短い波状沈線を施文	褐色～明赤褐色	骨粉を少量、直径1mmの砂を微量含む。	口縁部→底面3/4 残存	焼成良好
78-8	133	S 132	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢 内凹形	口唇に横帯する3条の断面カマボコ形の隆帯を貼り付け→胴部に単節織文を縦位に施文→隆帯上に単文並列による横帯瓜形文と横帯工具の刺突による交互刺突を交互に施文	褐色	直径1mmほどの砂を少量含む。	口縁部→底面ほぼ完全	焼成良好
78-9	133	S 146	中期中葉 勝坂3 式	9 期? 7	深鉢	単節織文を斜位に施文	褐色～明赤褐色	直径1～2mmの砂を少量、白色粉を含む。	口縁部→底面2/3 残存	焼成良好
78-10	133	S 154? 7	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢 内凹形	口唇直下に横帯の無文で→口縁と胴部を2条の沈線列で区画→区内に傾内角押文と交互刺突→区内に2条の沈線列で対向隆帯や縦位の区画→沈線列間に傾内角押文→区内面に沈線列や交互刺突を施す→胴部下半には0段多量の単節織文を斜位に施文	褐色～暗褐色	骨粉を少量、直径1～2mmの砂を含む。	口縁部→底面3/4 残存	焼成普通
78-11	133	S 1302 覆土	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢	口唇直下に横帯の無文で→隆帯により口縁部に傾内形区画。隆帯上へへうによる帯み→隆帯を2条の沈線列で押さえる→区内面に横帯の刺突による交互刺突を挿入→胴部には0段4条の単節織文を斜位に施文	褐色	直径2～3mmの砂、細かい白色粉を含む。	口縁部→底面1/2 残存	焼成良好
78-12	134	A 7 グリ ツド	中期中葉 勝坂3 a 式	9 a 期	深鉢	口唇直下に横帯する単沈線→横帯の隆帯で区画し、隆帯上に透かしカマボコ→透かしをカマボコを基に何れも縦位の隆帯を垂下し、三角形状などを形成→区内面に透かし沈線列を充て→胴部下半には単節織文を斜位に施文	明褐色	直径1～3mmの砂、1mmほどの石炭粉、1mm以下の白色粉を少量に含む。	口縁部→胴部下半1/2 残存	焼成良好

第12表 中期の土器

図面	図版	出土位置	時期	新地平	器形	文様の施文行程ほか	色調	胎土	部位 存在	備考
78-13	134	S 118 床直ほか	中期中盤 勝収3b式	9b期	深鉢 口縁部 深鉢	口縁部は縦文→横帯の低い隆帯で胴部は区画。区内をさらに筋り付けの高い横帯がよくて区画→隆帯に隆帯で巻きまき三角形にらみ付→区画内に縦帯を巻きまき区画内下部の低い横帯あり	緑褐色	白色粒、胎土1～3mm以上の砂を多量に含む。細かい黒目も白色。	口縁部～胴部 4/5 2次焼成	焼成普通 磨光あり
78-14	134	S 118	中期中盤? 勝収3式	9c期	深鉢	胴部以下に縦方向の筋文を2～3回に分けて縦文→横帯に隆帯の筋付隆帯を沈線できざる→口縁部に2本1組の隆帯帯を縦方向に筋付する	灰赤褐色	白色粒、砂粒を含む。黒目を少量含む。	口縁部～胴部 1/3 残存	焼成良好
78-15	134	A 7ダリ マド	中期中盤 勝収3b式	9b期	深鉢	断面がコボコボ形の隆帯と2本の沈線列で区画→隆帯を単沈線できざる→隆帯上に比較的高い隆帯を縦文→横帯で上は隆帯不明の間に2本の隆帯が一部に施される。	暗褐色	直径1mm以下の石灰石を多量に。2～3mmの黒砂を少量含む。	胴部下半 1/5残存	焼成良好
78-16	134	S 126	中期中盤 勝収3b式	9b期	深鉢	口縁部は縦文→胴部に隆帯で横帯区画→胴部に流砂状の筋が施された隆帯や帯が分断される断面が形の悪い隆帯を筋り付→区画内に縦帯を交互斜交や渦巻き文などを太い単沈線を描く。	暗褐色	直径1～4mmの砂を多量に。1～2mmの黒砂を少量含む。	口縁部～胴部上半 1/5残存	焼成良好
78-17	134	S 126	中期中盤 勝収3式	9c期	深鉢	単筋の隆帯を斜交に縦文→隆帯により口縁部を区画→区内に隆帯を巻きまきや縦帯の筋り付け→隆帯帯を単沈線できざる	褐色	直径1mm以下の白色粒を少量。1～3mmの砂を含む。	口縁部～胴部 1/10 以下	焼成良好
78-18	134	S 118 P3	中期中盤 勝収3式	9c期	深鉢 1単位	口唇部に円形モチーフの小突起→胴部帯の縦文を斜交に施文→胴部下に平行縦帯による単筋隆帯を描きまざる	褐色→暗赤褐色	直径1～3mmの砂を少量。直径1mm以下の砂・白色粒を含む。	口縁部～胴部 底面は欠損	焼成良好
78-19	134	S 132	中期中盤 勝収3式	9c期	深鉢	単筋隆帯を区画→口縁部と胴部に横帯の単沈線が区画→口縁部に2本の沈線列で縦帯の沈線列を描き、巻きまき文と斜交モチーフを交互に筋り→胴部には巻きまき文や三角形・変形モチーフを描く	褐色	直径3～5mmの砂を少量。直径1mm以下の砂、白色粒を含む。	口縁部～胴部ほぼ 全周	焼成良好
79-1	136	S 134 加蓋利E1式	中期後盤 加蓋利E1式	10c期	深鉢	(口縁部) 縦帯の筋を施文→隆帯の筋付により口縁部を区画→2本1組の隆帯帯で巻きまき状のモチーフを筋付→隆帯帯を沈線できざる(胴部) 単筋隆帯を区画→縦文を施文→2本1組の隆帯帯を胴部以下に筋り。同様の隆帯帯でモチーフの筋付→隆帯帯を沈線できざる	灰褐色	白色粒、砂粒、黒目を少量含む。	胴部上半 2/3残存	焼成良好
79-2	136	S 134	中期後盤 加蓋利E1式	10期	深鉢	(口唇部) 口唇部に単沈線モチーフの筋出(胴部) 胴部にやや太めの隆帯帯を筋付後に、縦帯の筋を施文	淡黄褐色	チャート・石英を少量含む。	胴部 1/3 残存	焼成良好
79-3	136	S 134 覆土	中期後盤 加蓋利E1式	10b期	深鉢	筋出しを縦交に施文→隆帯帯による垂下モチーフの筋付	淡黄褐色	砂粒を多少多量に含む。黒目・チャートをごく少量含む。	胴部以下 2/3残存	焼成良好
79-4	136	S 140 埋裏P4	中期後盤 加蓋利E1式	10c期	深鉢	(口縁部) 単筋隆帯を施文→隆帯帯の筋付により口縁部を区画→隆帯帯で巻きまき状のモチーフを筋付→隆帯帯を沈線できざる(胴部) 単筋隆帯を施文→胴部と頸部の境に隆帯帯を筋らす→隆帯帯による垂下モチーフの筋付→隆帯帯を沈線できざる	褐色土	黒石などの砂粒、黒目、細かい石英をやや多量に含む。	胴部上半 3/5残存 口縁部、器1部欠損	焼成良好
79-5	136	S 134 砂体	中期後盤 加蓋利E1式	10c期	深鉢	(口縁部) 単筋隆帯を施文→隆帯帯の筋付により口縁部を区画→隆帯帯で巻きまき状のモチーフを筋付→隆帯帯を沈線できざる(胴部) 単筋隆帯を施文→胴部と頸部の境に隆帯帯を筋らす→隆帯帯による垂下モチーフの筋付→隆帯帯を沈線できざる	淡赤褐色	直径2～3mm程度の砂を少量含む。	胴部上半 2/3に ほぼ 全周残存	焼成良好
79-6	136	S 134 覆土	中期後盤 加蓋利E1式	10c期	深鉢	単筋隆帯を施文→胴部と頸部の境に隆帯帯を筋らす→隆帯帯による垂下モチーフの筋付	淡褐色	砂粒、黒目を少量含む。	胴部以下 全周の 1/3残存	焼成良好
79-7-1-2	136	S 134 砂	中期後盤 加蓋利E2式	11期	浅鉢	単筋隆帯を施文→隆帯帯の筋付により口縁部を区画→隆帯帯で巻きまき状のモチーフを筋付→隆帯帯を沈線できざる	淡黄褐色	砂粒を少量含む。黒目。	胴部上半 について 全周の 1/2残存	焼成良好
79-8	136	S 134 覆土	中期後盤 加蓋利E2式	11期	浅鉢	隆帯帯の筋付により口縁部を区画→隆帯帯の単沈線列で区画内を充填→隆帯帯を沈線できざる	淡黄褐色	黒石などの砂粒を多少多量に含む。	文庫帯付 底を中心 2/3残存 1/4残存	焼成良好
79-9	136	S 134 覆土	中期後盤 加蓋利E2式	11b期	深鉢	胴部に波状粘土紐を2本筋らす→半載竹管状工具により、横帯の平行沈線(半載竹管)を連続施文し、胴部上半2/3ほどをつめる。	淡赤褐色	砂粒、石英、黒目を少量含む。	胴部以下 2/3残存	焼成良好
79-10	136	S 134 覆土	中期後盤 加蓋利E2式	11期	深鉢	単筋隆帯を施文→粘土紐を縦交に筋付しを沈線できざる、粘土紐間に波状粘土紐を縦下させる。	淡黄褐色	白色粒、石英を多少多量に含む。黒目を少量含む。	胴部下半 2/3残存 1/2残存 底面欠損	焼成良好
79-11	136	S 134 覆土	中期後盤 加蓋利E2式	11c期 ～ 12a期	深鉢	胴部に隆帯帯の筋付→隆帯帯を沈線できざる→胴部に縦帯の単沈線列を縦交に施文	淡褐色	砂粒を少量含む。やや横帯。	底面のみ 欠損	焼成良好

第13表 中間の土器

図面	図版	出土位置	時期	新地層	器形	文様の重文行程ほか	色澤	胎土	部位 存在度	備考
80-1	137	S 9 グリ ツド	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 隆起帯で渦巻状のモチーフを抽出→単節縄文を充ち→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり、同時に口縁部文様帯の下縁を区画する(胴部) 単節縄文を横文→2本1組の単沈線(幅7mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	直径2～3mm程度の砂と雲母を少量含む。	底部以外の全周の2/3残存	焼成良好
80-2	137	S 8 67	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 隆起帯で渦巻状のモチーフを抽出→単節縄文を充ち→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり、同時に口縁部文様帯の下縁を区画する(胴部) 単節縄文を横文→2本1組の単沈線(幅5mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	直径2～5mm程度の砂をやや多量に含む。	胴部上半1/3残存	焼成良好
80-3	137	S 9 グリ ツド	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b c 期	深鉢	(口縁部) 幅広い沈線で口縁部文様帯の下縁を区画する(胴部) 単節縄文を横文→2本1組の単沈線(幅7mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	直径2～4mm程度の砂を少量含むのみ。	口縁部、底部を欠き、胴部をほぼ1/3残存	焼成良好
80-4	137	S K 422	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 隆起帯で渦巻状のモチーフを抽出→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり、同時に口縁部文様帯の下縁を区画する(胴部) 単節縄文を横文→2本1組の単沈線(幅7mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	長石・石英を少量含む。内面下半は赤色がかかり化粧が施す。	胴部上半1/2が埋没形	焼成良好
80-5	137	S K 561	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 隆起帯で渦巻状のモチーフを抽出→単節縄文を充ち→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり、同時に口縁部文様帯の下縁を区画する(胴部) 単節縄文を横文→2本1組の単沈線(幅5mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	白色粒、砂粒を少量含む。	胴部上半1/2の全周の1/2残存	焼成良好
80-6	138	S 1 173 覆土	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 隆起帯で渦巻状のモチーフを抽出→単節縄文を充ち→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり、同時に口縁部文様帯の下縁を区画する(胴部) 単節縄文を横文→2本1組の単沈線(幅7mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡赤褐色	直径2～3mm程度の砂をやや多量に含む。石英を少量含む。	胴部上半1/3残存	焼成良好
81-1	138	S 1 14 床直	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 隆起帯で渦巻状のモチーフを抽出→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり、同時に口縁部文様帯の下縁を区画する(胴部) 単節縄文を横文→2本1組の単沈線(幅5mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	白色粒を少量含む。	ほぼ完形	焼成良好
81-2	138	S K 561	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 隆起帯で渦巻状のモチーフを抽出→単節縄文を充ち→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり、同時に口縁部文様帯の下縁を区画する(胴部) 単節縄文を横文→2本1組の単沈線(幅7mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	白色粒、砂粒を少量含む。雲母をごく少量含む。	胴部上下約3/5残存	焼成良好
81-3	138	S 1 132 P 8	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 単節縄文を横文→隆起帯で横円状のモチーフを抽出→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり(胴部) 単節縄文を横文→1本1組の単沈線(幅5mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡赤褐色	やや大振りの砂粒を少量含む。	胴部上半を中心に全周の約1/2～1/3が残存	焼成良好
81-4	139	S 1 14	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 隆起帯の貼付とやや幅の広い沈線でなぞり変形した渦巻文を置く→単節縄文を充ち(胴部) 単節縄文を横文→1本1組の単沈線(幅5mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	白色粒、砂粒をごく少量含むのみ。	4.5がほぼ完形	焼成良好
81-5	139	E 2 グリ ツド	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 直前段多葉の単節縄文を横文→隆起帯で内+内円状のモチーフを抽出→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり(胴部) 直前段多葉の単節縄文を横文→1本1組の単沈線(幅4mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	砂粒をやや多量に含む。	胴部上半1/3の全周の1/6残存	焼成良好
81-6	139	S X 13	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 単節縄文を横文→隆起帯で内円状のモチーフを抽出→隆起帯幅を幅広い沈線でなぞり(胴部) 単節縄文を横文→1本1組の単沈線(幅5mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色色	直径2～3mm程度の長石を少量含む。	底部付着を欠き全周の約1/6～1/8が残存	焼成良好
81-7	139	S 1 73	中期後葉 加賀川 E 3 式	12b 期	深鉢	(口縁部) 隆起帯で渦巻状のモチーフを抽出→単節縄文を充ち(胴部) 単節縄文を横文→2本1組の単沈線(幅7mm)による垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡赤褐色	直径1～2mm程度の砂と雲母を少量含むのみ。	底部付着を欠き全周の約1/6～1/8が残存	焼成良好

第14表 中期の土器

図版	図版	出土位置	時期	新地平	器形	文様の描文行程様か	色調	胎土	部位 遺存残	備考
82-1	140	S 1132 埋藏	中期後葉 加曾利E 3式	12b期	深鉢	(口縁部) 隆起帯でかなり変形した渦巻 き状のモチーフを抽出→単節縄文Rを 底面→隆起帯を幅広い沈線でなぞる (胴部) 単節縄文Rを抽出→2本1組の 単沈線:幅7mmによる垂下モチーフおよ び縦子文を抽出→沈線間を磨消	淡黄褐色	長石などの砂粒を やや多量に含む 凝密。	口縁部→ 約の全周 の1/3 を欠く	焼成良好
82-2	141	S 194 伊・床直	中期後葉 加曾利E 3式	12b期	深鉢	(口縁部) 隆起帯でかなり変形した渦巻 き状のモチーフを抽出→単節縄文Rを 底面→隆起帯を幅広い沈線でなぞる (胴部) 単節縄文Rを抽出→単沈線:幅 10mmによる垂下モチーフを抽出→沈 線間を磨消	淡黄褐色	直径2~4mm程の 長石や砂をやや 多量に含む凝密。	底部付足 の約 1/2~1/3 が残り	焼成良好
82-3	142	S 194 床直	中期後葉 加曾利E 3式	12b期	深鉢	(口縁部) 隆起帯でかなり変形した渦巻 き状のモチーフを抽出→単節縄文Rを 底面→隆起帯を幅広い沈線でなぞる (胴部) 単節縄文Rを抽出→単沈線:幅 10mmによる垂下モチーフを抽出→沈 線間を磨消	淡黄褐色	白色粒、砂粒を少 量含む。	胴部上半 1/2がほ ぼ完全	焼成良好
82-4	142	S 194 床直	中期後葉 加曾利E 3式	12b期	深鉢	(口縁部) 単節縄文Rを底面→隆起帯 →再→横状のモチーフを抽出→隆起帯 幅を沈線でなぞる(胴部) 距離のある 2本1組の太い単沈線:幅10mmによる垂 下モチーフを抽出→単節縄文Rを沈線 で再々なぞる	淡褐色	黒色土質を多く 含む。長石等の砂 粒を少量含む。	胴部上半 1/4の全 周の1/4 残存	焼成良好
82-5	142	S 1101	中期後葉 加曾利E 3式	12b期	深鉢	(口縁部) 隆起帯で平字状のモチーフを 抽出→単節縄文Rを底面→隆起帯幅を 幅広い沈線でなぞり、同時に胴内側に 区画する(胴部) 単節縄文Rを底面→ 距離のある2本1組の単沈線:幅8mmに よる垂下モチーフを抽出→沈線間を磨消	淡褐色	直径2~3mm程の 砂粒をやや多量に 含む。	胴部上半 1/4の全 周の1/3 残存	焼成良好
82-6	142	S U 9	中期後葉 加曾利E 3式	12b期	深鉢	(口縁部) 隆起帯でかなり変形した渦巻 き状のモチーフを抽出→単節縄文Rを 底面→隆起帯を幅広い沈線でなぞり、 同時に隆起帯下部の下部を区画する(胴 部) 単沈線:幅8mmより、口縁部 幅から距離し、底面、部位のY字状の モチーフを抽出→単節縄文Rを底面	淡黄褐色	長石などの砂粒を やや多量に含 む。	胴部上半 約3/5 残存	焼成良好
80-1	143	S 148	中期後葉 加曾利E 3式	12b期 ~ 12c期	深鉢	単節縄文Rを底面→2本1組の単沈線: 幅7mmにより底面に波状文を口縁部に 横子→波状文の頂点から上下に波状沈 線を垂下させる→沈線間を磨消	淡赤褐色	直径1~5mm程の 砂粒をやや多量に 含む。	胴部上半 1/3がほ ぼ完全	焼成良好
80-2	143	S 1111	中期後葉 加曾利E 4式	13a期	深鉢	口縁上部に単沈線を1条添う→単沈 線:幅5mmにより、逆U字状に区画→逆 U字の内側に日本1組の脚状工具によ る波状沈線を充填(内面に前後残)	淡赤褐色	直径2~5mm程の 砂粒を多量に、垂 母を少量含む。	胴部上半 1/2の全 周の1/4 残存	焼成良好
80-3	143	S 163 PG6ほか	中期後葉 加曾利E 4式	13a期	深鉢	単節縄文Rを底面→単沈線:幅5mmに よる逆U字状の沈線を垂下させ、その 間に逆U字状の沈線を垂下させる→沈 線間を磨消→口縁部に横状工具により 波列の斜交列を充填	淡黄褐色	砂粒、雲母を少量 含む。2~3mmの 砂粒をごく少量含 む。	胴部上半 4/5の全 周の1/2 残存	焼成良好
83-4	143	G 2グリ ッフ	中期後葉 加曾利E 3式	12b期 ~ 12c期	深鉢	単節縄文Rを底面→口縁上部付足に沈 線を一本添う→単沈線により波状文 を口縁部に添う→波状文の上端から逆 U字状の2本1組の沈線を垂下させ、下 端から横状の沈線を垂下させる→沈 線間を磨消	淡黄褐色	直径1~3mmの砂 粒を多く含む。	口縁部→ 胴部1/4 残存	焼成良好
83-5	143	S 114	中期後葉 加曾利E 4式	13a期	深鉢	口縁上部に単沈線を1条添う→単節 の沈線:幅5mmにより逆U字状に区画し 、その間に横状の沈線を垂下させる→ 単節縄文Rを底面	暗赤褐色	直径2~5mmの砂 粒をやや多量に 含む。	胴部上半 約の全 周の1/3 残存	焼成良好
83-6	143	S 136 覆土	中期後葉 加曾利E 3式	12b期 ~ 12c期	深鉢	単節縄文Rを底面→単沈線:幅4mmに よる逆U字状の沈線を垂下させる→沈 線間を磨消	暗赤褐色	砂粒を少量、雲母 を多く含む。	胴部上半 2/3の全 周の1/2 残存	焼成良好
83-7	144	S K119	中期後葉 加曾利E 3式	12c期	深鉢	0 多量の単節縄文Rを底面に置きなが ら底面→逆U字状の単沈線:幅5mmを垂 下させ、モチーフ間に横状の沈線を垂 下させる	淡黄褐色	砂粒を少量含む。 有線維か?	胴部上半 約の全 周の1/2 を欠く	焼成良好
83-8	144	S 148	中期後葉 加曾利E 4式	13a期	深鉢	口縁上部に単沈線を1条添う→単節 の沈線:幅8mmにより、Y字状に区画し、 縦子文を抽出→単節縄文Rを底面	淡黄褐色	直径2~3mm程の 砂粒を少量含む。	胴部上半 1/2の全 周の1/6 残存	焼成良好
83-9	144	S K144	中期後葉 加曾利E 3式	12b期 ~ 12c期	深鉢	単節 Rの縄文を底面→2本1組の単沈 線:幅5mmより逆U字状を抽出し、 モチーフを抽出	暗褐色	直径1~5mm以下 の砂・白色粒を多 量に含む	口縁部→ 1/10以下 残存	焼成良好
83-10	144	S 1125 覆土	中期後葉 加曾利E 3式	12c期	深鉢	単節縄文Rを底面→2本1組の単沈線: 幅8mmにより波状文と逆U字状モチ ーフの組合わさったモチーフ抽出→沈 線間を磨消	淡黄褐色	砂粒、雲母を少量 含む。	胴部上半 1/3の全 周の1/5 残存	焼成良好
83-11	145	S 194 床直	中期後葉 加曾利E 3式	12c期	深鉢	→横状工具により口縁部に2本の脚状 文を添う→単節縄文Rを底面→単沈 線:幅8mmにより方形に区画→沈線間 を磨消	淡褐色	直径2~5mmの砂 粒をやや多量に含 み凝密。	胴部上半 1/2の全 周の1/5 残存	焼成良好

第15表 中期の土器

図面	図版	出土位置	時期	質地	器形	文様の施文行様はか	色面	胎土	部位 遺存度	備考
83-12	145	S 1132 P 8	中期後葉 加賀利 E 4 式	12c 間	深鉢	口縁部に単沈線を3条並べし、沈線間を 横突列でうめる→単沈線幅10mmにより 下方に区画→線状の斜行沈線を充填	淡褐色	直径2～3mmの砂粒を やや多量に含む。	胴部上下 1/2の全周の 1/4 残存	焼成良好
84-1	146	S U 1	中期後葉 加賀利 E 3 式	12c 間	深鉢	幅字でなだらかな隆起帯で側垂状の隆起帯 を露出→単節線文を充填	淡褐色	砂粒・雲母を少量含む。	胴部上下 を中心に 1/3 欠損	焼成良好
84-2	147	S U 5	中期後葉 加賀利 E 3 式	12c 間	深鉢	断面形状が幅広い三角形の微隆起帯より、半円 状の垂下モチーフを露出→単節線文を 充填→隆起帯幅指図による文字を 施すとともに、口縁部に隆起帯帯幅の 半隆起帯を形成。	淡赤褐色	直径1～3mm位の 長石などの砂粒を やや多量に含む、 やや不均。	胴部上下 1/2、口縁部 遺存のみ全周 の1/3 欠損	焼成良好
85-1	148	S U 8	中期後葉 加賀利 E 3 式	12c 間	深鉢	断面形状の丸い隆起帯で側垂状モチーフ と垂下モチーフの融合したモチーフ を露出→単節線文を充填→隆起帯幅 指図による文字	淡褐色	直径2～3mm位の 長石などの砂粒を やや多量に含む、 不均。	口縁部付着 のみ全周の 1/3 欠損	焼成良好
85-2	147	S X 13	中期後葉 加賀利 E 3 式	12c 間	深鉢	(口縁部)丸みのある隆起帯により、半円 状に区画→側節線文と区画→隆起帯幅 を充填でなせる(胴部)側節線文と区画 →2本1組の単沈線、幅4mmにより、 区画及び隆起帯を区画→側節線の隆起帯 幅指図による文字を垂下して露出列で充填 →沈線間を磨消	淡褐色	細かな砂粒を少量 含む。	胴部上下 3/5の全周の 2/3 残存	焼成良好
85-3	147	S 1101	中期後葉 加賀利 E 3 ～ E 4 式	12c 間 ～ 13a 期	深鉢	(口縁部)単沈線により、円文、垂下文字を 露出→単節線文を充填(胴部)2本1組の 単沈線により、区画→胴部の沈線間丸棒 状工具を垂下に当てた露出列で充填	淡褐色	細かなものを中心に、 まれに5mm位の 砂粒を少量含む	胴部上下 1/2の全周の 1/2 残存	焼成良好
85-4	147	S 1180 覆土	中期後葉 加賀利 E 4 式	13a 期	深鉢	単節線文を胴部上下、下子に分けて露出 →単沈線幅6mmに幅の狭い逆U字状 の沈線で区画し、区画間に垂下文字を露出 →沈線間を磨消	淡赤褐色	直径1mm以下の砂 を多量に、8mm 以下の小粒をごく 微量、白色粒・石 灰粒を含む。	胴部上下 1/4、1/3 残存	焼成良好
85-5	148	S 1180	中期後葉 加賀利 E 4 式	13a 期	深鉢	単節線文を胴部上下、下子に分けて露出 →単沈線幅6mmに幅の狭い逆U字状 の沈線で区画し、区画間に垂下文字の 区画と下子の間に隆起帯を露出→沈線 間を磨消	淡赤褐色	直径1～3mmの砂 をごく微量、1mm 以下の砂・白色粒 を含む。	胴部上下 1/4 残存	焼成良好
85-6	148	S X 13	中期後葉 加賀利 E 4 式	13期	古付 深鉢	単沈線幅8mmにより、方形区画、逆U 字状を露出→単節線文を充填	淡褐色	直径1mmほどの砂 を少量、1mm以下 の白色粒を含む。	胴部のみ 欠損	焼成良好
85-7	149	S 124 8 棒	中期後葉 加賀利 E 4 式	13期	古付 深鉢	断面形状が幅広い三角形の微隆起帯より、 幅字でなだらかな隆起帯で側垂状の隆起帯 を露出→単節線文を充填→沈線 の引き直し	淡褐色	直径2～3mmの砂を 少量含む。	胴部下半 3/4 ほぼ 完全	焼成良好
85-8	149	S U 6	中期後葉 加賀利 E 3 式	12期	深鉢	2本1組の単沈線幅4mmにより、逆U 字状に区画→区画内に単節線文を充填	淡褐色	砂粒、雲母を少量 含む。	胴部上下 3/4 がほぼ 完全	焼成良好
85-9	149	S X 13	中期後葉 加賀利 E 3 式	12期	深鉢	単節線文を施文→単沈線幅5mmにより 幅の狭い逆U字状の沈線(ほぼ2本1 組の沈線)を垂下させる→沈線間を磨消	淡褐色	白色粒、砂粒を全 周に少量含む。	胴部下半 3/4 残存	焼成良好
85-10	150	S 1177 床直はか	中期後葉 加賀利 E 3 式	12期	深鉢	単節線文を施文→2本1組の単沈線幅 6mmによる垂下モチーフを露出→沈線 間を磨消	淡褐色	直径1mm以下の砂 粒を多量に、1 ～3mmの砂・石灰 粒を少量含む。	胴部下半 1/3 残存	焼成良好
85-11	150	S U 7	中期後葉 加賀利 E 3 式	12期	深鉢	単節線文を施文→2本1組を露出、単 沈線幅6mmによる垂下モチーフを露出 →沈線間を磨消	淡赤褐色	直径1～2mmの砂 を多量に、1mm 以下の白色粒、雲母 を含む。	胴部下半 1/4 残存	焼成良好
85-12	150	S 1190	中期後葉 加賀利 E 3 式	12期	深鉢	単節線文を施文→2本1組の単沈線幅 6mmによる垂下モチーフを露出→沈 線間を磨消	淡褐色	砂・白色粒を少量 含む。	胴部下半 1/6の全周 の1/4 残存	焼成良好
85-13	150	S 114	中期後葉 加賀利 E 3 式	12期	深鉢	単節線文を施文→2本1組及び突状の 単沈線幅2mmによる垂下モチーフを露 出→沈線間を磨消	淡褐色	砂をごく少量含 む。	胴部下半 1/4の全周 の1/2 残存	焼成良好
85-14	150	S K 119	中期後葉 加賀利 E 3 式	12期	深鉢	側節線文を施文→2本1組の単沈線幅 6mmによる垂下モチーフを露出→沈 線間を磨消	淡褐色	砂・白色粒を少量 含む。	胴部下半 1/4の全周 の1/3 残存	焼成良好
85-15	150	S K 227 覆土	中期後葉 加賀利 E 3 式	12期	深鉢	断面形状の丸い隆起帯で側垂状の区画 を構成→単節線文を充填→隆起帯幅 指図による文字	淡赤褐色	砂・白色粒を少量 含む。	胴部下半 1/3の全周 の1/2 残存	焼成良好
85-16	150	S 173	中期後葉 加賀利 E 3 ～ E 4 式	12期 ～ 13期	深鉢	単節線文を施文→胴部に隆起帯の区画 を構成して単沈線を垂下させる→沈線間 を磨消	淡赤褐色	砂・白色粒をやや 多量に含む。	胴部下半 1/3の全周 の1/3 残存	焼成良好
86-1	151	C 2 ヶ フ	中期後葉 加賀利 E 3 式	12期	深鉢	(口縁部)丸みのある隆起帯により、垂下 文字に区画(胴部)側節線文を施文→単 沈線幅6mmにより、垂下モチーフを露 出→沈線間を磨消	淡褐色	直径1～2mmの砂 を少量含む。	ほぼ完全	焼成良好

第16表 中期の土器

図番	図版	出土位置	時期	新地平	器形	文様の施文行種はか	色調	胎土	部位	備考
86-2	151	S 119	中期後葉 加曾利E 3~ E 4式	12期~ 13期	深鉢	(口縁部)丸みのある微隆起帯により、底縁に区画(斜線)の短い単文線;幅2mmにより裏V字状の沈線を垂下させる→単節縄文Lを充填	褐色色	砂・白色粒を少量含む。	胴部上半 1/5の全周の1/3 残存	焼成良好
86-3	151	S X11	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	単文線;幅3mmにより上段斜状文、下段逆Z字状に区画→単節縄文Lを充填	淡黄褐色	砂を少量、雲母をごく微量含む。	底面のみ欠損	焼成良好
86-4	151	S 1136 P4ほか	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	(口縁部)断面形状が幅広三角形の微隆起帯により、底縁に区画(斜線)の短い単文線;幅2mmにより上段斜状文、下段逆Z字状に区画→単節縄文Lを充填	灰褐色色	砂を少量含む。	胴部上半 1/2の全周の1/4 残存	焼成良好
86-5	151	S 163 P3	中期後葉 加曾利E 4式	13b期	深鉢	口縁部に断面形状が幅広三角形の微隆起帯を1条施らす→底縁に幅2mmによりハの字状のモチーフを描出→単節縄文Lを充填	淡褐色色	底縁2mmの砂をやや多量に、雲母・石膏を少量含む。	胴部上半 1/3の全周の1/3 残存	焼成良好
86-6	152	S 119	中期後葉 加曾利E 4式	13b期	深鉢	断面形状が幅広三角形の微隆起帯を1条施らす→底縁に幅2mmにより平直状のモチーフを描出→単節縄文Lを充填	淡褐色色	砂・白色粒をやや多量に含む。	胴部ののみ欠損	焼成良好
86-7	152	S 163 埋蔵3	中期後葉 加曾利E 4式	13b期	深鉢	口縁部に断面形状の丸い微隆起帯を1条施らす→単節縄文Lを充填	淡褐色色	砂・白色粒・雲母を少量含む。	胴部上半 1/2の全周の3/4 残存	焼成良好
86-8	152	S K462	中期後葉 加曾利E 4式	13b期	深鉢	口縁部に古い単文線;幅3mmを1条施らす→底縁;幅3mmで楕形の逆Z字状のモチーフを描出→単節縄文Lを施文	淡褐色色	砂を少量含む。	ほぼ完形	焼成良好
86-9	152	S K171 下層	中期後葉 加曾利E 4式	13b期	深鉢	口縁部に断面形状の丸い微隆起帯を1条施らす→底縁上から胴部にかけて縦の帯状に単節縄文Lを施文→縄文帯と施文帯の境に縦の短い単文線;幅2mmを引く	淡褐色色	砂・雲母を少量含む。	底面がほぼ 全周の 1/6残存	焼成良好
86-10	152	S X11	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	口縁部に断面形状の丸い微隆起帯を1条施らす→底縁に幅2mmの単節縄文Lを充填	淡赤褐色色	砂・白色粒をやや多量に含む。	胴部上半 4/5の全周の 1/3残存	焼成良好
86-11	152	S 148 覆土	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	底の帯状に単節縄文Lを施文→口縁部に単文線;幅4mmを1条施らす→底縁;幅4mmを2本1組で垂下させる	淡黄褐色色	砂・白色粒を含む。	胴部上半 2/3の全周の1/5 残存	焼成良好
86-12	152	S 194 床底	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	単節縄文Lを施文→口縁部に単文線;幅7mmを1条施らす→底縁;幅7mmを2本1組で垂下させる→沈線間を磨研	淡褐色色	砂を少量含む。	胴部上半 1/4の全周の1/3 残存	焼成良好
86-13	152	S 125	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	口縁部に断面形状の丸い微隆起帯を1条施らす→底縁に幅4mmで胴部を三角形状、V字状に区画→単節縄文Lを充填	淡褐色色	白色粒・雲母を少量含む。	胴部上半 2/3の全周の1/6 残存	焼成良好
87-1	153	S 125	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	口縁部に断面形状の丸い微隆起帯を1条施らす→断面形状の丸い微隆起帯で縦位の区画を構成→単節縄文Lを充填	淡褐色色	砂・白色粒・雲母・石膏を少量含む。	胴部上半 3/4の全周の1/3 残存	焼成良好
87-2	153	S 5グ ラフ	中期後葉 加曾利E 4式	13b期	深鉢	口縁部に断面形状の丸い微隆起帯を1条施らす→断面形状の丸い微隆起帯で縦位の区画を構成→単節縄文Lを充填	淡褐色色	底縁2~5mmの砂・シート片をやや多量に含む。	胴部上半 1/2の全周の1/4 残存	焼成良好
87-3	154	S 1136 床底	中期後葉 加曾利E 4式	13b期	深鉢	口縁部に断面形状の丸い微隆起帯を1条施らす→断面形状の丸い微隆起帯で縦位の区画を構成→単節縄文Lを充填	淡褐色色	砂を少量含む。	胴部上半 1/3の全周の1/2 残存	焼成良好
87-4	154	S 119 床土	中期後葉 加曾利E 4式	13b期	深鉢	断面形状の丸い微隆起帯を口縁部に1条、胴部に縦位の区画を構成するように濃染して貼り付ける→単節縄文Lを充填	淡褐色色	細い雲母を少量、砂を微量含む。	底面のみ欠損	焼成良好
87-5	155	S 163 床底・軒	中期後葉 加曾利E 4式	13b期	深鉢	口縁部に断面形状の丸い微隆起帯を1条施らす→断面形状の丸い微隆起帯で縦位の区画を構成→単節縄文Lを充填	淡赤褐色色	底縁2~5mmの砂をやや多量に、雲母を少量含む。	胴部上半 全周の1/3 残存	焼成良好
87-6	155	S 163 埋蔵1	中期後葉 加曾利E 3~ E 4式	12期~ 13期	深鉢	胴部に単節縄文Lを施文	淡赤褐色色	胎土材は少なく、精製。	胴部ののみ欠損、 全周の 1/2残存	焼成良好
87-7	155	S 163 埋蔵2	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	口縁部に単文線;幅3mmを1条施らす→胴部に縦節縄文Lを施文	淡赤褐色色	白色粒を少量含む。	胴部上半 1/2の全周の1/3 残存	焼成良好
87-8	156	S 124	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	胴部に単節縄文Lを施文→口縁部に単文線;幅2mmを1条施らす	淡褐色色	白色粒をやや多量に、砂を少量含む。	胴部上半 全周の1/3 残存	焼成良好
87-9	156	S 119 埋蔵2	中期後葉 加曾利E 3~ E 4式	12期~ 13期	深鉢	0段多量の単節縄文Lを施文	淡褐色色	砂・白色粒を少量含む。	胴部上半 全周の 1/3残存	焼成良好
88-1	156	S 6グ ラフ	中期後葉 加曾利E 3~ E 4式	12期~ 13期	深鉢	胴部に6~7本1組の彫刻状工具による染織を施す	淡褐色色	底縁5mm以下の砂をやや多量に含む。	胴部上半 全周の1/3 残存	焼成良好

第17表 中期の土器

図面	図例	出土位置	時期	新地号	器形	文様の施文行程ほか	色例	胎土	部位 遺存率	備考
88-2	156	S 175	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	口縁部に単沈線:幅2mmを1条施らす→ 胴部に8本1組の櫛歯状工具による条線 を施す	淡橙褐色	直径2～3mmの上層 片粒をやや多量に、 砂を少量含む。	底部	焼成良好
88-3	156	S 124	中期後葉 加曾利E 4式	13期	深鉢	口縁部に断面形状の丸い隆起帯を1 条施らす→単部施文を施文	淡橙褐色	砂を少量含む。	胴部上半 部の1/2 残存	焼成良好
88-4	156	S 120	中期後葉 加曾利E 4式	13期	鉢	胴部に単部施文Lを施文→口縁部に単 沈線:幅4mmを1条施らす	淡赤褐色	直径4～6mmの砂を やや多量に含む。	口縁部の みどろ欠 損	焼成良好
88-5	157	S K346 破片	中期後葉 加曾利E 4式	13期	鉢	口縁部に単沈線:幅5mmを1条施らす→ 胴部に10～11本1組の櫛歯状工具による 条線を施す	淡赤褐色	直径5mmの砂を多量 に含む。	口縁部付 近1/3欠 損	焼成良好
88-6	157	S 185 破上	中期後葉 加曾利E 4式	13期	鉢	口縁部に単沈線:幅8mmを1条施らす→ 胴部に10～11本1組の櫛歯状工具による 条線を施す	淡赤褐色	直径5mmの砂を多量 に含む。	ほぼ完成	焼成良好
88-7	157	S 198	中期後葉 加曾利E 4式	13期	鉢	口縁部に単沈線:幅8mmを1条施らす→ 胴部に9～10本1組の櫛歯状工具による 条線を施す	淡赤褐色	直径2～3mmの砂を やや多量に含む。	口縁部及 び底部を 欠損し全 部の1/2 残存	焼成良好
88-8	157	S 124	中期後葉 加曾利E 3 →E 4式	12期 13期	鉢	口縁部に断面形状三角形の隆起帯を 1条施らす→単部施文を施文	淡赤褐色	白色粒を少量含む。	底部欠損 し全周 の1/2残 存	焼成良好
88-9	157	S 1179 味土ほか	中期後葉 加曾利E 3式	12期	双耳壺?	胴部付近に隆起帯を横内系状に貼付す る→単部施文Lを施文→隆起帯端を指 指線状でなぞる→胴部に単沈線:幅8mm に幅の広い逆じ字状の沈線で区画し、区 画間に縦手文を施す→単部施文Lを施 文	淡赤褐色	砂を少量含む。	胴部上半 部の一部欠 損	焼成良好
88-10	158	S 183	中期後葉 加曾利E 3 →E 4式	12期 13期	双耳壺	口縁部に断面形状三角形の隆起帯を 1条施らす→単部施文を施文	淡橙褐色	砂・白色粒を少量含 む。	底部欠損 し全周 の1/2残 存	焼成良好
88-11	158	S 173	中期後葉 加曾利E 3 →E 4式	12期 13期	双耳壺	胴の広い隆起帯で胴部を区画→単部施 文Lを施文→隆起帯端を指指線状でな ぞる→縦手文を施す	淡褐色	砂・白色粒・雲母等 少量含む。	胴部中央 を中心に 1/2、全面 の1/2残 存	焼成良好
88-12	158	S 185 P 84ほか	中期後葉 加曾利E 3 →E 4式	12期 13期	双耳壺	口縁部に丸みがあって太い隆起帯を1 条施らす→胴部に7本1組の櫛歯状工 具による条線を施す	淡赤褐色	直径1～5mmの砂を やや多量に含む。	口縁部の みどろ欠 損	焼成良好
88-13	158	S S 62	中期後葉 加曾利E 3式	12期	双耳壺?	胴部付近に隆起帯を横内系状に貼付す る→単部施文Lを施文→胴部に6本1 組の櫛歯状工具による条線条線を施す	淡赤褐色	砂・長石粒・チャ ー片をやや多量に 含む。	胴部上半 部の1/2残 存	焼成良好
89-1	159	S 148	中期後葉 加曾利E 4式	12期	深鉢	胴部になだらかる隆起帯で逆さき文を 施す→単部施文を施す	淡褐色	砂・白色粒を少量含 む。	胴部上半 部の1/2 残存	焼成良好
89-2	159	S 148	中期後葉 加曾利E 4式	12期 13期	深鉢	縦位の沈線:幅5mmを胴部に施す	淡赤褐色	直径2～5mmの砂を やや多量に含む。	胴部下半 部の1/2 残存	焼成良好
89-3	159	S 1187	中期中葉	7期?	深鉢	無文	明褐色	直径2～5mmほどの 砂を少量、白炭粒・ 石灰粒を微量含む。	胴部下半 部の1/2 残存	焼成良好
89-4	159	S 148	中期後葉 加曾利E 5式	13b期	深鉢	背の高い隆起帯で口縁部に半円形の区画 →区内?による列点を施文	明褐色 断面サン ドイッチ	直径1mm以下の砂を 少量、石灰粒を微量 含む。	口縁部 1/10以 下残存	焼成良好
89-5	159	S 194	中期後葉 加曾利E 5式	13期 13b期	深鉢	縦位の沈線:幅5mmを胴部に施す	淡橙褐色	直径2～3mmの砂を やや多量に含む。	底部欠損 し、胴部 全面の 3/4残存	焼成良好
89-6	159	S 114	中期後葉	12期 13期	深鉢	無文	明褐色	直径1mmほどの砂を 多量に含む。	ほぼ完成	焼成良好
90-1	160	S 1138	中期中葉	6 b 期 4単位	浅鉢 4単位	1層に竹管の押圧による刻み→屈曲に よる屈曲の口縁部区画内は底面下には 竹管による縦位の角押文列、それ以外に は縦位の角押文	褐色～暗 褐色	直径1mm以下の砂を 少量、石灰粒を少量 含む。	口縁部～ 胴部下半 部の1/3残 存	焼成良好
90-2	160	S 157	中期中葉	6 b 期 4単位	浅鉢 4単位	胴部前部の隆起帯を口縁部に4単位に貼 り付け→口縁部に半部施文の押し引き による角押文列を2～3条施文	赤褐色	直径1～3mmの砂を 少量含む	口縁部～ 底部1/4 残存	焼成良好
90-3	160	S 1138	中期中葉	6 b 期 4単位	浅鉢 4単位	隆起帯を口縁部に貼り付けて方形の隆起 帯を形成→突起右側から斜位に断面三角 形の隆起帯を貼付→唇部部に断面三角 形の低い隆起帯を貼り付け→口縁部端に 沿うようにベン先状工具による三角押文 列を横位に2条施文→区内面にベン先 状工具による三角押文を縦位に施文	赤褐色	直径1～2mmの砂を 少量、白色粒を微量 含む。	口縁部～ 胴部下半 部の2/3残 存	焼成良好
90-4	160	S 139	中期中葉	6 b 期 4単位	浅鉢 4単位	口縁部に隆起帯による逆さき文を施す →区内面にベン先状工具による三角押 文列を横位・縦位・逆じ字状に施文	褐色	直径2mmほどの砂を 含む。	口縁部～ 胴部下半 部の1/4残 存	焼成良好 脚跡あり

第18表 中期の土器

国産	図版	出土位置	時期	新地平	形期	文様の施文行程ほか	色調	胎土	部位 遺存	備考
90-5	161	S 136 覆土	中期中葉	6b期	洗鉢	口唇がわずかに肥厚→横位の隆帯で口縁部を区画、隆帯の貼り付けにより十字状に区画→隆帯部を半軌行管の管による幅広角押文で打える。	暗赤褐色	直径1mm以下の雲母・白色粒を多量に、石英粒を含む。	口縁部～ 底面 1/5 残存	焼成良好 内面下部 に剥離
90-6	161	S 146 床直	中期中葉	7～8 期	洗鉢 口唇部 がやや 内凹	口唇部に斜め隆帯を連続道じ字状に貼り付け→隆帯上にへうによる刻み	明褐色	直径1mmの砂を多量に、雲母を少量含む。	口縁部～ 底面 1/6 残存	焼成良好
90-7	161	S 136 皿ほか	中期中葉	9期	洗鉢 口縁が 内凹	低い断面角形の隆帯で口縁部に渦巻きモチーフを置く	褐色	直径1～2mmの砂を少量含む。	口縁部～ 底面 上 1/10 残存	焼成良好
90-8	161	S 138	中期		洗鉢	無文	暗褐色	直径1～5mmの砂を含む。	胴部～ 底面 1/4 残存	焼成良好
90-9	161	S 177	中期		洗鉢	無文	明黄褐色	直径1～3mmの砂を多量に含む。	胴部～ 底面 2/3 残存	焼成良好
90-10	161	S 138	中期		洗鉢 4単位 の波状 口縁	無文	暗褐色	直径1mm以下の砂・白色粒を含む。	口縁部～ 底面 2/3 残存	焼成良好
90-11	161	S 134	中期		洗鉢	無文。口唇部を肥厚させて、単沈線を横えさせる。	明黄褐色	直径1～5mmの砂を多量に、1mm以下の白色粒を少量含む。	口縁部～ 底面 1/4 残存	焼成良好
90-12	161	S 134	中期		有孔器 付土器	縦文線を形成し、上下に穿孔させる。	褐色	直径1～2mmの砂を多量に、白色粒を含む。	口縁部～ 底面 1/4 残存	焼成良好
90-13	161	S 136 床直	中期中葉 部収3式	9期	台付深 鉢?蓋 部の透 孔2カ 所	周縁をあげてへうによる縦位の波線列→ハネム状の空間にへうによる刻み	褐色	直径1mmの砂を多量に含む。	底面～ 上部 1/10 以下残存	焼成良好
90-14	161	S 118 床直	中期中葉 部収2～3式	8期～ 9期	台付鉢 部収は 球形	隆帯により、波状や渦巻き状のモチーフ、隆帯上に半軌行管による波状孔形文→口唇部下に半軌行管による横位の平行沈線→隆帯部を下軌竹管の半軌起物で押さえる→幅広角押文や単沈線による二文文→施文	褐色	直径1mm以下の砂・白色粒を含む	口縁部～ 上部 上 半 3/4 残存	焼成良好
90-15	161	S 126	中期中葉	5～7 期	ミニチュ ア土 器?	無文	褐色	直径1mm以下の砂を多量に、雲母・白色粒を含む。	ほぼ完形	焼成良好
90-16	161	S 119	後期初頭	14a期	鉢?	無文	明黄褐色	直径1mm～3mmの砂を少量含む。	完形	焼成良好

第19表 後期・後期の土器

図面	図版	出土位置	時期	形状	文様の特徴・行程ほか	色調	胎土	部位 存在層	備考
91-1	162	S 130 埋藏	後期初頭 称名寺1式	深鉢	深い単洗線：幅3mmより、モチーフを 描出し→洗線に単節縄文を充満	淡黄褐色	直径1mm以下の砂・白色粒・ 石英粒を少量に、3mmほどの 砂を含む。	胴部上半 2/3のほぼ 全層残存	焼成良好
91-2	162	S 119	後期初頭 称名寺1式	深鉢	深い単洗線：幅4mmにより、モチーフを 描出し→単節縄文を充満	淡黄褐色	直径1mm以下の砂を少量に、 直径2～5mmの砂、雲母を少 量含む。	胴部上半 2/3の全層 の1/3残存	焼成良好
91-3	162	S 119 埋藏	後期初頭 称名寺1式	深鉢	深い単洗線：幅3mmにより、モチーフを 描出し→単節縄文を充満	淡黄褐色	直径1～7mmの砂を少量、1 mm以下の砂・白色粒を含む。	完形	焼成良好
91-4	162	S X33	後期初頭 称名寺1式	深鉢	深い単洗線：幅5mmにより、横円形や 方形のモチーフを描出し→単節縄文の 洗線を斜位に充満	暗褐色	直径1mm以下の雲母・白色粒 子・石英粒を含む。	口縁部→胴 部下半1/2 残存	焼成良好
91-5	163	S 119	後期初頭 称名寺1式	深鉢	深い単洗線：幅6mmにより区画→単節 縄文を充満	淡黄褐色	直径1～2mmのチャートをやや 多量に含む。	口縁部の一 層	焼成良好
91-6	163	S 119	後期初頭 称名寺1式	深鉢	深い単洗線：幅7mmと斜交による区画 →加飾した洗文を充満	淡褐色	直径1mm以下の砂を微量含む	口縁部の一	焼成良好
91-7	163	S 119	後期初頭 称名寺1式	深鉢	深い単洗線：幅7mmによりモチーフを 描出し→単節縄文を充満	明黄褐色	直径1mm以下の砂を微量含む	胴部中央の	焼成良好
91-8	163	F 4 グラ ッド	後期初頭 称名寺1式	深鉢	深い単洗線：幅5mmによりモチーフを 描出し→単節縄文を充満	淡褐色	海綿骨針をやや多量に、直径 2mm以下の砂・チャートを少 量含む。	胴部中央の	焼成良好
91-9	163	S 121	後期初頭 称名寺1式	深鉢	口縁部に幅広の前面台形の隆帯を貼り 付け→竹管により隆帯上に刺突	淡褐色	直径2mm以下の砂を微量含む	口縁部の一	焼成良好
91-10	163	S 125	後期初頭 称名寺1式	深鉢	深い単洗線：幅6mmによりモチーフを 描く→単節縄文を充満	褐色	海綿骨針をやや多量に、直径 2mm以下の砂・チャートを少 量含む。	胴部上半の	焼成良好
91-11	163	S S61	後期初頭 称名寺1式	深鉢	口唇部に断面丸形の隆帯を2条並べ 、隆帯間に竹管による内面の刺突→ 胴部に洗線でモチーフを描く→単節 縄文を充満	明赤褐色	直径1mm以下の石英粒・長石 を含む。	口縁部の一	焼成良好
92-1	164	S 119	後期初頭 称名寺1式	深鉢	口縁部を厚い竹管による連続刺突→ 深い単洗線でモチーフを描く→単節 縄文を充満	淡褐色	直径1mmほどの砂を少量含む。	胴部上半の	焼成良好
92-5	164	S 11 グラ ッド	後期初頭 称名寺1式	深鉢	断面台形の隆帯を貼り付け→竹管によ り隆帯上に第1→第2番の刺突による単洗 線でモチーフを描く→単節縄文を充満	淡褐色	直径1mm程度の砂・チャート を少量、海綿骨針を微量含む。	胴部上半の	焼成良好
92-4	164	U 10 グラ ッド	後期初頭 称名寺1式	深鉢	単洗線：幅3mmでモチーフを描く→単 節縄文を充満	淡褐色	直径1mm以下の砂を微量含む	口縁部の一	焼成良好
92-5	164	F 6 グラ ッド	後期初頭 称名寺1式	深鉢	単洗線：幅5mmでモチーフを描く→単 節縄文を充満	暗褐色	直径1～3mmの砂を少量含む	口縁部の一	焼成良好
92-6	164	T 11 グラ ッド	後期初頭 称名寺1式	深鉢	単洗線でモチーフを描く→単節縄文を 充満	暗褐色	直径1mm以下の砂を含む。	口縁部の一	焼成良好
92-7	164	B 6 グラ ッド	後期初頭 称名寺1式	深鉢	やや浅い単洗線：幅3mmでモチーフを 描く→単節縄文を充満	淡褐色	黒骨針を少量、直径1mm以下 の砂を微量含む。	胴部の一	焼成良好
92-8	165	H 4 グラ ッド	後期前半 堀之内1式	深鉢	肩位の低いメガリ器→細く深い洗線 でモチーフを描く	淡褐色	直径1mm以下の砂・白色粒を 含む。	胴部上半の	焼成良好
92-9	165	トレン チ	後期前半 堀之内1式	深鉢	口唇に単洗線を並らす→3本1重の洗 線でモチーフを描く→単節縄文を充満	淡褐色	直径1mm以下の砂を少量含む	口縁部の一	焼成良好
92-10	165	S 1124	後期前半 堀之内1式	深鉢	断面丸形の隆帯を横位に貼り付け→3 本1重の洗線でモチーフを描く→単節 縄文を充満	淡褐色	直径1mm以下の砂を少量含む	口縁部の一	焼成良好
92-11	165	S 163	後期前半 堀之内1式	深鉢	単洗線：幅3mmを洗文に並ら→単節縄 文を充満	明黄褐色	直径1mm以下の砂・長石を少 量含む。	胴部下半の 一部	焼成良好
92-12	165	S 127	後期前半 堀之内2式	深鉢	口唇直下に短い断面三角形の隆帯を 貼り付け→2番の洗線を横位に施文→洗 線間に単節縄文を充満	暗褐色	直径1mm以下の砂を微量含 む。	口縁部の一	焼成良好
92-13	166	S K 278	後期前半 堀之内2式	深鉢	口唇上と内面に1本の洗線を描らせる →口唇部を2本の洗線を描き付けた後 →手付直下の隆帯を横位に施文→隆帯 の隆帯上に横位工具による刺突、隆帯 の隆帯上にへらによる磨み	淡黄褐色	直径1mm以下の砂を微量含 む。雲母。	口縁部 1/4ほど	焼成良好
92-14	166	K 1 グラ ッド	後期前半 堀之内B1式	深鉢	口唇内面に8の字の貼り付け→洗線に より細い文様帯→洗線間に刺突	淡赤褐色	直径1mm以下の砂を微量含 む。	口縁部の一	焼成良好
93-1	167	F 4 グラ ッド	後期後半 大洞A式	鉢	肩位の洗文による平縁帯帯の隆帯→ 浮線間に粘土を貼り付け成形→口唇 内面に洗文を形成→胴部は丁寧に磨 き	褐色	直径1mm以下の砂を少量含む	胴部下半 1/4	焼成良好
93-2	167	トレン チ	後期後半 大洞A式	鉢	肩位の洗文により平縁帯帯の隆帯→ 浮線間に粘土を貼り付け成形→口唇 内面に洗文	淡黄褐色	直径1mm以下の砂・長石を少 量含む。	口縁部の一	焼成良好
93-3	167	F 4 グラ ッド	後期後半 大洞A式	深鉢	口縁部に小突起→洗線間洗文を施文 洗線を多量に並らせる→3文文と刺突を 残す	淡褐色	直径1mm以下の砂を微量含 む。	口縁部の一	焼成良好

第20表 尖頭器観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種類	遺存状態	石材	素材形態	加工様相	推定原産地	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
97-1	172	T10	IV層	尖頭器	尖頭部	黒曜石	不明	両面加工	巖山	37.5	15.2	5.4	2.8
97-2	172	T10	IV層	尖頭器	尖頭部	黒曜石	不明	両面加工	巖山	48.3	31.7	15.9	3.1
97-5	172	S180	覆土	尖頭器	完形	珪岩	不明	両面加工	通用外	43.6	16.3	6.8	4.2
97-4	172	S110	-	尖頭器	未製品	珪岩	縦長割片	不明	通用外	43.3	18.1	13.5	9.8
97-9	172	O03	IV層	尖頭器	完形	珪岩	石刃	周辺加工	通用外	33.3	14.0	6.4	2.6
97-8	172	B06	III層	尖頭器	完形	珪岩	割片	両面加工	通用外	33.5	17.2	8.0	4.5
97-3	172	N02	IV層	尖頭器	完形	珪岩	割片	両面加工	通用外	36.3	12.4	6.8	3.3
97-6	172	O07	III c 層	尖頭器	先端欠損	珪岩	石刃	周辺加工	通用外	34.8	17.1	6.1	3.5
100-9	177	S127	-	尖頭器	完形	黒色頁岩	縦長割片	両面加工	通用外	93.4	43.3	14.2	50.3
97-7	172	O06	III層	尖頭器	完形	安山岩	縦長割片	両面加工	通用外	40.3	13.6	7.1	3.4
100-8	177	トレンチ24	III層	尖頭器	完形	黒曜石	縦長割片	両面加工	恩納島	77.7	39.9	14.5	28.5

第21表 石鏃観察表(1)

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	石材	遺存状態	推定原産地	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
98-1	174	S110	床直	燧石岩	完形	通用外	14.8	13.6	3.7	0.6
98-2	174	S110	床直	珪岩	完形未製品	通用外	15.5	12.9	4.6	0.5
98-3	174	S112	床直	珪岩	完形未製品	通用外	14.2	12.4	3.8	0.5
98-4	174	S112	床直	珪岩	完形未製品	通用外	9.7	10.3	3.1	0.2
98-5	174	S114	-	黒曜石	完形	星ヶ台	15.7	14.0	2.6	0.3
98-6	174	S121	-	珪岩	完形	通用外	23.8	16.9	3.8	1.1
98-7	174	S121	-	黒曜石	完形	星ヶ台	31.0	17.1	4.7	1.6
98-8	174	S121	-	黒曜石	完形未製品	恩納島	35.3	26.0	7.7	5.4
98-9	174	S126	-	黒曜石	脚欠未製品	巖山	21.4	14.4	2.9	0.9
98-10	174	S126	-	黒曜石	完形未製品	恩納島	24.9	17.2	4.4	1.6
98-11	174	S127	紐	黒曜石	完形	星ヶ台	19.0	15.5	2.4	0.3
98-12	174	S128	-	珪岩	脚欠未製品	通用外	10.7	11.6	2.3	0.2
98-13	174	S134	覆土中層	黒曜石	脚欠	星ヶ台	17.3	15.6	2.6	0.5
98-14	174	S136	覆土下層	珪岩	完形	通用外	23.7	14.3	4.0	1.0
98-15	174	S139	覆土下層	珪岩	完形	通用外	27.7	19.6	5.2	2.0
98-16	174	S139	覆土	黒曜石	脚欠未製品	星ヶ台	21.2	13.2	2.7	0.5
98-17	174	S145	覆土中層	珪岩	先端欠損	通用外	10.9	10.0	2.3	0.1
98-18	174	S148	覆土	黒曜石	完形未製品	恩納島	25.7	14.3	6.5	2.1
98-19	174	S152	床直	珪岩	完形	通用外	23.7	18.4	5.1	1.2
98-20	174	S152	P-40覆土	黒曜石	先端欠損	星ヶ台	15.6	14.2	4.2	0.5
98-21	174	S163	覆土	黒曜石	先端欠損	巖山	15.5	13.5	2.6	0.3
98-22	174	S164	床直	黒曜石	脚欠未製品	恩納島	17.3	13.7	3.2	0.7
98-23	174	S169	覆土中層	珪質頁岩	完形	通用外	35.7	15.8	4.8	1.8
98-24	174	S183	床直	黒曜石	完形	星ヶ台	27.2	14.7	3.4	1.2
98-25	174	S198	覆土上層	黒曜石	完形	恩納島	21.5	19.2	4.2	1.1
98-28	174	S1100	覆土	黒曜石	脚欠	恩納島	28.9	16.7	6.8	2.3
98-27	175	S1106	覆土上層	珪岩	完形	通用外	16.3	17.2	3.4	0.6
98-28	175	S1106	P-3中層	珪質頁岩	完形	通用外	28.4	19.5	3.8	1.3
98-29	175	S1106	床直	頁岩?	完形	通用外	23.8	12.2	4.8	0.9

第22表 石鐘観察表(2)

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	石材	遺存状態	推定原産地	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
98-30	175	S1133	覆土	珪岩	完形	適用外	11.8	11.7	2.7	0.2
98-31	175	S1144	覆土上層	珪岩	完形	適用外	22.7	19.1	3.9	1.1
98-32	175	S1144	P-16	珪岩	完形	適用外	20.1	15.0	4.4	1.0
98-33	175	S1177	覆土下層	黒曜石	完形	適用外	11.9	11.0	2.2	0.1
98-34	175	S1199	覆土	珪岩	完形	適用外	31.2	20.2	9.5	5.5
98-35	175	S1199	覆土	珪質頁岩	完形	適用外	25.9	22.2	8.1	3.7
98-36	175	SK256	覆土上層	珪岩	完形	適用外	16.2	13.6	4.7	0.7
98-37	175	SK454	覆土上層	黒曜石	完形	星ヶ台	27.8	18.2	3.4	1.0
98-38	175	SK29	覆土上層	珪岩	完形	適用外	11.3	11.2	2.4	0.1
99-1	175	H03	Ⅲ層	頁岩	完形	適用外	16.7	12.4	3.2	0.4
99-2	175	F05	Ⅲ層	珪岩	完形	適用外	16.1	12.0	3.9	0.5
99-3	175	005	Ⅲ層	珪岩	完形	適用外	16.9	13.5	2.6	0.4
99-4	175	005	Ⅲ層	珪岩	完形	適用外	17.4	15.4	3.4	0.6
99-5	175	104	Ⅲ層	安山岩	完形	適用外	15.6	13.0	3.1	0.4
99-6	175	004	-	珪質頁岩	完形	適用外	25.2	18.0	4.0	1.0
99-7	175	005	Ⅲ層	珪岩	完形	適用外	22.5	14.9	2.8	0.6
99-8	175	104	Ⅲ層	珪岩	完形	適用外	24.2	20.0	6.3	1.4
99-9	175	トレンナF	Ⅲ層	珪岩	完形	適用外	25.3	23.6	5.9	2.4
99-10	175	C07	Ⅲ層	玉髄?	完形	適用外	28.5	22.3	6.2	3.7
99-11	175	005	Ⅲ層	珪岩	完形	適用外	22.8	16.8	6.1	2.3
99-12	175	005	Ⅲ層	珪岩	完形	適用外	23.0	18.9	5.1	1.5
99-13	175	F04	Ⅲ層	黒曜石	矢筈欠損	適用外	9.3	11.9	2.6	0.2
99-14	175	B04	Ⅲ層	黒曜石	脚欠	鷹山	15.2	11.4	2.9	0.5
99-15	175	F04	Ⅲ層	黒曜石	完形	星ヶ台	14.7	13.3	2.2	0.3
99-16	175	J03	Ⅲ層	黒曜石	脚欠	鷹山	19.1	14.3	3.8	0.4
99-17	175	B05	Ⅲ層	黒曜石	完形	星ヶ台	18.5	13.7	3.3	0.4
99-18	175	G04	Ⅲ層	黒曜石	完形未製品	鷹山	21.4	15.1	3.2	1.0
99-19	175	B06	Ⅲ層	黒曜石	完形	柏峠1群	24.7	15.1	2.6	0.7
99-20	175	J04	Ⅲ層	黒曜石	脚欠	星ヶ台	28.1	16.9	3.7	1.0
99-21	176	K08	Ⅲb層	珪岩	完形	適用外	23.3	19.8	3.9	1.0
99-22	176	SS50	Ⅲb層	珪岩	完形	適用外	23.6	14.8	4.8	0.7
99-23	176	SS50	Ⅲb層	珪岩	完形	適用外	20.0	18.7	4.2	0.4
99-24	176	A08	Ⅲb層	黒曜石	完形	恩輪島	28.2	15.1	5.5	1.4
99-25	176	A06	Ⅲb層	黒曜石	脚欠	星ヶ台	13.9	11.2	3.2	0.3
99-26	176	A04	Ⅲb層	黒曜石	完形	星ヶ台	21.2	15.2	3.8	0.7
99-27	176	Z05	Ⅲb層	黒曜石	脚欠	星ヶ台	16.1	12.6	3.4	0.4
99-28	176	Y03	Ⅲb層	黒曜石	完形	星ヶ台	16.3	13.8	3.1	0.4
99-29	176	K03	Ⅲb層	黒曜石	脚欠	星ヶ台	15.2	12.6	2.3	0.4
99-30	176	X10	Ⅲc層	珪岩	完形	適用外	19.2	12.9	4.1	0.5
99-31	176	F05	Ⅲc層	黒曜石	先端のみ残存	適用外	10.1	11.4	2.1	0.1
99-32	176	C06	Ⅲc層	黒曜石	完形未製品	柏峠1群	14.2	14.3	2.6	0.5

第23表 有舌尖頭器観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種別	遺存状態	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
100-5	176	E05	Ⅲ層	有舌尖頭器	完形	頁岩	13.1	24.3	5.9	3.1
100-1	176	S116G	覆土下層	有舌尖頭器	完形	安山岩	14.3	17.3	5.4	2.1
100-7	176	F05	Ⅲ層	有舌尖頭器	完形	珪岩	14.9	15.8	4.1	1.4
100-2	176	SK240	覆土上層	有舌尖頭器	胴部のみ	安山岩	13.5	19.5	4.8	2.1
100-3	176	X10	Ⅲc層	有舌尖頭器	先端欠	安山岩	14.1	17.2	3.7	1.4
100-6	176	Y03	Ⅲb層	有舌尖頭器	ほぼ完形	安山岩	11.1	20.2	7.3	6.3
100-4	176	A08	Ⅲc層	有舌尖頭器	先端欠	珪岩	15.1	16.6	4.6	1.7

第24表 削器観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種別	遺存状態	石材	素材形態	産地	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
102-1	178	E05	Ⅲ層	削器	完形	黒曜石	石刀状剥片	恩賜島	79.4	44.5	16.8	48.1
102-3	178	S110	-	削器	完形	黒曜石	縦長剥片	適用外	36.7	23.8	17.9	14.6
102-6	178	S138	床直	削器	完形	黒曜石	石刀状剥片	恩賜島	60.9	30.1	15.2	21.5
102-2	178	SK29	覆土上層	削器	完形	黒曜石	石刀状剥片	恩賜島	88.2	35.4	14.2	32.6
102-5	178	H05	Ⅲ層	削器	完形	黒曜石	横長剥片	恩賜島	48.9	31.6	15.7	21.0
102-4	178	E06	Ⅲ層	削器	完形	黒曜石	横長剥片	恩賜島	58.9	35.9	11.3	19.2

第25表 削器等観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種別	遺存状態	石材	素材形態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
103-4	179	S157	床直	削器	完形	安山岩	縦長剥片	73.9	77.3	19.7	84.7
103-5	179	S116	-	削器	完形	珪岩	縦長剥片	22.4	18.1	6.3	1.9
103-6	179	S121	床直	ハンマー	完形	頁岩	自然産	64.7	41.5	10.0	23.6
103-1	178	C03	Ⅲ層	削器	完形	珪岩	縦長剥片	43.9	30.1	10.9	12.1
103-2	178	C07	Ⅲ層	削器	完形	珪岩	縦長剥片	63.3	33.2	12.0	18.7
103-3	179	S19	覆土	削器	完形	珪岩	横長剥片	43.3	58.0	24.1	55.4

第26表 石核・剥片等観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種別	遺存状態	石材	石核素材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
104-1	180	Y10	Vc層	石核	完形	玉髓	剥片	34.5	46.7	28.9	39.0
104-9	180	E02	Ⅲ層	剥片	完形	珪岩	不明	43.2	27.0	8.2	8.4
104-8	180	S1160	床直	剥片	完形	珪岩	不明	51.7	70.3	13.8	31.9
104-7	180	G04	Ⅲc層	剥片	完形	珪岩	不明	24.0	11.0	8.0	1.3
104-6	180	H04	Ⅲ層	石核	完形	珪岩	剥片	61.0	40.4	23.0	42.4
104-5	180	C07	Ⅲc層	石核	完形	珪岩	剥片	41.8	34.1	21.1	27.0
104-2	180	S121	-	石核	完形	珪岩	剥片	34.7	36.6	121.5	16.1
104-4	180	S127	-	石核	完形	珪岩	剥片	40.1	44.9	14.3	24.2
104-3	180	S121	覆土	石核	完形	珪岩	剥片	47.3	36.6	18.0	30.7

第27表 礫核石器等観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種別	残存率	石材	素材形態	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
110-2	186	S140	床直	礫核	完形	4477.4A	剥片	刃部剥片	51.5	63.7	22.6	93.0
110-5	186	SK46	Ⅲb層	剥片	完形	砂岩	扁平礫	被熱核、再加工	81.3	94.7	31.5	220.4
110-7	186	S173	覆土	石核	完形	4477.4A	三角礫		81.5	103.3	46.1	455.7
110-6	186	S1101	礫状層	礫核石器	完形	4477.4A	横長剥片		91.0	122.4	27.0	307.6
111-1	187	S1108	覆土	礫核石器	完形	4477.4A	三角礫		129.1	114.1	58.6	715.5
111-3	187	F05	Ⅲ層	礫核石器	完形	4477.4A	三角礫		101.2	122.9	42.5	781.9
117-19	201	Y07	Ⅲb層	打欠石核	完形	砂岩	扁平礫片	打ち部に厚核	110.8	99.1	41.4	694.3
111-4	187	H03	Ⅲ層	礫核石器	完形	4477.4A	要角礫		102.0	115.9	40.3	627.9
111-2	187	F06	Ⅲ層	礫核石器	完形	4477.4A	三角礫		111.9	95.9	60.6	900.9
110-3	186	S152	覆土	尖頭礫器	完形	珪岩	角礫		51.8	81.8	43.8	152.4

第 28 表 粗製石匙・粗製削器・籠状石製品観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種別	遺存状態	石材	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
108-5	183	S1137	覆土	粗製石匙	半欠	頁岩		53.3	69.1	7.5	20.2
108-9	183	S08	Ⅲb層	粗製石匙	完形	砂岩		67.2	74.7	11.2	39.9
108-6	183	S342-2	床直	粗製石匙	完形	砂岩		78.9	113.5	13.5	75.8
108-1	183	S342-2	床直	粗製石匙	完形	ホルンフェルス		56.4	103.1	12.0	49.1
108-7	184	S3479	覆土	粗製石匙	完形	ホルンフェルス		81.0	106.1	11.6	61.5
108-2	183	S342-1	床直	粗製石匙	完形	砂岩		82.5	141.0	17.4	117.7
108-4	183	S342-1	床直	粗製石匙	完形	ホルンフェルス		73.6	127.5	13.3	86.6
108-3	183	S342-1	床直	粗製石匙	完形	片岩		122.9	62.3	17.1	30.0
108-8	184	S3479	覆土	粗製石匙	完形	安山岩		125.5	62.0	17.6	83.8
108-10	184	S139	床直	粗製削器	完形	泥岩		103.0	93.3	13.3	109.4
109-1	184	S156	床直	粗製削器	完形	砂岩		76.5	90.3	21.3	169.7
109-2	184	S163	覆土	粗製削器	完形	砂岩	刃部加工がなく、未製品と認められる。	161.8	77.9	14.8	75.8
109-3	184	S134	覆土	粗製削器	完形	ホルンフェルス	表面の風化が激しく、観察しづらい。	64.3	86.8	19.5	113.4
109-4	184	S152	覆土	粗製削器	完形	砂岩		70.4	71.1	18.9	107.1
109-5	185	S136	覆土	粗製削器	完形	ホルンフェルス		70.5	132.0	19.1	118.6
109-8	185	S127	覆土	粗製削器	完形	砂岩	扁平楕に加工。	97.1	60.5	19.0	112.6
109-6	185	S138	床直	粗製削器	完形	ホルンフェルス		79.0	90.1	26.5	219.0
109-7	185	S173	覆土	粗製削器	完形	粘板岩	刃部の割離は使用による割離と考えられる。	85.9	111.7	9.0	83.6
109-9	185	S127	覆土	粗製削器	完形	砂岩		130.2	57.1	18.1	190.2
109-10	185	S195	覆土	粗製削器	完形	砂岩	石鏃状の形態。	115.1	43.8	13.8	56.7
109-11	185	S153	覆土	粗製削器	完形	粘板岩	刃部の割離は使用による割離と考えられる。	48.8	131.0	11.7	83.1
109-12	185	Y07	Ⅲb層	粗製削器	完形	ホルンフェルス		110.9	39.4	29.7	103.3
110-1	186	S125	覆土	粗製削器	完形	ホルンフェルス		114.4	73.8	25.1	270.9
110-4	186	S590	Ⅲb層	籠状石製品	完形	頁岩		111.1	34.0	14.7	52.3

第 29 表 石鏃・小形石匙・削器・掘器・筒状石器観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種別	遺存状態	石材	素材形態	想定原産地	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
101-1	177	R07	Ⅲ層	石鏃	完形	黒曜石	鏃長割片	黒ヶ台		32.0	18.4	7.3	2.0
101-3	177	F01	Ⅲ層	石鏃	完形	珪岩	鏃長割片? H1と甲	適用外		44.6	13.4	8.8	4.7
101-4	177	F05	Ⅲ層	石鏃	完形	珪岩	不明	適用外	刃部に摩耗痕	22.7	6.9	3.7	1.0
101-2	177	SS0	Ⅲb層	石鏃	完形	頁岩	鏃長割片	適用外		40.8	22.7	10.4	8.0
101-6	177	トレンチ7	-	小形石匙	完形	凝灰岩	鏃長割片	適用外		41.1	52.3	14.3	22.2
101-5	177	SS0	掘乱	小形石匙	完形	黒曜石	不明	適用外		13.6	27.9	4.6	1.3
101-8	177	L02	Ⅲb層	削器	完形	綠頁岩	石刀状割片	適用外		82.4	30.5	10.0	17.4
101-7	177	F05	Ⅲ層	掘器	完形	頁岩	石刀状割片	適用外		86.9	34.5	14.7	31.5
101-9	177	G04	Ⅲ層	筒状石器	完形	紫山岩	不明	適用外		55.6	25.0	7.2	15.6

第30表 両楯石器等観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種類	遺存状態	石材	想定原産地	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
105-2	181	S121	覆土	石杖	完形	黒曜石	通用外	23.8	38.7	9.3	8.1
107-5	182	S158	覆土	両楯石器	完形	黒曜石	通用外	139.6	112.1	114.4	1.4
107-6	182	S1138	覆土	両楯石器	完形	黒曜石	通用外	216.7	100.1	74.1	3.2
107-9	182	S1204	覆土	両楯石器	完形	黒曜石	通用外	139.0	84.8	51.7	2.7
107-10	182	S1101	P-50	両楯薄片	完形	黒曜石	通用外	13.7	9.3	3.6	0.8
107-12	182	S1101	覆土	両楯石器	完形	黒曜石	通用外	20.4	15.2	5.8	2.0
107-13	182	S1101	床直	両楯薄片	完形	黒曜石	通用外	14.3	8.1	4.1	1.0
107-7	182	S1100	覆土	両楯薄片	完形	黒曜石	通用外	13.5	9.1	3.4	0.8
107-8	182	S1100	覆土	両楯薄片	完形	黒曜石	通用外	16.3	11.8	3.4	1.1
107-11	182	S1100	床直	両楯薄片	完形	黒曜石	通用外	14.6	11.1	3.8	1.1
107-4	182	S134	覆土	両楯石杖	完形	黒曜石	通用外	22.1	22.2	7.3	3.0
106-5	181	S158	P-2	石杖	完形	黒曜石	通用外	33.3	21.1	18.1	3.0
106-2	181	S158	覆土	石杖	完形	黒曜石	通用外	27.4	37.9	23.4	24.7
106-1	181	S121	-	石杖	完形	黒曜石	通用外	33.2	41.5	30.4	40.6
106-8	181	S157	床直	薄片	完形	黒曜石	豊後島	31.2	36.8	7.4	3.9
106-7	181	S157	床直	薄片	完形	黒曜石	豊後島	26.1	27.7	5.9	2.1
106-6	181	S157	P-21	薄片	完形	黒曜石	豊後島	36.7	34.3	8.5	6.1
107-3	182	S130	床直	両楯石杖	完形	黒曜石	豊後島	23.6	23.9	12.3	6.4
107-2	182	S130	船床下	両楯石杖	完形	黒曜石	豊後島	30.9	25.8	17.2	11.5
105-4	181	S1150	床直	コアブランク	完形	黒曜石	豊後島	29.6	32.0	14.6	1.8
105-5	181	S130	覆土	コアブランク	完形	黒曜石	豊後島	42.2	39.9	18.0	18.1
105-1	181	805	II層	石杖	完形	黒曜石	屋ヶ台	45.4	71.2	27.1	57.7
106-4	181	S138	P-2	石杖(両楯石杖)	完形	黒曜石	豊後島	31.2	28.5	31.7	22.7
105-6	181	601	II層	コアブランク	完形	黒曜石	豊後島	42.0	41.1	19.9	31.3
105-3	181	802	II層	コアブランク	完形	黒曜石	豊後島	63.7	68.1	40.0	104.5
107-1	182	805	II層	両楯石杖	完形	黒曜石	豊後島	30.0	22.4	9.5	6.6

第31表 打製石斧観察表(1)

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種類	残存率	仮分類	石材	刃部形態	素材形態	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
118-12	203	S173	P-12	打製石斧	完形	その他	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		89.3	66.4	22.4	146.6
118-7	202	S137	覆土	打製石斧	基部欠損	その他	砂岩	円刃	割片		70.4	71.1	18.9	108.0
118-2	202	S126	覆土	打製石斧	完形	その他	4477aA	円刃	横長割片 (自然面)		92.0	60.7	21.4	143.0
109-6	185	S138	床直	打製石斧 未製品	完形	その他	4477aA	適用外	横長割片		79.0	90.1	26.5	219.0
118-1	202	S126	覆土	打製石斧	完形	その他	安山岩	凸刃	横長割片 (自然面)	刃部先端に厚縁がみられる	88.9	35.8	8.9	40.8
117-13	197	S126	覆土	打製石斧	完形	10	砂岩	凸刃	横長割片 (自然面)	基部裏面側、全体的に 厚縁している。基部端 部を削打で平坦面を作 出	103.6	43.8	17.6	99.9
118-3	202	S126	覆土	打製石斧	完形	その他	4477aA	斜刃	横長割片 (自然面)	風化激しく剥離と使用 痕不明瞭	96.3	48.5	14.3	74.2
117-6	197	S127	覆土	打製石斧	完形	10	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		104.7	36.0	20.6	74.9
116-5	199	S132	覆土	打製石斧	完形	8	4477aA	円刃	横長割片 (自然面)		92.8	65.7	29.0	186.4
116-2	196	S127	覆土	打製石斧	完形	4	4477aA	円刃	横長割片	刃部右側面に厚縁がみ られる	110.6	40.7	12.8	68.0
118-4	202	S127	覆土	打製石斧	刃部欠損	その他	砂岩	不明	割片	刃部折れ	122.3	46.5	23.9	117.6
119-2	204	SX11	覆土	打製石斧	完形	その他	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)	両側面の後縁の直れ面 著	108.5	42.2	22.8	130.3
115-15	200	S132	覆土	打製石斧	完形	6	4477aA	凸刃	横長割片 (自然面)		116.1	43.8	15.3	91.9
118-6	202	S132	覆土	打製石斧	完形	その他	4477aA	円刃	横長割片 (自然面)		114.1	58.2	19.4	120.4
113-16	193	S127	覆土	打製石斧	完形	2	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		138.9	46.1	22.4	175.5
114-4	193	SX11	覆土	打製石斧	完形	3	4477aA	不明	横長割片 (自然面)		133.6	56.9	18.8	159.2
118-17	200	S132	覆土	打製石斧	完形	6	4477aA	直刃	割片	刃部わずかに欠損	102.7	63.3	32.0	229.6
117-1	198	S127	床直	打製石斧	頂部欠損	9	砂岩	斜刃	横長割片	基部縁上に貫れ	102.7	63.3	32.0	128.4
118-5	202	S127	P-16	打製石斧	完形	その他	砂岩	円刃	横長割片	大型で素材の厚みがある	112.1	54.6	24.6	529.7
112-12	189	S124	覆土	打製石斧	刃部欠損	1	砂岩	不明	横長割片	大型	151.4	74.7	30.6	696.2
116-6	199	S134	覆土	打製石斧	完形	8	4477aA	円刃	横長割片 (自然面)	風化激しく剥離と使用 痕不明瞭	188.0	85.3	35.4	90.7
118-8	202	S134	覆土	打製石斧	完形	その他	凝灰岩	凸刃	横長割片 (自然面)	厚縁顯著、側刃部の後 縁の厚縁顯著	80.9	60.8	14.8	132.8
112-11	186	S134	覆土	打製石斧	完形	1	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)	刃部には使用痕がなく 未使用品?	159.8	81.8	15.9	208.5
115-6	196	S134	床直	打製石斧	完形	5	砂岩	斜刃	横長割片	素材の厚みがある	148.6	75.7	24.5	132.3
115-8	200	S134	床直	打製石斧	完形	6	砂岩	斜刃	横長割片		106.0	47.7	23.0	49.8
119-7	204	S135	床直	打製石斧	完形	その他	4477aA	円刃	割片	風化激しく剥離と使用 痕不明瞭	100.1	33.2	14.3	253.6
118-9	202	S136	覆土	打製石斧	完形	その他	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)	基部の両縁部の刃直 し顯著	157.7	63.9	25.1	264.8
115-11	200	S136	床直	打製石斧	刃部欠損	6	砂岩	不明	横長割片 (自然面)		120.6	66.1	33.2	81.4
116-11	198	S136	床直	打製石斧	完形	8	泥岩	直刃	横長割片 (自然面)		108.4	44.3	14.7	122.8
116-1	199	S137	床直	打製石斧	完形	7	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		96.6	72.3	18.9	109.1
115-5	196	S139	覆土	打製石斧	完形	5	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)	小形	110.7	50.9	17.7	43.2
115-13	200	S140	覆土	打製石斧	完形	6	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)		73.5	38.7	14.2	79.9
117-2	198	S145	覆土	打製石斧	完形	9	4477aA	円刃	横長割片 (自然面)	厚縁顯著なため使用 痕不明瞭	134.2	40.6	14.0	75.5
118-10	200	S145	覆土	打製石斧	完形	その他	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)		106.6	47.0	16.3	179.8
116-12	198	S147	床直	打製石斧 (刃部剥離)	完形	8	4477aA	円刃	横長割片 (自然面)	刃部は片面のみ研削	114.1	52.5	25.0	90.9
113-11	192	S147	床直	打製石斧	頂部欠損	2	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)		89.2	60.1	15.9	101.8
112-13	189	S148	覆土	打製石斧	完形	1	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		105.6	45.4	19.6	170.8
115-4	195	S148	覆土	打製石斧	完形	4	凝灰岩	斜刃	横長割片	刃部厚縁顯著	129.2	71.3	18.1	170.9
114-10	194	S148	床直	打製石斧	完形	3	凝灰岩	円刃	横長割片 (自然面)	風化顯著なため使用 痕不明瞭	129.1	54.0	23.0	104.0

第32表 打製石斧観察表(2)

図面番号	図記番号	遺構	出土層位	種別	残存率	製分組	石材	刃部形態	素材形態	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
117-10	197	S152	覆土	打製石斧	完形	10	砂岩	凸刃	横長調片		135.3	62.5	11.8	46.1
118-11	203	S152	床直	打製石斧	完形	その他	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)	側辺の刃磨し顕著	98.3	34.0	14.1	147.6
116-3	199	S152	床直	打製石斧	完形	7	泥岩	斜刃	横長調片 (自然面)		113.1	47.2	20.9	58.7
116-10	198	S152	P-2	打製石斧	完形	8	4497443	凹刃	横長調片	風化顕著なため使用痕 不明瞭	89.9	56.1	12.8	116.2
113-10	192	S152	P-4	打製石斧	刃部欠損	2	4497443	凹刃	調片	刃部磨耗顕著	96.9	60.1	20.3	126.4
114-1	193	S124	覆土	打製石斧	完形	3	4497443	凹刃	調片		115.8	52.8	21.8	108.8
115-1	196	S118	覆土	打製石斧	完形	4	4497443	凹刃	横長調片 (自然面)	風化顕著なため使用痕 不明瞭	104.0	52.3	17.1	66.9
116-7	196	S100	床直	打製石斧	完形	8	緑色片岩	凹刃	石面解片	全体的に表面が磨耗して いるが特に刃部磨耗 顕著	100.2	40.1	16.0	146.7
114-2	193	S120	床直	打製石斧	完形	3	4497443	凹刃	横長調片	被熱による変色部が基 部に観察でき着熱痕 であると考えられる	100.9	76.1	12.6	88.5
112-5	188	S120	床直	打製石斧	完形	1	砂岩	直刃	横長調片 (自然面)		116.0	52.9	12.0	153.5
114-3	193	S124	床直	打製石斧	完形	3	砂岩	直刃	横長調片 (自然面)		110.9	51.0	22.4	196.9
113-16	192	S119	覆土	打製石斧	完形	2	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)	被熱による変色部が基 部に観察でき着熱痕 であると考えられる	110.9	51.0	22.4	120.0
112-1	188	S114	壁1	打製石斧	完形	1	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)		125.4	59.6	24.2	177.3
112-7	188	S124	床直	打製石斧	完形	1	4497443	凹刃	横長調片	左側切り部縁線濃れ	122.2	49.7	20.1	152.2
117-15	201	S121	床直	打製石斧	完形	11	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)		131.4	66.8	20.6	268.1
112-6	188	S120	床直	打製石斧	完形	1	砂岩	直刃	扁平塊		121.5	56.5	18.8	206.7
112-3	188	S120	床直	打製石斧	完形	1	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)	被熱による変色部が基 部に観察でき着熱痕 であると考えられる	119.1	86.8	21.8	127.1
112-9	189	S124	床直	打製石斧	完形	1	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)	右側切り部縁線濃れ	128.3	63.8	23.0	161.2
112-2	188	S114	-	打製石斧	完形	1	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)		127.0	61.8	16.3	207.9
114-12	195	S114	床直	打製石斧	完形	3	砂岩	凹刃	横長調片		136.0	64.3	22.8	235.1
113-10	192	S114	-	打製石斧	完形	2	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)		172.3	59.2	23.2	296.4
115-9	200	S1101	覆土	打製石斧	刃部欠損	6	砂岩	不明	横長調片 (自然面)		74.6	23.9	19.5	67.3
119-4	204	S1100	覆土	打製石斧	完形	その他	4497443	凹刃	横長調片 (自然面)	風化顕著なため使用痕 不明瞭	98.6	38.4	15.0	216.6
115-3	196	S1101	覆土	打製石斧	刃部欠損	4	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)		110.7	48.9	32.8	100.9
117-7	197	S1100	覆土	打製石斧	完形	10	砂岩	凸刃	調片		114.2	53.8	14.4	77.5
113-17	192	S158	覆土	打製石斧	完形	2	砂岩	凸刃	調片		120.6	40.8	13.9	91.9
117-11	197	S157	覆土	打製石斧	刃部欠損	10	砂岩	凸刃	横長調片		116.8	41.8	16.6	67.3
118-15	203	S194	覆土	打製石斧	完形	その他	砂岩	凹刃	横長調片		106.3	40.0	14.3	171.6
113-3	190	S191	床直	打製石斧	完形	1	4497443	斜刃	横長調片	風化顕著なため使用痕 不明瞭	119.8	56.9	16.0	173.2
113-9	197	S1100	覆土	打製石斧	完形	2	泥岩	凹刃	横長調片		127.5	60.3	23.6	146.8
112-14	190	S157	床直	打製石斧	完形	1	砂岩	斜刃	横長調片		142.0	54.4	14.8	124.9
116-8	199	S105	床直	打製石斧	完形	8	砂岩	凹刃	横長調片		133.6	57.8	19.9	165.4
118-13	203	S173	覆土	打製石斧	完形	その他	4497443	凹刃	横長調片 (自然面)	風化顕著なため使用痕 不明瞭	112.8	76.1	22.0	111.1
113-2	190	S167	覆土	打製石斧	完形	1	砂岩	斜刃	横長調片 (自然面)		137.2	61.8	15.0	200.8
114-6	194	S153	覆土	打製石斧	完形	3	4497443	斜刃	横長調片 (自然面)	風化顕著なため使用痕 不明瞭	122.4	65.9	22.3	246.4
112-15	190	S173	覆土	打製石斧	完形	1	砂岩	凹刃	横長調片 (自然面)		133.3	66.4	23.2	214.0
117-5	197	S1150	河溝	打製石斧	完形	10	4497443	凸刃	横長調片 小形		154.0	53.5	22.3	39.0
116-9	198	S1118	覆土	打製石斧	完形	8	4497443	直刃	横長調片		79.4	27.9	15.3	85.9
118-16	203	S1124	覆土	打製石斧	刃部欠損	その他	泥岩	不明	調片	被熱	95.5	68.9	16.8	44.3

第33表 打製石斧観察表(3)

図版番号	図版番号	遺構	出土層位	種別	残存率	区分類	石材	刃部形態	素材形態	所見	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
115-10	200	S1117	P-15	打製石斧	完形	6	4497aA3	円刃	横長割片 (自然面)		79.1	39.0	17.8	167.5
119-1	204	S1133	覆土	打製石斧	完形	その他	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		108.1	52.9	18.0	121.6
113-8	192	S1116	覆土	打製石斧	完形	2	砂岩	円刃	扁平礫	被熱	122.7	60.0	23.1	148.1
117-9	197	S1133	覆土	打製石斧	完形	10	砂岩	凸刃	横長割片 (自然面)		125.4	44.3	26.6	168.8
116-4	199	S1138	覆土	打製石斧	完形	7	4497aA3	斜刃	割片		110.6	60.6	24.7	202.0
117-8	197	S1180	床直	打製石斧	完形	10	泥岩	凸刃	横長割片 (自然面)		132.5	43.2	23.6	140.1
116-2	199	S1190	覆土	打製石斧	完形	7	4497aA3	凸刃	横長割片 (自然面)		129.2	64.6	33.1	217.1
114-9	194	S1177	覆土	打製石斧	完形	3	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		125.4	63.7	25.6	197.9
113-13	193	S1124	床直	打製石斧	完形	2	4497aA3	円刃	横長割片 (自然面)		151.5	55.2	28.2	256.7
115-12	200	S1117	P-29	打製石斧	完形	6	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		148.8	54.5	20.2	190.9
113-5	191	S1136	床直	打製石斧	完形	1	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)	刃部微れ顕著	136.6	73.0	16.1	203.6
119-8	204	S1136	P-28	打製石斧 未製品	完形	その他	砂岩	適用外	礫		219.9	87.3	42.4	933.8
119-5	204	902	Ⅲb層	打製石斧	完形	その他	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		147.1	110.6	30.4	403.3
115-16	200	002	Ⅲ層	打製石斧	完形	6	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		178.6	60.6	33.0	430.6
113-1	190	002	Ⅲ層	打製石斧	完形	1	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)		179.3	59.9	29.4	386.2
113-14	193	802	Ⅲ層	打製石斧	完形	2	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		172.5	63.8	34.2	333.2
117-3	198	805	Ⅲ層	打製石斧	完形	8	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		118.9	51.6	15.1	102.2
117-16	201	506	Ⅲ層	打製石斧	完形	11	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		116.6	68.2	23.4	222.5
114-5	193	805	Ⅲ層	打製石斧	完形	3	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)		126.5	71.9	27.3	234.7
117-17	201	J03	Ⅲ層	打製石斧	完形	11	砂岩	直刃	扁平礫		110.3	80.5	28.3	290.6
117-14	201	K03	Ⅲ層	打製石斧	完形	11	泥岩	円刃	横長割片 (自然面)		102.9	61.2	22.7	147.0
114-14	195	トレンナ	Ⅲ層	打製石斧	完形	3	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		182.3	80.1	34.4	508.5
117-18	201	SK119	Ⅲb層	打製石斧	完形	11	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		100.9	77.3	29.6	225.7
117-4	198	SK214	覆土	打製石斧	完形	9	4497aA3	円刃	横長割片 (自然面)	風化顕著なため使用微不明瞭	133.2	58.1	23.6	215.2
115-7	196	SK277	覆土	打製石斧	完形	5	凝灰岩	斜刃	横長割片 (自然面)		125.0	54.0	30.6	141.6
114-13	195	SS46	Ⅲb層	打製石斧	完形	3	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		182.7	66.9	27.9	376.2
115-14	200	SS46	Ⅲb層	打製石斧	完形	6	4497aA3	直刃	横長割片 (自然面)		145.4	46.8	23.4	185.8
117-12	197	K03	Ⅲb層	打製石斧	完形	10	砂岩	凸刃	横長割片 (自然面)		102.2	42.2	18.8	96.8
114-11	195	506	Ⅲb層	打製石斧	完形	3	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)	風化顕著なため使用微不明瞭	142.4	64.0	17.8	202.6
119-3	204	V04	Ⅲb層	打製石斧	完形	その他	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)	両側辺の縁部の派石顕著	132.3	62.5	30.9	362.4
113-7	191	W09	Ⅲb層	打製石斧	完形	1	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		124.1	56.0	23.4	179.7
113-6	191	A06	Ⅲb層	打製石斧	完形	1	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		152.0	77.2	24.1	296.9
113-18	192	S173	床直	打製石斧	完形	2	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		168.3	66.5	20.9	238.0
113-4	190	S194	覆土	打製石斧	完形	1	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		148.3	68.6	29.9	300.7
114-8	194	S163	覆土	打製石斧	完形	3	砂岩	円刃	横長割片 (自然面)		129.7	60.0	21.5	160.6
114-7	194	S163	覆土	打製石斧	完形	3	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		147.8	66.9	22.1	245.3
113-12	192	S1106	覆土	打製石斧	完形	2	砂岩	凸刃	横長割片 (自然面)		182.1	68.4	22.4	322.9
112-4	188	S125	覆土	打製石斧	完形	1	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		129.8	67.9	19.3	159.2
112-10	189	S124	覆土	打製石斧	完形	1	砂岩	直刃	横長割片 (自然面)	被熱。刃こぼれ顕著	124.8	51.3	28.3	287.5
114-15	195	S120	床直	打製石斧	完形	3	砂岩	円刃	割片		139.7	78.1	25.5	196.9
112-8	189	S124	覆土	打製石斧	完形	1	砂岩	斜刃	横長割片 (自然面)		150.6	68.8	29.0	277.9
118-14	203	S187	床直	打製石斧	基部断片	その他	砂岩	不明	横長割片 (自然面)		82.9	82.8	28.1	206.9
117-19	201	Y09	Ⅲb層	打製石斧 未製品	適用外	11	砂岩	適用外	扁平楕円礫		110.8	99.1	41.4	564.3
119-6	205	S139	覆土	打製石斧	未製品			スクレイパー			124.9	79.3	34.2	299.9

第34表 磨製石斧観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	種類	残存率	石材	刃部加工	素材形態	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
120-1	206	S156	覆土	雑形(小形)	完形	珧岩	研磨	横門縁	風化激しい、片刃、側面を敲打、縄文時代早期の所産と考えられる。	49.4	36.5	13.4	40.0
120-2	206	S120	覆土	雑形(小形)	完形	珧岩	研磨	横門縁	片刃、側面を敲打、縄文時代早期の所産と考えられる。	66.6	37.1	17.3	83.3
121-4	206	S1150	覆土	小形扁平磨製石斧	断片	緑色凝灰岩	研磨	不明	不明	68.9	41.4	16.1	61.9
121-6	206	S1167	覆土	小形扁平磨製石斧	完形	緑色片岩	研磨	不明	基部破損後、破損面を研磨	66.7	35.0	13.1	40.9
120-3	206	S1174	床直	雑形(小形)	完形	緑色凝灰岩	研磨	横門縁	片刃、側面を敲打、縄文時代早期の所産と考えられる。	90.9	49.1	23.0	143.2
121-13	206	S124	覆土	磨製石斧(乳棒状)	完形	砂岩	研磨	不明	刃部刃こぼれ顯著	114.7	49.0	32.2	222.5
121-12	206	J03	-	磨製石斧(乳棒状)	基部欠損	緑色片岩	研磨	不明	基部欠損後、縦断面を敲打	97.6	46.6	30.0	224.2
121-16	206	S136	床直	磨製石斧(乳棒状)	基部断片	緑色凝灰岩	研磨	不明		92.0	48.5	32.0	182.6
121-5	206	S850	IIIb層	磨製石斧(定角式)	基部断片	凝灰岩	研磨	不明		77.3	48.7	26.1	172.9
121-11	206	F01	III層	磨製石斧	基部断片	緑色凝灰岩	不明	棒状部		103.0	39.5	33.6	218.1
121-7	206	105	III層	磨製石斧(定角式)	完形	蛇紋岩	研磨	不明	破損による剥落顯著	114.0	55.8	32.2	292.8
121-10	206	S1199	覆土	磨製石斧(定角式)	刃部破損	緑色凝灰岩	研磨	不明	刃部破損	113.4	55.0	25.2	260.9
121-18	206	S127	覆土	磨製石斧(乳棒状)	断片	不明	研磨	不明	刃部断片	74.7	56.9	41.4	180.0
121-14	206	SK111	覆土	磨製石斧(乳棒状)	完形	凝灰岩	研磨	不明		130.1	48.5	34.8	315.2
121-19	206	SK294	覆土	磨製石斧未製品(乳棒状)	完形	砂岩	敲打	縁	基部欠損後再加工を試みる。	150.1	69.8	44.1	669.7
121-9	206	トレンチD	III層	磨製石斧(定角式)	完形	珧岩	研磨	不明	刃部わずかに欠損	134.3	61.4	32.9	368.2
121-15	206	SK111	覆土	磨製石斧(乳棒状)	完形	不明	研磨	不明		150.7	55.8	43.5	524.4
121-8	206	F06	覆土	磨製石斧(定角式)	完形	蛇紋岩	研磨	不明	刃部欠損	121.8	67.0	30.6	386.1
121-3	206	302	III層	磨製石斧(小形)	完形	緑色凝灰岩	研磨	不明	基部に敲打痕、片刃	68.7	26.0	13.8	41.5
121-2	206	S163	埋藏	磨製石斧(小形定角式)	完形	蛇紋岩	研磨	不明	両刃	67.9	36.0	12.8	37.3
121-1	206	SK234	覆土	磨製石斧(小形定角式)	完形	緑色凝灰岩	研磨	不明	両刃、基部わずかに欠損	33.9	14.7	7.0	5.5
120-4	206	S126	覆土	雑形	完形	安山岩	直線打撃	横門縁	全体的に摩耗(石割痕の可能性)、研磨痕は不明瞭、側面を敲打、縄文時代早期の所産と考えられる。	99.0	69.2	21.9	229.4
121-17	206	S1101	覆土	磨製石斧未製品(乳棒状)	刃部断片	緑色片岩	敲打	不明	小形	170.4	65.7	23.6	51.1

第 35 表 スタンプ形石器観察表 (1)

図照番号	図版番号	遺構	出土層位	類別	残存率	石材	彫形加工	成形加工	素材技術	素材形態	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
122-1	207	S163	床直	スタンプ形石器	完形	珉岩	なし	折取	なし	長柄円鏝	底面わずかに摩耗	84.5	60.2	29.1	196.4
126-1	211	S194	覆土	スタンプ形石器	完形	砂岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に潤縁と敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	101.9	85.3	28.8	346.6
126-2	210	S164	床直	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に潤縁と敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	112.1	100.2	35.8	481.7
127-2	212	S1101	覆土	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に潤縁と敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	112.3	82.7	44.1	628.0
124-2	209	S166	覆土	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に潤縁と敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	105.0	111.6	29.9	455.5
126-3	211	S183	床直	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に潤縁と敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	124.9	101.0	45.4	701.2
127-3	212	SS46	Ⅲ層	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	121.5	106.0	47.8	855.4
128-2	213	S1181	覆土	スタンプ形石器	完形	珉岩	敲打	折取	なし	直角鏝	両側面に敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	151.2	101.6	66.9	1267.4
128-1	213	S173	覆土	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	直角鏝	両側面に潤縁と敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	144.5	107.5	67.1	1402.9
126-4	211	S176	覆土	スタンプ形石器	完形	砂岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に潤縁と敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	145.1	137.0	54.8	1267.1
124-5	209	S109	床直	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	118.8	122.2	48.3	820.2
124-4	206	S128	覆土	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	110.7	114.5	40.0	630.9
127-1	212	S112	覆土	スタンプ形石器	完形	安山岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	117.9	91.7	45.7	697.1
125-4	210	B03	Ⅲ層	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	131.0	128.6	49.3	919.8
123-3	208	B03	Ⅲ層	スタンプ形石器	完形	珉岩	叩+敲打	折取	なし	楕円鏝	両側面に敲打による抉り部を整形、底面に摩耗部あり	145.3	117.3	45.1	1048.3

第36表 スタンプ形石器観察表(2)

図面番号	図版番号	遺跡	出土層位	種類	残存率	石材	型形加工	成形加工	素材技術	素材形態	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
125-3	210	B03	Ⅲ層	スタンプ形石器	完形	珧岩	III+敲打	折取	なし	楕円形	両側面に敲打による抉り部を整形。背面に摩耗部あり	126.1	120.9	42.2	602.3
127-4	212	S109	床直	スタンプ形石器	完形	珧岩	III+敲打	折取	なし	楕円形	両側面に敲打による抉り部を整形。背面わずかに摩耗	143.5	128.3	64.3	1323.2
128-3	213	B02	Ⅲ層	スタンプ形石器	完形	安山岩	III+敲打	折取	なし	楕円形	両側面に敲打による抉り部を整形。背面わずかに摩耗	146.9	113.5	58.6	1260.6
122-3	207	S109	覆土	スタンプ形石器	完形	珧岩	なし	折取	なし	長楕円形	端部と背面に敲打痕。背面に摩耗部あり	93.7	78.5	42.2	390.5
124-1	209	S112	覆土	スタンプ形石器	完形	珧岩	III+敲打	折取	なし	長楕円形	両側面に敲打による抉り部を整形。背面に摩耗部あり	84.5	79.4	35.5	280.8
123-2	208	S116	覆土	スタンプ形石器	完形	珧岩	III+敲打	折取	なし	亜角形	両側面に敲打による抉り部を整形。背面に摩耗部あり	103.5	75.9	55.8	450.8
125-1	210	S116	覆土	スタンプ形石器	完形	砂岩	III+敲打	折取	なし	長楕円形	両側面に敲打による抉り部を整形。背面に摩耗部あり	103.7	88.9	39.4	434.9
123-1	208	S112	覆土	スタンプ形石器	完形	砂岩	III+敲打	折取	なし	長楕円形	両側面に敲打による抉り部を整形。背面に摩耗部あり	107.5	83.3	38.6	459.0
123-5	208	S112	覆土	スタンプ形石器	完形	砂岩	III+敲打	折取	なし	長楕円形	両側面に背縁と敲打による抉り部を整形。背面に摩耗部あり	108.6	112.5	60.2	779.9
122-5	207	S109	覆土	スタンプ形石器	完形	珧岩	なし	折取	なし	長楕円形	表面に敲打痕	120.3	88.2	40.7	545.4
126-2	211	S112	覆土	スタンプ形石器	完形	砂岩	III+敲打	折取	なし	長楕円形	両側面に背縁と敲打による抉り部を整形。背面に摩耗部あり	121.9	99.0	45.6	675.4
122-2	207	S112	覆土	スタンプ形石器	完形	砂岩	なし	折取	なし	亜角形	表面に敲打痕	113.9	69.1	52.5	543.9
124-3	209	S110	覆土	スタンプ形石器	完形	珧岩	III+敲打	折取	なし	楕円形	両側面に背縁と敲打による抉り部を整形。背面に摩耗部あり	105.4	109.6	44.9	660.5
123-4	208	S110	覆土	スタンプ形石器	完形	砂岩	なし	折取	なし	亜角形	表面に摩耗部あり	134.0	99.8	57.4	861.9
122-6	207	S109	床直	スタンプ形石器	完形	珧岩	なし	折取	なし	楕円形		120.5	92.4	44.7	608.0
122-7	-	S114	床直	スタンプ形石器	完形	珧岩	なし	折取	なし	長楕円形	上面部と背面に敲打痕	121.0	88.1	50.3	754.9
122-4	-	S114	覆土	スタンプ形石器	完形	珧岩	なし	折取	なし	長楕円形	背面に敲打痕	107.9	72.1	40.6	536.3

第 37 表 礎石器等観察表

国庫番号	採取番号	遺跡	出土層位	形状	産地	接合状態	機能等	石材	採取地	高度加工	製作技術	素材形態	長さ	幅	最大厚 (mm)	最大径 (mm)	最大穴径 (mm)	重量 (g)
122-1	236	5143	床底	1	白石		磨削	磨削	なし	なし	なし	磨削面	自然の凹凸を多量に有し、磨削面は粗面を呈す		300.1	277.0	46.9	14300.4
132-1	-	3137	床底	1	白濁、緑灰色、黒色(打定)		磨削	高品質	磨削	不明	不明	砥			177.3	201.0	40.9	1006.7
132-4	235	3138	-	4	石灰、緑灰色、赤、黒色(打定)	3合煎り(打定)	交互	高品質	磨削	不明	不明	砥	磨削に人相の凹凸を呈す	磨削	404.8	300.6	104.6	12003.0
132-3	235	3139	床底	2	紅褐色		磨削	磨削片付	不明	不明	不明	砥	磨削に凹痕を呈す		336.0	133.4	51.3	2092.3
130-10	234	5007	P-1-2	1	緑色-黒石		磨削	緑色-黒石	磨削	不明	不明	磨削面	磨削に凹痕を呈す		126.6	82.2	34.9	533.9
132-9	210	3302	中1	1	磨削面不明(打定?)		磨削	磨削	不明	なし	なし	共用磨削	磨削に人相の凹凸を呈す、磨削面は粗面を呈す		164.9	71.9	43.2	6200.0
129-10	-	5121	礎上	1	褐色		磨削	磨削	不明	なし	なし	共用磨削	磨削に人相の凹凸を呈す、磨削面は粗面を呈す		123.6	93.5	38.1	1044.3
131-6	-	5194	P-1-9	1	白濁		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削面		123.0	38.8	47.8	1107.4
131-7	-	5199	床底	1	白濁		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削面		100.6	67.4	42.1	1702.2
131-8	-	5124	礎上	3	白濁		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削面		143.7	93.1	41.0	277.3
130-4	-	3123	床底	1	白濁		交互	洗削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削面		154.2	105.2	36.3	836.0
133-7	-	3124	灰底	1	白濁		交互	洗削	なし	なし	なし	共用磨削			366.6	176.6	86.4	1362.9
133-5	-	3120	灰底	1	白濁		交互	洗削	なし	なし	なし	共用磨削			173.1	105.1	40.1	740.4
131-2	-	5142	礎上	1	白濁		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	小形		65.1	38.2	25.1	65.4
131-2	-	5150	床底	1	白濁		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	小形		66.3	61.7	17.7	82.1
130-1	-	5105	床底	1	石灰-黒石		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	小形		70.7	72.5	22.8	290.3
130-4	-	3120	床底	1	磨削不明		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	小形		90.2	73.0	36.1	206.1
130-2	-	3109	灰底	1	磨削不明		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削にわずかな凹痕を呈す		63.8	74.5	20.8	306.6
130-6	-	5126	床底	1	石灰-黒石		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削			66.7	66.0	41.4	472.0
130-8	-	5125	礎上	1	石灰-黒石		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削			36.6	36.5	42.7	852.4
130-7	-	3126	P-10	1	石灰-黒石		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	上部磨削、下部磨削にわずかな凹痕を呈す		114.2	70.9	45.8	652.3
130-8	214	3147	床底	1	磨削不明		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削に人相の凹凸を呈す		116.2	77.8	41.5	505.8
130-9	-	5173	床底	1	磨削不明		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削面は粗面を呈す		116.1	80.7	50.9	665.6
130-2	214	3169	礎上	1	磨削不明		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削にわずかな凹痕を呈す		118.0	90.9	46.9	665.9
132-3	-	5121	床底	1	白石		交互	洗削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削にわずかな凹痕を呈す		53.0	175.8	46.0	2791.3
133-2	-	3119	灰底	1	白石		交互	洗削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削にわずかな凹痕を呈す		260.4	307.9	74.4	6400.0
132-5	-	5121	灰底	1	白石		1/2 交互	洗削	なし	なし	なし	共用磨削	自然の凹凸を利用、磨削面は粗面を呈す		217.4	306.6	67.4	6000.0
132-7	-	5180	礎上	1	白石		交互	磨削	不明	なし	なし	共用磨削	表面に凹痕を呈す		241.5	191.1	96.3	6000.0
132-6	215	3160	礎上	1	白石		交互	磨削	不明	なし	なし	共用磨削	表面に凹痕を呈す		200.1	208.4	92.1	10000.0
133-3	210	3011	礎上	1	赤褐色		交互	洗削	不明	なし	なし	共用磨削	表面に凹痕を呈す		140.2	142.1	36.0	2046.5
130-2	214	3211	礎上	1	磨削		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削に凹痕を呈す		60.9	49.6	44.5	383.9
129-1	214	3101	灰底	1	磨削		交互	高品質	なし	なし	なし	共用磨削	磨削面		62.2	63.3	47.5	189.3
129-9	-	51130	礎上	1	褐色		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削面にノコギリ状の凹痕を呈す、磨削面は粗面を呈す		67.9	61.1	45.8	283.6
129-8	-	5100	床底	1	褐色		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削に凹痕を呈す		67.6	63.4	43.8	261.6
129-6	234	5077	床底	1	磨削		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削面	表面、磨削面に凹痕を呈す	113.5	106.5	44.4	746.5
129-7	-	50419	磨削層	1	褐色		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削			118.9	82.9	55.3	625.5
129-4	-	5121	磨削層	1	褐色		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削面に凹痕を呈す		101.1	74.2	45.7	1261.9
129-5	-	5147	床底	1	褐色		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削に凹痕を呈す		108.9	87.6	66.9	304.2
129-3	214	5003	磨削層	1	褐色		交互	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	磨削に凹痕を呈す		126.1	81.3	55.5	405.9
131-5	-	5120	床底	1	白濁		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	全面に凹痕を呈す		72.8	61.8	43.4	310.8
131-1	-	5184	床底	1	白濁		磨削	磨削	なし	なし	なし	共用磨削	全面に凹痕を呈す		115.9	67.7	34.1	268.1

第 38 表 棒状石器観察表

図面番号	図版番号	遺跡	出土層位	種別	残存率	石材	熱形加工	威形加工	素材技術	素材形態	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
136-17	218	S148	覆土	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		152.3	121.8	64.6	337.2
137-5	218	S1174	覆土	棒状鏃	完形	斑岩	なし	なし	なし	棒状鏃	風化顕著	130.1	52.8	28.4	683.9
136-7	218	S164	覆土	棒状鏃	完形	斑岩	なし	なし	なし	棒状鏃		111.5	42.8	29.4	162.1
136-3	-	S139	覆土	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		103.6	37.8	18.9	114.8
136-11	-	S139	床直	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		118.3	49.5	27.6	216.3
137-1	-	S148	床直	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		138.6	45.1	23.2	228.9
136-5	218	SS50	Ⅲb層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		109.0	33.7	17.8	92.3
136-8	-	SK35	-	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		104.6	37.0	24.5	140.3
136-9	-	SK35	-	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		101.4	38.0	28.9	150.6
136-16	-	SK35	-	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		121.3	49.5	34.6	312.3
136-10	-	SK35	-	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		122.6	45.5	38.6	296.7
136-14	-	SK35	-	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		133.2	47.0	31.8	265.2
136-12	-	SK35	-	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		134.4	36.4	33.9	203.2
137-4	218	SS50	Ⅲb層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		183.2	56.2	40.9	465.7
136-1	-	103	Ⅲ層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		84.0	22.1	18.1	48.3
136-2	-	103	Ⅲ層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		104.2	27.4	24.9	102.8
136-4	-	S118	覆土	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		95.5	38.3	22.1	107.3
136-15	218	F05	Ⅲ層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		129.4	30.8	23.0	142.5
136-18	-	G06	Ⅲ層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		138.9	35.4	34.8	296.1
136-6	-	G05	Ⅲ層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		123.4	41.3	23.3	158.9
136-13	218	F06	Ⅲc層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		136.8	37.5	36.5	281.5
137-3	-	G03	Ⅲ層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		156.4	48.9	29.9	316.4
137-2	-	F05	Ⅲ層	棒状鏃	完形	砂岩	なし	なし	なし	棒状鏃		150.8	61.2	26.0	300.9

第39表 石櫛観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	個数	種別	集合名	残存率	石材	採取加工	成形加工	素材技術	装饰材料	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
131-1	217	S124	覆土	1	石櫛		断片	緑色片岩	敲打・研磨	不明	不明	不明	石櫛破断断片、破断	75.3	73.8	63.9	465.2
134-5	-	S121	土層	1	石櫛	2点集合 (121-0115, 121-0337)	断片	安山岩	敲打・研磨	不明	不明	不明	体部断片、破断	132.5	109.7	102.0	2348.4
134-4	-	S121	覆土	1	石櫛		断片	安山岩	敲打・研磨	不明	不明	不明	体部断片、破断	128.8	112.8	130.0	2176.0
134-3	217	S121	土層	2	石櫛	2点集合 (037, 121-0329)	断片	安山岩	敲打・研磨	不明	不明	不明	石櫛破断断片、破断	218.2	100.2	74.6	2143.2
134-2	217	S154	覆土	1	石櫛		断片	緑色片岩	敲打・研磨	不明	不明	不明	石櫛破断断片、破断	129.2	84.0	52.7	562.2
135-3	-	S130	土層	24	石櫛	4点集合 (130-0081, 12129-4, 14058-4, 14058-7)	断片	安山岩	敲打・研磨	不明	不明	不明	石櫛破断断片、破断	325.8	183.3	147.5	10200.0
135-2	217	S130	土層	20	石櫛	11点集合 (130-0042, 130-0044, 130-0084, 130-0077, 130-0078, 130-0079, 130-0080, 14059-2, 14059-3, 14059-8, 14059-9)	断片	安山岩	敲打・研磨	不明	不明	不明	石櫛破断断片、破断	351.1	157.8	147.2	14200.0
135-1	217	S121	土層	12	石櫛	3点集合 (121-0031, 121-0717, 121-087)	断片	安山岩	敲打・研磨	不明	不明	不明	石櫛破断断片、破断	288.9	148.8	134.5	6400.0
136-4	-	S130	土層	16	石櫛	11点集合 (130-0052, 130-0053, 130-0075, 130-0076, 130-0082, 130-0083, 130-0084, 130-0085, 14058-1, 14058-5, 14058-6)	断片	安山岩	敲打・研磨	不明	不明	不明	体部断片、破断	221.3	168.5	107.8	5600.0

第40表 石鏢・浮子・裝飾品観察表

図面番号	図版番号	遺構	出土層位	個数	種別	残存率	石材	素材形態	所見	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
138-2	218	S121	覆土	1	浮子	完形	輝石	礫		53.6	53.6	12.5	5.3
138-1	218	SK30	覆土	1	浮子	完形	輝石	礫	両面穿孔	97.1	44.1	22.7	25.2
137-9	218	S1199	覆土	1	打欠石鏢	光形	泥岩	楕円礫	小形	62.9	40.5	15.0	57.0
137-7	218	S1198	P-8	1	切目石鏢	完形	泥岩	楕円礫	小形	73.4	45.1	23.7	118.3
137-8	218	SS50	Ⅲb層	1	切目石鏢	完形	泥岩	楕円礫	小形、上端は鈍角で下端は鋭角	66.8	50.0	20.9	91.1
137-6	218	S1146	覆土	1	切目石鏢	完形	砂岩	楕円礫	小形	58.5	33.7	15.7	43.9
138-5	218	S138	P-25	1	裝飾品	完形	蛇紋岩	不明	両面穿孔	45.2	23.9	10.0	11.1
138-3	218	S137	-	1	裝飾品	完形	玉髓	小礫	摩耗顕著	25.1	13.1	6.1	2.2
138-4	218	S163	覆土	1	裝飾品	完形	玉髓	小礫	摩耗顕著	30.0	14.8	9.1	4.2
138-6	218	M02	Ⅲa層	1	裝飾品	欠損	霏石	不明	両面穿孔、穿孔部に縦ズレ痕あり	30.3	16.9	6.4	4.4
138-8	218	SK225	覆土	1	裝飾品	完形	砂岩	不明	両面穿孔、穿孔部に縦ズレ痕あり	48.6	18.1	5.1	7.3
138-11	218	S129	覆土	1	裝飾品	断片	玉髓	小礫	断片、玉素材の可能性	20.8	9.0	8.4	1.7
138-10	218	S129	床直	1	裝飾品	完形	玉髓	小礫	玉素材の可能性	18.0	14.1	9.4	2.7
138-9	218	H04	Ⅲ層	1	裝飾品	完形	447.65	割片	加熱、両面穿孔、側面磨削の痕跡あり	58.7	58.1	10.7	26.6
138-7	218	S134	Ⅲ層	2	裝飾品	完形	不明	割片	摩耗顕著	20.6	22.3	3.8	2.6

VI 小 結

1. 恋ヶ窪東遺跡の概要

恋ヶ窪東遺跡は、野川源流域の一つである「さんや谷」の東側に設定された地域である。さんや谷を挟んで本遺跡の西側に位置する日立中央研究所内の羽根沢遺跡、さらにその西側の恋ヶ窪遺跡を併せて、縄文時代中期前半から後半の集落が営まれてきた地域として従来から注目されてきた。恋ヶ窪遺跡については、遺跡の範囲確認調査等の成果から集落の中央に墓域を有する縄文時代中期の代表的な環状集落として認知されてきたのに対し、恋ヶ窪東遺跡については近年まで単発的で小規模な調査しか行われていなかったことから、その内容については縄文時代中期の集落が想定され、また早期の燃系文期の遺物が少量報告されている程度であった。平成元年に調査された本調査区北側の山一證券独自調査で中期後半の柄鏡形敷石住居が1軒検出された。この調査報告を契機とし、野川源流域における中期終末期の柄鏡形敷石住居の分布について、羽根沢遺跡でさんや谷の西斜面付近で3軒検出されていることから、さんや谷周辺の台地縁辺部から斜面地付近に中期終末期の集落が存在する可能性が指摘されるようになった。恋ヶ窪谷周辺に展開する恋ヶ窪遺跡の集落が中期中葉（勝坂Ⅱ式期）に始まり、加曾利E式終末期まで継続しており、また柄鏡形敷石住居も台地縁辺部から緩斜面にかかる位置にあることから、羽根沢遺跡を挟んで恋ヶ窪遺跡と恋ヶ窪東遺跡との集落関係、および国分寺崖線沿いに展開する多喜窪遺跡との関係についても注目される事となった。

このような前提のもとに調査を実施した結果、本文に記したように旧石器時代の石器群と数量の多寡はあるものの縄文時代草創期から晩期にかけて全時期の土器が出土した。また、早期の住居、および中期中葉の住居、中期後半の柄鏡形敷石住居、さらに多量の土坑群と掘立柱建物等、予想を遙かに超えた遺構群が検出された。以下、縄文時代の遺物・遺構について纏め、今後の課題について検討する。

2. 土器について

縄文時代の6大別全ての土器が出土した。本文と重複するが、時期と型式を概観する。

草創期前半の土器である隆縁文土器・爪形文土器は破片であり、各1点ずつで少量ではあるが、国分寺市内では初の出土資料である。草創期末葉の燃系文系土器として井草Ⅱ式・大丸式・夏島式が出土した。

早期燃系文系土器は、稻荷台式・花輪台式・稻荷原式・東山式・平坂式が出土した。早期押型文系土器は樋沢式・細久保式土器が出土した。沈線文系土器・条痕文系土器は田戸下層式・

鶏ヶ島台式・茅山下層～上層式が出土した。

前期は花楨下層式・関山Ⅰ～Ⅱ式・諸磯a～c式・十三菩提式が出土した。

中期の土器は阿玉台式・勝坂式・加曾利E式・曾利式が出土した。

後期・晩期の土器は称名寺式・堀之内式・加曾利B式・大洞A式が出土した。大洞A式は国分寺市内では初の出土資料である。

これらの資料で注目されるのは、最も出土量が多い中期の土器の出土傾向である。全体的に見れば恋ヶ窪・多喜窪遺跡と同様の状況にも見られるが、両遺跡で多量に出土する連弧文土器が全く出土していない事は示唆的である。本文中に記述したように土地利用の補充関係が想定されるのか、あるいは連弧文土器の受容形態が集落毎に異なっていたのか今後の検討を要するところである。

3. 石器について

出土した石器群は石鏃・有舌尖頭器・尖頭器・石錐・小形石匙・粗製石匙・搔器・削器・筒状石器・両極石器・石核・剥片類・打製石斧・磨製石斧・スタンプ形石器・敲石・凹石・石棒・浮子・装飾品等であり、多種多様である。最も出土量が多い石器は早期～後期の石鏃、早期のスタンプ形石器、中期の打製石斧・磨製石斧である。特に早期の石鏃は長さが1cm前後の特徴的な小形石鏃が多量に出土した。また本文中にも記載したが、草創期の所産と考えていた有舌尖頭器については、草創期の土器が伴しているものの、後期初頭の土器も多量に出土している事から、後期から晩期に出土する有柄鏃の可能性も考慮せざるをえないとした。特に本遺跡の縄文時代確認面は近・現代の著しい攪乱を受けており、周辺遺跡での有舌尖頭器の出土状況と伴土器の再検証が必要であろう。

また、黒曜石の原産地を観察すると麓山・恩馳島・星ヶ台・柏峠1群が確認され、特に恩馳島が多い傾向に有った。野川河流域の集落に搬入される黒曜石の原産地が信州系黒曜石よりも鳥嶺系黒曜石が多いことは、黒曜石の流通システムが先史時代を通じてどのように変容したかを考える上で重要な資料と言えよう。

4. 遺構について

5棟の掘立柱建物跡は国分寺市内では始めて検出された遺構であるが、土器が出土していないため時期は明らかではない。規模は小形でいわゆるロングハウスの建物とは考えられず、倉庫的な役割を持っていたのだろうか。早期の住居は5軒検出された。中期から後期の住居が調査区全域から検出されているのに対し、早期の住居は調査区の東端に集中しており占地に差異が認められた。調査区の攪乱の甚だしさと中期住居の重複・切り合い・拡張は著しく、結局のところ発掘時点での数と整理段階での数に著しい誤差が生じ、正確な住居の軒数を把握する

ことができず、最終的には炉の存在と柱穴の配列で明らかになる住居のみを数えた。形状が明らかな柄鏡形敷石住居（S119・21）は後期初頭（称名寺1式）の住居である。形状が不明確な柄鏡形敷石住居（S120・24・29）は中期後葉（加曾利E3～E4）の住居である。同様に拡張が重複か判然とせず、敷石（配石か？）と張出部が認められるS125は後期初頭（称名寺1式）の住居である。柄鏡形敷石住居（と、考えられる住居）は台地の縁辺から斜面にかけて分布している。恋ヶ窪遺跡では中期後葉（加曾利E3～E4）の柄鏡形敷石住居が2軒の検出されているが、さんや谷を中心に羽根沢遺跡と恋ヶ窪東遺跡で数えると現在までに10軒が検出され、その時期は中期後葉から後期初頭におよび、この点だけを比較すれば多喜窪遺跡の集落の終わりと恋ヶ窪東遺跡のそれには若干の時期差が認められよう。

その他、大量の土坑群が検出され、その中には石器が埋納されている土坑や完形の壺が伏せの状態に埋納されている土坑もあるが、恋ヶ窪遺跡のように明確に集落と土坑の配置が区分できなかった。ただしSK227Jを中心に17基の土坑が放射状に展開する土坑群には何らかの意味がある可能性が指摘される。また集石土坑、炉穴など多様な遺構が検出されたが、これらの遺構を時期区分し、調査区内における時系列的な遺構分布とその傾向を明らかにすることはできなかった。

5. 今後の課題

おもに、今次調査の成果を恋ヶ窪遺跡と対比させながらまとめてきた。草創期前半期の資料や晩期の資料が出土した事は、従来早期～中期を中心に考究されがちであった野川源流域の調査について、草創期から晩期も視野に入れた調査が必要となりつつある事を示唆した。それに伴う石器群の再検討も要しなければならないであろう。また掘立建物跡の存在が明らかにされた事から、小穴群や土坑群の配置状況から柱穴群を抽出する試みが要求される。今後こうした調査精度をより高めることによって野川源流域の縄文時代の変遷がより明確にされなければならない。

最後に、本報告書の欠落部分について述べなければならない。発掘作業から整理作業を担当した調査員は、繰り返し述べたように復乱と遺構の複雑な切り合いの著しさのため現場段階での遺構把握を断念し、あり得そうな遺構の大部分を検証無しに住居とし、その周辺から出土する遺物はその内容を検討することなく全てトータルステーションによって番号を付して取り上げた。その結果住居の数は200軒を超え、微細な土器片すら登録された。これは整理作業に混乱をもたらした。図面上の作業であらためて住居の確認のしなおいが行われ、微細土器片まで水洗いと注記が行なわれた結果、遺物の収納とコンピュータ上のデータ処理、および台帳作成のために膨大な時間が費やされたが、1枚の接合関係図も作成されなかった。また、発掘調査から報告書の作成まで指揮してきた担当者が諸般の事情で平成14年11月に退職したため、後任に

より、遺情図面の作成と土器の実測を継続した。土器の観察については、年度末の多忙な時期に拘わらず全面的に黒尾氏等にお手伝い願った。また、国分寺市遺跡調査会作業員諸氏は深夜に及ぶ作業を厭わず行っていただいた。それでもなお、住居内出土遺物の接合関係図は作成できなかった。また、石器の分析については岡アルカの角張、池谷西氏の精緻な観察と論考ならびに黒曜石の原産地同定結果を頂きながらこれらを全文掲載するための編集を行わず、要点だけを抜粋せざるを得なかった。さらに旧石器時代については遺物掲載のみとなってしまった。これらの文責は編集者にある。原稿をいただいた方にはお詫び申し上げると共に、今後これらの欠落資料については何らかの形で公表し、恋ヶ窪東遺跡の全容を考察して行きたい。

参考文献

(土器について)

- 石井 寛1992「称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録』第9冊 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 石井 寛1993「堀之内1式土器群に関する問題」『牛ヶ谷遺跡 華蔵台南遺跡』（財）横浜市ふるさと歴史財団
- 板倉敏之・萩野早苗・松島悦子・加藤里美1997「東京都新宿区 百人町三丁目西遺跡Ⅲ」新宿区百人町遺跡調査会
- 今村啓爾1981「諸磯式土器」『縄文文化の研究 縄文土器1』3 雄山閣
- 今村啓爾2000「諸磯c式の正しい編年」『土曜考古』第24号 土曜考古学研究会
- 今村啓爾2001「十三善見式前半期の系統関係」『土曜考古』第25号 土曜考古学研究会
- 岡本東三1987「押型紋土器」『季刊考古学 特集縄文文化の地域性』第21号 雄山閣
- 北上市教育委員会1980『九年橋遺跡第6次調査報告書』
- 黒尾和久1995「縄文中期集落遺跡の基礎的検討（Ⅰ）」『論集 宇津木台』第1集 宇津木台地区考古学研究会
- 黒尾和久・小林謙一・中山真治1995「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」『縄文中期集落研究の新地平 発表要旨』縄文中期集落研究グループ・宇津木台地区考古学研究会
- 黒尾和久・瀧川子1997「早期の土器・前期の土器」『坪松B・引谷ヶ谷戸・儘上・天王沢』秋川南岸道路関連遺跡調査会
- 小林謙一1993「縄文草創期縄文土器の施文方法について」『湘南藤沢キャンパス内遺跡』第1巻
- 小林謙一1994「草創期前半期縄文土器について」『南殿治山遺跡発掘調査報告書 第1巻縄文時代草創期』藤沢市教育委員会
- 小林謙一1984「中部・関東地方における勝坂・阿玉台式土器成立期の様相」『神奈川考古』第19号 神奈川考古同人会
- 小林謙一1999「花見山遺跡の縄文草創期土器に触れて」『横浜市歴史博物館記要』第3号
- 坂本彰・鈴木重信・倉沢和子1995「花見山遺跡」財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 鈴木徳雄1990「称名寺式土器」『調査研究集録 特集称名寺式土器に関する交流研究会の記録』第7冊 横浜市埋蔵文化財センター

芹澤廣衛・福田純司2002『落川・一の宮遺跡Ⅲ 原始編【第一分冊】』落川・一の宮遺跡(日野3・2・7号線)

調査会

谷口康浩 1989『簡儀式土器様式』『縄文土器大観 1 草創期 早期 前期』小学館

東京都調代母子竈遺跡調査会 1997『網代門口』

戸沢充則ほか 1987『縄文様式土器調査研究報告書』長野県岡谷市教育委員会

中西充ほか 1982『神谷原Ⅱ』

原田昌幸 1991『縄文系土器様式』考古学ライブラリー61 ニュー・サイエンス社

藤沼邦彦 1989『亀ヶ岡式土器様式』『縄文土器大観 4 後期 晩期 続縄文』小学館

山内清男 1969『縄文草創期の諸問題』『MUSEUM』第224号

(石器について)

竹岡俊樹 1988『石器研究法』言叢社

角張淳一 1998『石器研究の感想』『東京考古』東京考古談話会

角張淳一 2000『縄石器研究の感想』『東京考古』18号 東京考古談話会

池谷勝典 2000『打製石斧研究序論 -水遺跡出土の打製石斧について-』『東京考古』18号
東京考古談話会

池谷勝典 2001『附編2 榛名平遺跡出土の打製石斧について』

『榛名平遺跡』佐久市埋蔵文化財調査報告書 第84集 佐久市教育委員会

池谷勝典 2001『打製石斧研究の着眼点』『佐久考古通信』No. 82 佐久考古学会

(武蔵国分寺跡関連報告書)

国分寺市 1986『国分寺市史 上巻』

(恋ヶ窪遺跡関連報告書)

恋ヶ窪遺跡調査団 1979『東京都国分寺市 恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ』国分寺市文化財調査報告第8集

1980『東京都国分寺市 恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ』国分寺市文化財調査報告第11集

1982『東京都国分寺市 恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅲ』国分寺市文化財調査報告第14集

国分寺市遺跡調査団 1990『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅰ-山一証券国分寺独身寮建設に伴う調査-』

1992『東京都国分寺市 恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅵ-日立中央研究所研究棟・食堂・
プール更衣室建設工事に伴う調査-』国分寺市文化財調査報告第40集

Ⅶ 総括

本書は第一期と第二期にわけて平成2年度から8年度までの長期間にわたり、発掘調査を行った都営本町四丁目団地の建替工事に伴う事前調査の発掘調査報告書である。調査地は、「さんや谷」と称される小支谷の東面にある。この谷は野川に注ぐ支流が湧き出す湧水地にあたり、遺跡に西面する日立中央研究所の中には、現在でも各所に湧水点があり広い池を形成しており、先史時代においても湧水を背景とした良好な住環境であった事が容易に推測される地点である。

最初に調査成果についてまとめる。旧石器時代の石器集地点の検出。縄文時代では草創期から晩期にいたる遺構・遺物が検出された。中心となる時代は縄文時代中期であり、掘立柱建物跡5棟、5件の柄鏡形敷石住居を含む竪穴住居189軒、屋外埋壘7基、集石土坑61基、土坑341基、陥穴4基が検出され、およそ3000箱におよぶ大量の縄文土器と石器・礫が出土した。土器は中期中葉の阿玉台式から勝坂式期・加曾利E式期が中心に出土している。189軒の住居の複雑な切り合いと後世の建築物による攪乱・削平のために、住居の遺存状況と遺物の出土状況を対応させる事が予想外に困難を極め、本来は集落の変遷とその規模の変化を土器型式の変化と対応させながら描き出す事が、結果として実現する事ができなかった。

中期の遺構・遺物が中心とは言え、草創期の隆線文系土器、爪形文系土器は国分寺市内では初出の資料である。さらに、早期の燃系文系・押型文系・条痕文系土器群、前期の諸磯式・十三菩薩式、後期の称名寺式・堀之内式、晩期の大祠式期の土器が、数量の多寡はあるものの縄文時代全期間のほぼ相当する土器群が出土している。これに対して中期以外で確実に時期が判別される遺構は、早期の住居5件と炉穴2基および後期の住居3軒である。爆発的に増加した中期の住居掘削のためにそれ以前の遺構は滅失し、それ以降の時期については先述したように、切り合いと攪乱・削平のために遺構の時期を判別し得なかった可能性を指摘されよう。

こうした状況から本調査の成果を総括する。調査地区は湧水に恵まれ、旧石器時代から人々の生活の舞台となってきた。旧石器時代終末から縄文時代草創期、早期を経て晩期に至るまで、土器型式的には途切れることなく連続と先史時代人の痕跡を検出する事ができた。その中でも中期中葉から後半にかけて集落は爆発的に増加した。残念ながら同時存在の住居の抽出による、集落規模の復元はできなかったが、特に5棟の掘立柱建物の存在は集落規模の大きさを推測させる。

今後の課題として、中期以外の土器群と遺構群について注意を喚起しておきたい。確かに数量的に中期の資料が突出するにしても、先後の資料がこのように充実してきたことから、野川源流域における縄文時代遺跡の調査・研究目標をその初源期と終末期の様相解明に向ける必要性を痛感した。本書がそうした研究の足がかりとなる事を期待して撰筆する。

(調査団長 吉田 格)

国分寺市遺跡調査会組織 (平成15年3月現在)

－役員及び監事－

会 長	坂詰 秀一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	吉田 格	調査団長
理 事	大川 清	国土領大学名誉教授
理 事	星野 信夫	国分寺市長
理 事	太平 恵吾	国分寺市教育委員会委員長
理 事	野村 武郎	国分寺市教育委員会教育長
理 事	藤間 恭助	元国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	星野 亮雅	元国分寺市社会教育委員
理 事	本多寅太郎	国分寺市文化財保護審議会副委員長
理 事	古関 豊	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	関口雄基臣	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	北原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	石田 和彦	東京都教育庁生涯学習スポーツ部副参事(文化財担当)
理 事	小林 文治	国分寺市教育委員会教育部長
監 事	榎戸 潔	元国分寺市社会教育委員
監 事	岡崎 完樹	東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課埋蔵文化財係長

－武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会－

委 員 長	吉田 格	(考 古)
委 員	坂詰 秀一	(考 古)
委 員	大川 清	(考 古)

－事 務 局－

事務局長	伊藤 正蔵	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局員	豊泉 文夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局員	田中富美雄	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係員
事務局員	松崎亜希子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
事務局員	福井 亮	国分寺市遺跡調査会

－調 査 団－

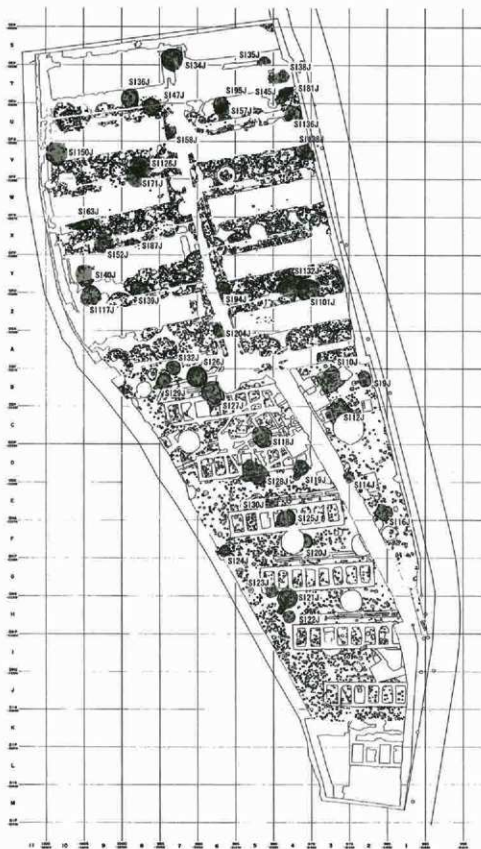
調査団長	吉田 格	元国分寺市文化財保護審議会委員
主任調査員	福田 信夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調査員	上村 昌男	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調査員	上敷領 久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調査員	岩崎 玲子	国分寺市教育委員会嘱託遺跡調査員(平成14年12月31日退職)
調査員	木下さおり	国分寺市遺跡調査会
調査員	板倉 敏之	国分寺市遺跡調査会
調査員	吉田 好孝	日本窯業史研究所
調査員	吉岡 秀範	日本窯業史研究所

報告書抄録

ふりがな	こいがくぼひがしいせきほくつちようさがいほうⅢ							
書名	恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅲ							
副書名	都営本町四丁目閉地建替工事に伴う事前調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	国分寺市遺跡調査団 (団長 吉田格) 上敷領 久							
編集機関	国分寺市遺跡調査会							
所在地	〒185-8501 東京都国分寺市戸倉1丁目6-1 国分寺市教育委員会内 TEL042-325-0111							
発行年月日	西暦2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こいがくぼひがしいせき 恋ヶ窪東遺跡	とろきょうとくふんてし 東京都国分寺市 ほんちょう 本町	13-214	No57	35度 42分 00秒 ～ 35度 41分 30秒	139度 28分 48秒 ～ 139度 28分 47秒	1990.11.19 ～ 1992.4.28 (第1期) 1994.10.28 ～ 1996.8.23 (第2期)	12,643.30	都営住宅建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
恋ヶ窪東遺跡	集落跡	縄文時代 (草創期～ 晩期) 旧石器時代	据立柱建物 5棟 住居 189軒 屋外埋甕 7基 集石土坑 61基 土坑 341基 炉穴 2基 陥穴 4基 特殊遺構 35基		縄文土器・ミニチュア 土器・耳栓・器台・ 尖頭器・石鏃・石錐・ 鋸器・打製石斧・石匙 土製円板・石棒			
			集石 5基		細石刃・尖頭器 ナイフ形石器			

圖 面

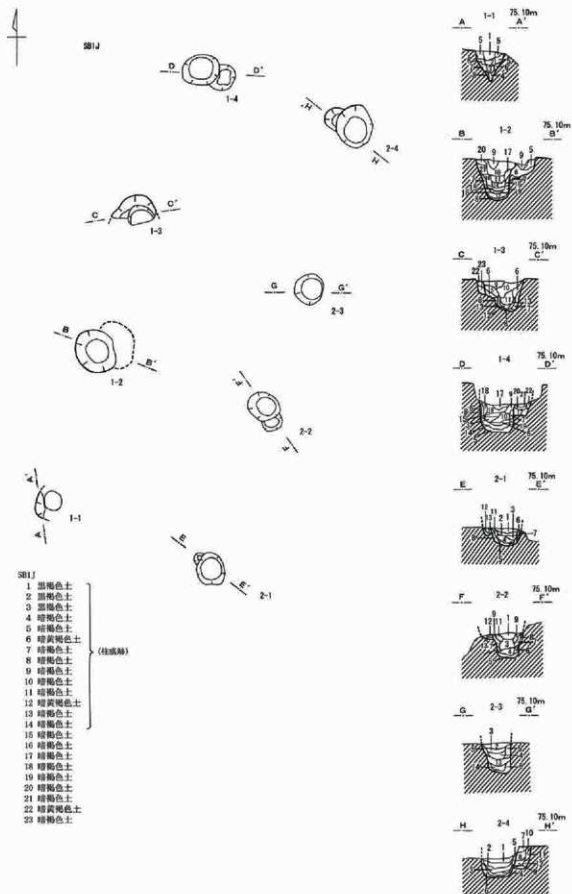
図面1 住居遺構配置図



図面2 掘立柱建物・屋外埋壘・集石土坑・土坑・陥穴・特殊遺構・炉穴遺構配置図



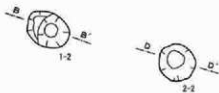
図面3 SBIJ 掘立柱建物



図面4 SB2・3J 掘立柱建物



SB2J



A 1-1 74.90m
A'



B 1-2 74.90m
B'



C 2-1 74.90m
C'



D 2-2 74.90m
D'



SB2J

- 1 橙褐色土
- 2 棕褐色土
- 3 明褐色土
- 4 暗赤褐色土 少量
- 5 黄褐色土
- 6 明褐色土
- 7 黄褐色土
- 8 暗赤褐色土
- 9 暗黄褐色土
- 10 明褐色土 少量



SB3J



A 74.30m
A'



B 74.30m
B'



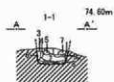
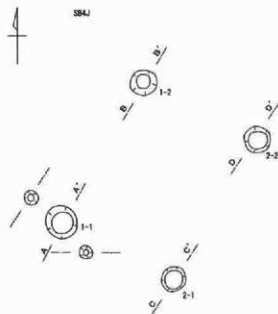
C 74.30m
C'



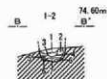
D 74.30m
D'



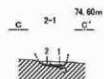
図面5 SB4・5J 掘立柱建物



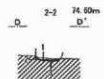
- | | |
|--------------|----------------|
| 1 暗茶色土 | 8 黄褐色土 ロームブロック |
| 2 暗褐色土 | 9 茶色土 |
| 3 暗灰色土 | |
| 4 黒色土ブロック | |
| 5 暗黄色粘質土ブロック | |
| 7 暗黄褐色土 | |



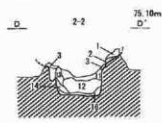
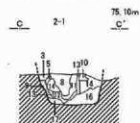
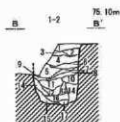
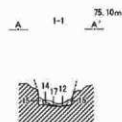
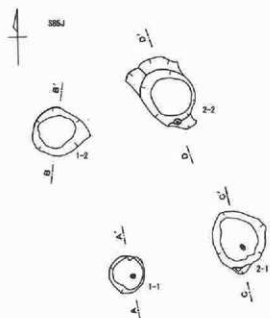
- | | |
|-----------|---------------|
| 1 茶褐色土 | 4 暗褐色土 |
| 2 ロームブロック | 5 暗黄色土粘質土ブロック |
| 3 暗茶色土 | 6 ロームブロック |
| | 7 暗黄褐色土 |



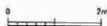
- | |
|----------------|
| 1 暗茶褐色土 |
| 2 暗褐色土 |
| 3 黄褐色土 ロームブロック |



- | |
|----------------|
| 1 暗黄褐色土 |
| 2 暗褐色土 |
| 3 黄褐色土 ロームブロック |



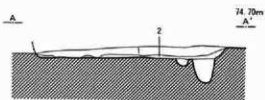
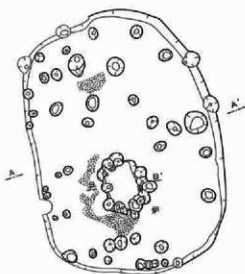
- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 暗黒褐色土 | 7 灰暗褐色土 |
| 2 暗黒褐色土 ローム粒子少量 | 8 灰暗黄褐色土 |
| 3 暗褐色土 炭化物少量 | 9 灰暗黄褐色土 |
| 4 暗褐色土 | 10 灰暗褐色土 |
| 5 暗茶褐色土 | 11 暗黒褐色土 炭化物少量 |
| 6 暗黒褐色土 炭化物少量 | 12 灰暗褐色土 |
| | 13 暗黄褐色土 ロームブロック少量 |
| | 14 灰暗黄褐色土 ロームブロック少量 |
| | 15 灰褐色土 ロームブロック多量 |
| | 16 暗黄褐色土 ロームブロック多量 |



図面6 S19J 住居



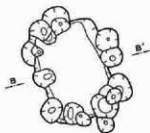
S19J住居



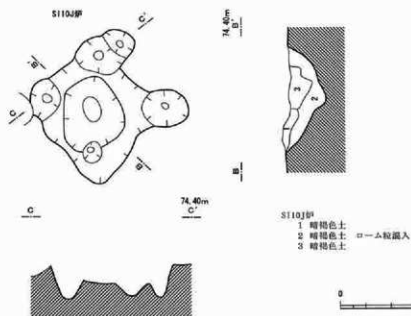
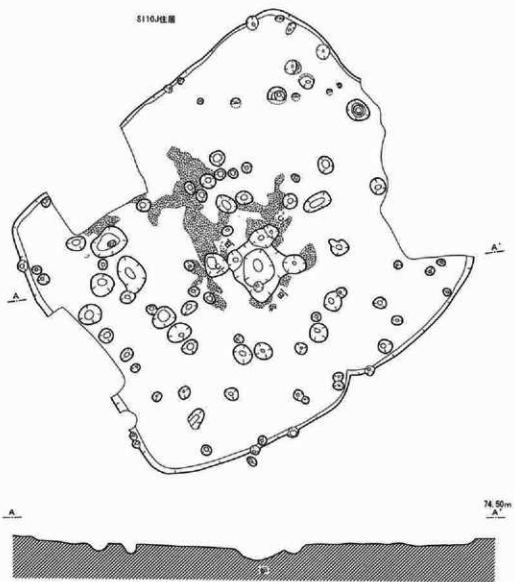
S19J

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 明褐色土少量

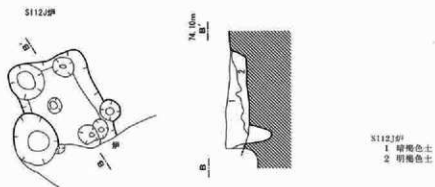
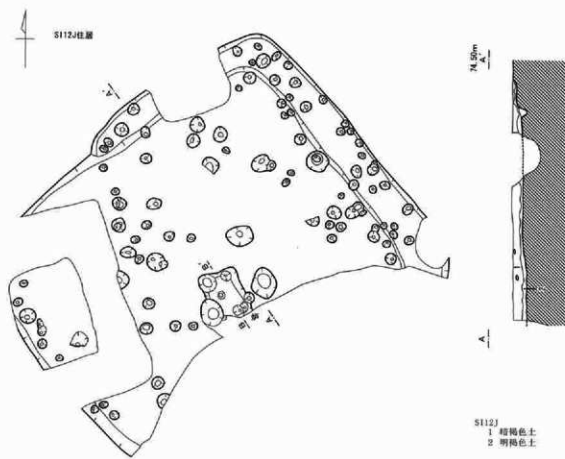
S19J跡



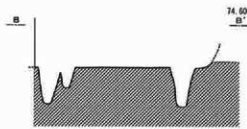
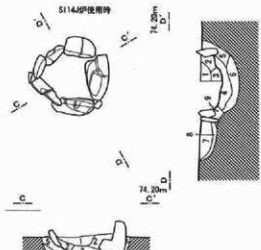
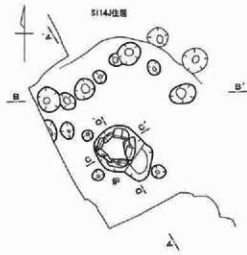
図面7 S110J 住居



図面8 S112J 住居

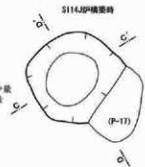


図面9 S114・16J 住居

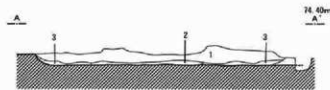
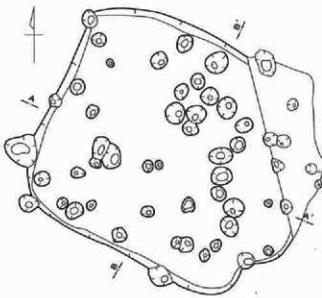


- S114J
- 1 暗褐色土
 - 2 明褐色土 炭化物全少量含む
 - 3 褐色土

- S114JSP
- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒多量
 - 2 暗褐色土 焼土粒・ローム粒多量
 - 3 暗褐色土 焼土粒多量 炭水化物粒少量
 - 4 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量
 - 5 明褐色土
 - 6 黄褐色土 被熱ローム
 - 7 暗褐色土
 - 8 暗褐色土
 - 9 明褐色土



S116J住居

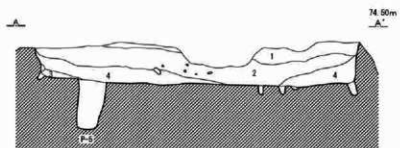
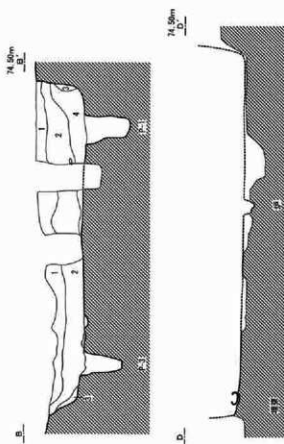
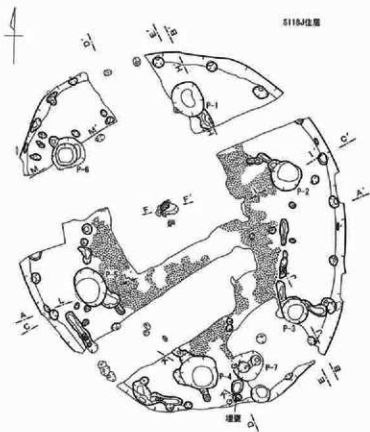


- S116J
- 1 暗褐色土
 - 2 明褐色土
 - 3 褐色土

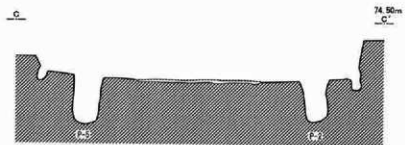


図面10 S118J 住居

S118J住居



- S118J
 1 暗褐色土 ローム粒多量
 2 暗褐色土 ローム粒多量 同化物粒少量
 3 明褐色土 暗褐色土混入
 4 暗褐色土 ローム粒多量



図面11 S118J 住居

S118J

H P-1 73.90m
H



I P-2 73.90m
I'



J P-3 73.90m
J'



K P-4 73.90m
K'



L P-5 73.90m
L'



M P-6 73.90m
M'



S118J小穴

- | | | |
|---------|-------------|-----------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒・炭化物粒多量 | ロームブロック混入 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒・炭化物粒多量 | |
| 3 暗褐色土 | ローム粒多量 | |
| 4 暗褐色土 | ロームブロック混入 | |
| 5 暗褐色土 | ロームブロック混入 | |
| 6 明褐色土 | | |
| 7 暗褐色土 | ローム粒多量 | ロームブロック混入 |
| 8 暗褐色土 | ローム粒多量 | ロームブロック混入 |
| 9 黒褐色土 | ローム粒多量 | |
| 10 暗褐色土 | ローム粒多量 | |
| 11 暗褐色土 | ローム粒多量 | |



F 73.90m
F'

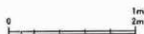


埋蔵



S118JF

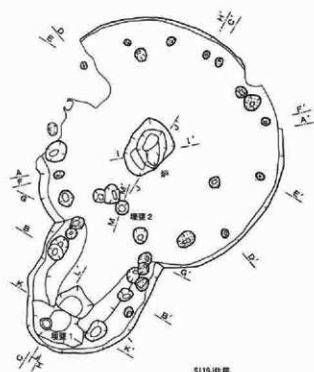
- 1 暗褐色土 黄土類・炭化物粒少量
- 2 明褐色土



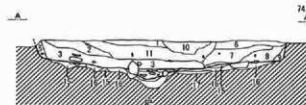
図面12 S119J 住居



S119J遺物出土状況図

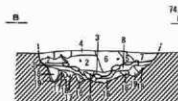


S119J住居



74.50m

A-A'



74.50m

B-B'



74.50m

C-C'



74.50m

H-H'



74.50m

D-D'



74.50m

F-F'



74.50m

E-E'



74.50m

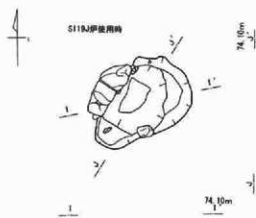
G-G'

S119J

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 明褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 明褐色土
- 6 暗褐色土
- 7 暗褐色土
- 8 暗褐色土
- 9 明褐色土
- 10 暗茶褐色土 ローム粒子少量
- 11 暗褐色土 ローム粒子多量
- 12 明褐色土
- 13 暗褐色土 ロームブロック少量
- 14 明褐色土
- 15 暗褐色土 硬質
- 16 暗褐色土 硬質
- 17 暗茶褐色土 硬質
- 18 明褐色土
- 19 明褐色土



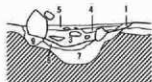
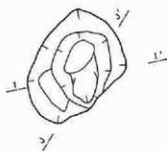
図面13 SI19J 住居



74.10m



SI19J伊構造時



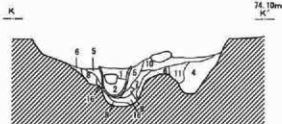
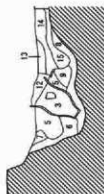
SI19J伊

- | | |
|----------|---------|
| 1 暗褐色土 | 8 暗褐色土 |
| 2 暗褐色土 | 9 暗褐色土 |
| 3 暗褐色土 | 10 暗褐色土 |
| 4 黒褐色土 | 11 暗褐色土 |
| 5 暗褐色土 | 12 暗褐色土 |
| 6 炭土ブロック | |
| 7 被熱ローム | |

SI19J埋没1



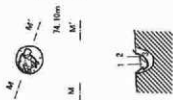
74.10m



SI19J埋没1

- | | |
|--------|---------|
| 1 暗褐色土 | 9 暗褐色土 |
| 2 暗褐色土 | 10 暗褐色土 |
| 3 暗褐色土 | 11 暗褐色土 |
| 4 明褐色土 | 12 暗褐色土 |
| 5 暗褐色土 | 13 暗褐色土 |
| 6 明褐色土 | 14 暗褐色土 |
| 7 暗褐色土 | 15 暗褐色土 |
| 8 明褐色土 | 16 暗褐色土 |

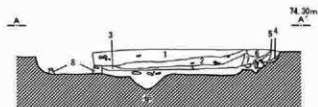
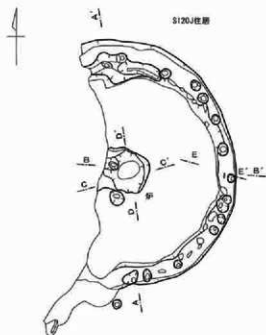
SI19J埋没2



- SI19J埋没2
- | |
|--------|
| 1 暗褐色土 |
| 2 暗褐色土 |
| 3 暗褐色土 |

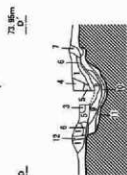
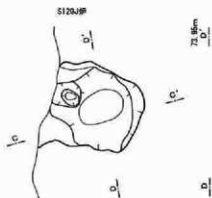
0 1m

図面14 S120J 住居



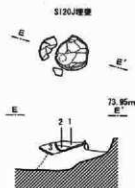
S120J

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 焼土粒子少量
- 3 黒褐色土 焼土多量
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 黒褐色土 焼土粒子少量
- 7 暗褐色土
- 8 焼土ブロック



S120J^P

- 1 黒褐色土 焼土粒子少量
- 2 暗褐色土 焼土粒子多量
- 3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒多量
- 4 暗褐色土
- 5 焼土ブロック
- 6 放射ローム
- 7 暗褐色土
- 8 暗褐色土 焼土粒子多量
- 9 暗褐色土
- 10 明褐色土
- 11 暗褐色土
- 12 暗褐色土

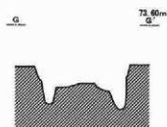
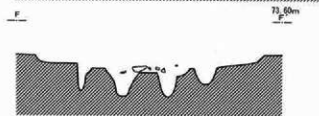
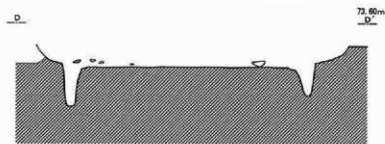
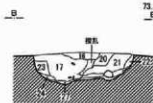
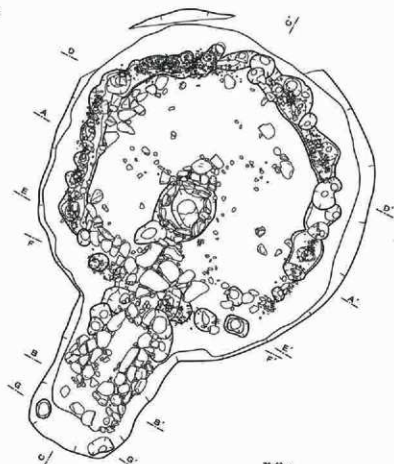
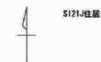


S120J埋蔵

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 暗褐色土



図面15 S121J 住居

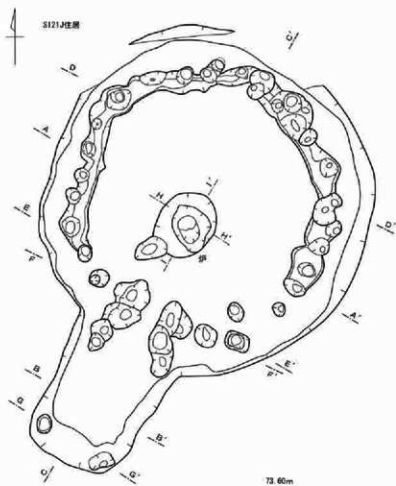


S121J

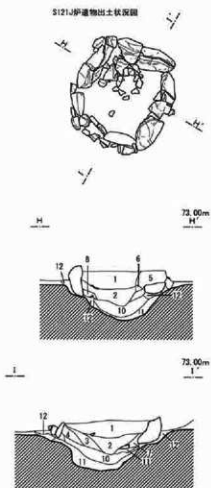
- 1 暗褐色土 ①-△粒・粘土粒少量
- 2 暗褐色土 ①-△粒・粘土粒少量
- 3 暗褐色土 ①-△粒・粘土粒少量 炭化植物微量
- 4 暗褐色土 ①-△粒多量 粘土粒少量
- 5 暗褐色土 ①-△粒・粘土粒少量
- 6 暗褐色土 ①-△粒・粘土粒少量
- 7 暗褐色土 ①-△粒多量 粘土粒・炭化植物少量
- 8 暗褐色土 ①-△粒少量
- 9 暗褐色土 ①-△粒少量 粘土粒微量
- 10 暗褐色土 ①-△粒少量
- 11 暗褐色土 ①-△粒少量
- 12 暗褐色土 ①-△粒少量
- 13 暗褐色土 ①-△粒・粘土粒多量 炭化植物少量
- 14 暗褐色土 ①-△粒多量 粘土粒・炭化植物少量
- 15 暗褐色土 ①-△粒少量
- 16 暗褐色土 ①-△粒少量 炭化植物微量
- 17 暗褐色土 ①-△粒少量
- 18 暗褐色土 ①-△粒少量
- 19 暗褐色土 ①-△粒少量
- 20 暗褐色土 ①-△粒少量
- 21 暗褐色土 ①-△粒少量
- 22 暗褐色土 ①-△粒少量
- 23 暗褐色土 ①-△粒少量
- 24 暗褐色土 ①-△粒少量
- 25 暗褐色土 ①-△粒少量
- 26 暗褐色土 ①-△粒少量
- 27 暗褐色土 ①-△粒少量
- 28 暗褐色土 小石 (2~3cm大) 混入
- 29 暗褐色土 小石 (2~3cm大) 混入
- 30 暗褐色土 小石 (2~3cm大) 混入
- 31 暗褐色土 ①-△粒少量
- 32 暗褐色土 ①-△粒少量
- 33 暗褐色土 ①-△粒少量
- 34 暗褐色土 ①-△粒少量



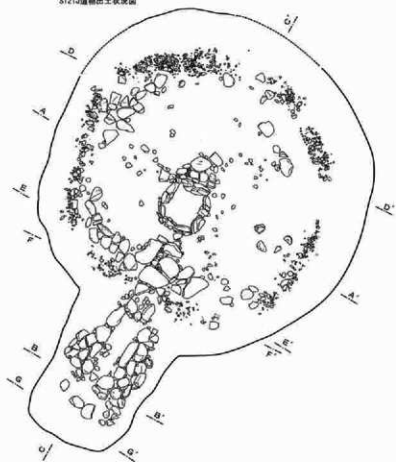
図面16 S121J 住居



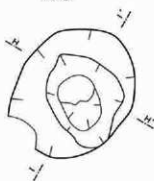
S121J遺物出土状況図



S121J遺物出土状況図



S121J伊



S121J伊

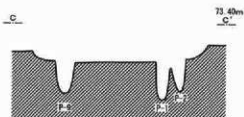
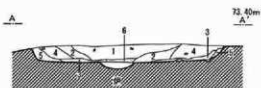
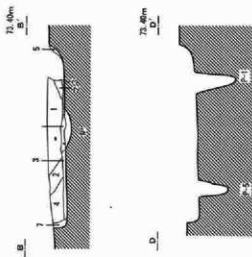
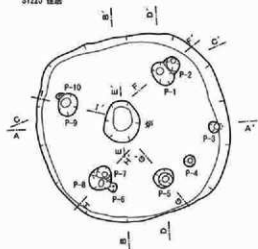
- | | |
|---------|--------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒少量・粘土粒微量 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒・粘土粒少量 |
| 3 暗褐色土 | 粘土粒少量、ローム粒微量 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒多量・粘土粒少量 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒多量・粘土粒微量 |
| 6 暗褐色土 | ローム粒・粘土粒混入 |
| 7 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 8 暗褐色土 | ローム粒多量・粘土粒微量 |
| 9 暗褐色土 | 粘土粒多量、ローム粒少量 |
| 10 暗褐色土 | 粘土ブロック多量 |
| 11 表褐色土 | 腐熟ローム |
| 12 暗褐色土 | ローム粒少量 |

0 1m 2m

図面17 SI22J 住居

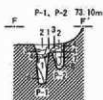


SI22J 住居



SI22J

- | | |
|--------|-----------|
| 1 黒褐色土 | 焼土・ローム粒少量 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒やや多量 |
| 3 暗褐色土 | |
| 4 暗褐色土 | |
| 5 明褐色土 | |
| 6 暗褐色土 | 焼土多量 |
| 7 暗褐色土 | |



SI22J 炉



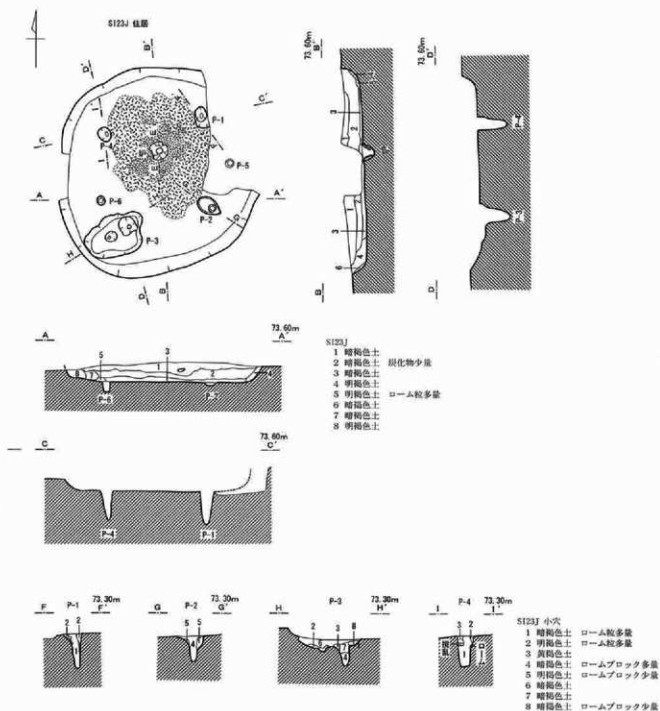
- | | |
|---------|--------|
| 1 暗赤褐色土 | 焼土粒子少量 |
| 2 赤褐色土 | 焼熱ローム |

SI22J 小穴

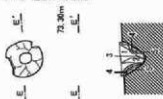
- | | |
|---------|-------------|
| 1 暗褐色土 | |
| 2 暗褐色土 | ロームやや多量 |
| 3 暗黄褐色土 | 暗褐色・ローム混合土 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム多量 |
| 5 暗褐色土 | |
| 6 暗褐色土 | ローム多量 |
| 7 暗褐色土 | ローム多量 締まり欠く |
| 8 暗黄褐色土 | |
| 9 暗褐色土 | |



図面18 S123J 住居



S123J 炉 遺物出土状況図



S123J 炉

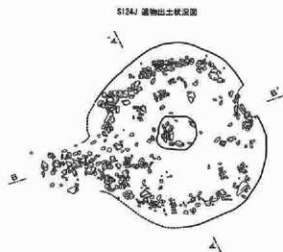
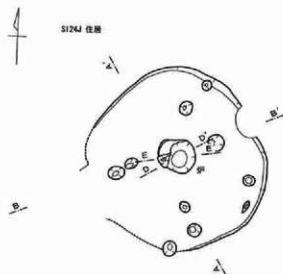


S123J 炉

- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒少量
- 2 暗褐色土 ローム粒多量
- 3 暗褐色土 焼土粒・ローム粒少量
- 4 暗褐色土 ローム粒少量
- 5 板焼ローム



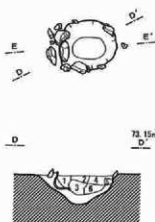
図面19 S124J 住居



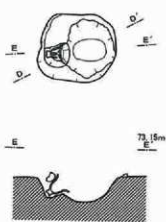
S124J

- 1 暗褐色土 炭化物粒微量
- 2 暗褐色土 ローム粒少量
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土 ローム粒少量
- 5 暗褐色土 ローム粒少量
- 6 暗褐色土 焼土粒多量 ローム粒、炭化物粒少量
- 7 暗褐色土 ローム粒少量
- 8 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒少量

S124J 伊 遺物出土状況図 1



S124J 伊 遺物出土状況図 2

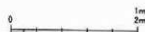


S124J 伊



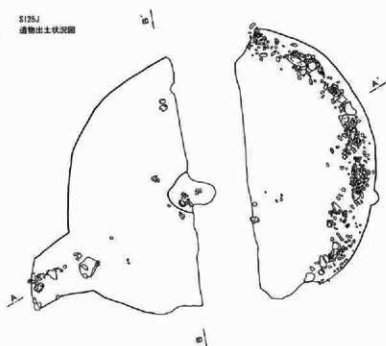
S124J 伊

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量
- 2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量
- 3 暗褐色土 ローム粒・焼土粒多量
- 4 暗褐色土 ローム粒多量
- 5 黄褐色土 焼熟ローム
- 6 暗褐色土 焼土粒・ローム粒少量 焼土ブロック微量

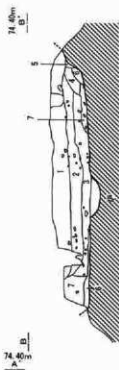
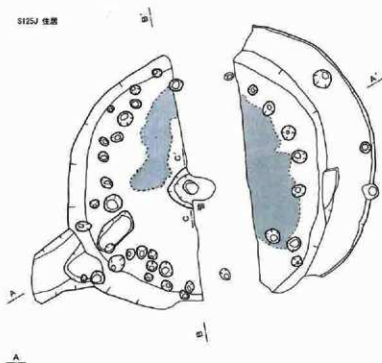


図面20 SI25J 住居

SI25J
遺物出土状況図



SI25J 住居



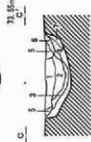
SI25J

- 1 暗褐色土
- 2 暗茶褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 暗褐色土 焼土粒子多量
- 7 暗褐色土

SI25J 90



73.15m
C-C

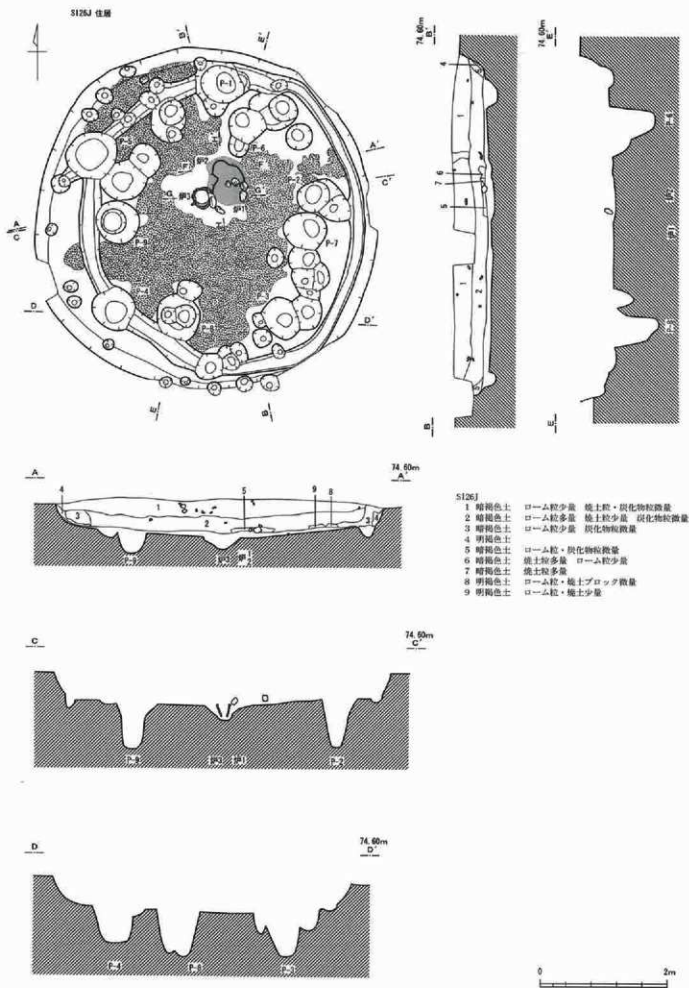


SI25J 91

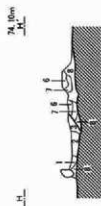
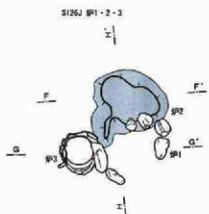
- 1 暗褐色土 焼土粒子少量
- 2 暗褐色土 焼土粒子多量
- 3 暗茶褐色土 焼土粒子多量
- 4 暗茶褐色土 焼土粒子多量・焼土ブロック多量
- 5 暗褐色土
- 6 暗褐色土 ロームブロック多量
- 7 板敷ローム



図面21 SI26J 住居



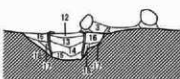
図面22 SI26J 住居



F F' 74.10m



G G' 74.10m



SI26J SP

- | | |
|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒微量 |
| 2 暗褐色土 | 焼土粒少量 |
| 3 暗褐色土 | 炭化物粒微量 焼土粒・ローム粒少量 |
| 4 暗褐色土 | 焼土粒・ローム粒微量 |
| 5 暗褐色土 | 焼土粒・ローム粒少量 |
| 6 明赤褐色土 | 焼土粒多量 焼土ブロック少量 |
| 7 暗褐色土 | 焼土粒多量 |
| 8 暗褐色土 | 焼土粒多量 ローム粒少量 |
| 9 暗褐色土 | 焼土粒多量 |
| 10 暗褐色土 | 焼土粒多量 |
| 11 明褐色土 | |
| 12 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒微量 |
| 13 暗褐色土 | 焼土粒少量 ローム粒微量 |
| 14 暗褐色土 | 焼土粒・ローム粒少量 |
| 15 赤褐色土 | 焼土ブロック・炭焼ロームブロック・ローム粒多量 |
| 16 暗褐色土 | 焼土粒少量 ローム粒多量 |
| 17 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 18 暗褐色土 | 炭焼ロームブロック少量 ローム粒微量 |

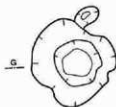
SI26J SP3 遺物出土状況図



G

G'

SI26J SP3



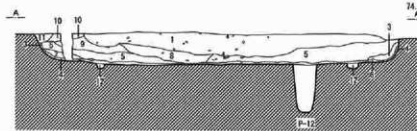
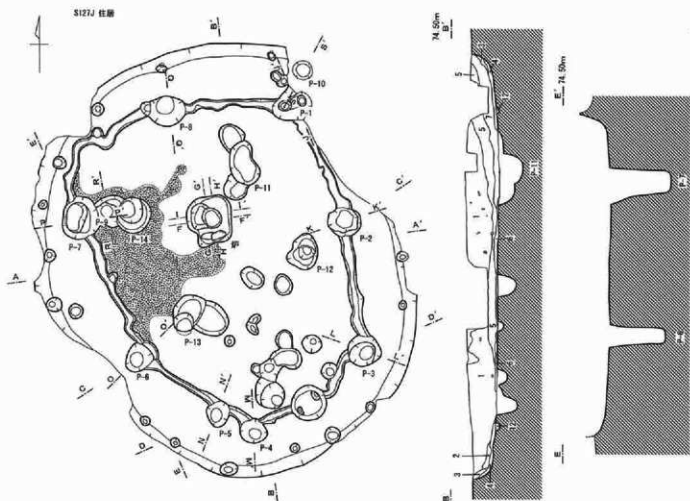
G

G'

74.10m

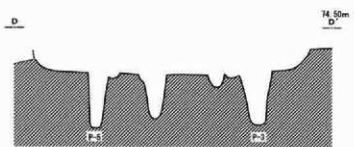
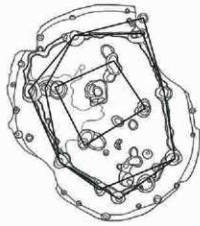


図面23 SI27J 住居



- SI27J
- | | |
|---------|-------------------|
| 1 暗褐色土 | □—△粒・粘土粒・炭化物粒少量 |
| 2 暗褐色土 | □—△粒少量 |
| 3 明褐色土 | 炭化物粒少量 |
| 4 明褐色土 | |
| 5 暗褐色土 | □—△粒少量 粘土粒・炭化物粒少量 |
| 6 暗褐色土 | □—△粒少量 |
| 7 暗褐色土 | □—△粒・粘土粒少量 炭化物粒微量 |
| 8 暗褐色土 | □—△粒・粘土粒少量 炭化物粒微量 |
| 9 暗褐色土 | □—△粒少量 |
| 10 暗褐色土 | □—△粒・炭化物粒微量 |
| 11 暗褐色土 | □—△粒少量 |
| 12 明褐色土 | |

SI27J 柱穴配列模式図



図面24 SI27J 住居

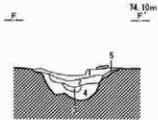
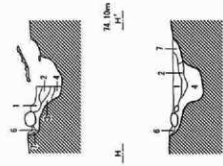


SI27J 伊 遺物出土状況図

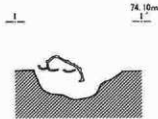


SI27J 伊

- | | | |
|--------|----------------------|--------|
| 1 茶褐色土 | 灰土和少量 | ローム粒少量 |
| 2 茶褐色土 | 灰土和・ローム粒少量 | |
| 3 暗褐色土 | ローム粒・粘土粒・焼熟ロームブロック微量 | |
| 4 明褐色土 | ローム粒・粘土粒微量 | |
| 5 暗褐色土 | ロームブロック混入 | |
| 6 暗褐色土 | ローム粒微量 | |
| 7 明褐色土 | | |



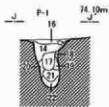
F F' 74.10m



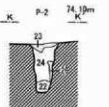
I I' 74.10m

SI27J 小穴

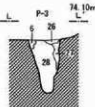
- | | |
|---------|----------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 6 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 7 暗褐色土 | ローム混入 |
| 8 暗褐色土 | |
| 9 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 10 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 11 暗褐色土 | ロームブロック微量 |
| 12 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 13 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 14 明褐色土 | ローム粒多量 |
| 15 明褐色土 | |
| 16 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 17 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 18 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 19 明褐色土 | |
| 20 暗褐色土 | |
| 21 明褐色土 | ローム混入 |
| 22 明褐色土 | |
| 23 暗褐色土 | ローム粒・炭化物粒少量 |
| 24 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 25 明褐色土 | 炭化物粒微量 |
| 26 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 27 暗褐色土 | ローム粒・ロームブロック少量 |
| 28 暗褐色土 | |
| 29 暗褐色土 | ローム粒・炭化物粒微量 |



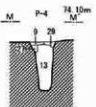
P-1 74.10m



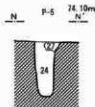
P-2 74.10m



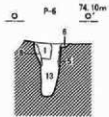
P-3 74.10m



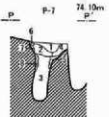
P-4 74.10m



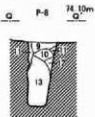
P-5 74.10m



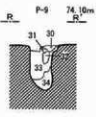
P-6 74.10m



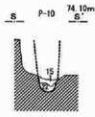
P-7 74.10m



P-8 74.10m



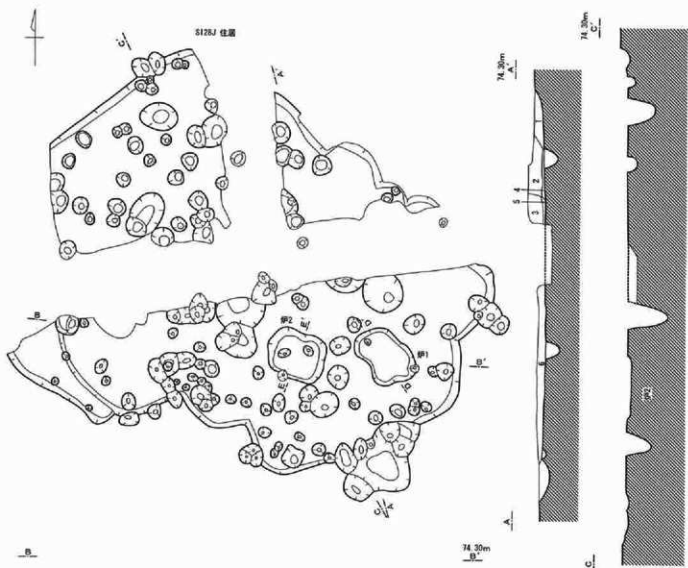
P-9 74.10m



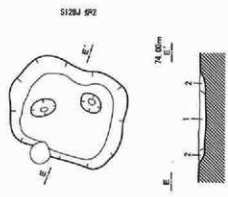
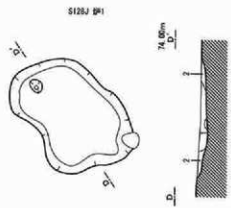
P-10 74.10m



図面25 S128J 住居



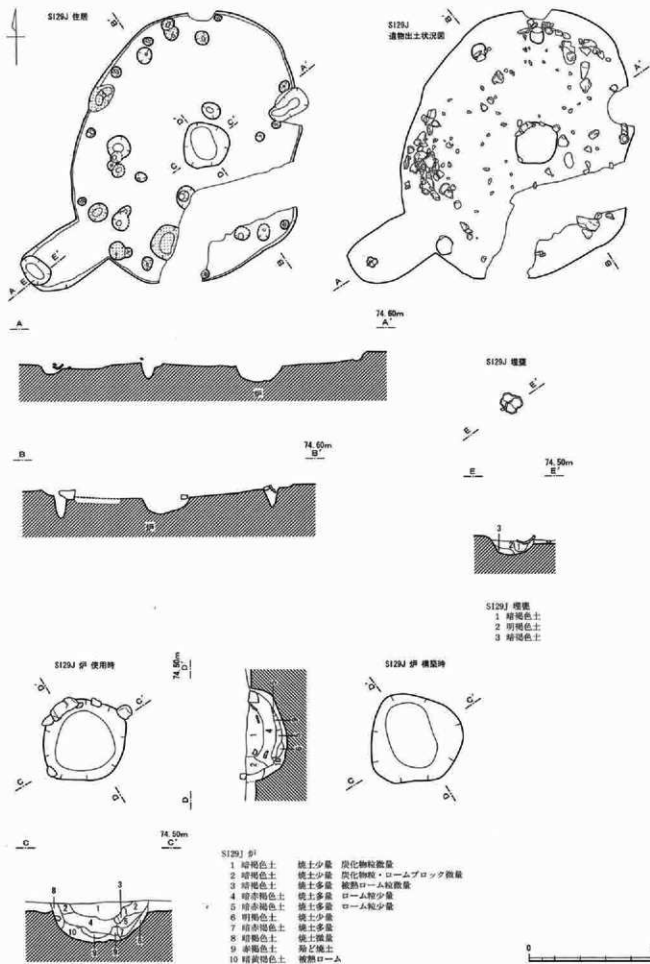
- S128J
- 1 褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗褐色土
- 人柱少量



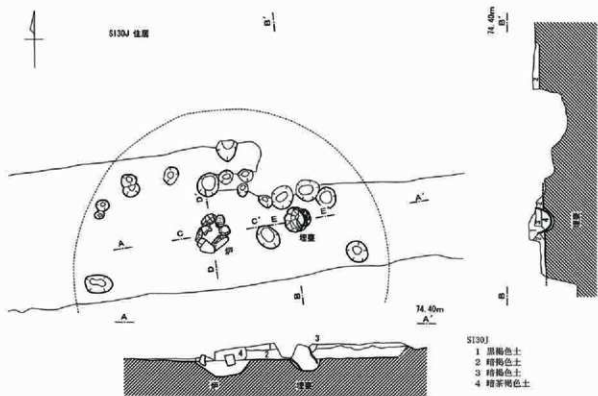
- S128J SP1
- 1 暗褐色土 粘土粒微量
 - 2 褐色土 粘土粒少量
- S128J SP2
- 1 暗褐色土 粘土粒少量
 - 2 明褐色土



図面26 S129J 住居



図面27 SI30J 住居

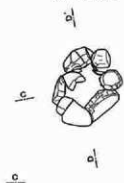


- SI30J
- 1 黒褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗茶褐色土

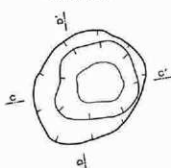
SI30J 伊 遺物出土状況図



SI30J 伊 使用時



SI30J 伊 構築時



- SI30J 伊
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土 焼土粒少量
 - 3 黒褐色土 焼土粒少量
 - 4 焼土ブロック
 - 5 暗茶色土

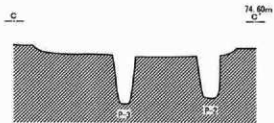
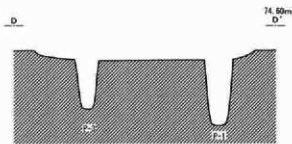
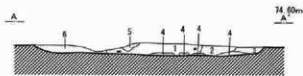
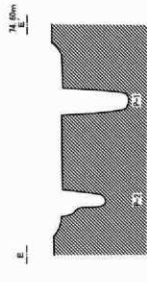
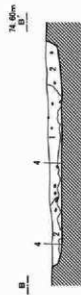
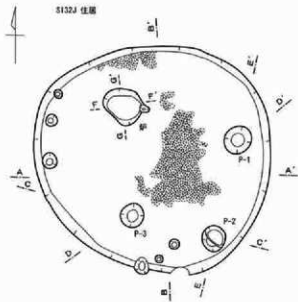
SI30J 煙囪 遺物出土状況図



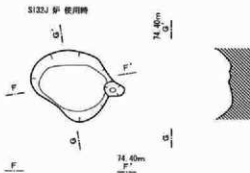
SI30J 煙囪



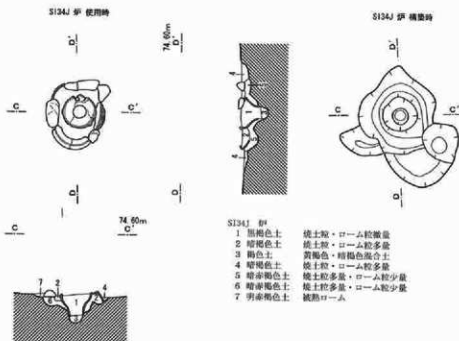
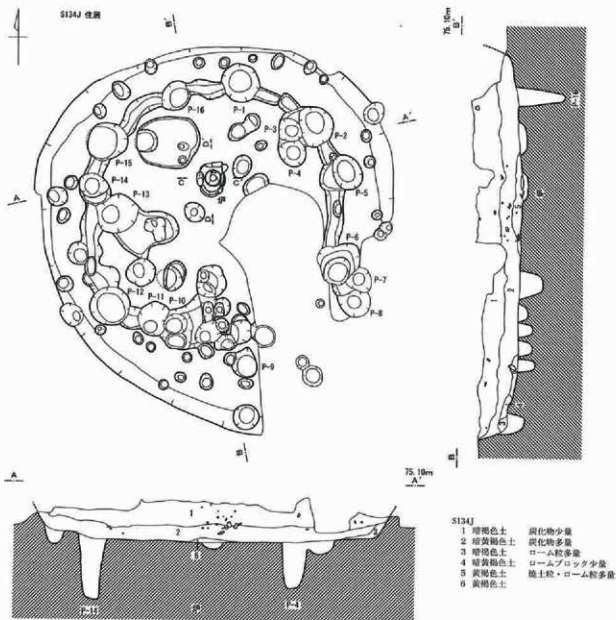
図面28 S132J 住居



- S132J
- 1 暗褐色土 埴土粒少量
 - 2 暗褐色土 ローム粒少量
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土 明褐色土多量 ロームブロック混入
 - 5 暗褐色土 埴土粒・ローム粒少量
 - 6 暗褐色土 明褐色土多量



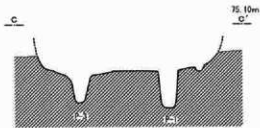
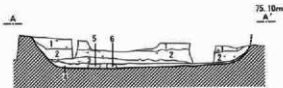
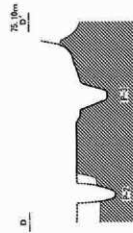
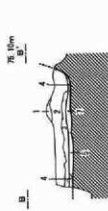
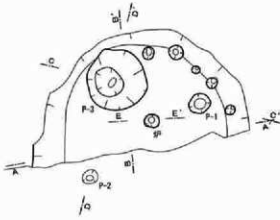
図面29 SI34J 住居



図面30 S135J 住居



S135J 住居



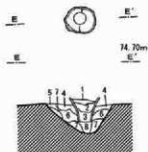
S135J

- | | |
|---------|---------------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒・炭土粒多量 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒多量 炭化物粒・炭土粒少量 |
| 3 暗褐色土 | 炭化物粒少量 |
| 4 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物粒少量 |
| 5 暗褐色土 | 炭化物 (1cm大) 多量 炭土粒少量 |
| 6 黒色土 | 炭化物集中層 |
| 7 暗赤褐色土 | 焼土ブロック多量 炭化物粒少量 |

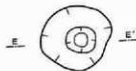
S135J 焼土・炭化物分布図



S135J 伊 使用時



S135J 伊 構築時



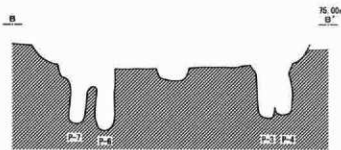
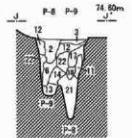
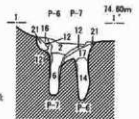
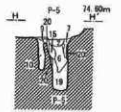
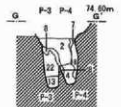
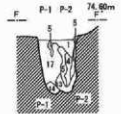
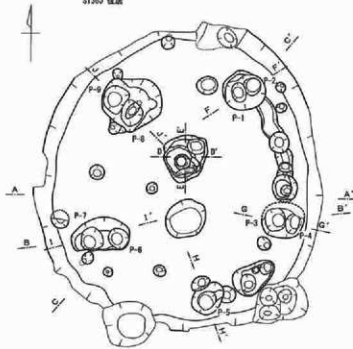
S135J 伊

- | | |
|---------|--------------|
| 1 褐色土 | 炭化物粒少量 |
| 2 暗褐色土 | 炭化物粒多量 炭化物塊入 |
| 3 暗褐色土 | 炭化物粒少量 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒・炭化物粒少量 |
| 5 褐色土 | |
| 6 黄褐色土 | 焼熱ローム |
| 7 黄褐色土 | 焼熱ローム |
| 8 暗黄褐色土 | ローム・暗褐色土混合土 |

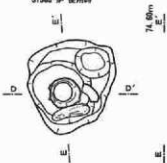


図面31 SI36J 住居

SI36J 住居



SI36J 炉 使用時

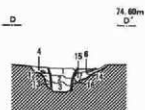


SI36J 炉 構造時

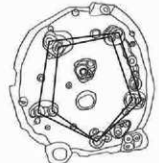


SI36J 炉

- | | |
|----------|------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒微量 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒微量 |
| 3 黒褐色土 | 黒褐色土・ローム混合土 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒少量 焼土粒微量 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒多量 焼土粒少量 |
| 6 暗褐色土 | ローム粒多量 焼土粒多量 |
| 7 黒褐色土 | ローム粒多量 焼土粒多量 |
| 8 黒褐色土 | ロームブロック少量 |
| 9 黄褐色土 | 被熱ローム 暗褐色土少量 |
| 10 黒褐色土 | ローム少量 焼土粒微量 |
| 11 暗褐色土 | 褐色土少量 |
| 12 褐色土 | ロームブロック多量 焼土多量 |
| 13 黄褐色土 | |
| 14 暗赤褐色土 | 焼土 |
| 15 黒褐色土 | 焼土多量 ローム粒少量 |
| 16 褐色土 | 焼土少量 暗褐色土・ローム混合土 |
| 17 暗褐色土 | 被熱ローム多量 |



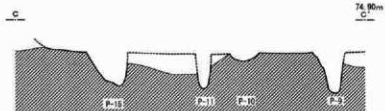
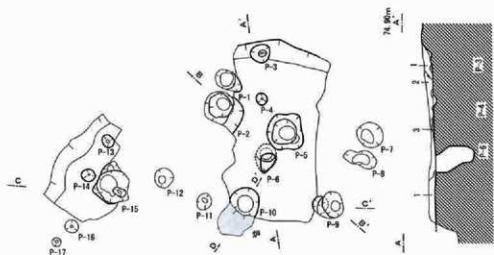
SI36J 柱穴配列模式画



図面32 SI38J 住居



SI38J 住居

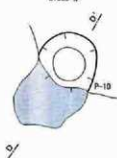


SI38J

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 炭化物粒少量
- 3 暗黄褐色土



SI38J 炉



74.90m

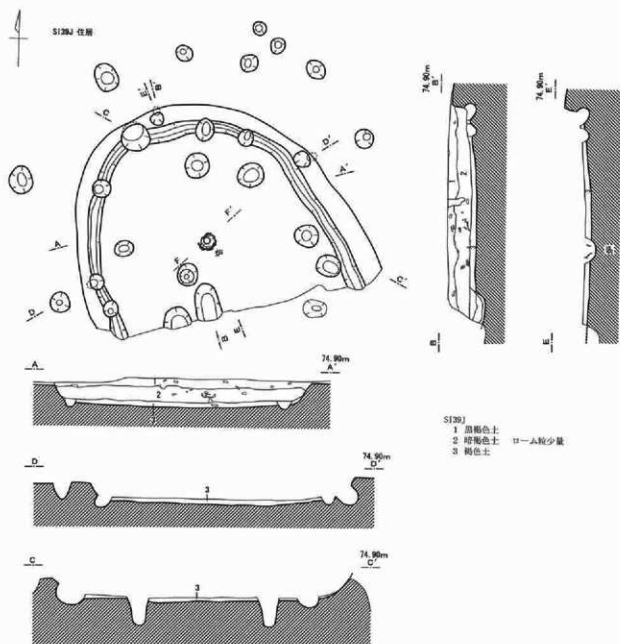


SI38J 炉

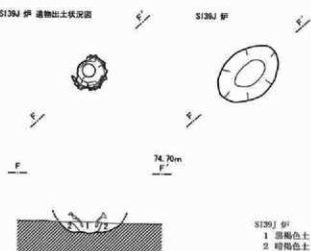
- 1 暗褐色土 ローム粒多数 焼土粒少量
- 2 暗赤褐色土 ローム粒・焼土ブロック (2cm大) 多数
- 3 褐色土 炭焼ロームブロック多数
- 4 赤褐色土 焼土多量
- 5 黄褐色土 炭焼ローム



図面33 SI39J 住居

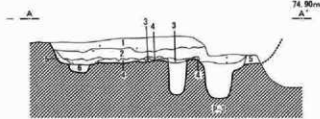
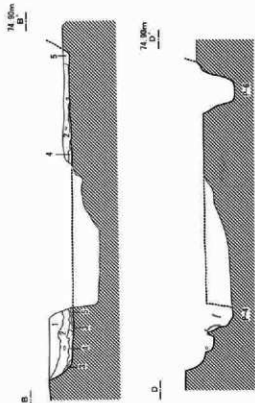
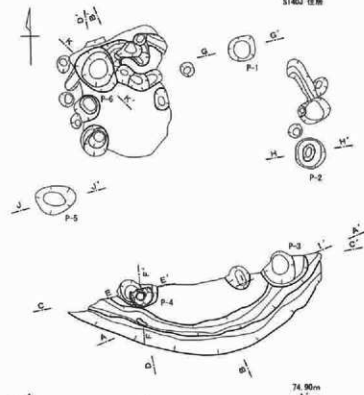


SI39J 伊 遺物出土状況図

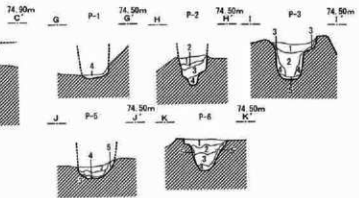
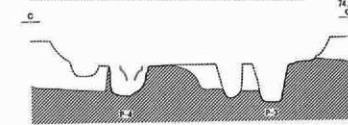


図面34 S140J 住居

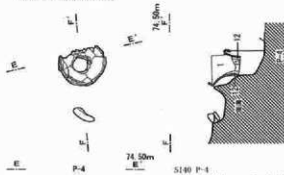
S140J 住居



- S140J
- 1 黒褐色土 ローム粒少量
 - 2 黒褐色土 ローム粒多量
 - 3 暗褐色土 ローム粒少量
 - 4 褐色土 黄褐色・暗褐色混入土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗褐色土 ロームブロック少量



S140J P-4 遺物出土状況図



S140J P-4

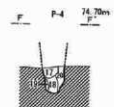
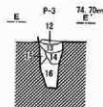
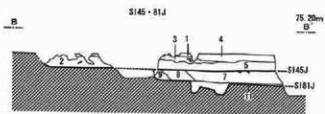
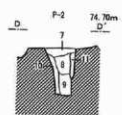
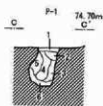
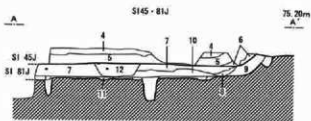
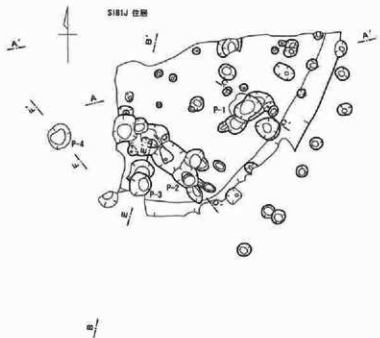
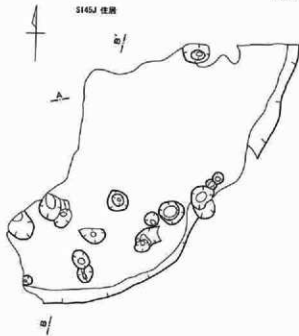
- S140J 小穴
- 1 黒褐色土 ローム粒微量
 - 2 黒褐色土 ローム粒少量
 - 3 黒褐色土 ローム粒少量
 - 4 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量
 - 5 褐色土 ローム粒・ロームブロック多量

S140 P-4

- 1 黒褐色土 ローム粒微量
- 2 黒褐色土 ローム粒微量
- 3 暗褐色土 ローム粒少量
- 4 暗褐色土 ローム粒多量
- 5 暗褐色土 ローム粒少量
- 6 暗褐色土 ローム粒・粒粒多量
- 7 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量
- 8 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量
- 9 褐色土 ローム粒・ロームブロック多量
- 10 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量
- 11 褐色土 ローム粒・ロームブロック少量
- 12 暗褐色土 ローム粒微量
- 13 暗褐色土 炭化物粒微量



図面35 S145・81J 住居



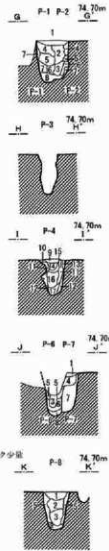
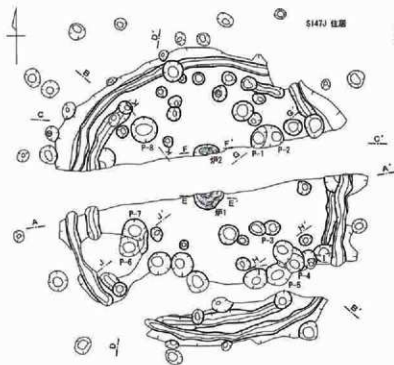
- S145・81J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗褐色土
 - 7 暗褐色土
 - 8 暗褐色土
 - 9 暗褐色土
 - 10 黒褐色土
 - 11 暗黄褐色土
 - 12 暗褐色土
- } S145J
 } S181J
 S181Jを埋石土坑

S181J 小穴

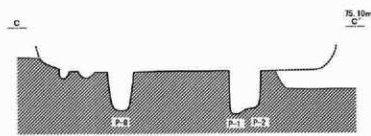
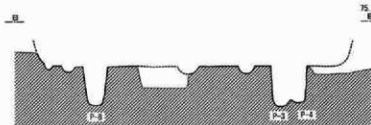
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 黒褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗黄褐色土
 - 7 暗褐色土
 - 8 暗褐色土
 - 9 暗褐色土
 - 10 暗黄褐色土
 - 11 暗黄褐色土
- } P-1
 } P-2
 } P-3
 } P-4



図面36 S147J 住居



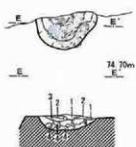
- 75.10m
A
S147J
- 1 暗褐色土 ローム粒微量
 - 2 暗褐色土 ローム粒微量
 - 3 暗褐色土 ローム粒微量
 - 4 暗褐色土 ローム粒微量
 - 5 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量
 - 6 暗褐色土



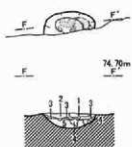
S147J 小穴

- 1 暗褐色土 ローム粒微量
- 2 暗褐色土 炭化物粒微量
- 3 暗褐色土 炭化物粒微量
- 4 暗褐色土 炭化物粒微量
- 5 暗褐色土 炭化物粒微量
- 6 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量
- 7 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量
- 8 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量
- 9 暗褐色土 炭化物粒微量
- 10 暗褐色土 ローム粒少量
- 11 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量
- 12 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量
- 13 暗褐色土 ローム粒少量
- 14 暗褐色土 ローム粒微量
- 15 暗褐色土 ローム粒少量
- 16 暗褐色土 ローム粒少量
- 17 暗褐色土 ローム粒少量

S147J SP1



S147J SP2



S147J SP1

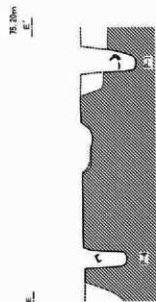
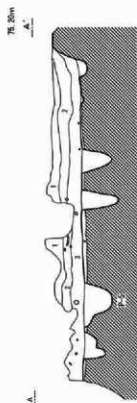
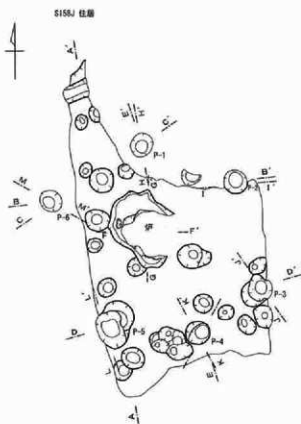
- 1 暗褐色土 ローム粒少量
- 2 暗褐色土 粘土粒少量
- 3 暗褐色土 炭質ロームブロック・粘土粒少量
- 4 暗褐色土 粘土・炭質ロームブロック
- 5 暗褐色土 粘土・炭質ロームブロック

S147J SP2

- 1 暗褐色土 炭化物粒微量
- 2 暗褐色土 粘土・ローム粒少量
- 3 暗褐色土 ローム粒少量
- 4 暗褐色土 粘土・炭質ロームブロック
- 5 暗褐色土 粘土・炭質ロームブロック



図面38 SI58J 住居



SI58J

- 1 暗褐色土
- 2 褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土
- ローム粒少量
- ローム混入



SI58J小穴

- 1 褐色土
- 2 褐色土
- 3 褐色土
- 4 褐色土
- 5 褐色土
- 6 暗褐色土
- 7 暗褐色土
- 8 褐色土
- 9 暗褐色土
- 10 暗褐色土
- 11 褐色土
- 12 暗褐色土
- 13 褐色土
- 14 褐色土
- 15 褐色土
- 16 褐色土
- ローム粒少量
- ローム粒多量
- ローム粒多量
- ローム粒多量
- ローム粒多量
- 暗どロームブロック
- ローム粒多量
- ローム粒多量
- 暗どロームブロック
- ローム粒少量
- ローム粒少量
- ローム粒少量
- ローム粒多量
- ローム粒多量
- ローム粒多量
- ロームブロック少量



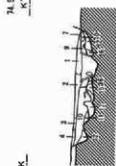
図面39 S152・58J 住居内炉



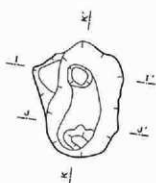
S152J 炉 使用時



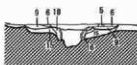
74.50m
K-K'



S152J 炉 構築時



74.50m
F-F'



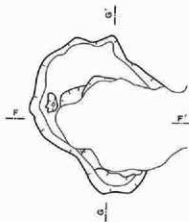
74.50m
F-F'



- | | |
|----------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色土 | 被熱ローム粒・焼土粒多量 炭化物粒少量 |
| 2 暗赤褐色土 | 被熱ローム粒多量 焼土粒少量 炭化物粒微量 |
| 3 暗赤褐色土 | 被熱ローム粒多量 炭化物粒少量 焼土粒微量 |
| 4 暗赤褐色土 | 被熱ローム粒多量 |
| 5 暗赤褐色土 | 焼土粒・被熱ローム多量 炭化物粒微量 |
| 6 黒褐色土 | 焼土粒・被熱ロームブロック少量 炭化物粒微量 |
| 7 暗赤褐色土 | ローム粒少量 |
| 8 暗赤褐色土 | 焼土粒・被熱ローム多量 炭化物粒少量 |
| 9 黒褐色土 | 被熱ローム粒微量 |
| 10 暗赤褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック・被熱ローム粒多量 |
| 11 褐色土 | ローム粒多量 |
| 12 暗褐色土 | ローム粒・ロームブロック少量 炭化物粒・焼土粒微量 |
| 13 暗赤褐色土 | 焼土粒・被熱ローム粒微量 |
| 14 暗赤褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック・被熱ローム粒少量 炭化物粒微量 |
| 15 黄褐色土 | 被熱ローム |
| 16 暗赤褐色土 | 被熱ローム粒少量 焼土粒・炭化物粒少量 |
| 17 暗褐色土 | 被熱ローム粒多量 焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒少量 |
| 18 赤褐色土 | 焼土 |



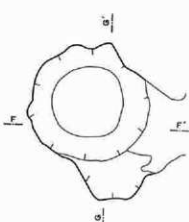
S158J 炉 使用時



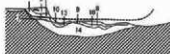
74.70m
G-G'



S158J 炉 構築時



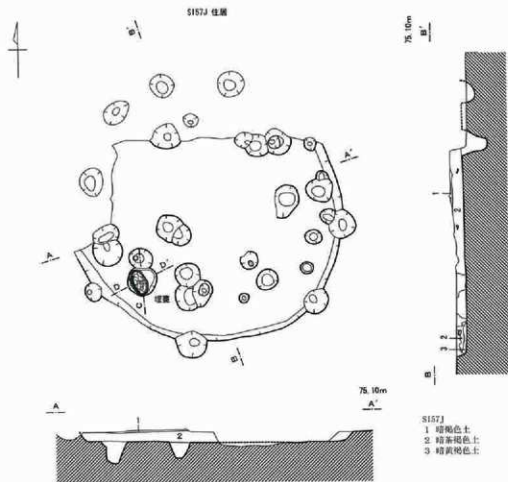
74.70m
F-F'



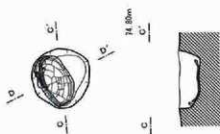
- | | |
|----------|--------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒少量 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒多量 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒少量 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 5 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒少量 |
| 6 黄褐色土 | 被熱ロームブロック |
| 7 暗赤褐色土 | 被熱ローム粒・焼土粒少量 |
| 8 暗赤褐色土 | 被熱ローム粒・焼土粒少量 |
| 9 赤褐色土 | 被熱ロームブロック 焼土ブロック多量 |
| 10 暗赤褐色土 | 被熱ロームブロック 焼土粒少量 |
| 11 暗赤褐色土 | 被熱ロームブロック 焼土粒多量 |
| 12 明赤褐色土 | 焼土 |
| 13 暗赤褐色土 | 被熱ローム粒・焼土粒多量 |
| 14 黄褐色土 | 被熱ロームブロック 焼土・炭化物混入 |



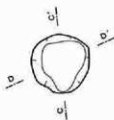
図面40 SI57J 住居



SI57J 埋藏
遺物出土状況図



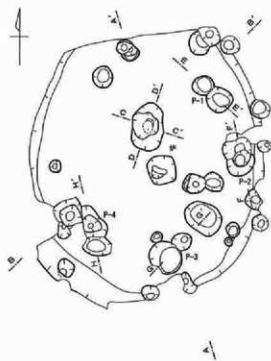
SI57J 埋藏



74.80m SI57J 埋藏
D' 1 暗茶褐色土



図面41 S195J 住居



S195J 住居

E P-1 74.80m
E'



F P-2 74.80m
F'



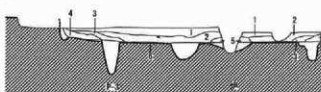
G P-3 74.80m
G'



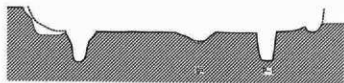
H P-4 74.80m
H'



A 75.10m
A'



B 75.10m
B'



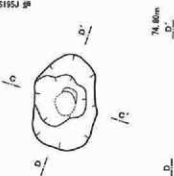
S195J

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 暗黄褐色土

S195J 小穴

- 1 暗褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 暗黄褐色土
- 7 暗褐色土
- 8 暗褐色土
- 9 暗黄褐色土
- 10 暗褐色土
- 11 暗褐色土
- 12 暗黄褐色土
- 13 暗褐色土
- 14 暗黄褐色土
- 15 暗黄褐色土
- 16 暗褐色土

S195J 伊



74.80m



c 74.80m
C'

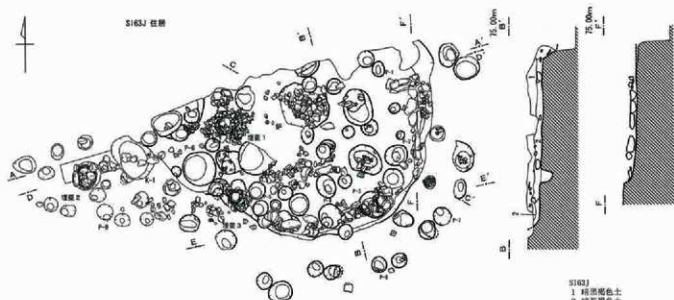


S195J 伊

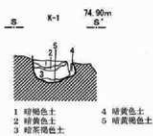
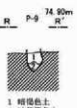
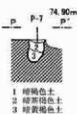
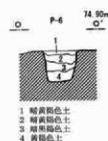
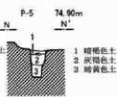
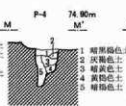
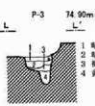
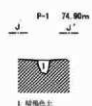
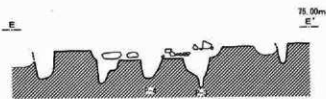
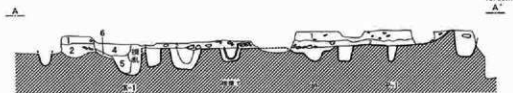
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗黄褐色土
 - 7 暗褐色土
 - 8 暖熱ローンプログ
- 礎土較多量



図面42 SI63J 住居



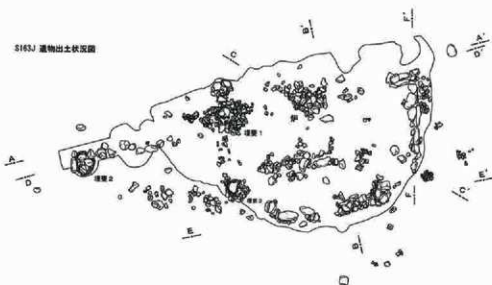
- SI63J
 1 暗褐色土
 2 暗茶褐色土
 3 灰褐色土
 4 暗褐色土
 5 暗褐色土
 6 暗褐色土



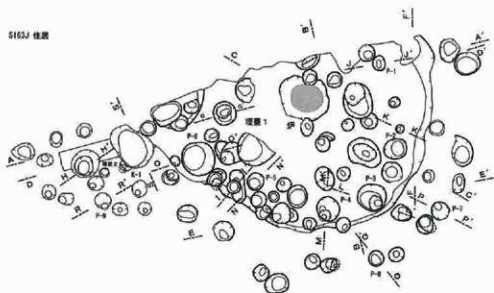
図面43 S163J 住居



S163J 遺物出土状況平面図



S163J 住居



S163J 埋室1



74.90m



- 1 暗褐色土
- 2 暗赤褐色土
- 3 暗茶褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 暗黒褐色土

S163J 埋室2



74.90m



- 1 暗褐色土
- 2 暗赤褐色土
- 3 暗茶褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 暗茶褐色土
- 6 黒褐色土

S163J 埋室3



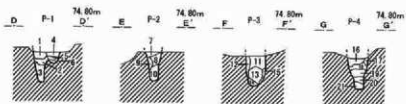
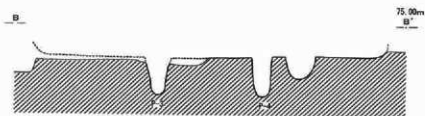
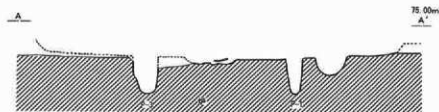
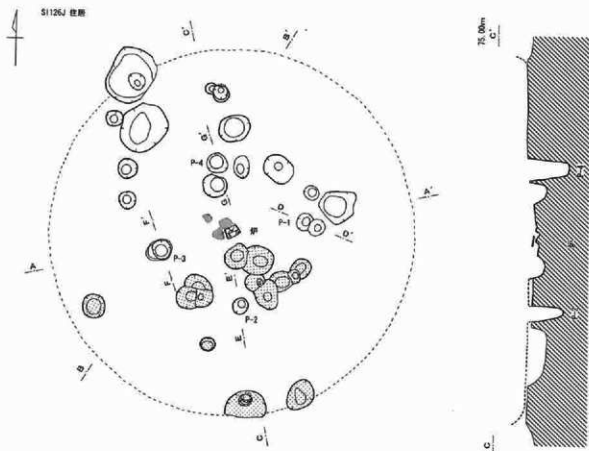
74.90m



1 暗褐色土



図面45 S1126J 住居



S1126J 跡

S1126J 小穴
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
 4 暗褐色土
 5 黄褐色土
 6 黄褐色土
 7 暗茶色土
 8 灰暗褐色土
 9 灰暗褐色土
 10 褐色土

P-1

P-2

11 暗褐色土
 12 暗黄色土
 13 暗茶色土
 14 暗茶褐色土
 15 暗黄色土

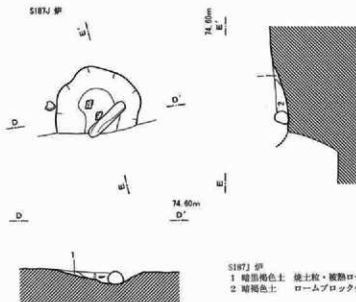
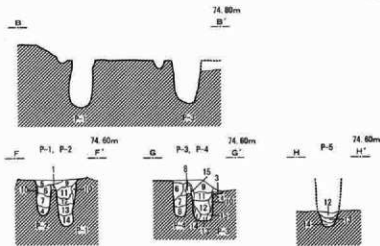
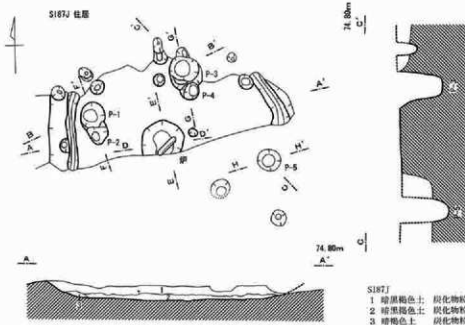
P-3

16 暗茶褐色土
 17 暗灰色土
 18 暗褐色土
 19 灰暗褐色土
 20 灰褐色土
 21 粘土

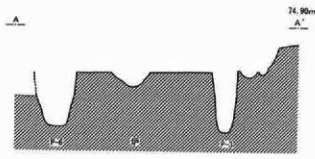
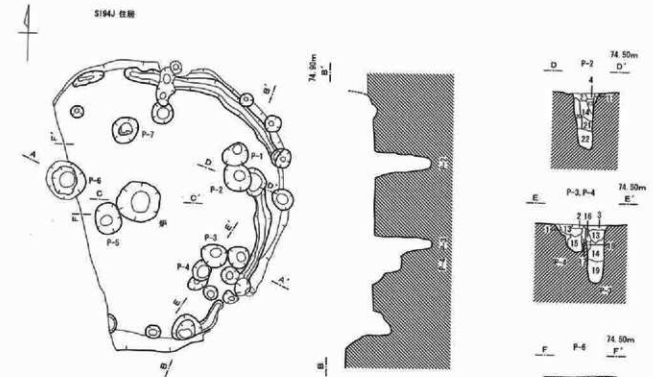
P-4



図面46 SI87J 住居

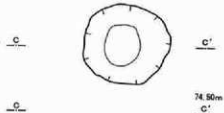


図面47 S194J 住居

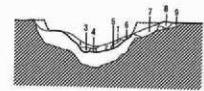


- S194J 小穴
- | | |
|----------|----------------|
| 1 黄褐色土 | ローム粒多量 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒・炭化物粒微量 |
| 3 黒褐色土 | ローム粒・炭化物粒微量 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒微量 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒少量 炭化物粒微量 |
| 6 褐色土 | ローム粒少量 |
| 7 暗黄褐色土 | ローム粒多量 |
| 8 黄褐色土 | ロームブロック多量 |
| 9 暗黄褐色土 | ローム粒多量 |
| 10 黄褐色土 | ロームブロック多量 |
| 11 黄褐色土 | ローム粒多量 |
| 12 黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量 |
| 13 暗褐色土 | ローム粒微量 |
| 14 黄褐色土 | ローム粒多量 |
| 16 暗黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量 |
| 17 暗黄褐色土 | |
| 18 暗黄褐色土 | |
| 19 暗黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量 |
| 20 暗黄褐色土 | ローム粒多量 炭化物粒微量 |
| 21 黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量 |
| 22 黄褐色土 | |

S194J 炉



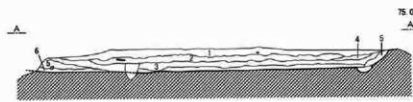
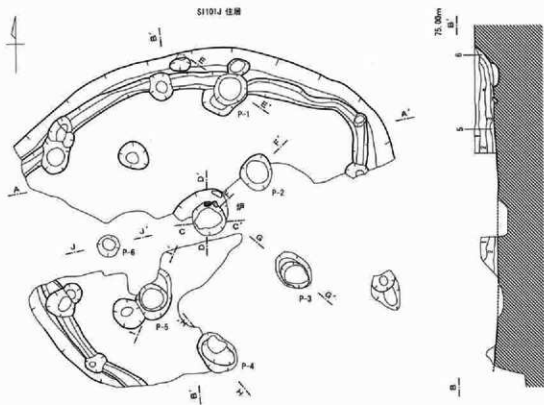
S194J 炉 遺物出土状況図



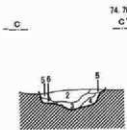
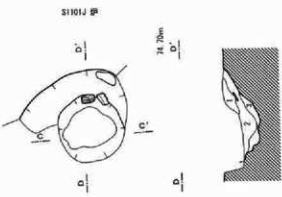
- S194J 炉
- | | |
|---------|---------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土・焼熟ローム少量 |
| 2 暗褐色土 | 焼土・焼熟ローム・炭化物粒少量 |
| 3 赤褐色土 | 砕石焼土 |
| 4 黄褐色土 | 砕石焼熟ローム |
| 5 褐色土 | 焼土粒・炭化物粒微量 焼熟ローム粒少量 |
| 6 黄褐色土 | 焼熟ローム |
| 7 暗黄褐色土 | 焼土粒微量 ローム粒多量 |
| 8 褐色土 | 焼熟ローム粒少量 |
| 9 暗黄褐色土 | 焼熟ローム粒多量 |



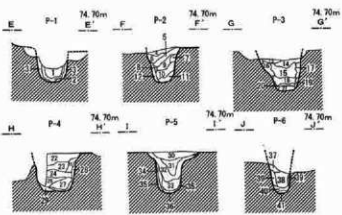
図面48 S1101J 住居



- S1101J
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土
 4 暗褐色土
 5 暗茶褐色土
 6 暗茶褐色土
- 炭化物少量



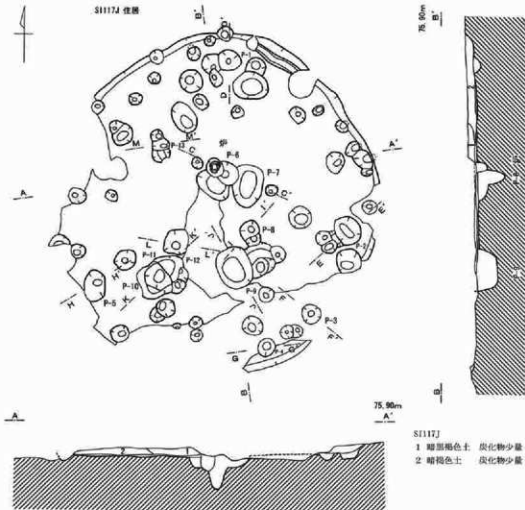
- S1101J 伊
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土
 3 暗茶褐色土
 4 暗茶褐色土
 5 暗褐色土
 6 暗茶土
- 焼土粒少量
 焼熱ローム
 焼土ブロック少量



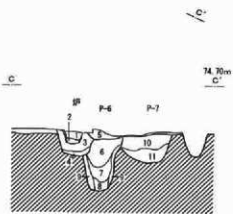
- | | | | |
|-----------|-------|------------|-------|
| S1101J 小穴 | | | |
| 1 黒褐色土 | } P-1 | 18 黒褐色土 | } P-5 |
| 2 暗褐色土 | | 19 黄褐色土 | |
| 3 暗黄褐色土 | } P-2 | 20 明黄褐色土 | } P-3 |
| 4 暗褐色土 | | 21 黄褐色土 | |
| 5 暗茶褐色土 | } P-3 | 22 灰暗褐色土 | } P-4 |
| 6 暗黄褐色土 | | 23 灰暗褐色土 | |
| 7 暗黄褐色土 | } P-4 | 24 灰黄褐色土 | } P-5 |
| 8 ロームブロック | | 25 灰暗褐色土 | |
| 9 暗黄褐色土 | } P-5 | 26 明黄褐色土 | } P-6 |
| 10 暗黄褐色土 | | 27 明黄褐色土 | |
| 11 暗黄褐色土 | | 28 暗黄褐色土 | |
| 12 灰黄褐色土 | | 29 暗褐色土 | |
| 13 灰褐色土 | | 30 暗黄褐色土 | |
| 14 灰黄褐色土 | | 31 暗褐色土 | |
| 15 暗黄褐色土 | | 32 灰黒褐色土 | |
| 16 暗褐色土 | | | |
| 17 暗黄褐色土 | | | |
| | | 33 灰黒褐色土 | |
| | | 34 暗褐色土 | |
| | | 35 ロームブロック | |
| | | 36 暗黄褐色土 | |
| | | 37 灰暗褐色土 | |
| | | 38 灰暗褐色土 | |
| | | 39 暗黄褐色土 | |
| | | 40 灰暗黄褐色土 | |
| | | 41 灰暗黄褐色土 | |



図面49 SI117J 住居

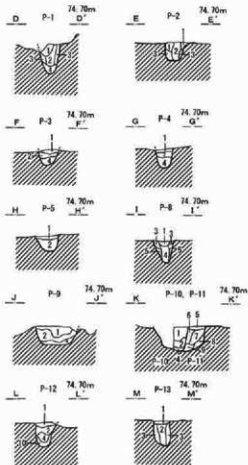


SI117J
 1 暗褐色土 炭化物少量
 2 暗褐色土 炭化物少量



SI117J
 1 暗赤褐色土 焼土ブロック多量
 2 暗赤褐色土 焼土粒子多量
 3 灰褐色土
 4 黄褐色土
 5 暗褐色土
 6 明黄褐色土
 7 暗灰黄褐色土
 8 黄褐色土
 9 暗黄褐色土

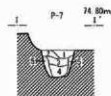
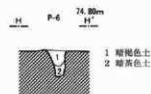
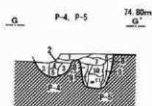
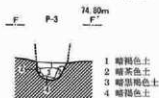
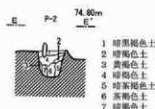
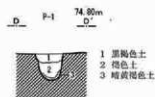
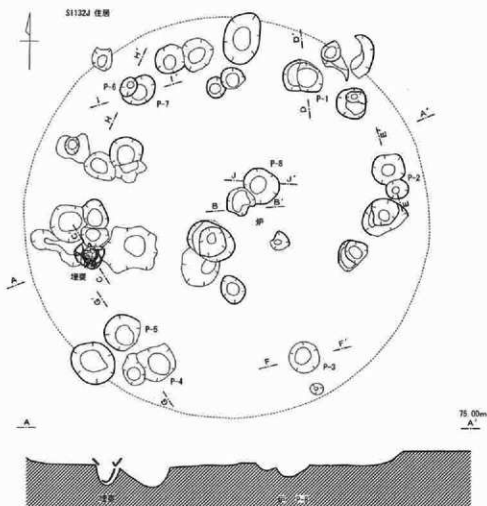
P-7, P-10 暗褐色土
 P-6 ロームブロック多量



SI117J 小穴
 1 暗褐色土
 2 暗黄褐色土
 3 黄褐色土
 4 暗黄褐色土
 5 黄褐色土
 6 暗褐色土
 7 暗黄褐色土
 8 黄褐色土
 9 暗褐色土
 10 褐色土



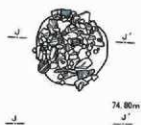
図面50 SI132J 住居



- P-1 ~ P-5
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 褐色土
 - 4 暗黑褐色土
 - 5 暗黄褐色土
 - 6 暗黑褐色土
 - 7 暗褐色土
 - 8 暗黑褐色土
 - 9 暗茶褐色土
 - 10 灰暗褐色土
 - 11 灰褐色土
- } P-4
- } P-5



SI132J P-8 遺物出土状況図



SI132J IP



- SI132J IP 焼土層積
- 1 暗茶褐色土
 - 2 暗茶褐色土
 - 3 暗褐色土
- 焼土粒子少量

SI132J 埋溝

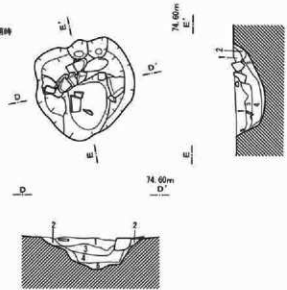


- SI132J 埋溝
- 1 暗褐色土
 - 2 暗茶色土
 - 3 褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗黄褐色土

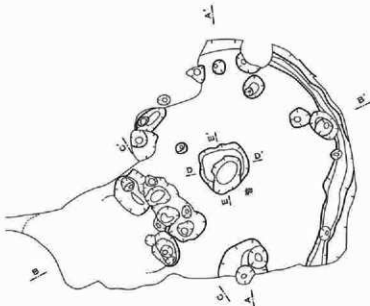
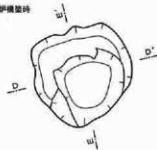
図面51 S1136J 住居



S1136J 伊壁周縁

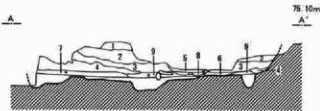


S1136J 伊壁周縁



S1136J 伊

- | | |
|---------|------------------------|
| 1 暗褐色土 | 炭化物粒・焼熟ローム粒・焼土ブロック微量 |
| 2 暗黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色土 | 焼土ブロック・焼熟ローム粒少量 炭化物粒微量 |
| 4 暗赤褐色土 | 焼土ブロック・焼熟ローム多量 |
| 5 黄褐色土 | 焼熟ローム |



S1136J

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒微量 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒微量 |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒少量 ローム粒微量 |
| 4 暗褐色土 | 焼土粒・焼熟ローム粒少量 |
| 5 赤褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック多量 焼熟ローム少量 炭化物粒微量 |
| 6 赤褐色土 | 炭化物粒・焼土粒微量 |
| 7 暗褐色土 | 炭化物粒・焼熟ローム粒・焼土ブロック微量 |
| 8 暗褐色土 | 焼土粒・焼熟ローム粒微量 |



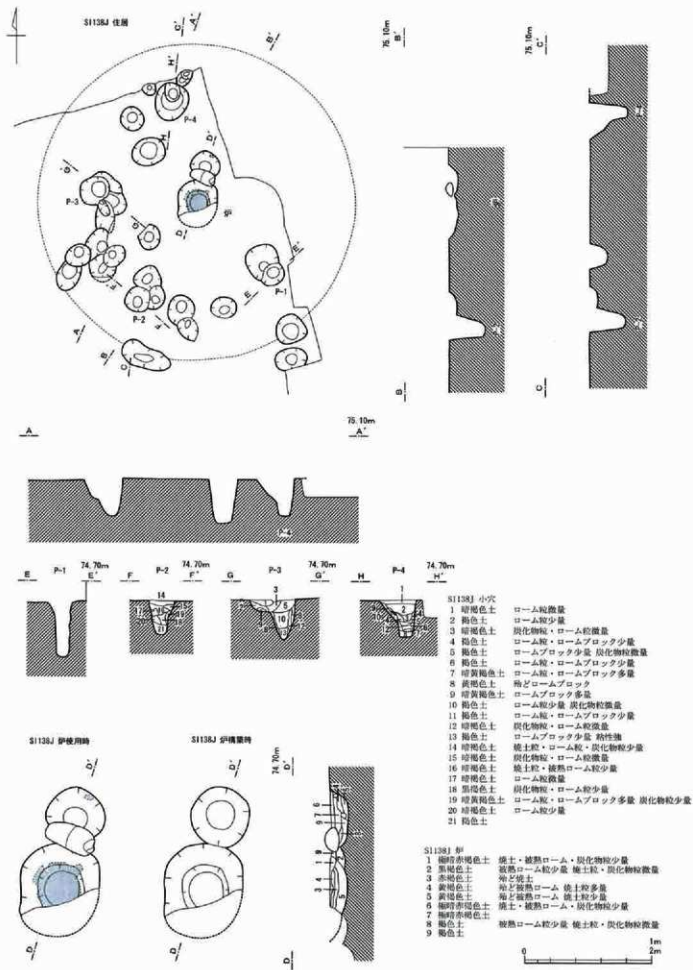
75.10m

C

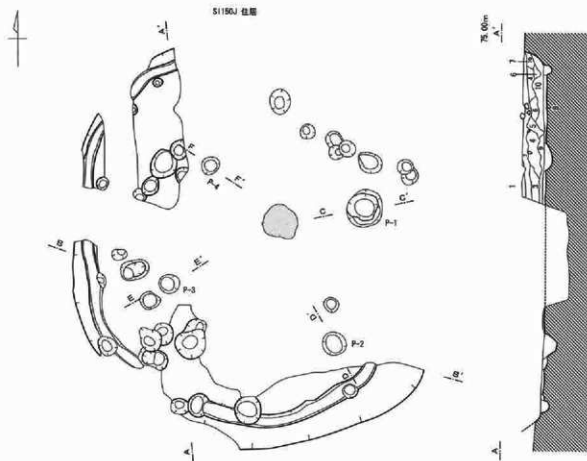
75.10m



図面52 S1138J 住居

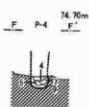
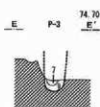
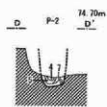
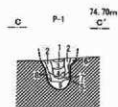


図面53 SI150J 住居



SI150J

- | | |
|----------|---------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム微量 |
| 2 暗褐色土 | |
| 3 暗褐色土 | |
| 4 暗褐色土 | |
| 5 暗褐色土 | |
| 6 黒褐色土 | |
| 7 暗褐色土 | ローム少量 |
| 8 暗褐色土 | ロームブロック少量 |
| 9 暗黄褐色土 | ローム多量 |
| 10 暗黄褐色土 | 褐色・黄褐色混合土 ロームブロック多量 |

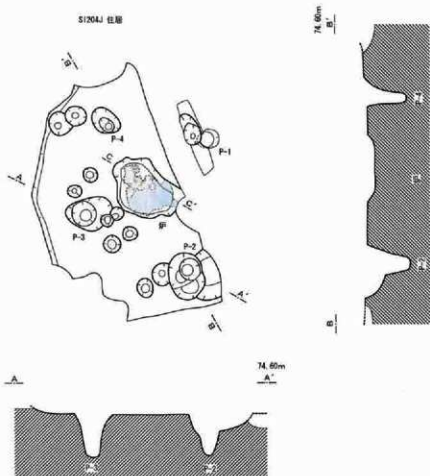


SI150J 小穴

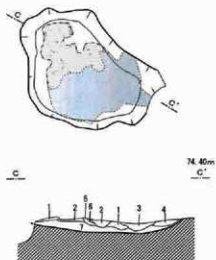
- | | |
|---------|----------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 3 暗黄褐色土 | ローム粒多量 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒多量 |
| 5 暗黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量 |
| 6 黄褐色土 | 殆どロームブロック |
| 7 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 8 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 9 暗褐色土 | ローム粒多量 |



図面54 S1204J 住居



S1204J 坪



S1204J SF

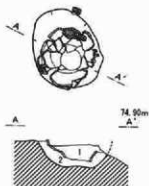
- | | |
|---------|------------------------|
| 1 暗赤褐色土 | 堆土粒少量 焼熟口一ム粒・炭化物粒微量 |
| 2 赤褐色土 | 堆土ブロック多量 焼熟口一ム粒・炭化物粒少量 |
| 3 暗赤褐色土 | 堆土粒少量 焼熟口一ム粒・少量 炭化物粒微量 |
| 4 暗赤褐色土 | 焼熟口一ム粒少量 堆土粒微量 |
| 5 暗赤褐色土 | 堆土 |
| 6 暗赤褐色土 | 堆土・焼熟口一ム多量 |
| 7 明黄褐色土 | 焼熟口一ム |



図面55 SU1・5~9 屋外埋壺

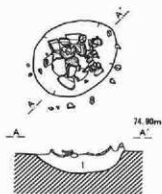


SU5



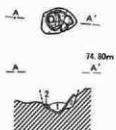
SU5
1 暗茶色土
2 暗黄褐色土

SU6



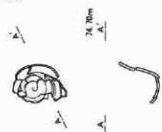
SU6
1 暗茶色土

SU7

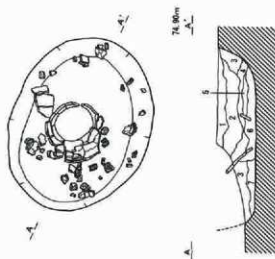


SU7
1 灰褐色土
2 暗褐色土

SU8

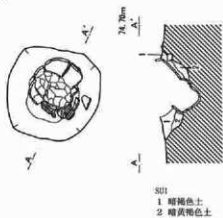


SU9



SU9
1 黒褐色土
2 球黒褐色土
3 暗茶褐色土
4 暗褐色土 焼土粒子少量
5 黒褐色土
6 暗黄褐色土
7 暗黄褐色土 ロームブロック多量

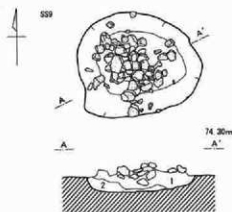
SU1



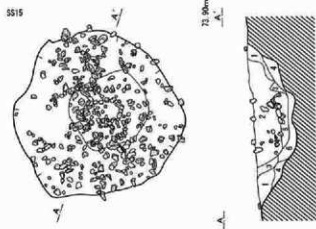
SU1
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土



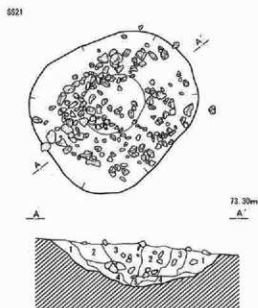
図面56 SS9・15・21・26・33・35 集石土坑



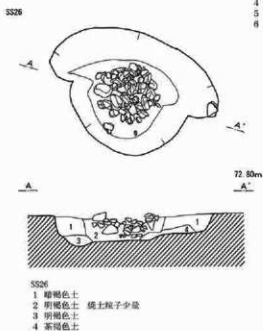
- SS9
1 暗褐色土
2 暗褐色土 ロームブロック少量



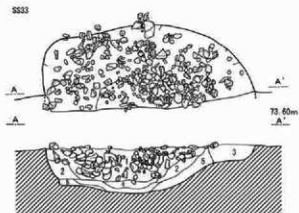
- SS15
1 暗褐色土 炭化物粒少量
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 暗褐色土
5 暗褐色土
6 暗褐色土 ロームブロック少量



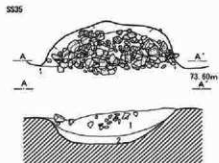
- SS21
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 暗褐色土 ローム粒子多量
5 暗褐色土



- SS26
1 暗褐色土
2 明褐色土 焼土粒子少量
3 明褐色土
4 茶褐色土

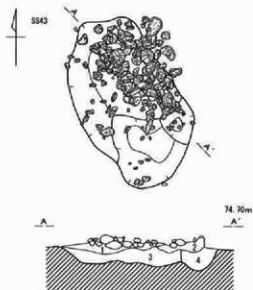


- SS33
1 暗褐色土 焼土粒子少量
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 暗褐色土 焼土粒子多量
5 明褐色土

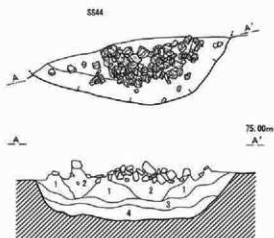


- SS35
1 暗褐色土 炭化物少量
2 暗褐色土

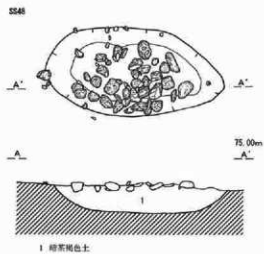




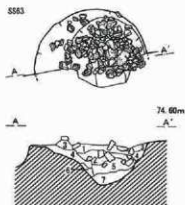
- SS43
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
- ローム粒子少量



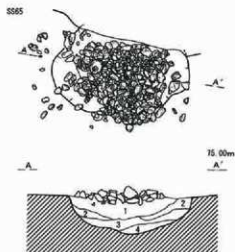
- SS44
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
- ロームブロック少量
ロームブロック多量



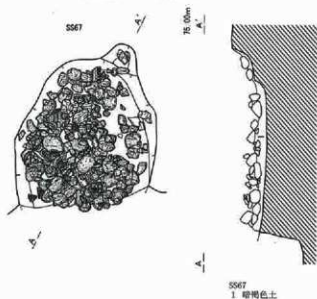
- 1 暗褐色土



- SS63
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 茶褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 黒褐色土
 - 6 ロームブロック
 - 7 黄褐色土
- 粘土粒子少量
炭化物少量

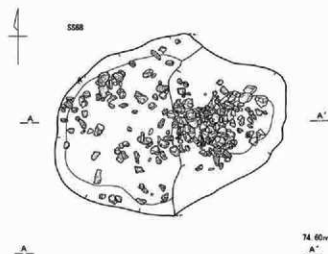


- SS65
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 黒褐色土
 - 4 暗褐色土
- ローム粒子少量
炭化物少量
ロームブロック多量



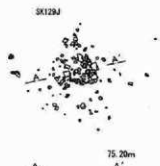
- SS67
1 暗褐色土





- SS68
- 1 暗褐色土
 - 2 褐色土
 - 3 暗黄褐色土
 - 4 灰暗黄褐色土
 - 5 暗褐色土 焼土粒子多量
 - 6 暗褐色土 焼土粒子少量
 - 7 暗黄褐色土
 - 8 黄褐色土 板敷ローム
 - 9 暗黄褐色土 板敷ローム

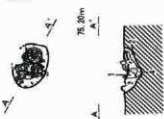
74.60m



75.20m

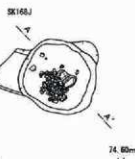
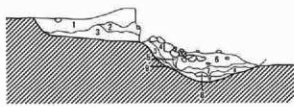


SK119J



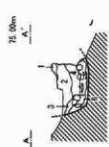
- SK119J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗赤褐色土
 - 3 暗赤土
 - 4 暗黄褐色土 ロームブロック多量

- SK170J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗黄褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗赤褐色土 炭化物少量
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗黄褐色土



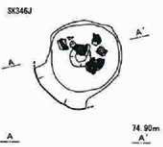
- SK168J
- 1 暗赤褐色土
 - 2 暗黄褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗赤褐色土
 - 6 暗赤褐色土
 - 7 暗赤褐色土
 - 8 ロームブロック
 - 9 暗黄褐色土
 - 10 暗赤褐色土
 - 11 暗赤褐色土
 - 12 暗赤褐色土
 - 13 暗赤褐色土
 - 14 暗黄褐色土

- SK170J
- 炭化物少量
- 炭化物少量
- 焼土粒子少量
- 焼土粒子少量
- 焼土粒子多量
- 焼土粒子・ロームブロック多量



SK170J

75.00m



- SK346J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗赤褐色土
 - 3 灰暗褐色土
 - 4 灰暗褐色土
 - 5 黄暗褐色土
 - 6 暗黄褐色土
 - 7 暗赤褐色土
 - 8 暗黄褐色土
 - 9 灰暗褐色土
 - 10 灰暗褐色土
 - 11 灰暗褐色土
 - 12 灰暗黄褐色土
 - 13 暗赤褐色土
 - 14 褐色土
- 炭化物少量
- ロームブロック少量
- ロームブロック少量

SK263・279J

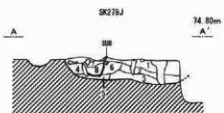


SK279J

SK263J

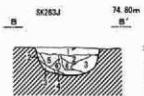
SK279J

- SK279J
- 1 暗褐色土
 - 2 褐色土
 - 3 暗黄褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗褐色土
 - 7 暗赤褐色土
 - 8 暗褐色土
- ローム粒子多量



SK279J

74.80m



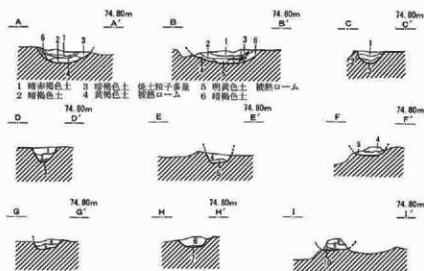
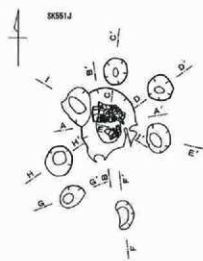
SK263J

74.90m

- SK263J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗赤褐色土
 - 3 暗赤褐色土
 - 4 暗赤褐色土
 - 5 黒褐色土
 - 6 褐色土

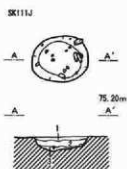


図面59 SK111・144・171・273・388・462・551J 土坑

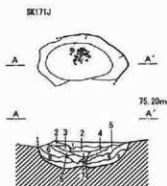


SK551J 小穴 C-C' ~ 1-1'

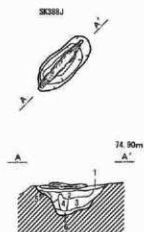
- | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|
| 1 暗褐色土 | 6 暗黄褐色土 | 7 暗褐色土 | 炭化物少量 |
| 2 暗褐色土 | 炭化物少量 | 8 灰褐色土 | ローム少量 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒子少量 | 9 暗褐色土 | 炭化物少量 |
| 4 暗褐色土 | 炭化物少量 | 10 暗褐色土 | ロームブロック少量 |
| 5 暗黄褐色土 | 炭化物少量 | | |



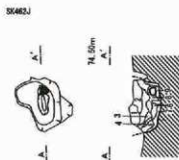
- SK111J
- 1 暗黄褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗茶褐色土



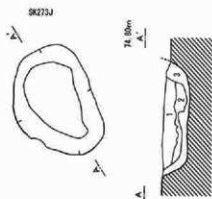
- SK171J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 黒褐色土
 - 5 暗黄褐色土
 - 6 暗褐色土
 - 7 灰暗褐色土
 - 8 暗黄褐色土
 - 9 黄褐色土
- ロームブロック多量



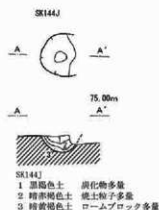
- SK388J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗茶褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 茶褐色土
 - 5 褐色土
 - 6 暗黄褐色土
- ロームブロック多量



- SK462J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗茶褐色土
 - 3 反暗黄褐色土
 - 4 茶褐色土
 - 5 黄褐色土
 - 6 暗黄褐色土
 - 7 反暗褐色土
 - 8 反暗褐色土
 - 9 反暗黄褐色土
- ロームブロック多量
炭化物少量

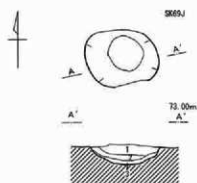


- SK273J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗黄褐色土
 - 3 黒色土
- ローム粒子多量
炭種多量

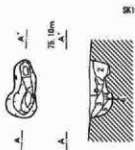


- SK144J
- 1 黒褐色土
 - 2 暗黄褐色土
 - 3 暗黄褐色土
- 炭化物多量
炭土粒子多量
ロームブロック多量

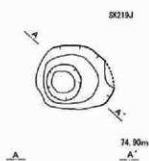




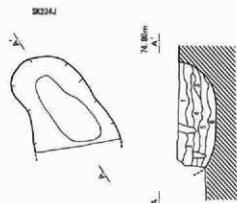
- SK69J
- 1 暗褐色土 炭化物少量
 - 2 暗褐色土 炭化物多量
 - 3 明褐色土



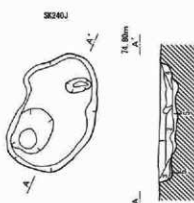
- SK161J
- 1 暗黒褐色土
 - 2 暗黒褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗黒褐色土
 - 6 暗褐色土



- SK219J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗黄褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗茶褐色土
 - 6 暗茶褐色土
 - 7 暗茶褐色土
 - 8 暗茶褐色土
 - 9 灰暗黄褐色土
 - 10 暗黒褐色土
 - 11 灰暗黄褐色土
 - 12 暗褐色土
 - 13 暗黄褐色土
 - 14 灰暗褐色土
 - 15 暗褐色土

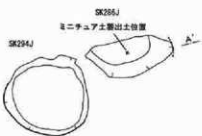


- SK234J
- 1 暗褐色土
 - 2 褐色土
 - 3 暗黄褐色土
 - 4 暗黄褐色土
 - 5 黄褐色土
 - 6 黄色土 ロームの再産物

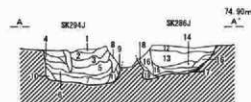


- SK240J
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗黄褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗黄褐色土 ロームブロック多量
 - 7 暗黄褐色土
 - 8 暗黄褐色土 ロームブロック多量

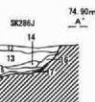
- SK216J
- 1 暗褐色土
 - 2 暗黄褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗茶褐色土
 - 6 暗茶褐色土
 - 7 暗茶褐色土
 - 8 暗茶褐色土
 - 9 灰暗黄褐色土
 - 10 暗黒褐色土
 - 11 灰暗黄褐色土
 - 12 暗褐色土
 - 13 暗黄褐色土
 - 14 灰暗褐色土
 - 15 暗褐色土
 - 16 暗黄褐色土



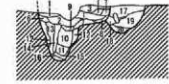
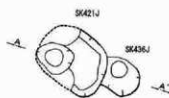
ニコチュア土層出土物層



- SK294J
- 1 暗褐色土 焼土粒子少量
 - 2 暗茶褐色土 焼土粒子多量
 - 3 灰暗褐色土
 - 4 茶褐色土
 - 5 暗褐色土 炭化物少量
 - 6 暗黒褐色土 炭化物少量
 - 7 暗黄褐色土 ロームブロック多量
 - 8 暗茶褐色土
 - 9 暗褐色土
 - 10 暗茶褐色土
 - 11 灰暗褐色土
 - 12 暗褐色土
 - 13 暗茶褐色土



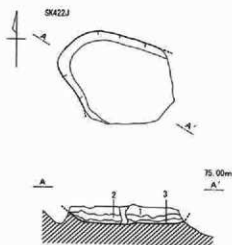
- SK286J
- 14 暗黄褐色土 ロームブロック少量
 - 15 暗黄褐色土 ロームブロック多量
 - 16 暗茶褐色土 ローム粒子少量
 - 17 暗褐色土 焼土粒子少量
 - 18 暗茶褐色土
 - 19 暗黄褐色土
 - 20 暗黄褐色土



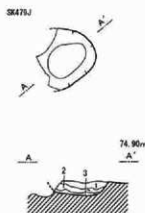
- SK421J
- 1 暗褐色土 ロームブロック多量
 - 2 灰暗褐色土
 - 3 暗黒褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 暗茶褐色土
 - 7 ロームブロック
 - 8 暗黄褐色土
 - 9 暗褐色土
 - 10 暗褐色土
 - 11 暗褐色土
 - 12 暗黄褐色土
 - 13 灰暗褐色土
 - 14 暗褐色土
 - 15 暗褐色土
 - 16 暗黄褐色土

- SK436J
- 17 暗褐色土 ローム粒子多量
 - 18 茶褐色土
 - 19 褐色土
 - 20 暗黄褐色土

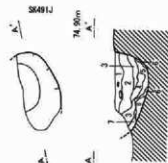




- SK422J
1 暗黒褐色土
2 暗褐色土
3 暗黒黄褐色土



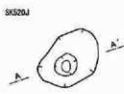
- SK479J
1 暗褐色土
2 褐色土
3 暗黄褐色土



- SK491J
1 暗褐色土
2 暗褐色土 炭化物少量
3 暗茶褐色土
4 茶褐色土
5 暗黄褐色土
6 暗黄褐色土
7 暗茶褐色土
8 暗黄褐色土 ロームブロック



- SK497J
1 暗茶褐色土
2 灰黒褐色土
3 灰茶色土
4 灰暗褐色土
5 灰暗褐色土
6 暗褐色土
7 灰褐色土

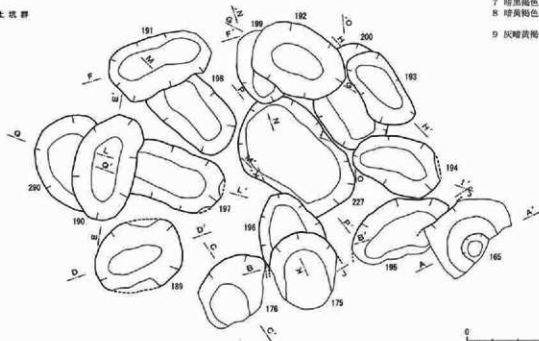


- SK520J
1 暗褐色土
2 褐色土
3 暗黄褐色土
4 暗黒褐色土
5 暗黄褐色土
6 暗褐色土



- SK550J
1 灰褐色土
2 灰暗褐色土 ローム粒子少量
3 灰暗褐色土 炭化物少量
4 灰暗褐色土 炭化物・ローム粒子少量
5 灰暗褐色土
6 灰暗黒褐色土
7 暗黄褐色土
8 暗黄褐色土 ロームブロック多量
9 灰暗黄褐色土

土坑群



図面62 土坑群セクション

A SK185J 75.00m A'



- 1 暗黒褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 暗褐色土 ロームブロック多量

B SK175J 75.00m B'



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 炭化物少量
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量
- 4 暗黄褐色土
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック多量

C SK176J 75.00m C'



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 暗黄褐色土

D SK188J 75.00m D'



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量
- 4 暗黄褐色土
- 5 暗黒褐色土
- 6 暗黄褐色土
- 7 暗黄褐色土
- 8 暗黄褐色土

炭化物少量

E SK190J 75.00m E'



- 1 暗褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土
- 5 暗黄褐色土
- 6 暗黄褐色土

F SK191J 75.00m F'



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土
- 5 暗黒褐色土
- 6 暗黄褐色土

G SK192J 75.00m G'



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土
- 5 暗黄褐色土
- 6 暗黄褐色土

H SK193J 75.00m H'



- 1 暗褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土

I SK194J 75.00m I'



- 1 暗褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土
- 5 暗黄褐色土

J SK195J 75.00m J'



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量
- 4 暗黄褐色土

K SK196J 75.00m K'



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 暗黄褐色土

L SK197J 75.00m L'



- 1 褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 暗黄褐色土
- 5 黄褐色土

M SK198J 75.00m M'



- 1 暗黄褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗黄褐色土

N SK199J 75.00m N'



- 1 暗黒褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黒褐色土
- 5 暗黄褐色土

O SK200J 75.00m O'



- 1 暗黄褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土

P SK227J 75.00m P'



- 1 暗黄褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 褐色土
- 4 暗褐色土

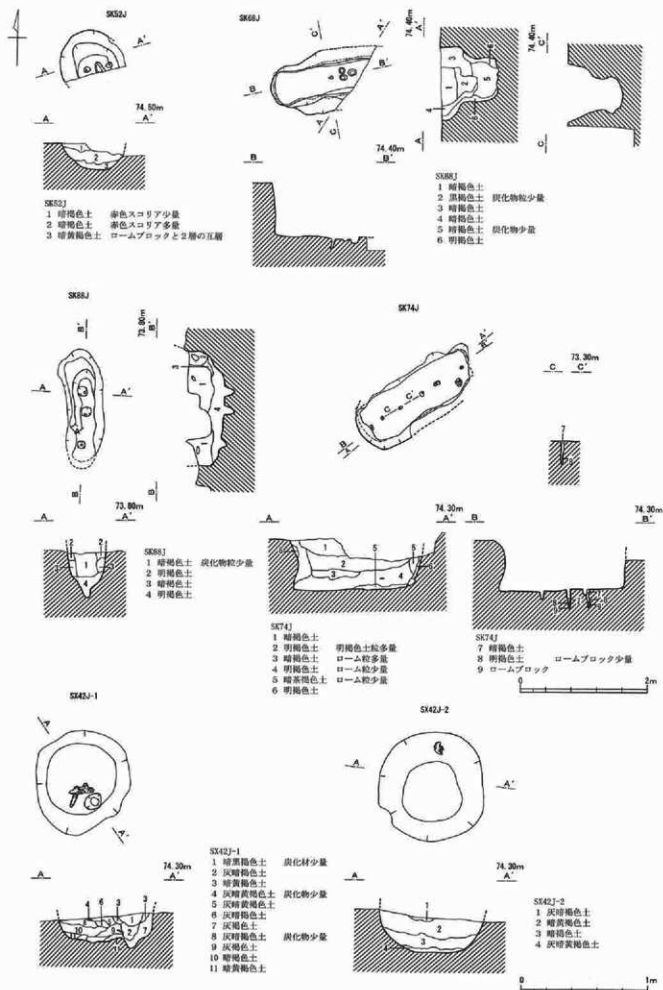
Q SK290J 75.00m Q'



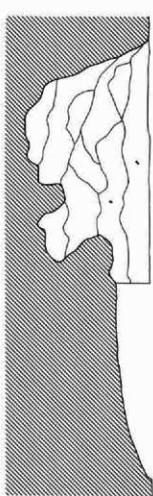
- 1 暗黄褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 暗黄褐色土



図面63 SK52・68・74・88J 陥穴、SX42J-1・2特殊遺構



图面64 SK101J 炉穴



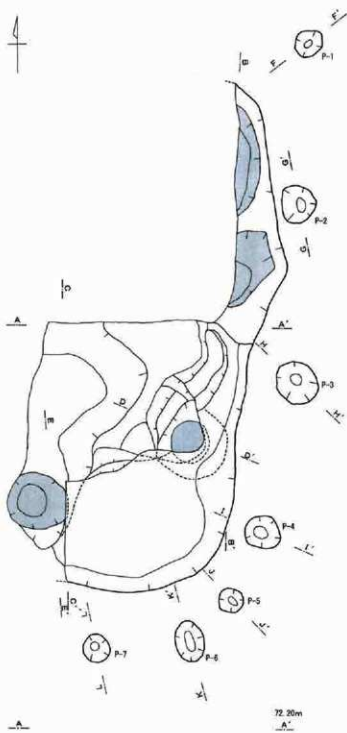
B

1/20m
B'



C

1/20m
C'



A

B

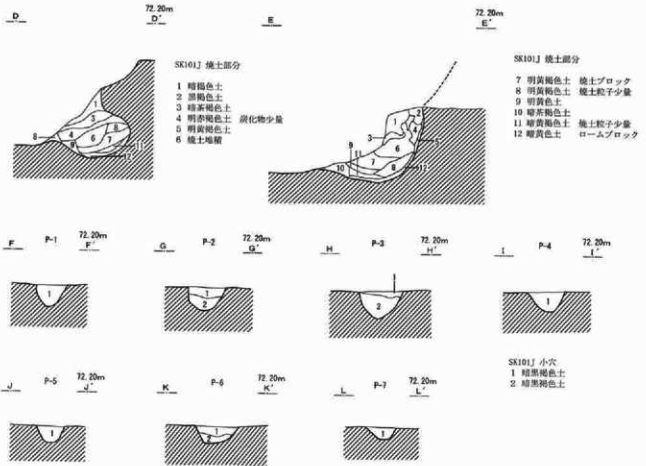
1/20m
A'

A



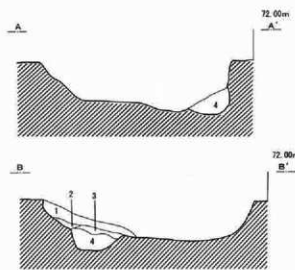
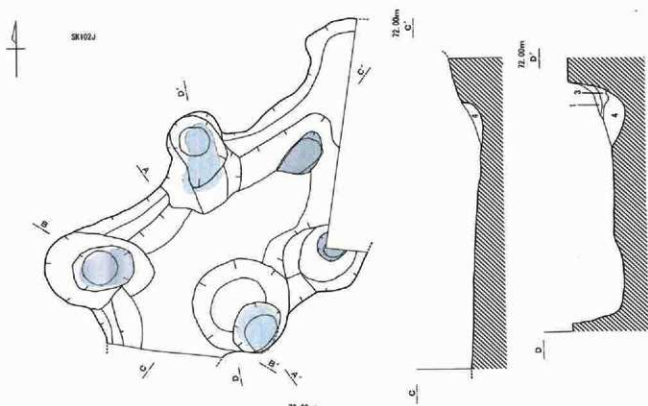
0 1m

図面65 SK101J 炉穴



0 1m

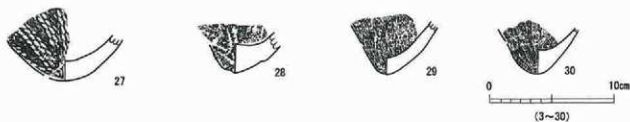
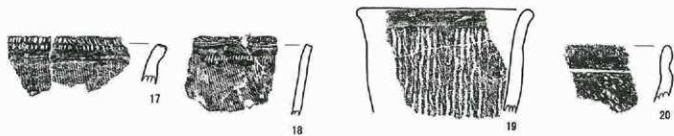
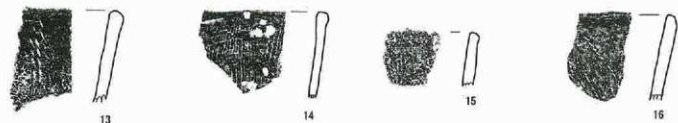
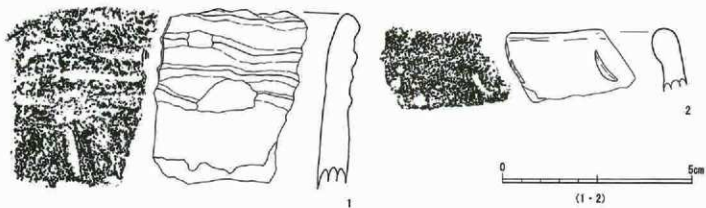
図面66 SK102J 炉穴



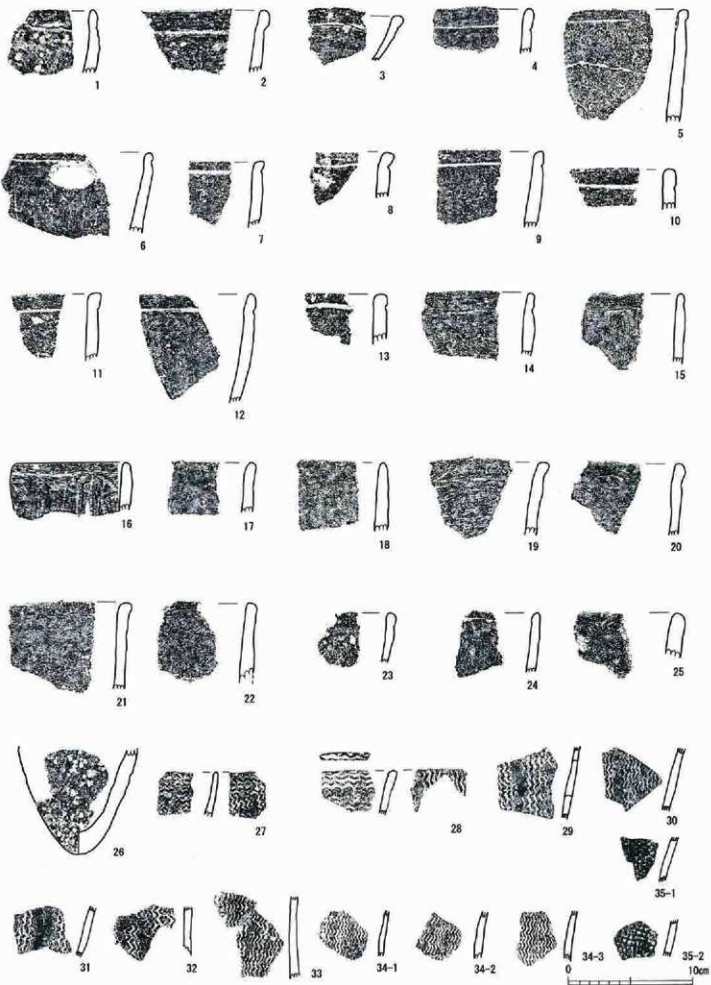
- SK102J
 1 暗褐色土 ローム粒・赤色スコリア少量
 2 暗褐色土 平や硬質でローム粒少量
 3 暗褐色土 非常に硬質
 4 赤褐色土 焼土堆積



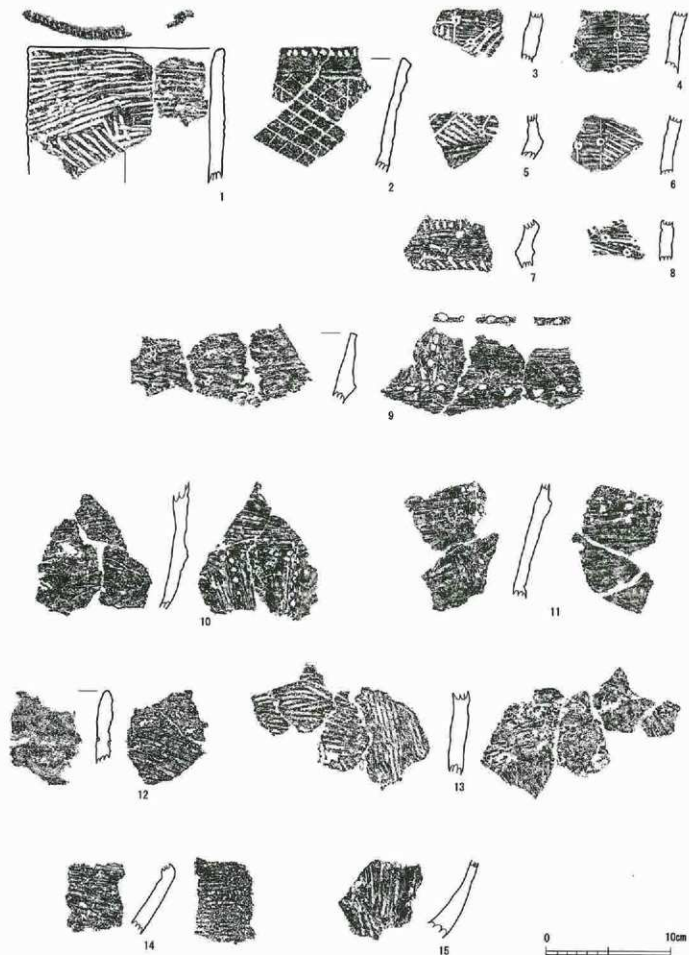
図面67 縄文時代 草創期・早期の土器 (1)



図面68 縄文時代 早期の土器 (2)



図面69 縄文時代 早期の土器 (3)



図面70 縄文時代 前期の土器 (1)



1



2



3



4

0 10cm

(1~4)



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



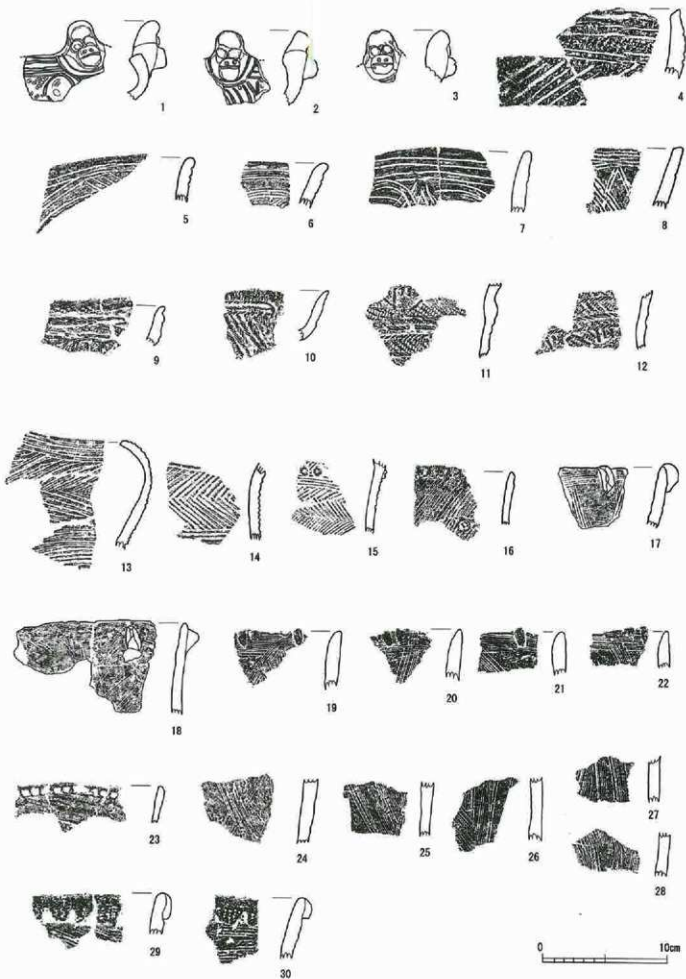
22



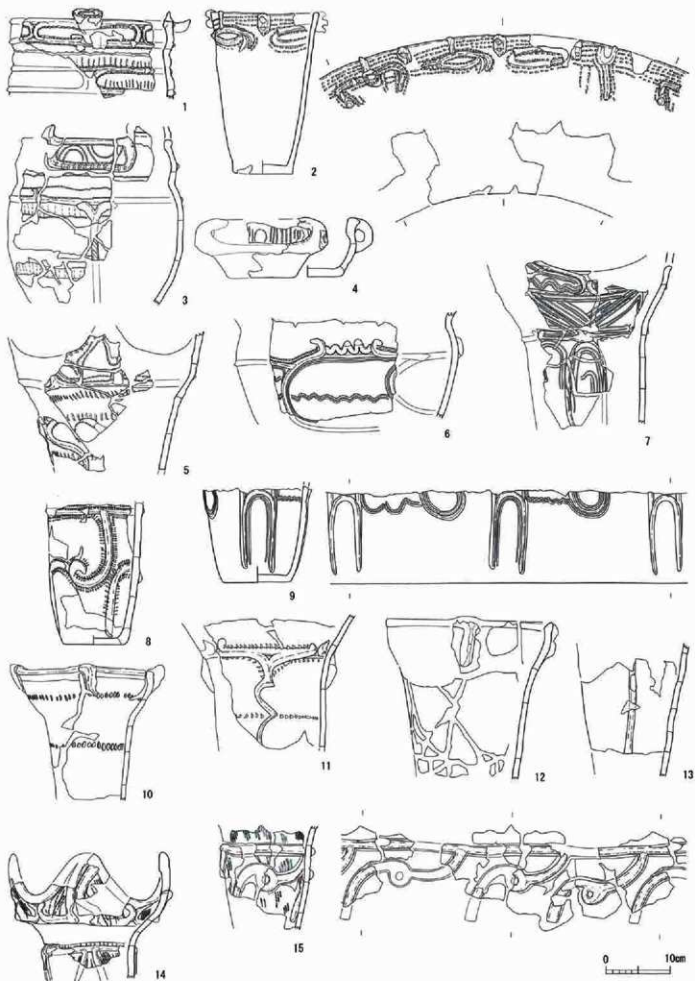
0 10cm

(5~22)

図面71 縄文時代 前期の土器 (2)

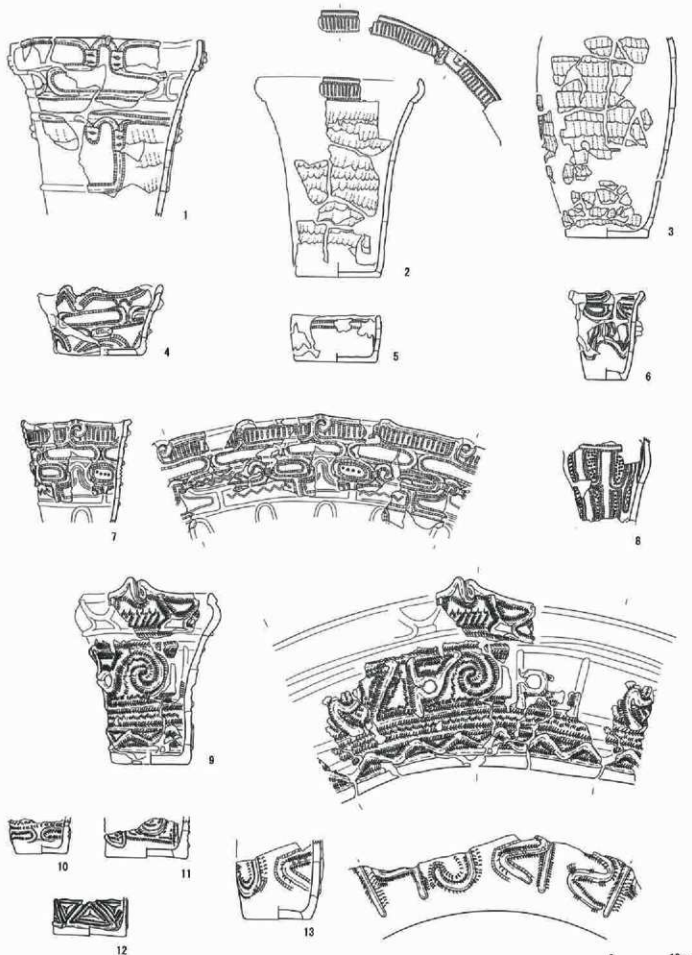


図面72 縄文時代 中期の土器 (1)



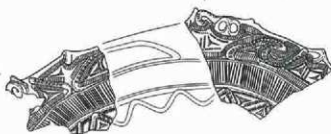
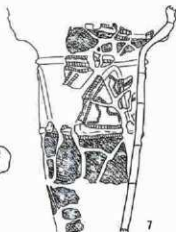
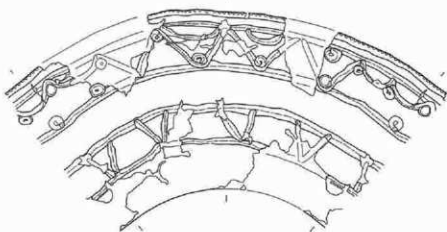
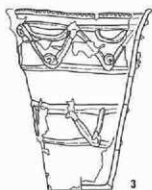
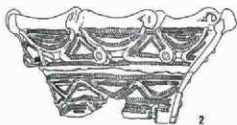
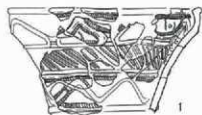
0 10cm

図面73 縄文時代 中期の土器 (2)



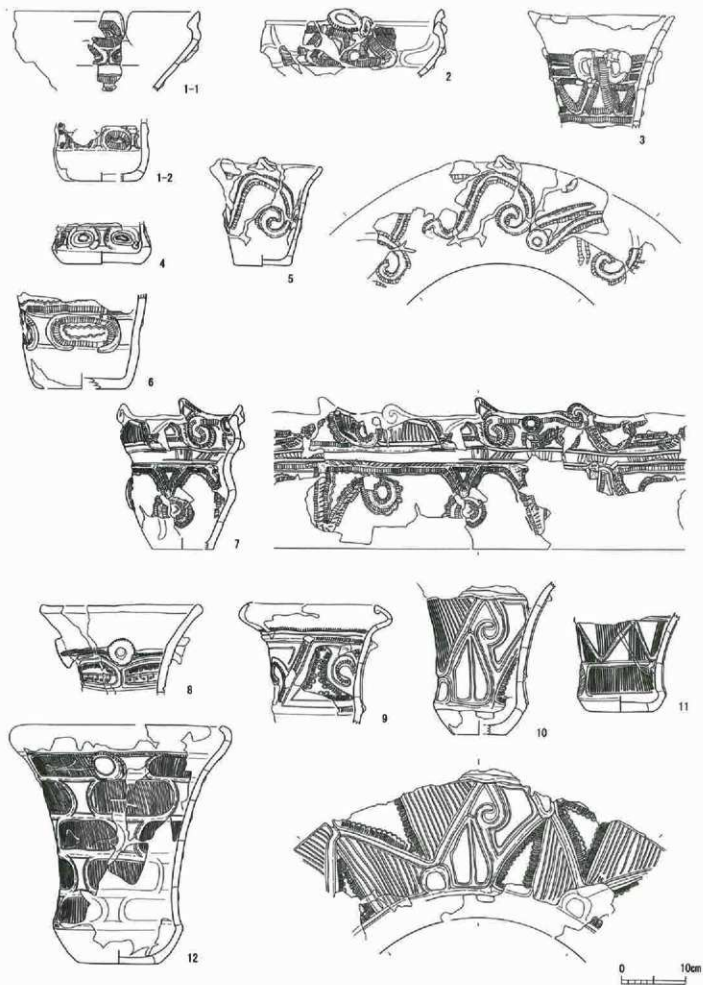
0 10cm

図面74 縄文時代 中期の土器 (3)

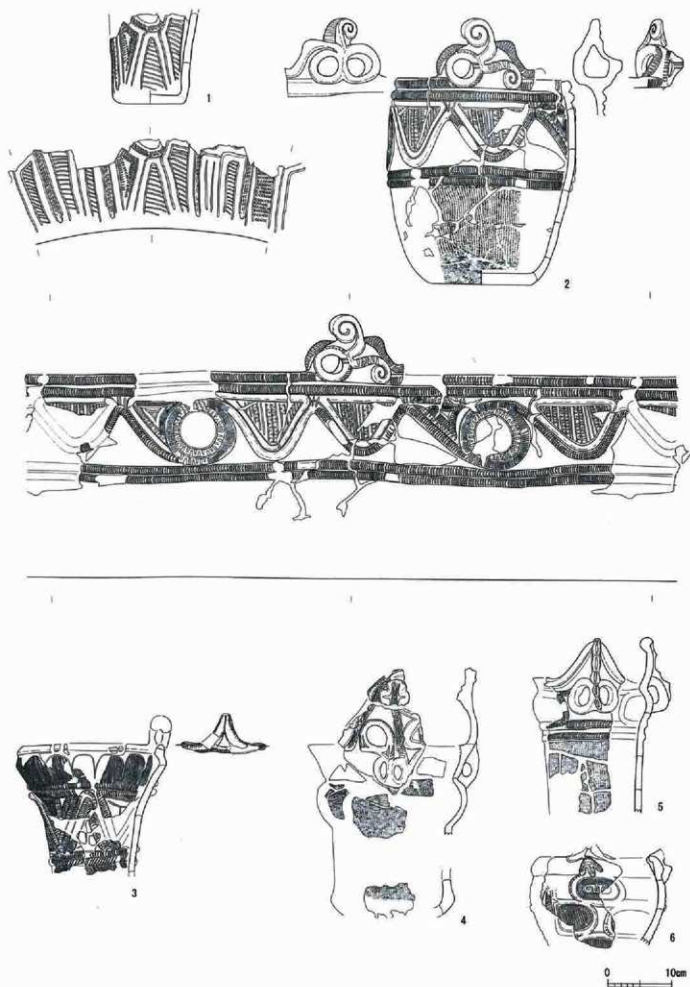


0 10cm

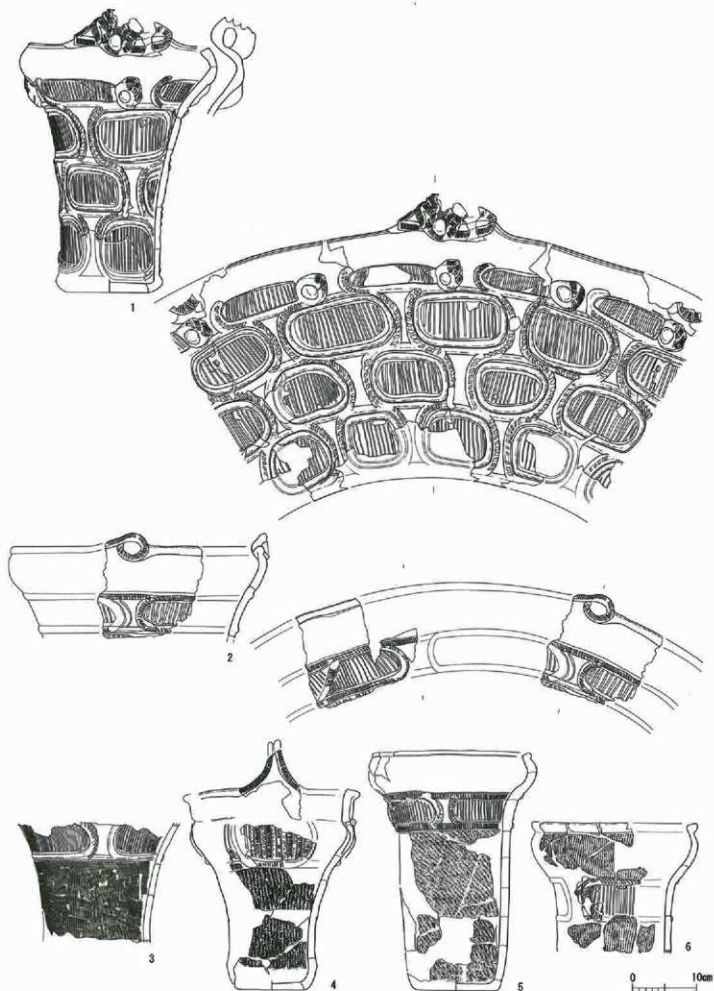
図面75 縄文時代 中期の土器 (4)



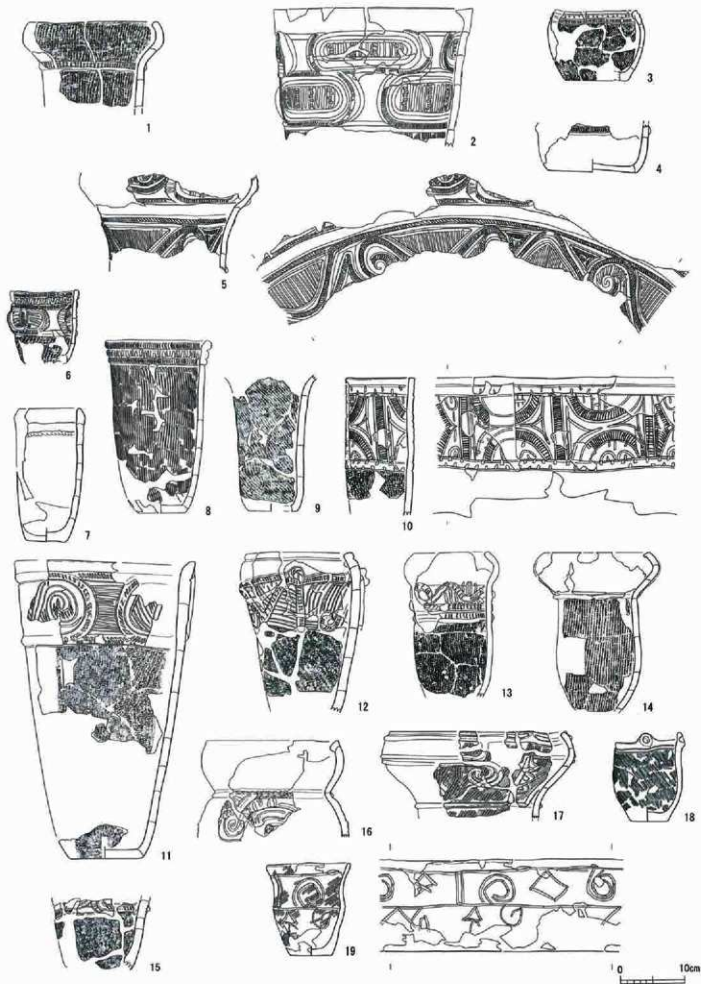
図面76 縄文時代 中期の土器 (5)



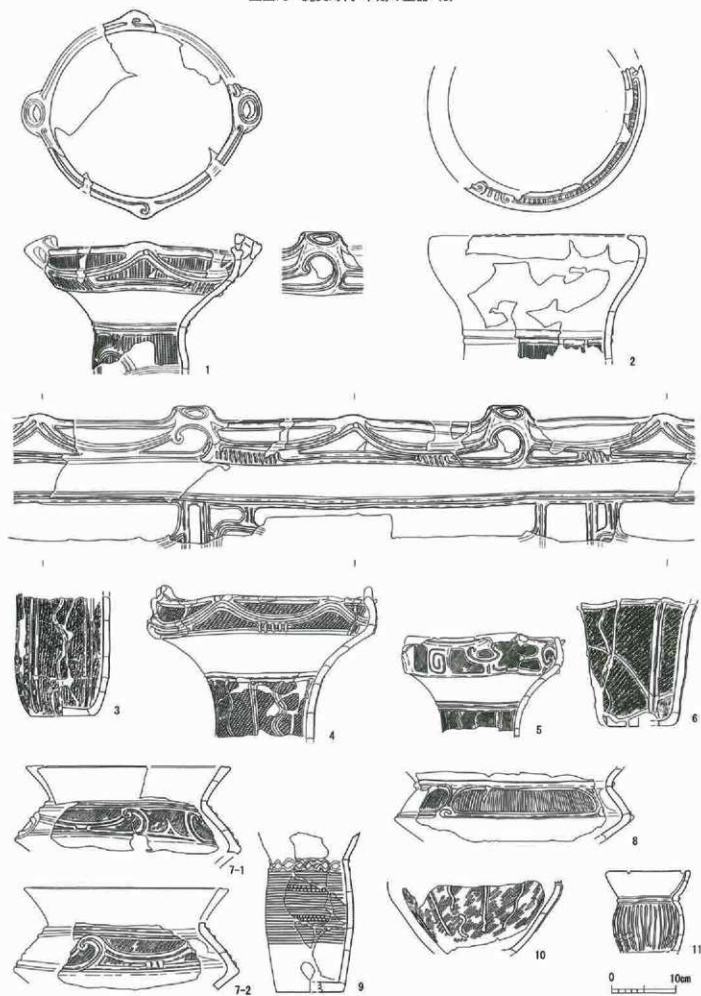
図面77 縄文時代 中期の土器 (6)



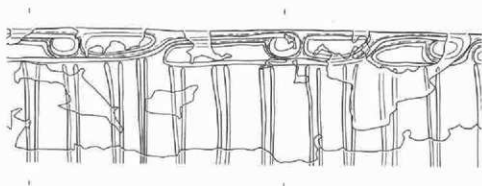
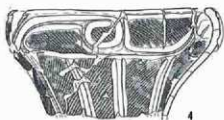
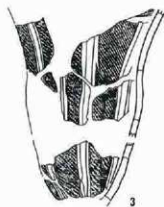
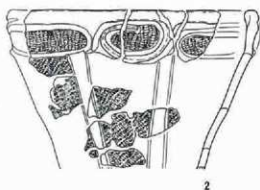
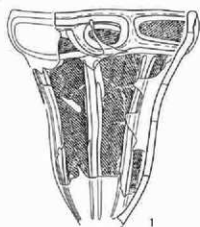
図面78 縄文時代 中期の土器 (7)



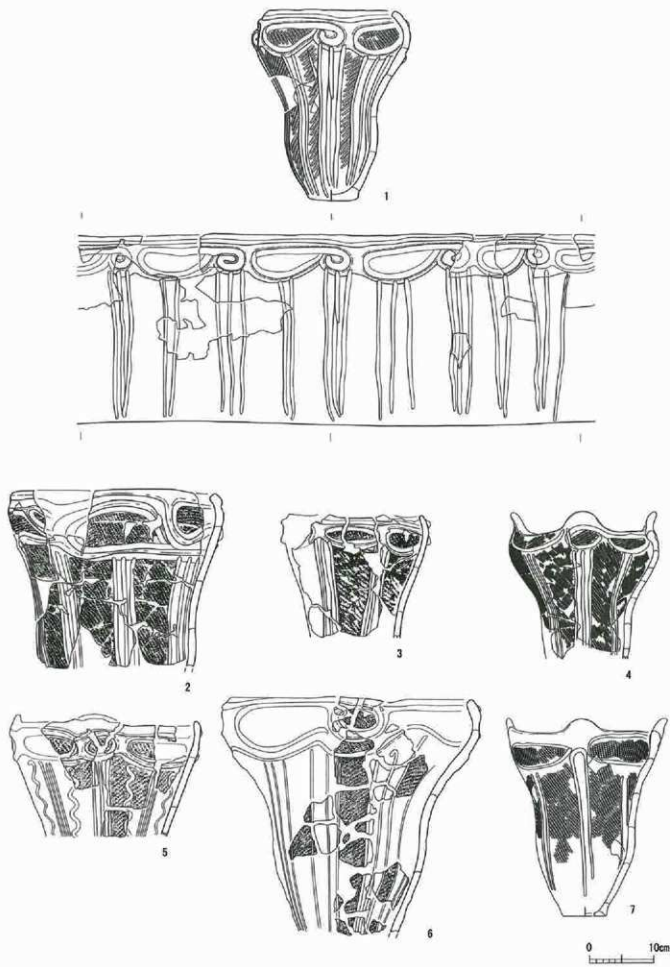
図面79 縄文時代 中期の土器 (8)



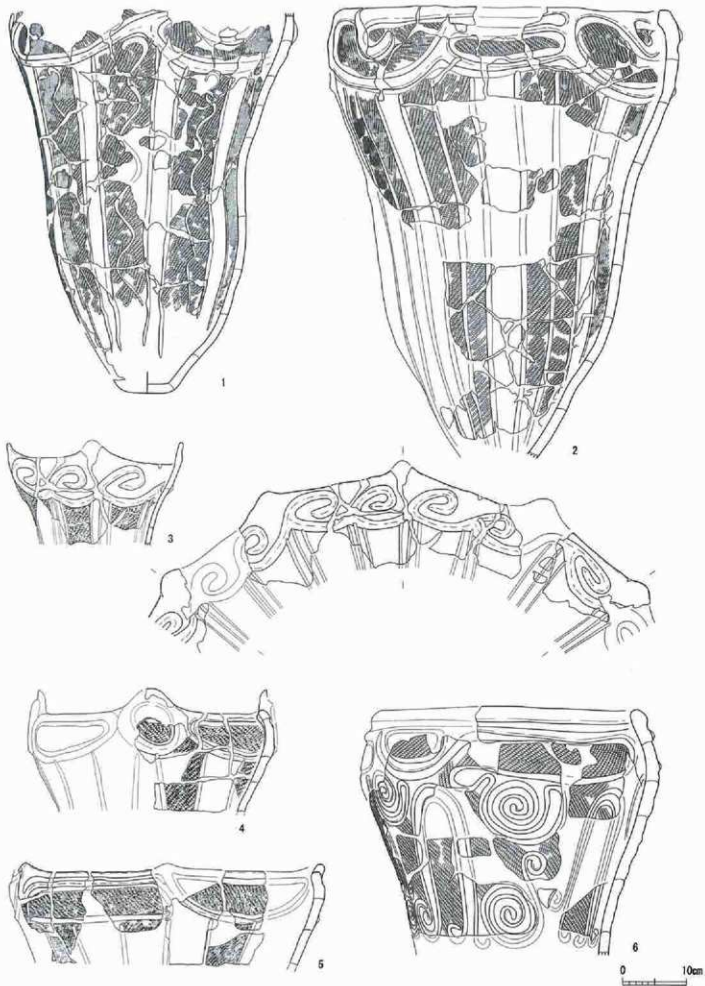
図面80 縄文時代 中期の土器 (9)



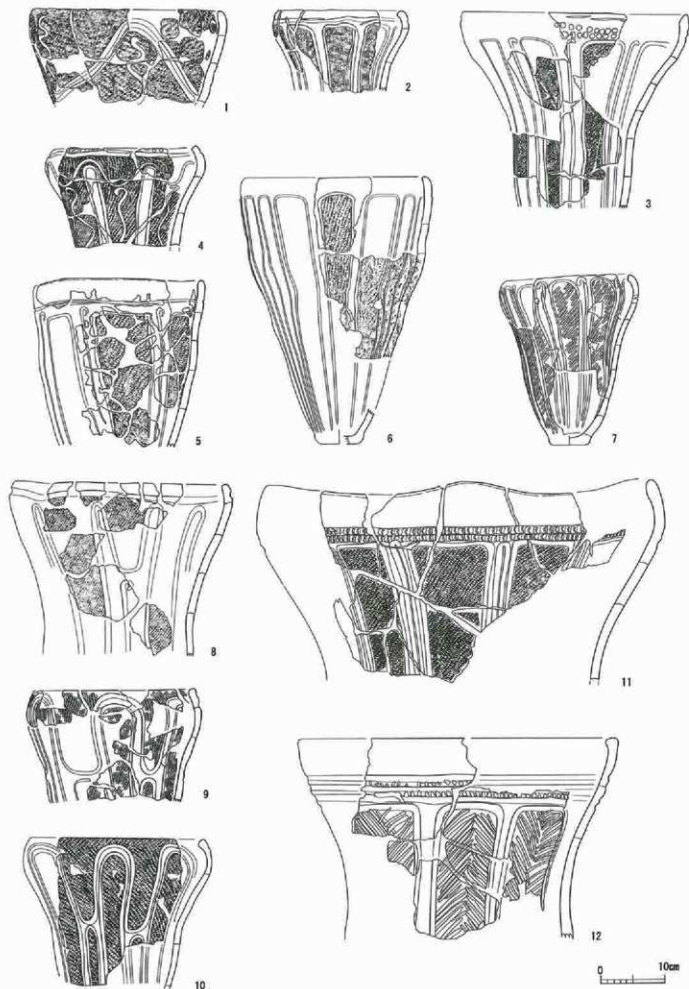
図面81 縄文時代 中期の土器 (10)



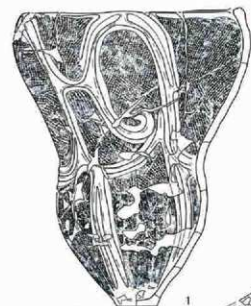
図面82 縄文時代 中期の土器 (11)



図面83 縄文時代 中期の土器 (12)

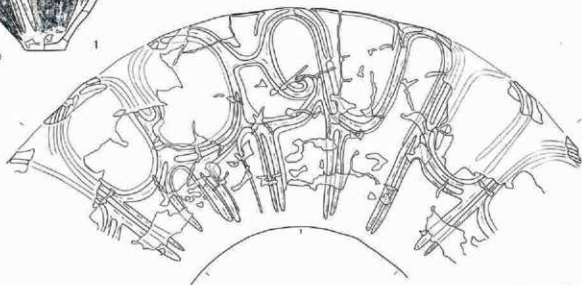


図面84 縄文時代 中期の土器 (13)



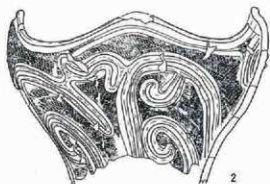
0 10cm

(1)



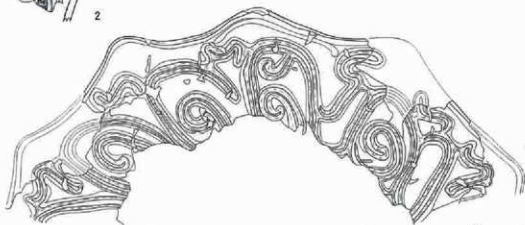
0 10cm

(1展開図)



0 10cm

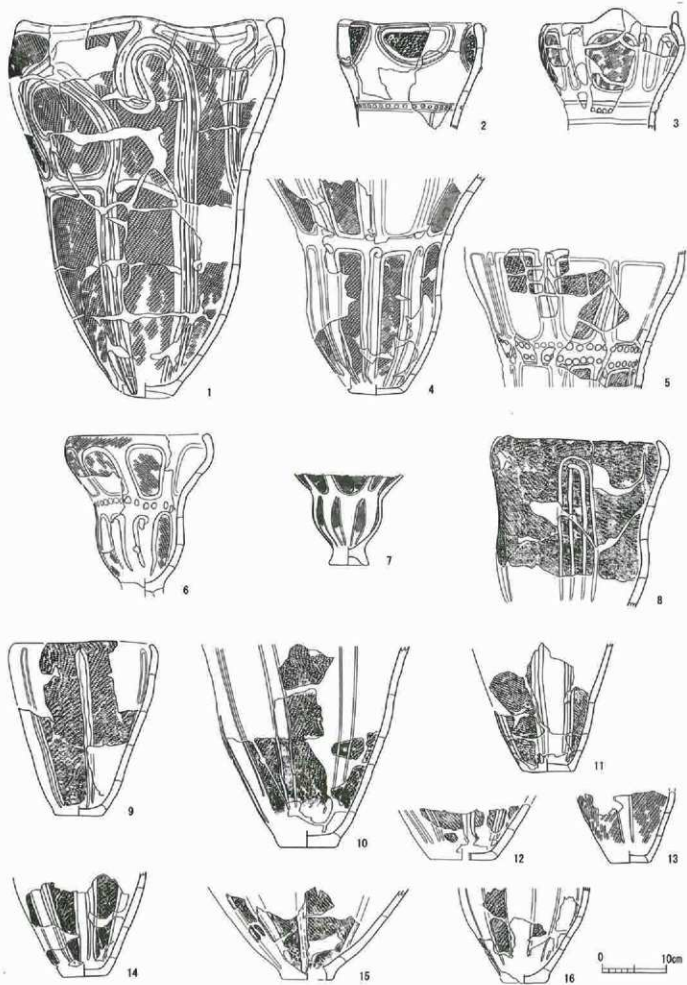
(2)



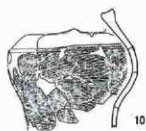
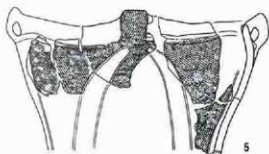
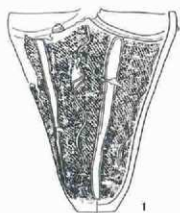
0 10cm

(2展開図)

図面85 縄文時代 中期の土器 (14)



図面86 縄文時代 中期の土器 (15)



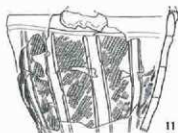
6

7

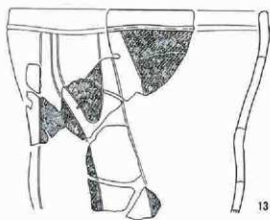
8

10

9



11



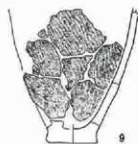
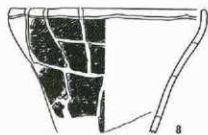
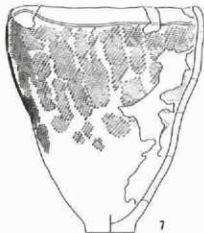
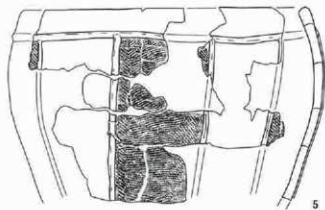
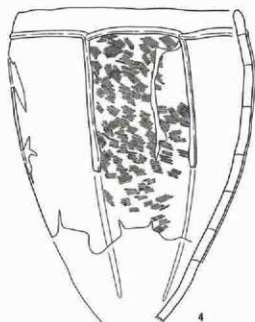
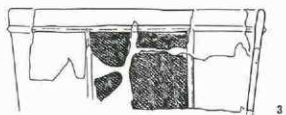
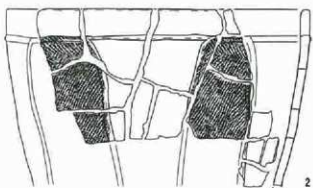
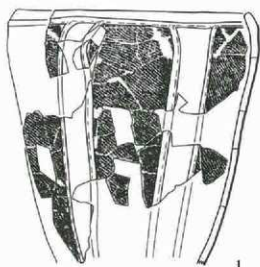
13



12

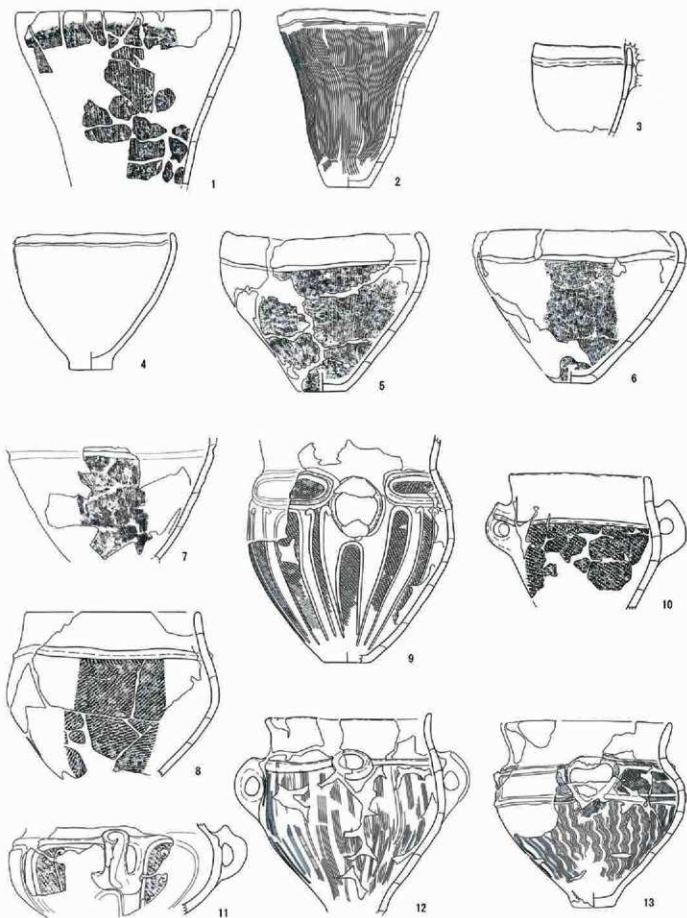


図面87 縄文時代 中期の土器 (16)



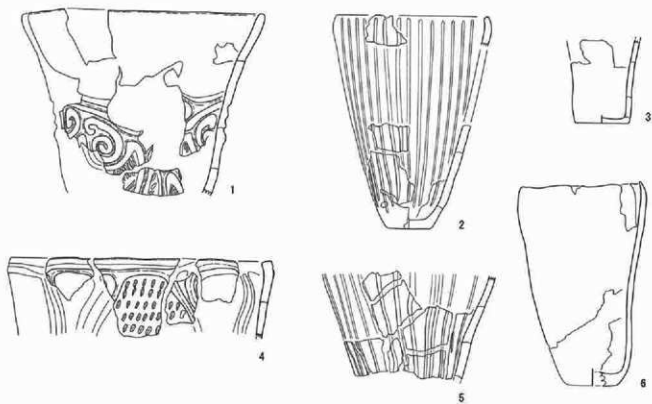
0 10cm

図面88 縄文時代 中期の土器 (17)

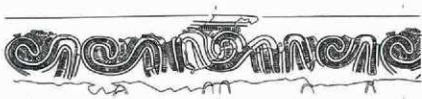
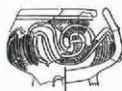
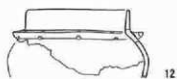
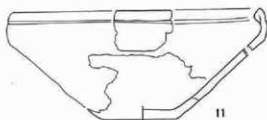
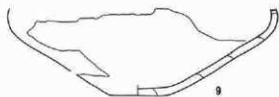
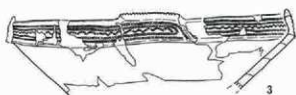
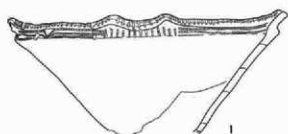


0 10cm

図面89 縄文時代 中期の土器 (18)

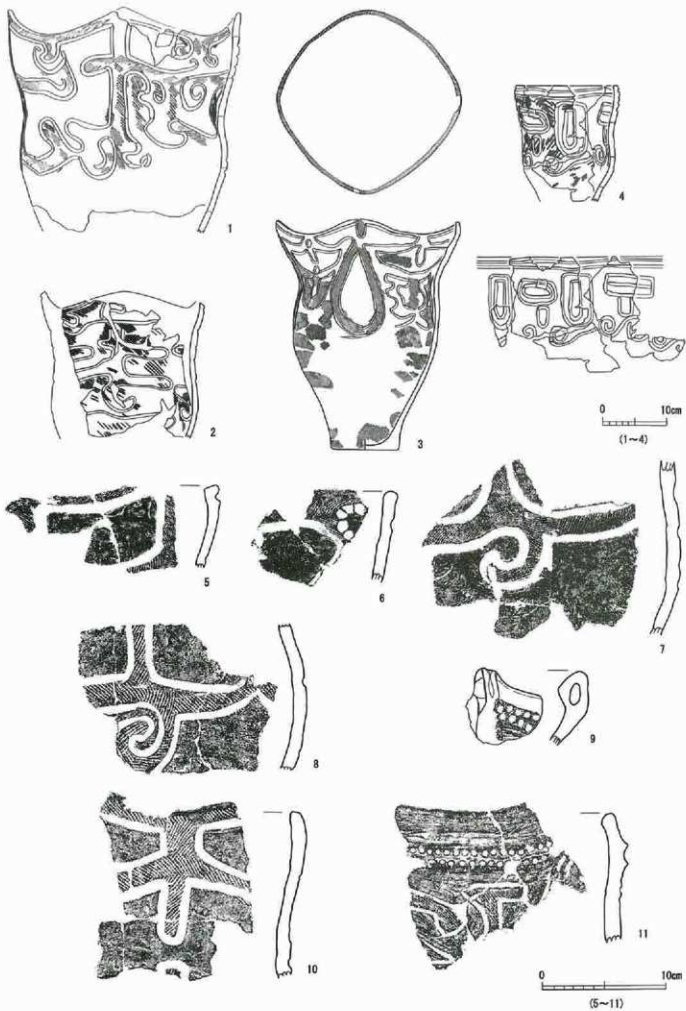


図面90 縄文時代 中期の土器 (19)

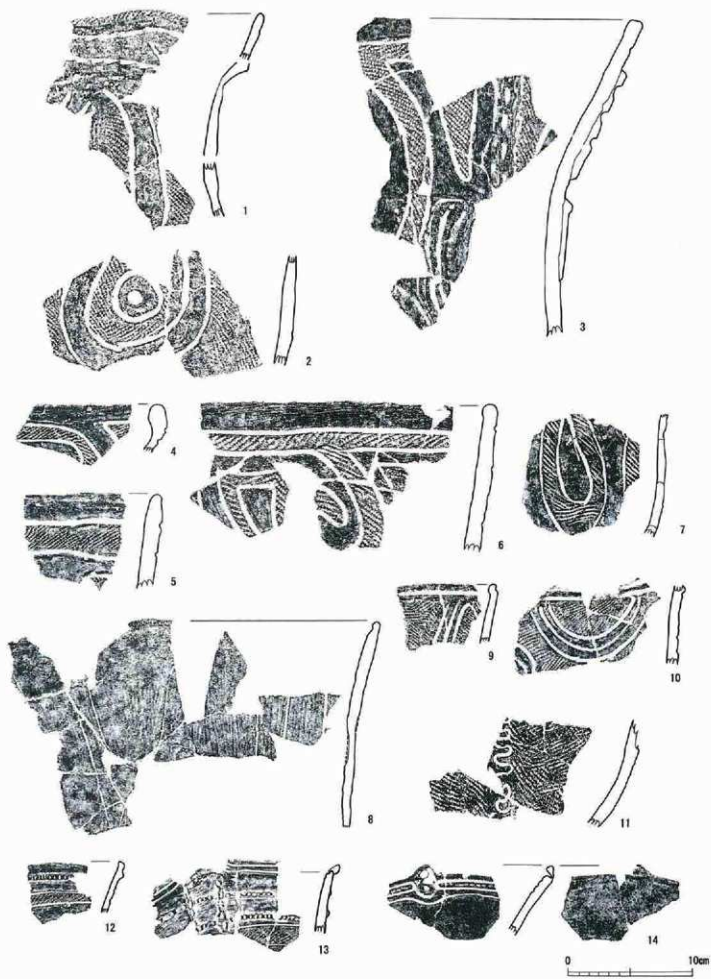


0 10cm

図面91 縄文時代 後期の土器 (1)



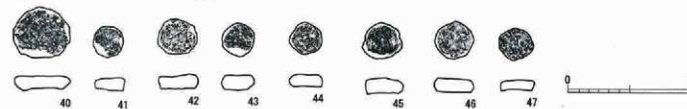
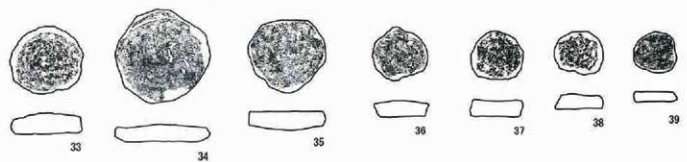
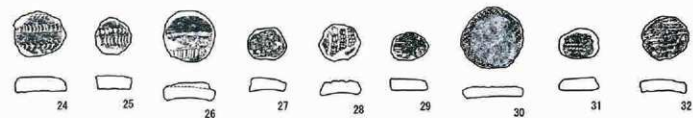
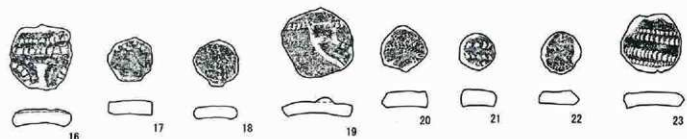
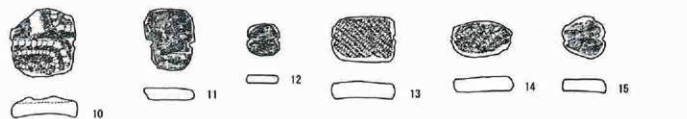
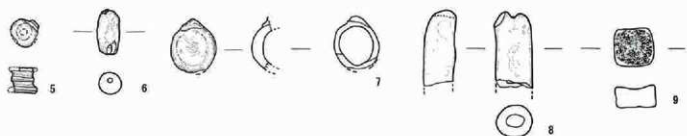
図面92 縄文時代 後期の土器 (2)



図面93 縄文時代 晩期の土器

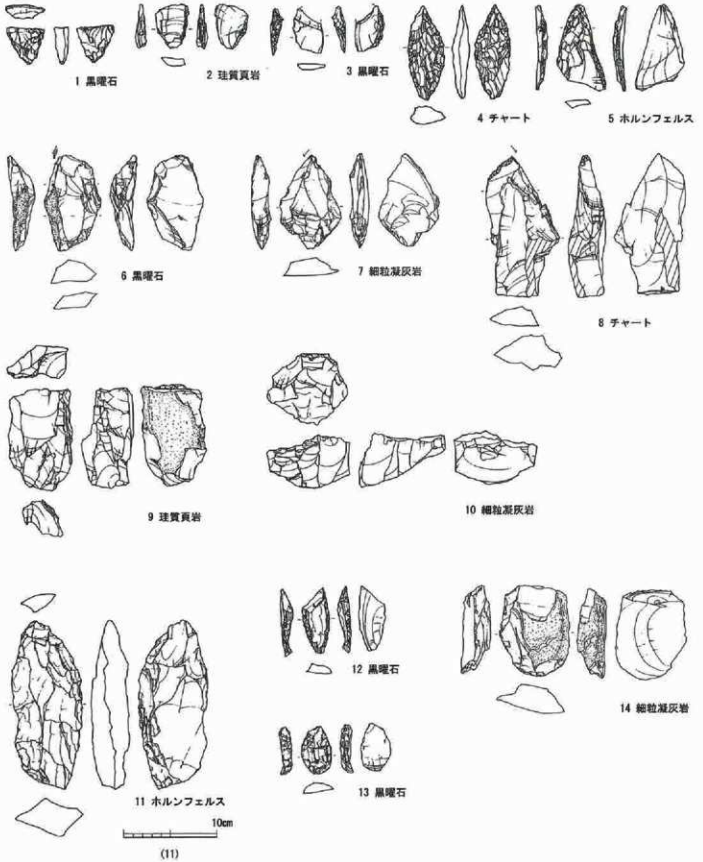


図面94 縄文時代の土製品・土器片鏢・土製円板

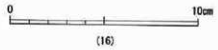
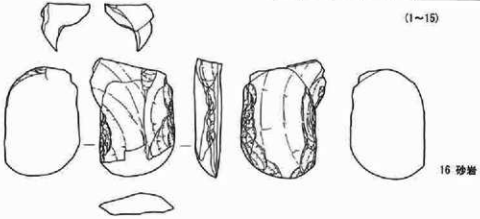
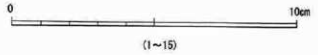
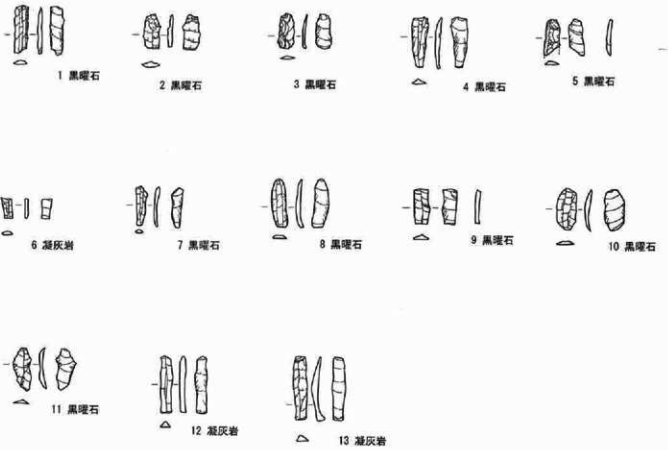


0 10cm

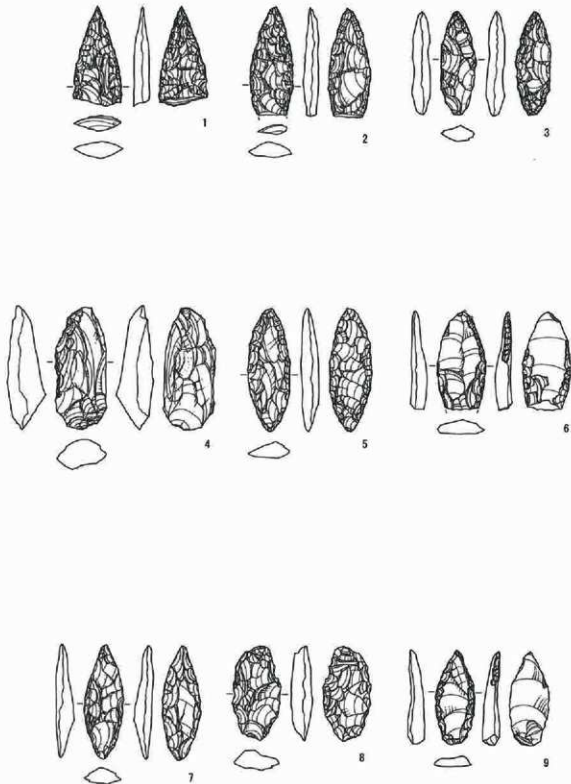
図面95 旧石器時代の遺物 (1)



図面96 旧石器時代の遺物 (2)

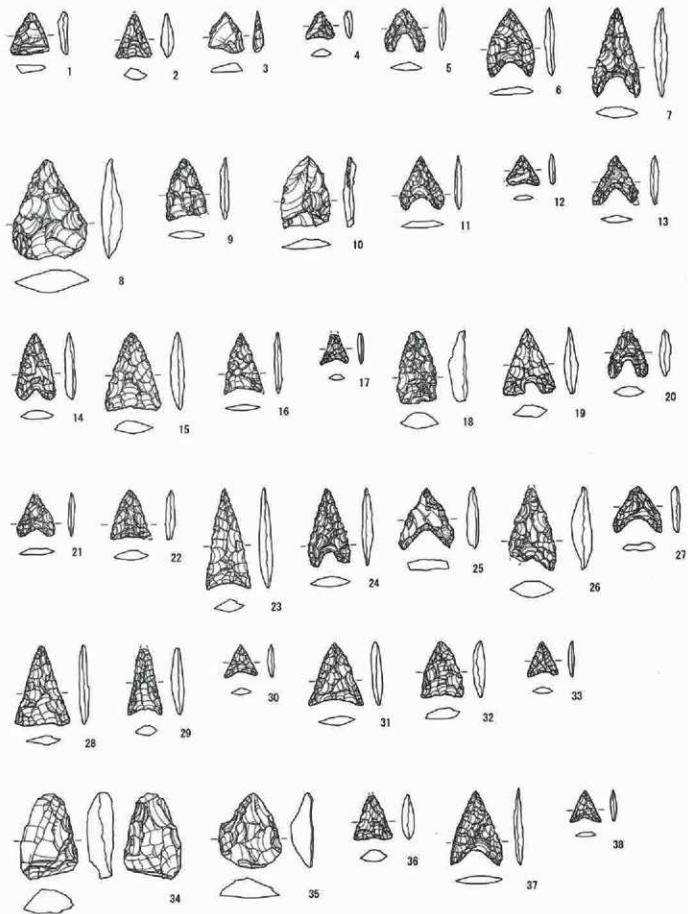


図面97 旧石器時代の遺物 (3)



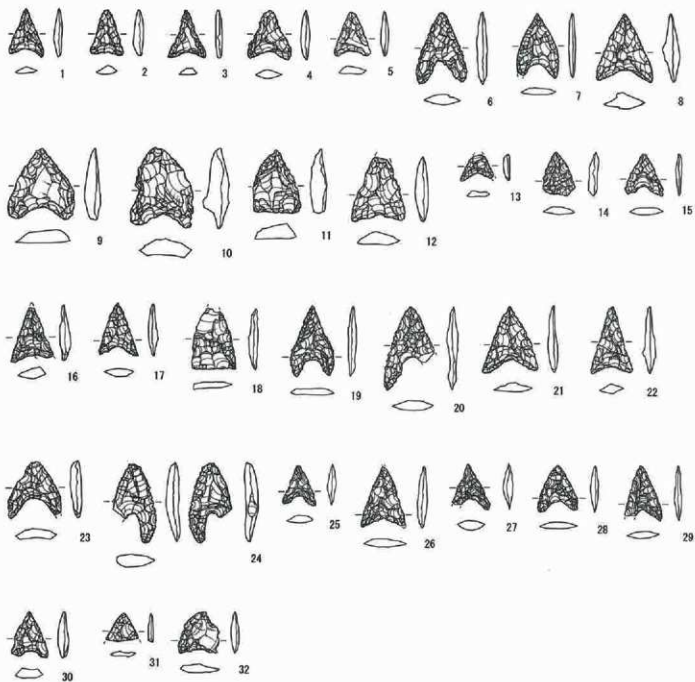
0 10cm

図面98 縄文時代の遺物 (1)



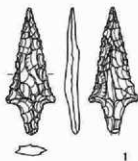
0 10cm

図面99 縄文時代の遺物 (2)

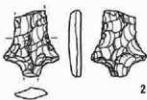


0 10cm

図面100 縄文時代の遺物 (3)



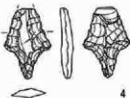
1



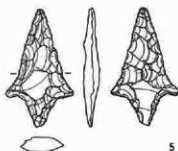
2



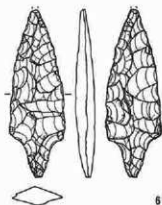
3



4



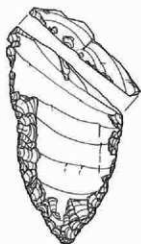
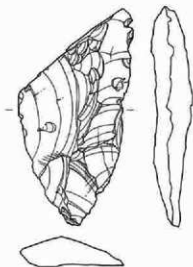
5



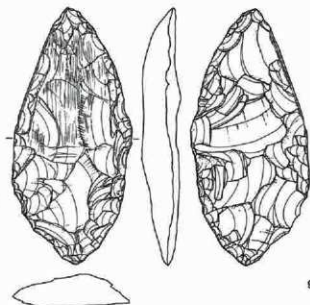
6



7



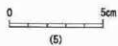
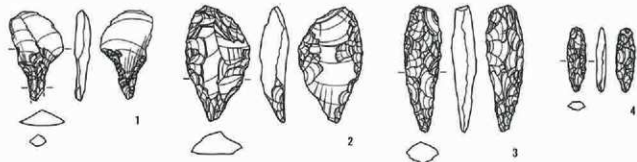
8



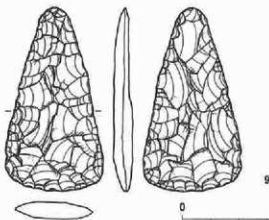
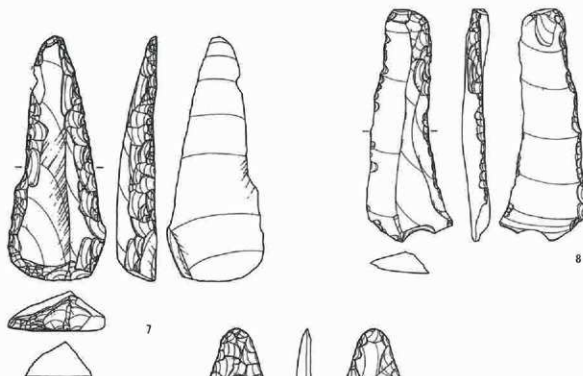
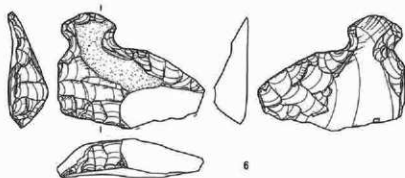
9



図面101 縄文時代の遺物 (4)

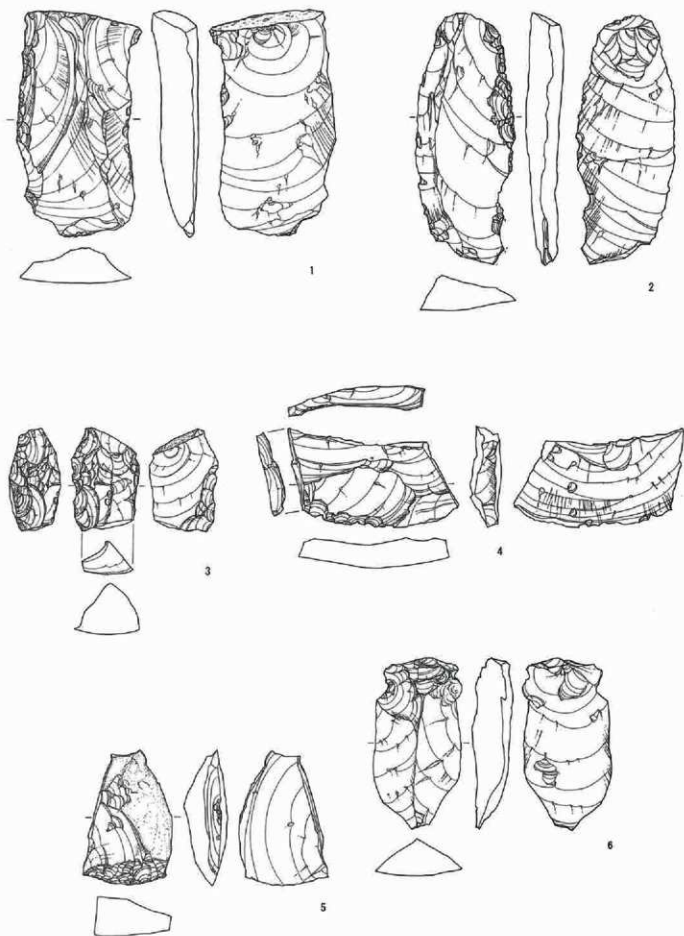


(5)



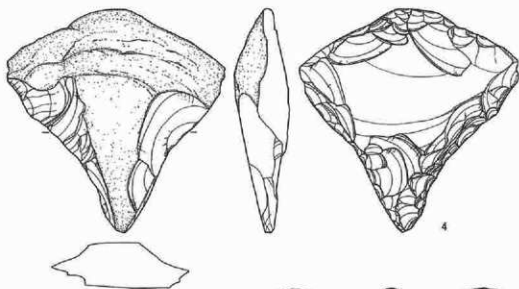
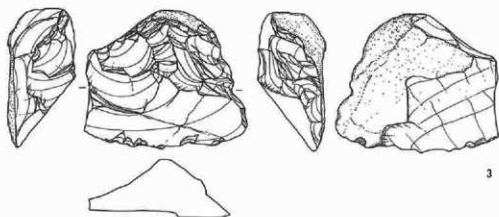
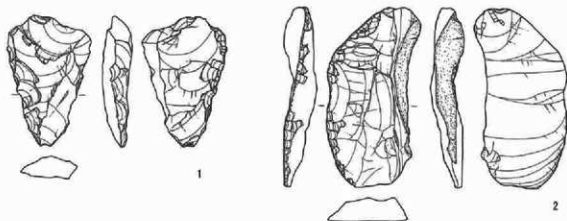
(1~4・6~9)

図面102 縄文時代の遺物 (5)



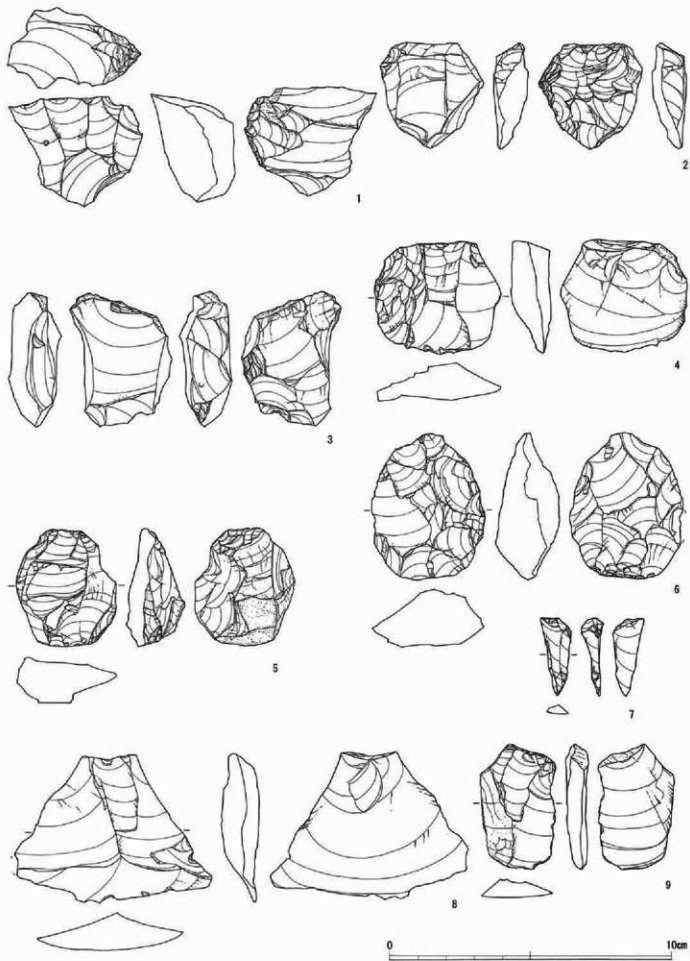
0 10cm

図面103 縄文時代の遺物 (6)

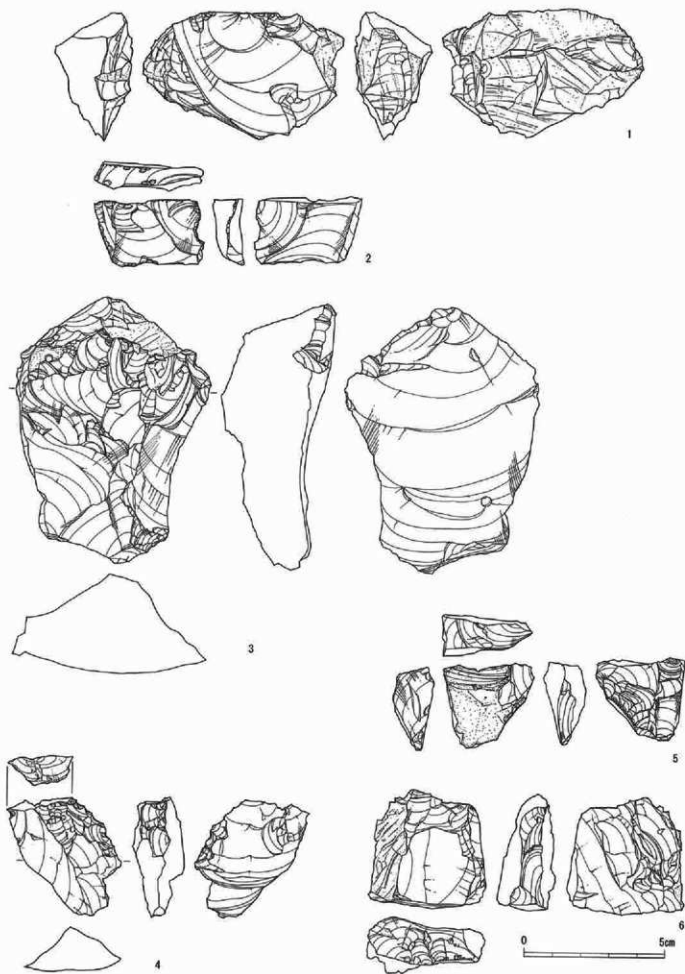


0 10cm

図面104 縄文時代の遺物 (7)



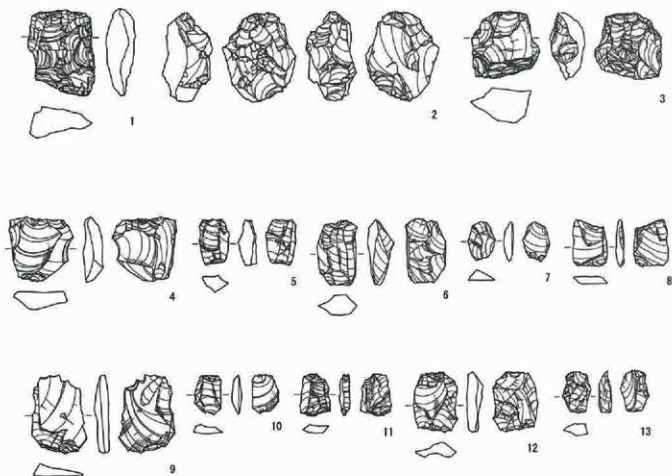
図面105 縄文時代の遺物 (8)



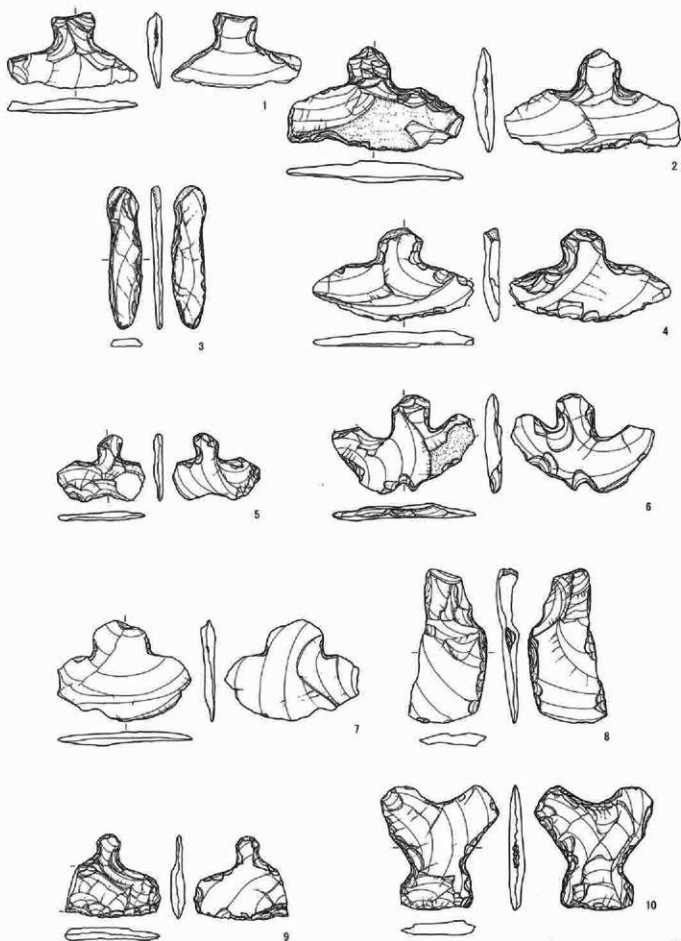
図面106 縄文時代の遺物 (9)



図面107 縄文時代の遺物 (10)

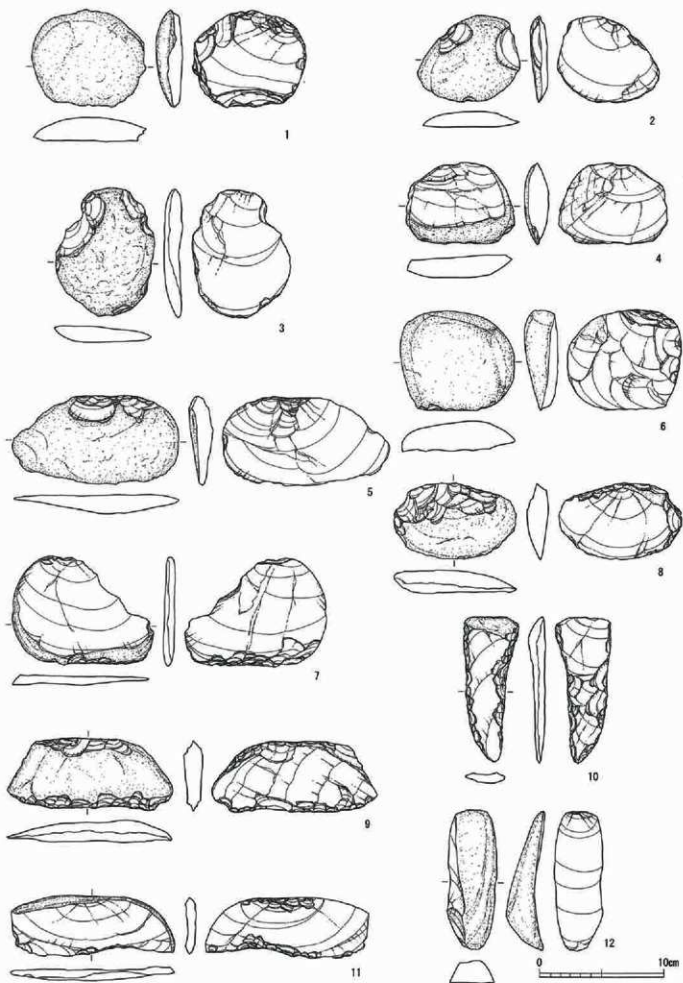


図面108 縄文時代の遺物 (11)

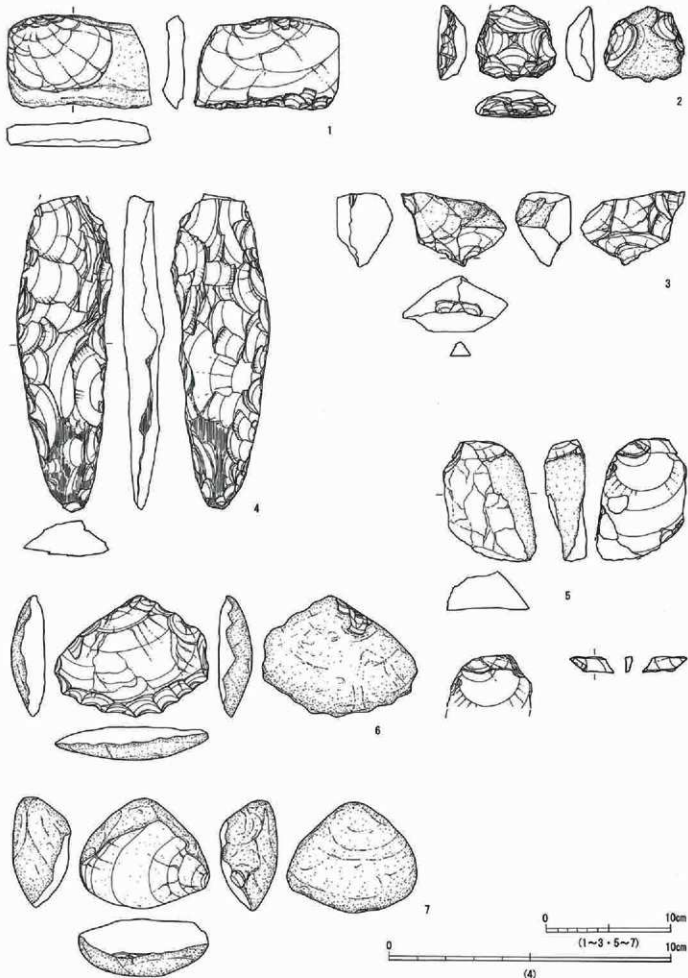


0 10cm

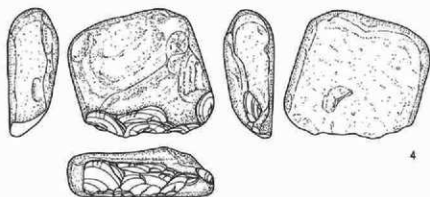
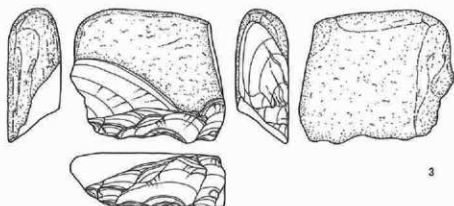
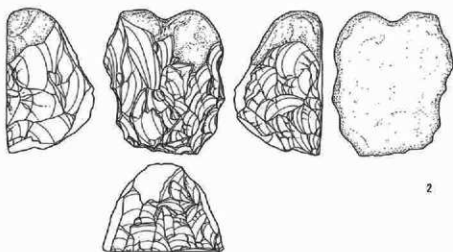
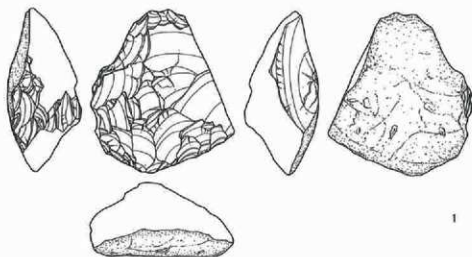
図面109 縄文時代の遺物 (12)



図面110 縄文時代の遺物 (13)

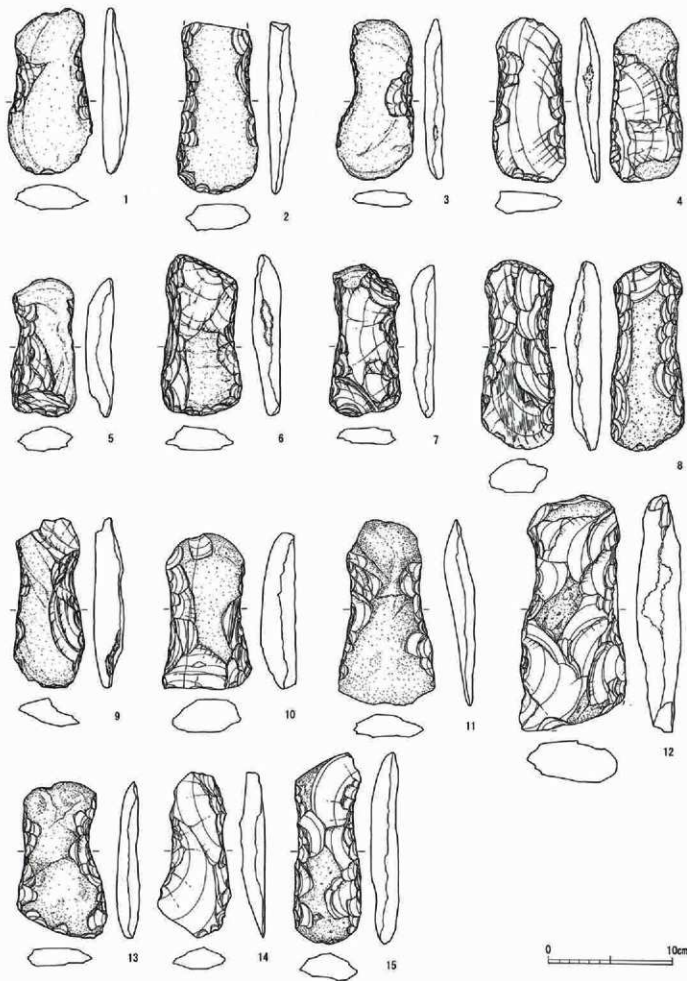


図面111 縄文時代の遺物 (14)

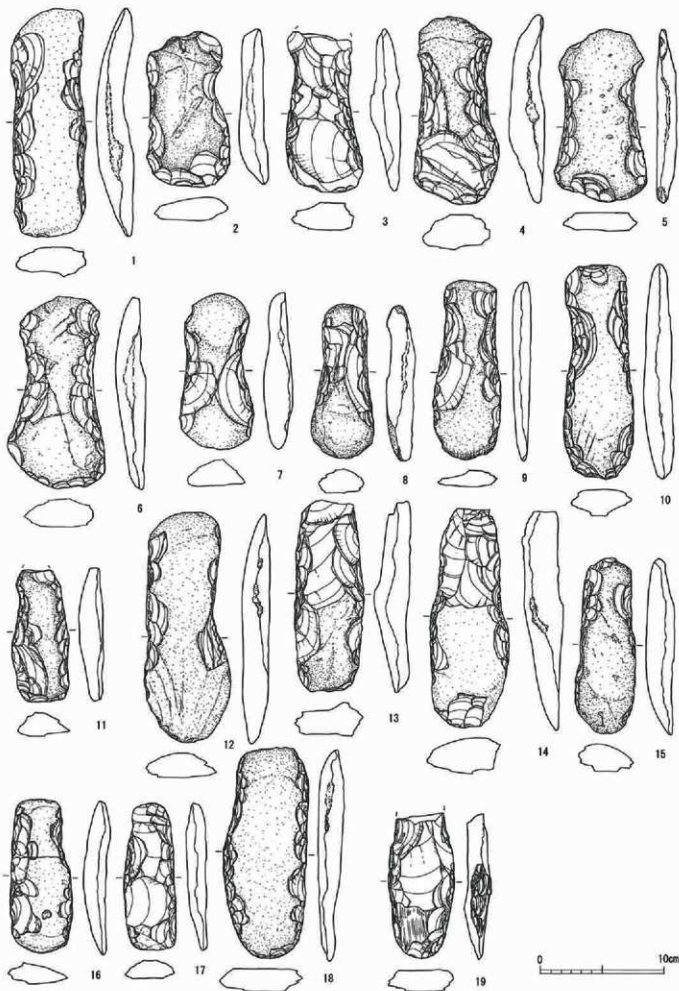


0 10cm

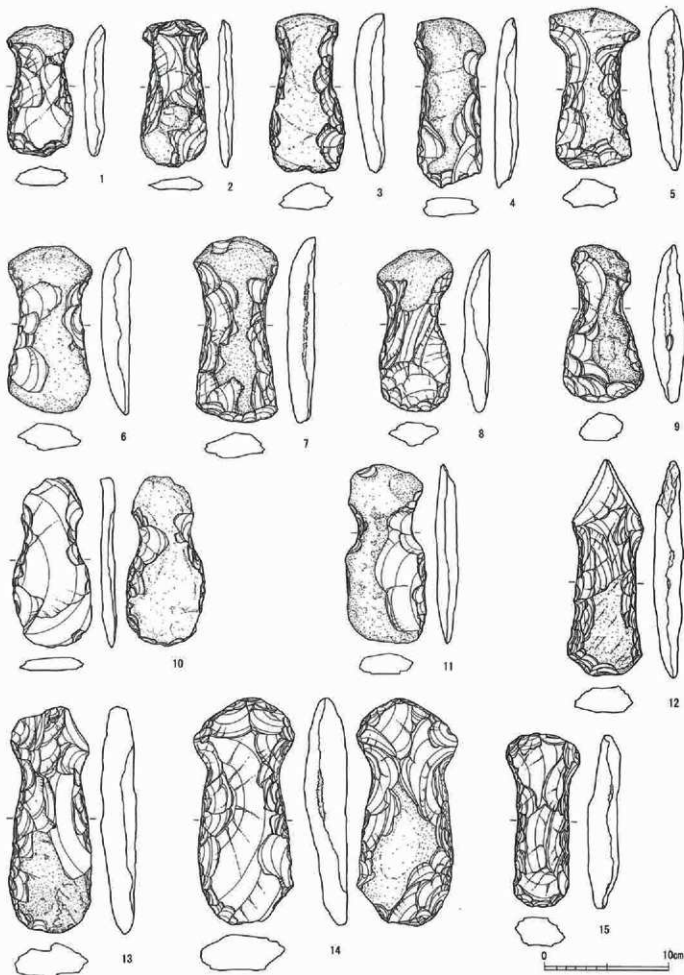
図面112 縄文時代の遺物 (15)



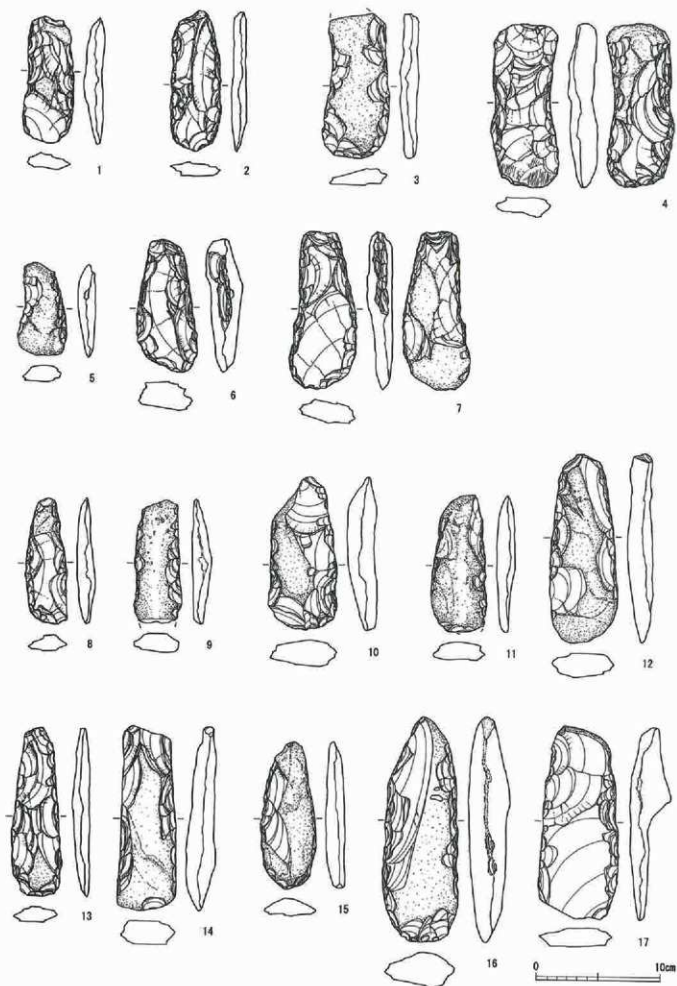
図面113 縄文時代の遺物 (16)



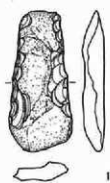
図面114 縄文時代の遺物 (17)



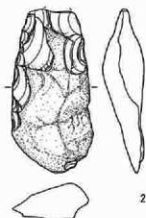
図面115 縄文時代の遺物 (18)



図面116 縄文時代の遺物 (19)



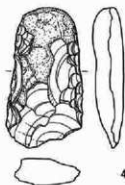
1



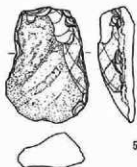
2



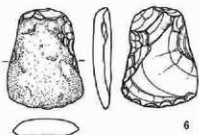
3



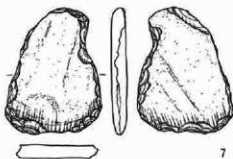
4



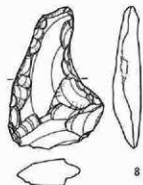
5



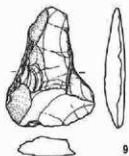
6



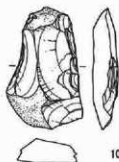
7



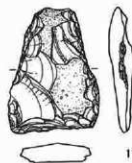
8



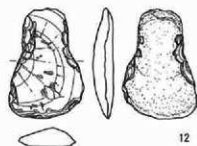
9



10



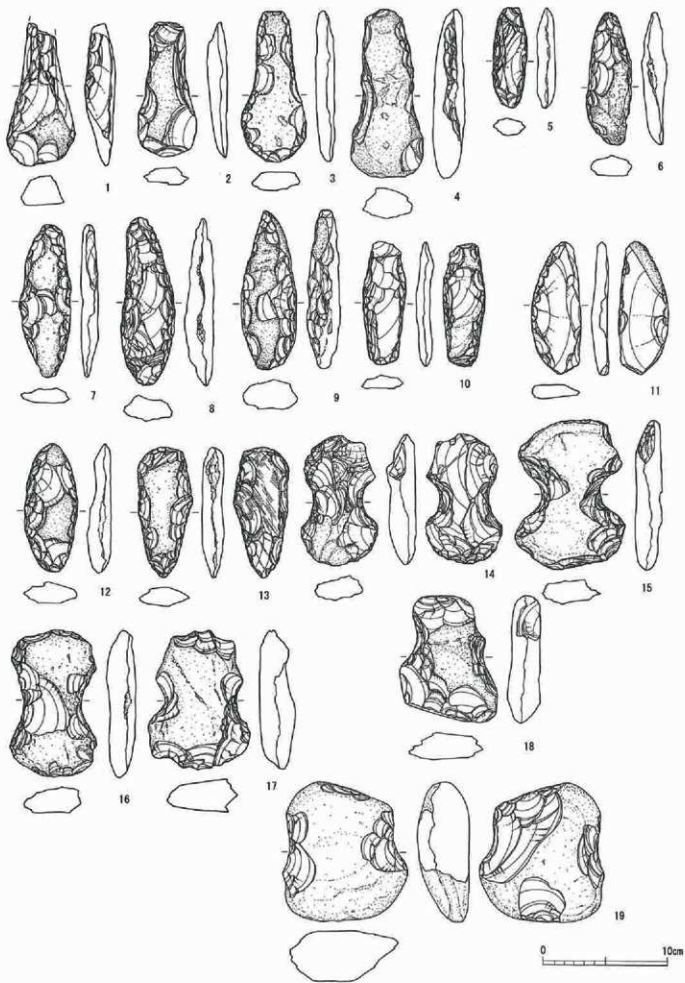
11



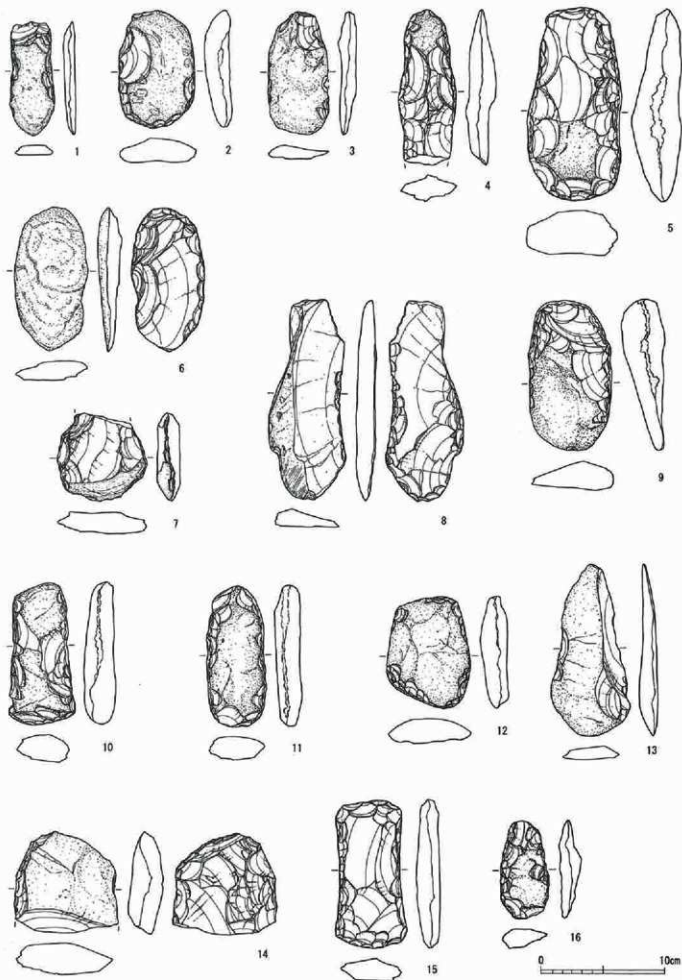
12

0 10cm

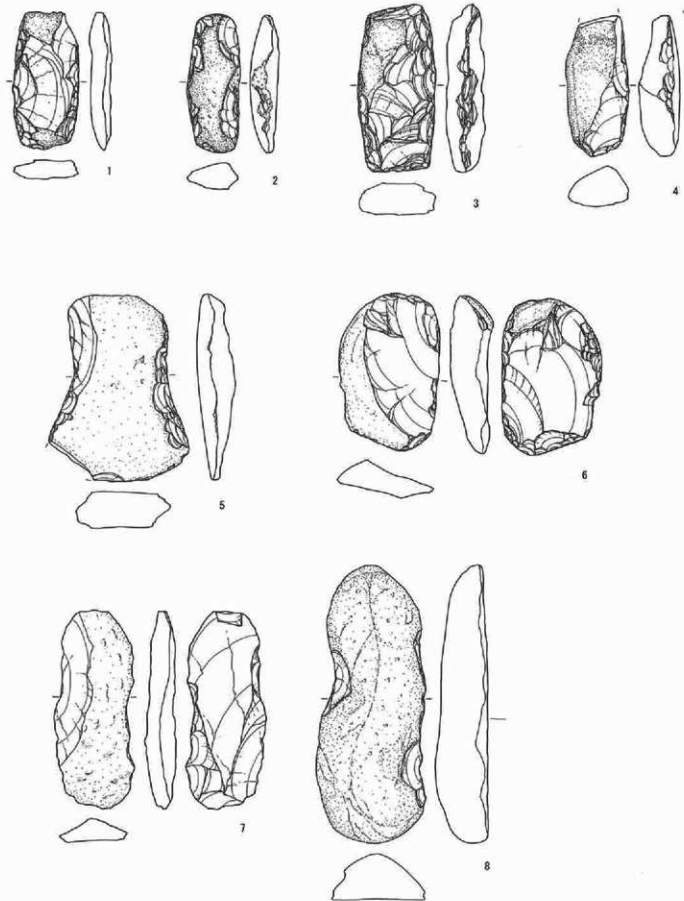
図面117 縄文時代の遺物 (20)



図面118 縄文時代の遺物 (21)

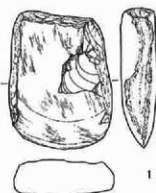


図面119 縄文時代の遺物 (22)

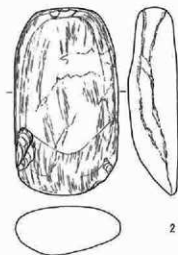


0 10cm

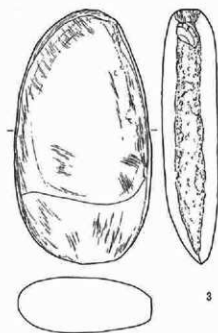
図面120 縄文時代の遺物 (23)



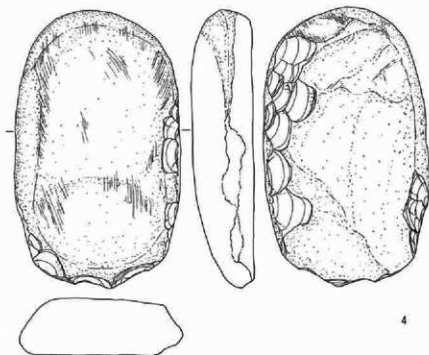
1



2



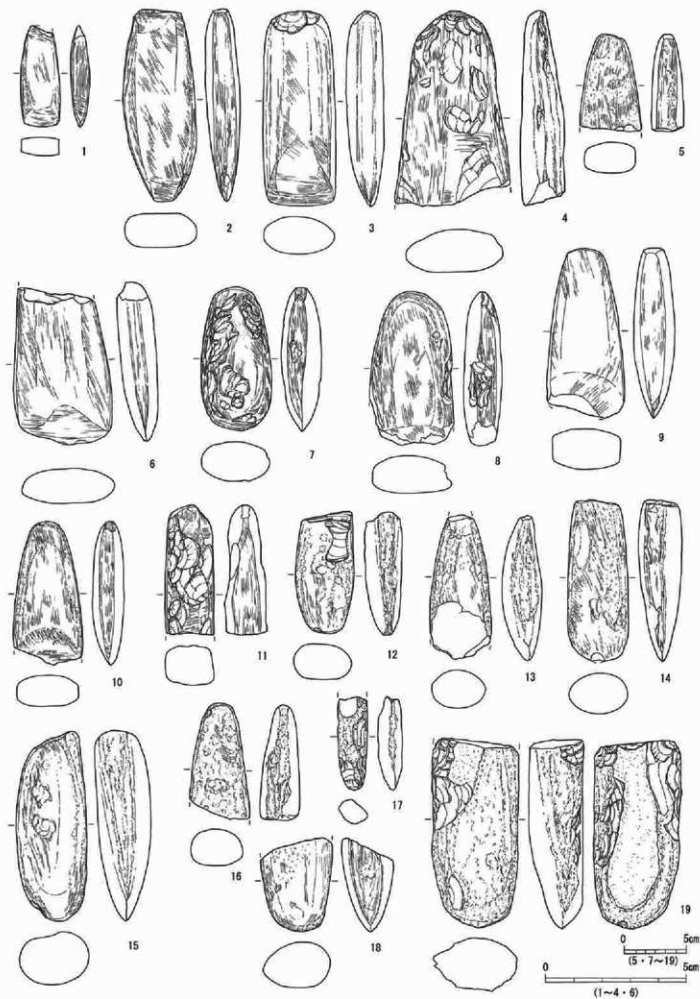
3



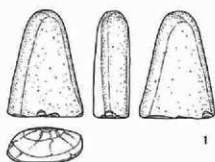
4



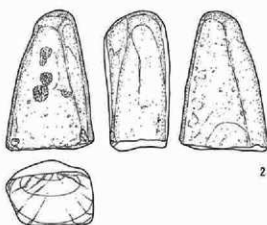
図面121 縄文時代の遺物 (24)



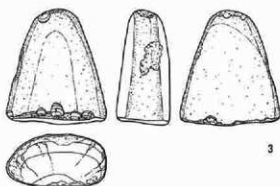
図面122 縄文時代の遺物 (25)



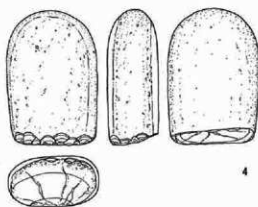
1



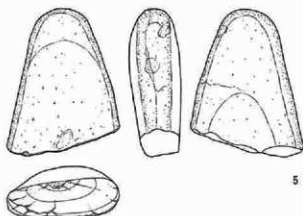
2



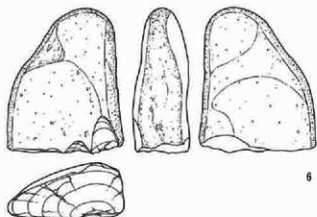
3



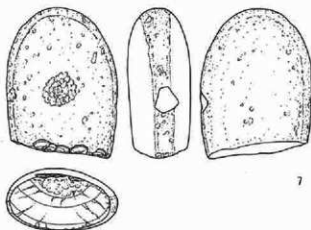
4



5



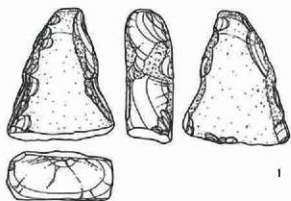
6



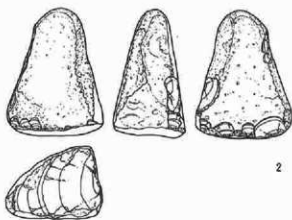
7



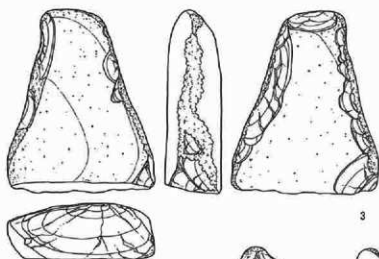
図面123 縄文時代の遺物 (26)



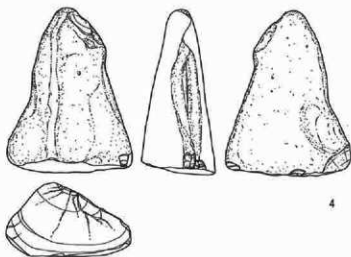
1



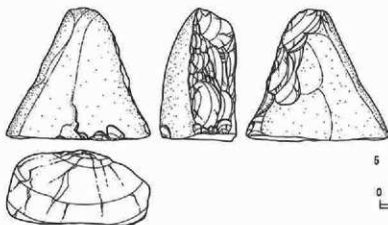
2



3



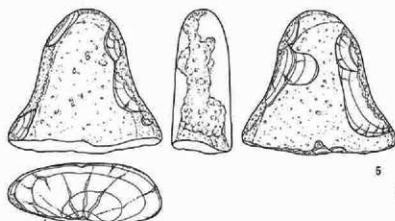
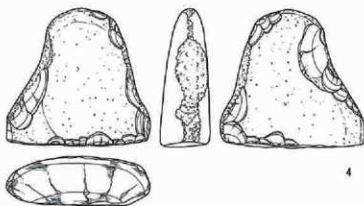
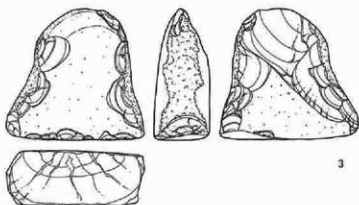
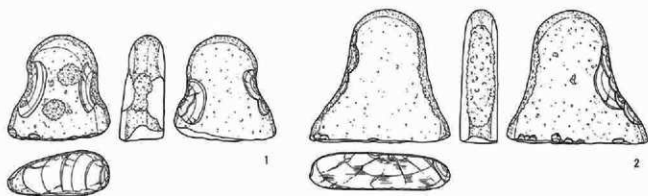
4



5

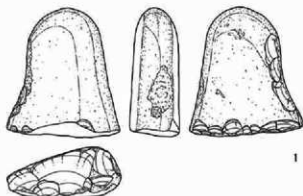
0 10cm

図面124 縄文時代の遺物 (27)

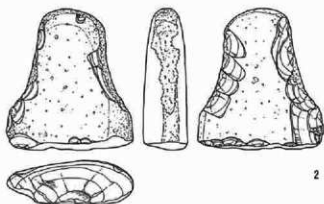


0 10cm

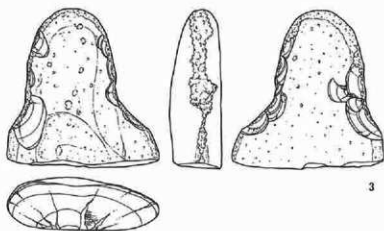
図面125 縄文時代の遺物 (28)



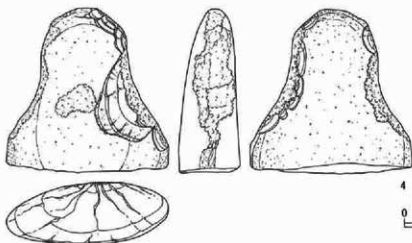
1



2



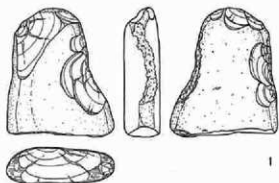
3



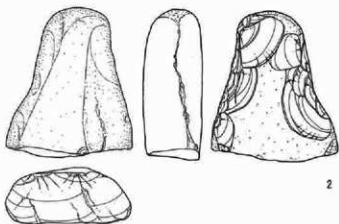
4

0 10cm

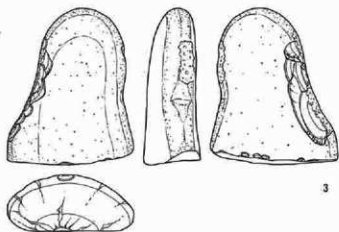
図面126 縄文時代の遺物 (29)



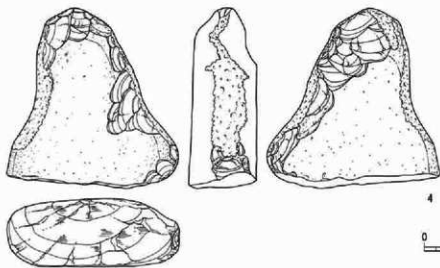
1



2



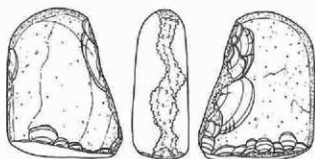
3



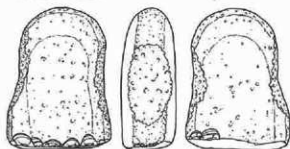
4



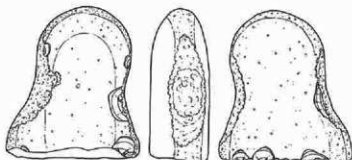
図面127 縄文時代の遺物 (30)



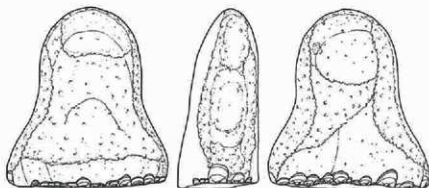
1



2



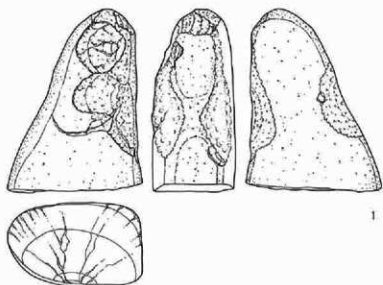
3



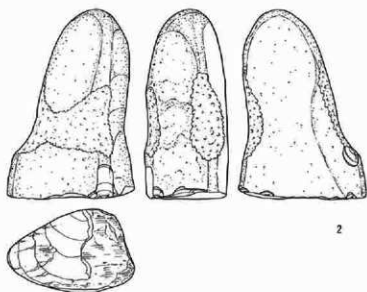
4



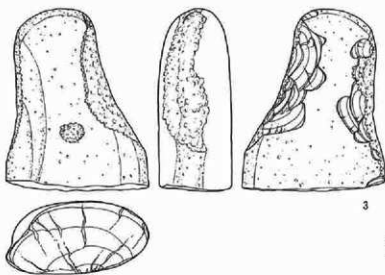
図面128 縄文時代の遺物 (31)



1



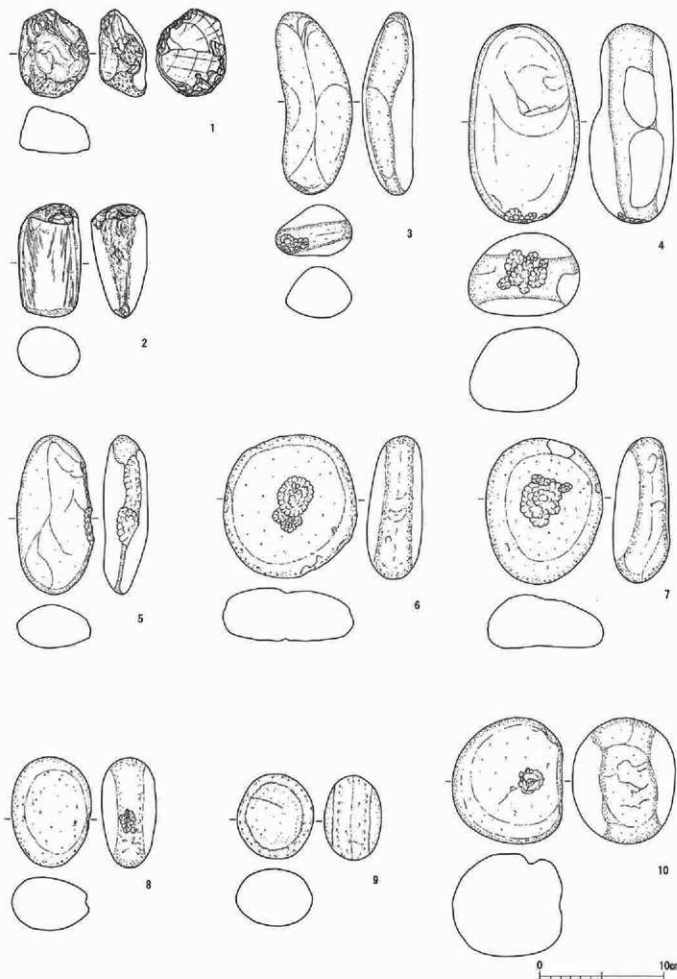
2



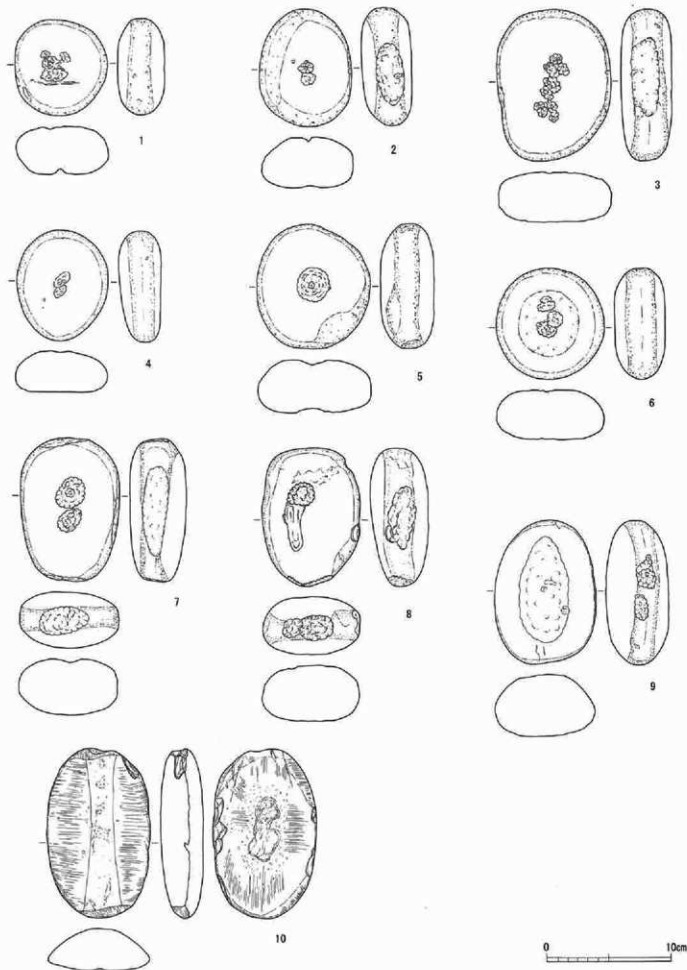
3

0 10cm

図面129 縄文時代の遺物 (32)

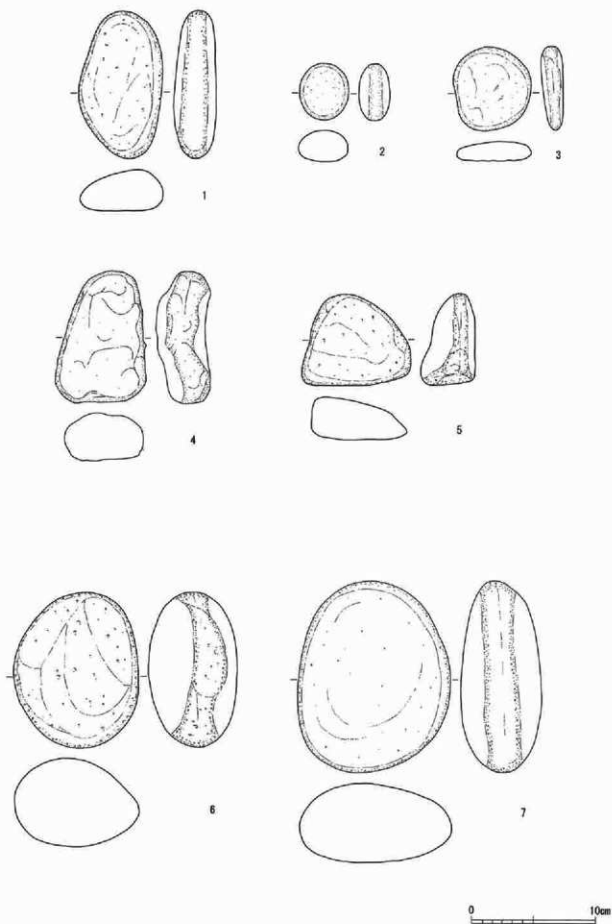


図面130 縄文時代の遺物 (33)

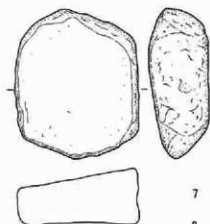
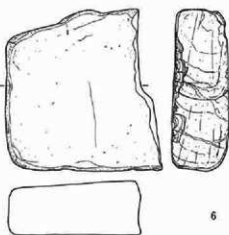
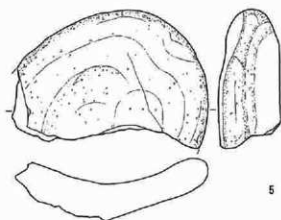
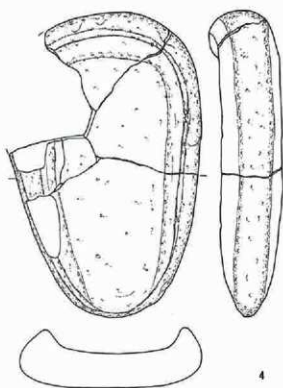
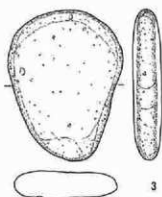
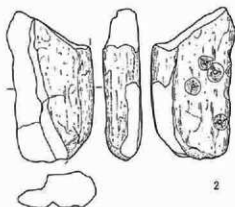
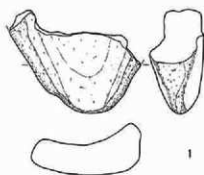


0 10cm

図面131 縄文時代の遺物 (34)

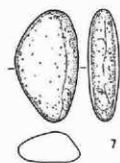
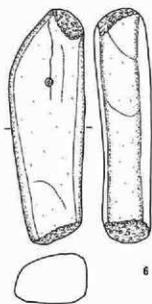
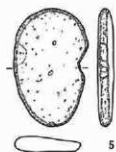
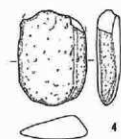
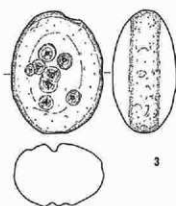
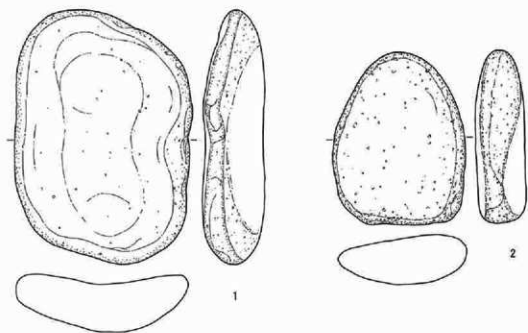


図面132 縄文時代の遺物 (35)

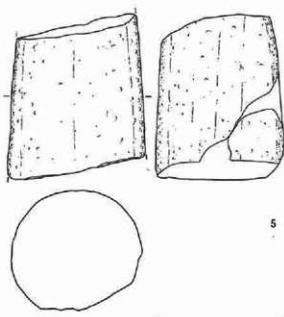
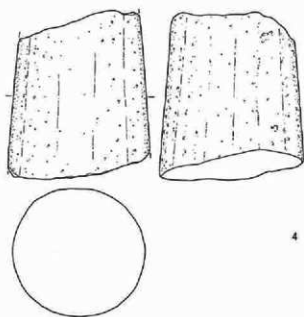
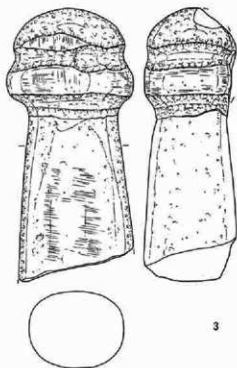
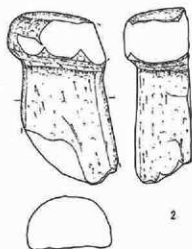
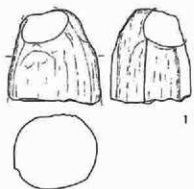


0 10cm

図面133 縄文時代の遺物 (36)

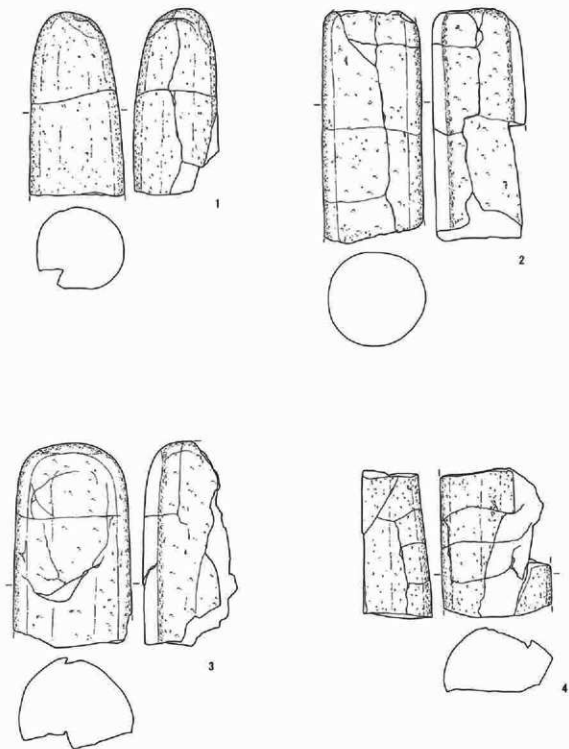


図面134 縄文時代の遺物 (37)

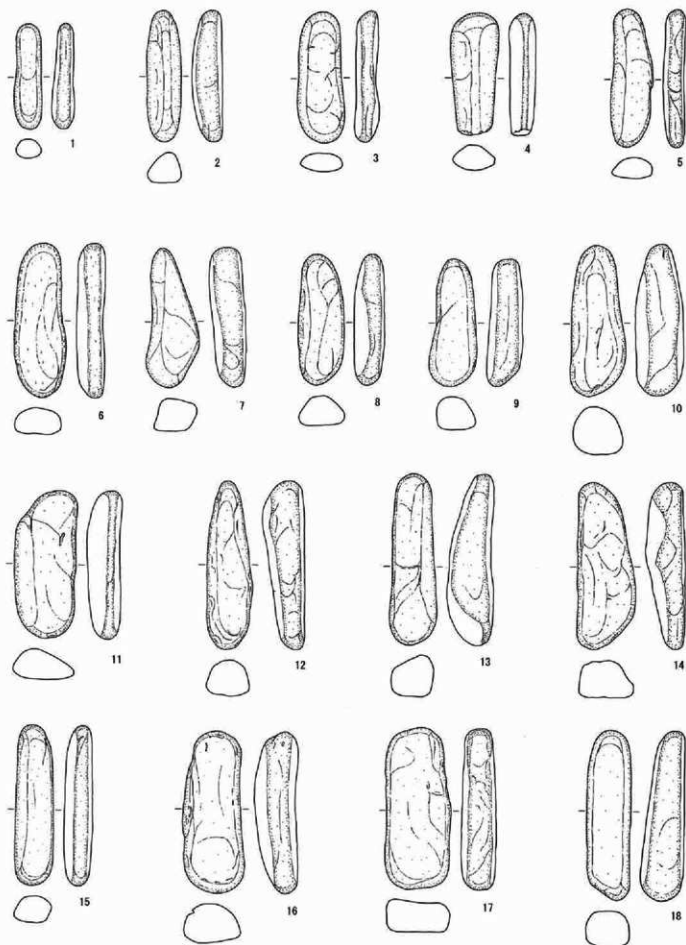


0 10cm

図面135 縄文時代の遺物 (38)

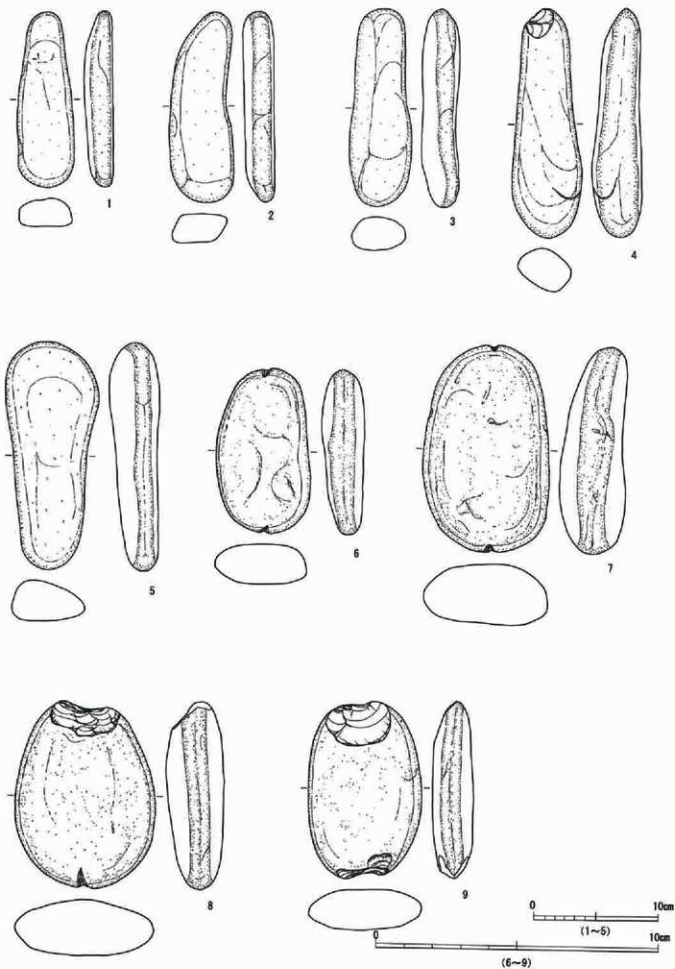


図面136 縄文時代の遺物 (39)



0 10cm

図面137 縄文時代の遺物 (40)



図面138 縄文時代の遺物 (41)

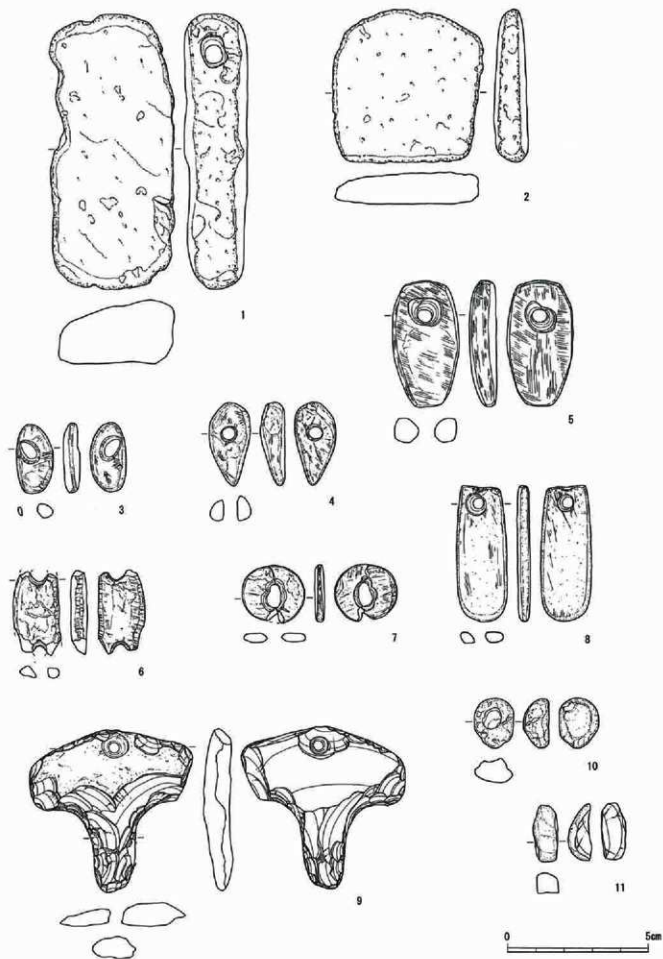


圖 版

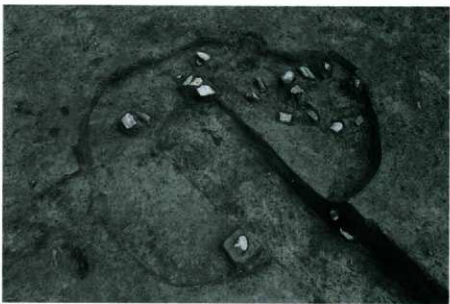
図版1 SB1J掘立柱建物



SB1J掘立柱建物
完掘全景(東から)



SB1J掘立柱建物
柱穴1-1南北セクション
(東から)



SB1J掘立柱建物
柱穴1-2遺物出土状況
(南から)

図版2 SB1J 掘立柱建物



SB1J掘立柱建物
柱穴1-2東西セクション
(南から)



SB1J掘立柱建物
柱穴1-2完掘全景
(南から)



SB1J掘立柱建物
柱穴1-3東西セクション
(南から)

図版3 SB1J掘立柱建物



SB1J掘立柱建物
柱穴1-3完掘全景
(南から)



SB1J掘立柱建物
柱穴1-4東西セクション
(北から)



SB1J掘立柱建物
柱穴1-4完掘全景
(南から)

図版4 SBIJ掘立柱建物



SBIJ掘立柱建物
柱穴2-1東西セクション
(北から)



SBIJ掘立柱建物
柱穴2-1完掘全景
(西から)



SBIJ掘立柱建物
柱穴2-2南北セクション
(西から)

図版5 SB1J掘立柱建物



SB1J掘立柱建物
柱穴2-2完掘全景
(北から)

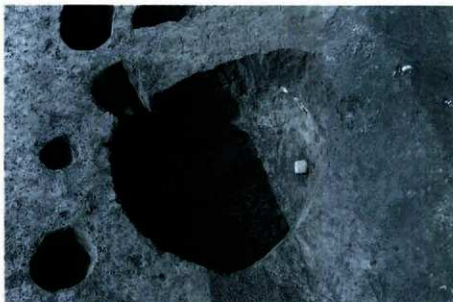


SB1J掘立柱建物
柱穴2-3東西セクション
(南から)



SB1J掘立柱建物
柱穴2-3構築時全景
(南から)

図版6 SBIJ 掘立柱建物



SBIJ掘立柱建物
柱穴2-4完掘全景
(東から)

図版7 SB2J掘立柱建物



SB2J掘立柱建物
完掘全景(東から)



SB2J掘立柱建物
柱穴1-1完掘全景
(東から)



SB2J掘立柱建物
柱穴1-2完掘全景
(南から)

図版8 SB2J掘立柱建物



SB2J掘立柱建物
柱穴2-1完掘全景
(南から)



SB2J掘立柱建物
柱穴2-2完掘全景
(南から)

図版9 SB3J掘立柱建物



SB3J掘立柱建物
完掘全景(東から)



SB3J掘立柱建物
柱穴1-1完全掘全景
(北から)



SB3J掘立柱建物
柱穴1-2完掘全景
(東から)

図版10 SB3J掘立柱建物



SB3J掘立柱建物
柱穴2-1完掘全景
(北から)



SB3J掘立柱建物
柱穴2-2完掘(西から)

図版11 SB4J 掘立柱建物



SB4J掘立柱建物
発掘全景(北から)



SB4J掘立柱建物
柱穴1-1南北セクション
(西から)



SB4J掘立柱建物
柱穴1-2南北セクション
(西から)

図版12 SB4J 掘立柱建物



SB4J掘立柱建物
柱穴2-1南北セクション
(西から)

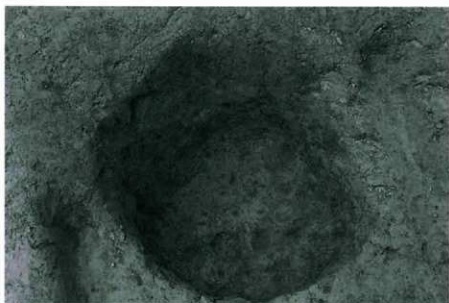


SB4J掘立柱建物
柱穴2-2南北セクション
(西から)

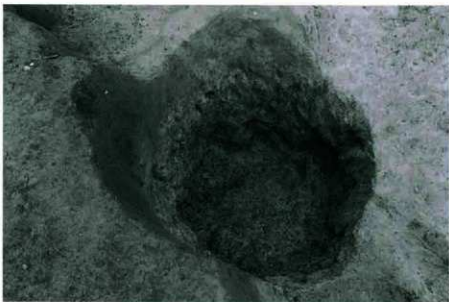
図版13 SB5J掘立柱建物



SB5J掘立柱建物
柱穴1-1南北セクション
(西から)



SB5J掘立柱建物
柱穴1-1完掘全景
(東から)



SB5J掘立柱建物
柱穴1-2完掘全景
(西から)

図版14 SB5J 掘立柱建物



SB5J掘立柱建物
柱穴2-1南北セクション
(西から)



SB5J掘立柱建物
柱穴2-1完掘全景
(東から)



SB5J掘立柱建物
柱穴2-2南北セクション
北半(東から)

図版15 SB5J 掘立柱建物



SB5J掘立柱建物
柱穴2-2南北セクション
南半(東から)



SB5J掘立柱建物
柱穴2-2完掘全景
(西から)

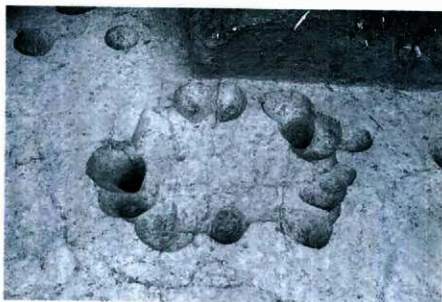
図版16 SI9J住居



SI9J住居
遺物出土状況(西から)



SI9J住居
使用時全景(西から)



SI9J住居
炉完掘全景(西から)

図版17 SI10J住居



SI10J住居
遺物出土状況(西から)



SI10J住居
東西セクション
(北から)



SI10J住居
構築時全景(南から)



SI12J住居
遺物出土状況(西から)



SI12J住居
構築時全景(南から)



SI12J住居
炉跡構築時全景
(西から)

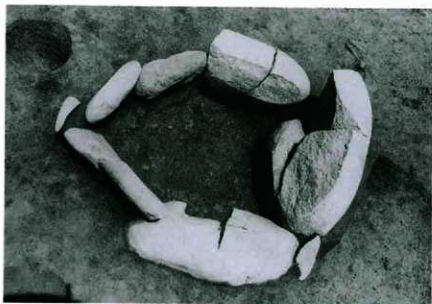
図版19 SI14J住居



SI14J住居
遺物出土状況(東から)



SI14J住居
構築時全景(東から)



SI14J
石囲炉使用時完掘
(南から)



SI14J住居
石囲炉構築時全景
(南から)



SI16J住居
遺物出土状況(西から)

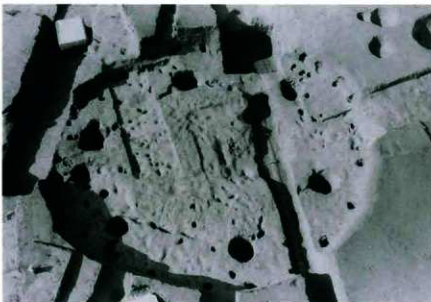


SI16J住居
構築時全景(西から)

図版21 SI18J住居



SI18J住居
遺物出土状況(北から)

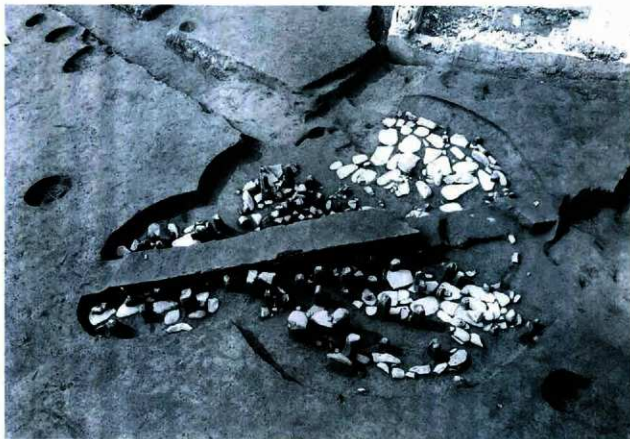


SI18J住居
構築時全景(東から)



SI18J住居
埋葬出土状況及び
南北セクション(西から)

図版22 SI19J住居



SI19J住居 遺物出土状況(東から)



SI19J住居 南北セクション(西から)

図版23 SI19J住居



SI19J住居
埋戻部セクション
(東から)



SI19J住居
炉跡使用時全景
(南東から)



SI19J住居
炉跡構築時全景
(北西から)

図版24 SI19J住居



SI19J住居 敷石状況 (南西から)



SI19J住居
構築時全景 (南西から)

図版25 SI20J住居



SI20J住居
使用時全景(東から)



SI20J住居
東西セクション
(南から)



SI20J住居
構築時全景(西から)

図版26 SI20J住居



SI20J住居
炉跡使用時全景
(東から)



SI20J住居
埋裏出土状況(南から)



SI21J住居
敷石状況(南西から)



SI21J住居
遺物出土状況(中央部)
(西から)



SI21J住居
遺物出土状況
(南西から)



SI21J住居
A-A'東西セクション
東半(南から)



SI21J住居
A-A'東西セクション
西半(南から)

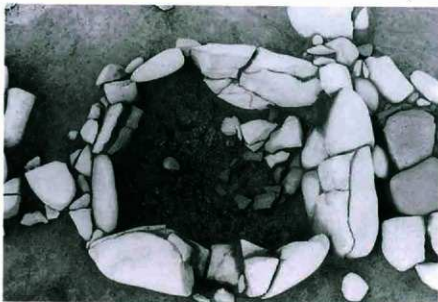
図版29 SI21J住居



SI21J住居
南北セクション
(東から)



SI21J住居
炉跡南北セクション
(東から)



SI21J住居
炉跡使用時全景
(東から)

図版30 SI21J住居



SI21J住居 敷石・柱穴状況(南から)



SI21J住居 構築時全景(南から)

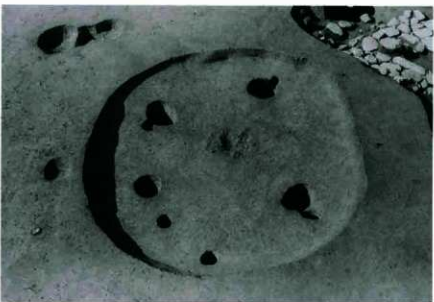
図版31 SI22J住居



SI22J住居
遺物出土状況(南から)

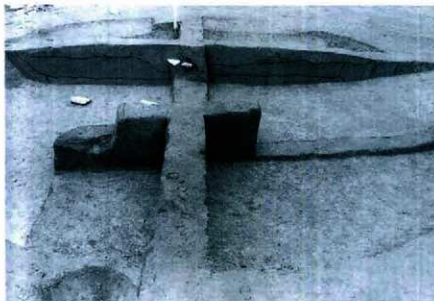


SI22J住居
東西セクション
(南から)

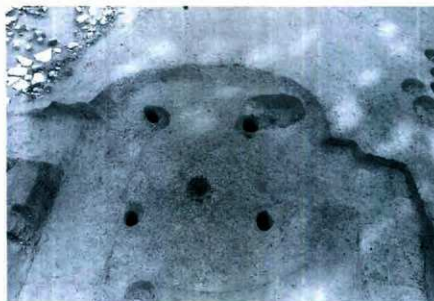


SI22J住居
構築時全景(東から)

図版32 SI23J住居



SI23J住居
東西セクション
(北から)



SI23J住居
構築時全景(北から)



SI23J住居
埋塞半載状況(西から)

図版33 SI24J住居



SI24J住居
遺物出土状況(東から)



SI24J住居
遺物出土状況(東から)



SI24J住居
構築時全景(南から)

図版34 SI24J住居



SI24J住居
炉使用時全景(南から)



SI24J住居
炉内、土器出土状況
(西から)



SI24J住居
炉構築時全景(東から)

図版35 SI25J住居



SI25J住居
遺物出土状況(南から)



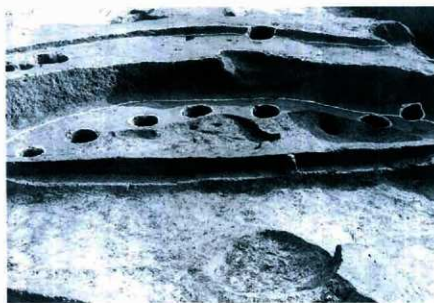
SI25J住居
遺物出土状況(北から)



SI25J住居
東西セクション
東半(北から)



SI25J住居
構築時全景（北から）



SI25J住居
焼土、セクション東側
（西から）



SI25J住居
炉南北セクション
（東から）



SI26J住居
遺物出土状況(東から)



SI26J住居
南北セクション
(東から)



SI26J住居
構築時全景(北から)



SI26J住居
炉構築時全景(南から)



SI26J住居
土器出土状況(南から)



SI26J住居
ミニチュア土器
出土状況(西から)



SI26J住居
埋裏・石囲炉全景
(北から)



SI26J住居
石囲炉使用時全景
(南から)

図版40 SI27J住居



SI27J住居
遺物出土状況(東から)



SI27J住居
埋篋出土状況(東から)



SI27J住居
構築時全景(東から)

図版41 SI28J住居



SI28J住居
構築時全景(東から)



SI28J住居
炉1
南北セクション(西から)



SI28J住居
炉2
構築時全景(東から)

図版42 SI29J住居



SI29J住居
遺物出土状況(南から)



SI29J住居
東西セクション
東半(南から)



SI29J住居
使用時全景(西から)

図版43 SI29J住居



SI29J住居
構築時全景 (西から)



SI29J住居
炉南北セクション
(東から)



SI29J住居
炉使用時全景 (南から)



SI30J住居
構築時全景（東から）



SI30J住居
埋壙出土状況（東から）



SI30J住居
炉使用時全景（西から）

図版45 SI32J住居



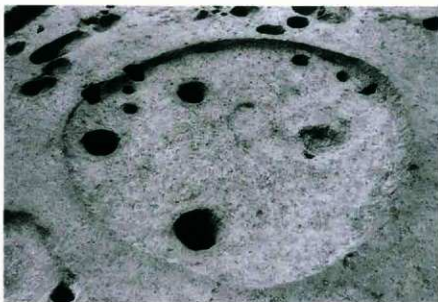
SI32J住居 遺物出土状況 (西から)



SI32J住居 遺物出土状況 (北から)



SI32J住居
東西セクション
(南から)



SI32J住居
構築時全景 (東から)

図版46 SI34J住居



SI34J住居
遺物出土状況(南から)



SI34J住居
東西セクション
(南から)



SI34J住居
構築時全景(南から)

図版47 SI35J住居



SI35J住居
遺物出土状況(南から)



SI35J住居
東西セクション
(南から)



SI35J住居
構築時全景(南から)

図版48 SI36J住居



SI36J住居 遺物出土状況(西から)



SI36J住居 遺物出土状況(南から)



SI36J住居
南北セクション
(西から)



SI36J住居
構築時全景(北から)

図版49 SI38J住居



SI38J住居
南北セクション
(西から)



SI38J住居
構築時全景(南から)



SI38J住居
装飾品出土状況
(西から)



SI39J住居
遺物出土状況(東から)



SI39J住居
南北セクション
(西から)



SI39J住居
構築時全景(東から)



SI40J住居
遺物出土状況(南から)



SI40J住居
東西セクション
(北から)



SI40J住居
構築時全景(南から)



SI45・81J住居
遺物出土状況(西から)



SI45・81J住居
遺物出土状況(北から)

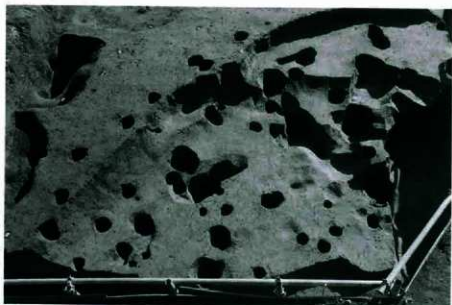


SI45・81J住居
南北セクション
(東から)

図版53 SI45・81J住居



SI45・81J住居
東西セクション
(南から)



SI45・81J住居
構築時全景(北から)

図版54 SI47J住居



SI47J住居
遺物出土状況(東から)



SI47J住居
A-A'東西セクション
(北から)



SI47J住居
構築時全景(北から)

図版55 SI52J住居



SI52J住居
遺物出土状況(東から)



SI52J住居
東西セクション
(南から)



SI52J住居
構築時全景(北から)

図版56 SI57・95J住居



SI57・95J住居
遺物出土状況
(SI95J部分)(東から)



SI57・95J住居
遺物出土状況
(床面直上)(北から)



SI57・95J住居
構築時全景(南から)

図版57 SI58J住居



SI58J住居
遺物出土状況(東から)



SI58J住居
南北セクション
(西から)



SI58J住居
構築時全景(東から)



SI63J住居
遺物出土状況(東から)



SI63J住居
装飾品出土状況
(東から)



SI63J住居
構築時全景(北から)

図版59 SI71J住居



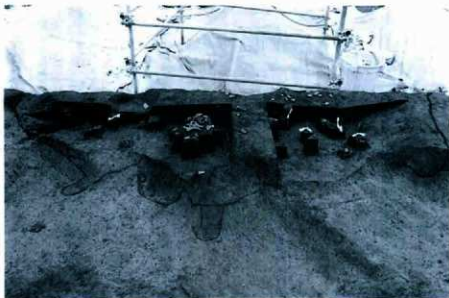
SI71J住居
遺物出土状況 (西から)



SI71J住居
東西セクション
(南から)



SI71J住居
構築時全景 (西から)



SI87J住居
遺物出土状況(北から)

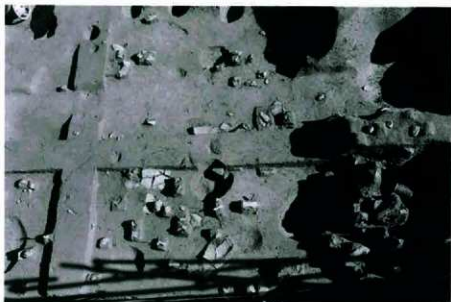


SI87J住居
東西セクション
(北から)



SI87J住居
構築時全景(北から)

図版61 SI94J住居



SI94J住居
遺物出土状況(西から)



SI94J住居
勝坂式土器出土状況
(東から)



SI94J住居
使用時全景(北から)



SI101J住居
遺物出土状況(東から)



SI101J住居
東西セクション
(南から)



SI101J住居
使用時全景(東から)

図版63 SI117J住居



SI117J住居
遺物出土状況 (西から)



SI117J住居
東西セクション
(北から)



SI117J住居
使用時全景 (西から)



SI132J住居
遺物出土状況(東から)



SI132J住居
東西セクション
(北から)

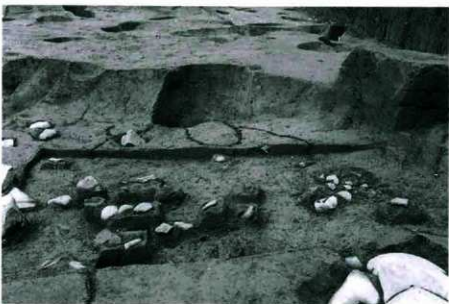


SI132J住居
使用時全景(北から)

図版65 SI136J住居



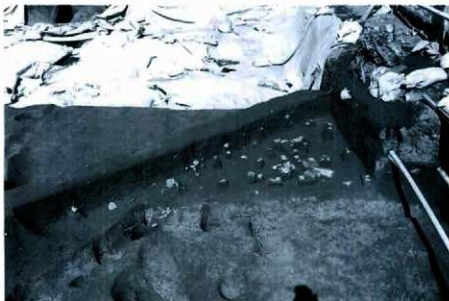
SI136J住居
遺物出土状況(北から)



SI136J住居
東西セクション
(南から)



SI136J住居
構築時全景(東から)



SI138J住居
遺物出土状況(南から)



SI138J住居
南北セクション
(西から)



SI138J住居
使用時全景(北から)

図版67 SI150J住居



SI150J住居
東西セクション
(北から)



SI150J住居
使用時全景(北から)



SI150J住居
周溝内遺物出土状況
(東から)

図版68 SI204J住居



SI204J住居
遺物出土状況(東から)



SI204J住居
東西セクション
(北から)



SI204J住居
使用時全景(南から)



SU5屋外埋壺
遺物出土状況(南から)



SU6屋外埋壺
遺物出土状況
(南から)



SU6屋外埋壺
東西セクション
(攪り込み部)(南から)



SU7屋外埋壺
遺物出土状況(北から)



SU8屋外埋壺
南北セクション
(東から)



SU8屋外埋壺
遺物出土状況(西から)



SU9屋外埋塞
遺物出土状況(東から)



SU9屋外埋塞
南北セクション
(東から)



SU1屋外埋塞
遺物出土状況(北から)

図版72 SS9集石土坑



SS9集石土坑
遺物出土状況(北から)



SS9集石土坑
東西セクション
(南から)



SS9集石土坑
構築時全景(東から)

図版73 SS15集石土坑



SS15集石土坑
遺物出土状況(南から)



SS15集石土坑
南北セクション
(東から)

図版74 SS21 集石土坑



SS21集石土坑
遺物出土状況(北から)



SS21集石土坑
東西セクション
(南から)



SS21集石土坑
構築時全景(南から)

図版75 SS26集石土坑



SS26集石土坑
遺物出土状況(南から)



SS26集石土坑
東西セクション
(北から)



SS33集石土坑
遺物出土状況(北から)



SS33集石土坑
東西セクション
(南から)



SS33集石土坑
構築時全景(南から)

図版77 SS35集石土坑



SS35集石土坑
遺物出土状況(北から)



SS35集石土坑
東西セクション
(南から)



SS35集石土坑
構築時全景(北から)

図版78 SS43集石土坑



SS43集石土坑
遺物出土状況(北から)



SS43集石土坑
南北セクション
(東から)



SS43集石土坑
構築時全景(北から)



SS44集石土坑
遺物出土状況(南から)



SS44集石土坑
東西セクション
(北から)



SS65集石土坑
遺物出土状況(南から)



SS48集石土坑
遺物出土状況(東から)



SS48集石土坑
東西セクション
(南から)



SS48集石土坑
構築時全景(南から)

図版81 SS63集石土坑



SS63集石土坑
遺物出土状況(南から)



SS63集石土坑
東西セクション
(南から)



SS63集石土坑
構築時全景(南から)

図版82 SS67集石土坑



SS67集石土坑
遺物出土状況(西から)



SS67集石土坑
南北セクション
(東から)



SS67集石土坑
構築時全景(西から)



SS68集石土坑
東西セクション
(南から)



SS68集石土坑
東西セクション拡張分
(南から)



SS68集石土坑
構築時全景(北から)



SK129J土坑
遺物出土状況(北から)



SK129J土坑
構築時全景(北から)



SK119J土坑
遺物出土状況(東から)



SK119J土坑
南北セクション
(西から)



SK119J土坑
構築時全景(南から)



SK168J土坑
南北セクション
(東から)



SK168J土坑
構築時全景(東から)

図版87 SK170J土坑



SK170J土坑
遺物出土状況(北から)



SK170J土坑
東西セクション
(北から)



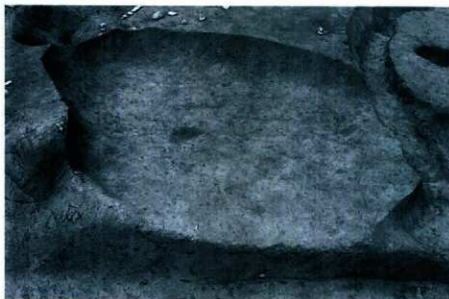
SK170J土坑
構築時全景(東から)



SK346J土坑
遺物出土状況(南から)



SK346J土坑
東西セクション
(北から)



SK346J土坑
構築時全景(北から)



SK263J土坑
遺物出土状況(西から)



SK263J土坑
南北セクション
(西から)



SK263J土坑
構築時全景(西から)



SK171J土坑
遺物出土状況(南から)



SK551J土坑
遺物出土状況(東から)



SK111J土坑
東西セクション
(南から)



SK388J土坑
遺物出土状況(南から)



SK388J土坑
東西セクション
(南から)



SK388J土坑
構築時全景(南から)



SK462J土坑
南北セクション
(西から)



SK462J土坑
遺物出土状況(西から)



SK462J土坑
構築時全景(北から)

図版93 SK273J土坑



SK273J土坑
遺物出土状況 (西から)



SK273J土坑
南北セクション
(西から)



SK273J土坑
構築時全景 (西から)



SK69J土坑
構築時全景(東から)



SK219J土坑
南北セクション
(西から)



SK219J土坑
構築時全景(東から)



SK234J土坑
構築時全景(東から)



SK240J土坑
構築時全景(西から)



SK294J土坑
東西セクション
(北から)



SK286J土坑
構築時全景（東から）



SK286J土坑
ミニチュア土器
出土状況（北から）



SK421J土坑
構築時全景（北から）



SK422J土坑
遺物出土状況(北から)



SK422J土坑
東西セクション
(南から)



SK479J土坑
構築時全景(南から)



SK491J土坑
南北セクション
(西から)



SK491J土坑
構築時全景(西から)



SK497J土坑
構築時全景(西から)

図版99 SK520・550J土坑



SK520J土坑
東西セクション
(南から)



SK520J土坑
構築時全景(北から)



SK550J土坑
構築時全景(北から)



SK175~200・
227J土坑
構築時全景(北から)



SK175J土坑
東西セクション
(南から)



SK176J土坑
南北セクション
(西から)



SK189J土坑
東西セクション
(南から)



SK190J土坑
構築時全景(東から)



SK191J土坑
東西セクション
(南から)



SK192J土坑
東西セクション
(南から)



SK193J土坑
東西セクション
(南から)



SK194J土坑
東西セクション
(南から)



SK290J土坑
東西セクション
(北から)



SK290J土坑
構築時全景(北から)



SK194J土坑
構築時全景(西から)



SK195J土坑
東西セクション
(南から)



SK195J土坑
構築時全景(南から)



SK196J土坑
南北セクション
(東から)



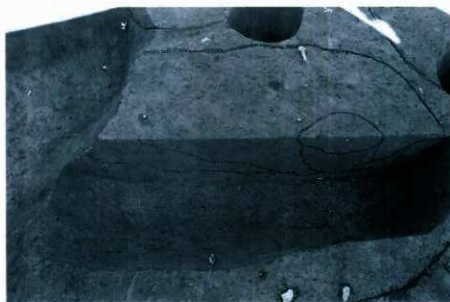
SK196J土坑
構築時全景(南から)



SK197J土坑
東西セクション
(南から)



SK197J土坑
構築時全景(南から)



SK198J土坑
南北セクション
(西から)



SK198J土坑
構築時全景(北から)



SK199J土坑
南北セクション
(東から)



SK199J土坑
構築時全景(北から)



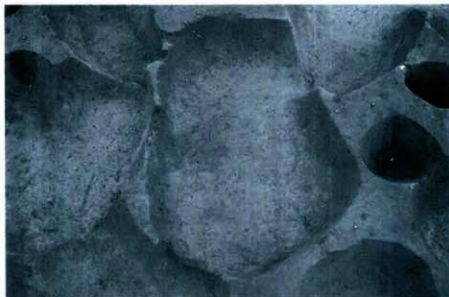
SK200J土坑
南北セクション
(東から)



SK227J土坑
遺物出土状況(西から)



SK227J土坑
南北セクション
(西から)



SK227J土坑
構築時全景(北から)

図版109 SK101J炉穴



SK101J炉穴
東西セクション
(北から)



SK101J炉穴
構築時全景(北から)



SK101J炉穴
E-E'セクション
(西から)



SK102J炉穴
焼土部分全景(西から)



SK102J炉穴
構築時全景(北から)



SK52J陥穴
東西セクション
(南から)



SK52J陥穴
構築時全景(南から)



SK68J陥穴
A-A'セクション
(東から)



SK68J陥穴
構築時全景(南から)



SK74J陥穴
構築時全景(南から)



SK74J陥穴
杭跡東西セクション
(北から)



SK88J陥穴
東西セクション
(北から)



SK88J陥穴
構築時全景(西から)



SX42J-1
構築時全景(西から)



SX42J-1
遺物出土状況近景
(南から)

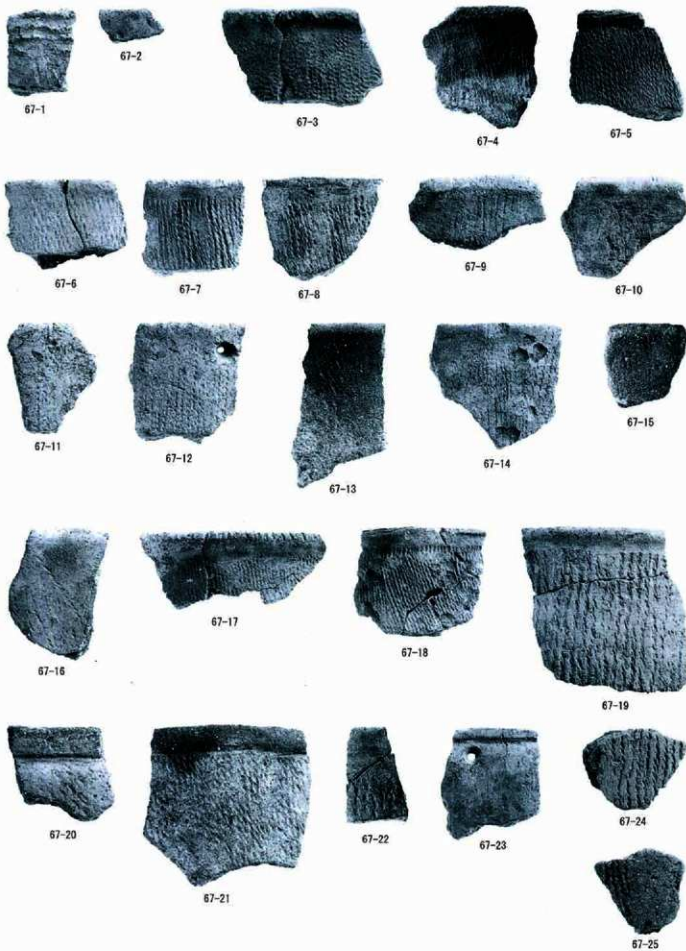


SX42J-2
構築時全景(南から)



SX42J-2
遺物出土状況近景
(南から)

図版116 縄文時代 草創期・早期の土器 (1)





67-26



67-27



67-28



67-29



67-30



68-1



68-2



68-3



68-4



68-5



68-6



68-7



68-8



68-9



68-10



68-11



68-12



68-13



68-14



68-15



68-16



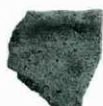
68-17



68-18



68-19



68-20

図版118 縄文時代 早期の土器 (3)



68-21



68-22



68-23



68-24



68-25



68-26



68-27



68-28



68-29



68-30



68-31



68-32



68-33



68-34-1



68-34-2



68-34-3



68-35-1



68-35-2



69-1



69-2



69-4



69-3



69-5



69-7



69-8



69-6



69-9



69-10



69-11



69-12



69-13



69-15



70-1



70-2



69-14



70-3



70-4



70-5



70-6



70-7



70-8



70-9



70-10



70-11



70-12



70-13



70-14



70-15



70-16

図版121 縄文時代 前期の土器 (3)



70-17



70-18



70-19



70-20



70-21



70-22



71-1



71-2



71-3



71-4



71-5



71-6



71-7



71-8



71-9



71-10



71-11



71-12

図版122 縄文時代 前期の土器 (4)



71-13



71-14



71-15



71-16



71-17



71-18



71-19



71-20



71-21



71-22



71-23



71-24



71-25



71-26



71-27



71-29



71-30



71-28

図版123 縄文時代 中期の土器 (1)



72-1



72-2



72-3



72-4



72-5



72-6



72-7



72-8



72-9



72-10



72-11



72-12



72-13



72-14



72-15



73-1



73-2



73-3



73-4



73-5



73-6



73-7



73-8



73-9



73-10



73-11



73-12



73-13



74-1



74-2



74-3



74-5



74-6



74-4



74-7



74-8



74-9



75-1-1



75-2



75-3



75-4



75-5



75-6



75-7



75-8



75-9



75-10



75-11



75-12



76-1



76-3



76-2



76-4



76-5



76-6



77-1



77-2



77-3



77-4



77-5



77-6



78-1



78-2



78-3



78-4



78-5



78-6



78-7



78-8



78-11



78-9



78-10



78-12



78-13



78-14



78-16



78-17



78-18



78-15



78-19



79-1



79-2



79-3



79-4



79-5



79-6



79-7-1



79-8



79-10



79-9



79-11



80-1



80-2



80-3



80-4



80-5



80-6



81-1



81-2



81-3



81-4



81-5



81-6



81-7

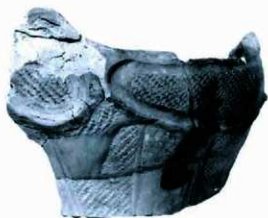


図版141 縄文時代 中期の土器 (19)





82-3



82-4



82-5



82-6

図版143 縄文時代 中期の土器 (21)



83-1



83-2



83-3



83-4



83-5



83-6



83-7



83-8



83-9



83-10



83-11



83-12





84-2



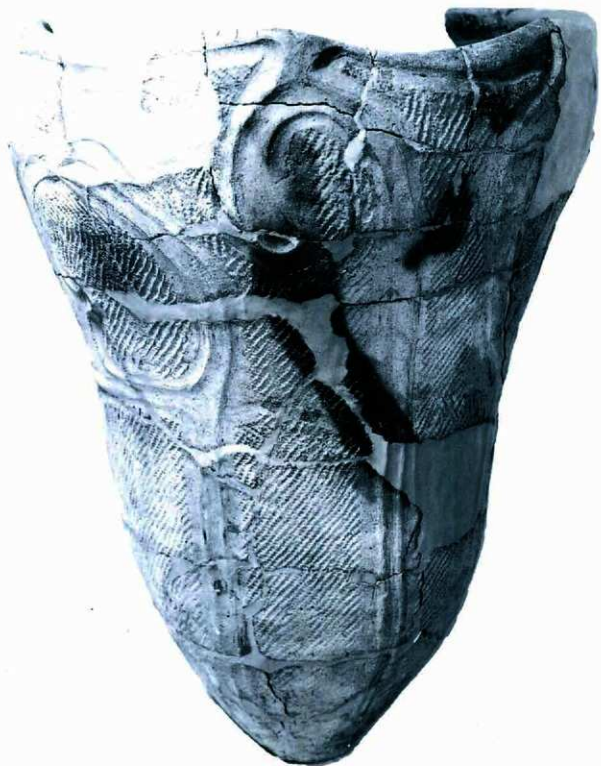
85-2



85-3



85-4





85-5



85-6



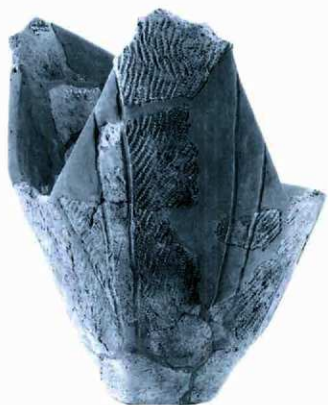
85-7



85-8



85-9



85-10



85-11



85-12



85-13



85-14



85-15



85-16



86-1



86-2



86-4



86-3



86-5



86-6



86-7



86-8



86-10



86-11



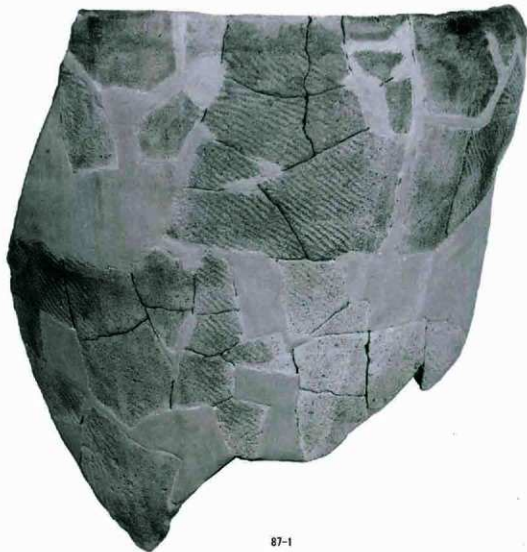
86-9



86-12



86-13



87-1



87-2



87-4



87-3



87-5



87-6



87-7



87-8



87-9



88-1



88-3



88-2



88-4



88-5



88-6



88-8



88-7



88-9



88-10



88-11



88-12



88-13



89-1



89-2



89-3



89-4



89-5



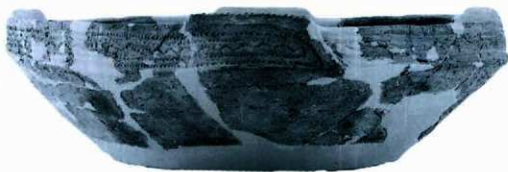
89-6



90-1



90-2



90-3



90-4



90-5



90-6



90-8



90-7



90-9



90-10



90-11



90-12



90-13



90-14



90-15



90-16



91-1



91-4



91-2



91-3



91-5



91-6



91-7



91-8



91-9



91-10



91-11



92-1



92-3



92-2



92-6



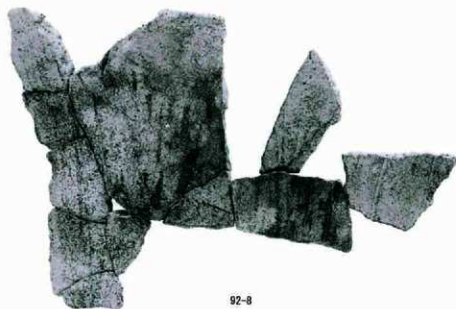
92-4



92-5



92-7



92-8



92-9



92-10



92-11



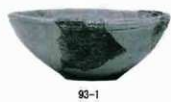
92-12



92-13



92-14



93-1



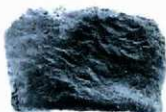
93-3



93-2



94-1



94-2



94-3



94-4



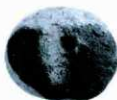
94-5



94-6



94-7



94-9



94-8



94-10



94-11



94-12



94-13



94-14



94-15



94-16



94-17



94-18



94-19



94-20



94-21



94-22



94-23



94-24



94-25



94-26



94-27



94-28



94-29



94-30



94-31



94-32



94-33



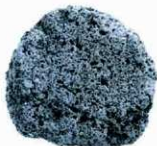
94-34



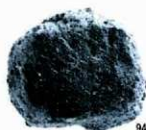
94-35



94-36



94-37



94-38



94-39



94-40



94-41



94-42



94-43



94-44



94-47



94-45



94-46

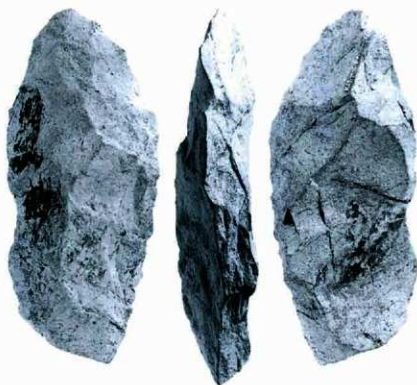
図版170 旧石器時代の遺物 (1)



95-1



95-4



95-11



95-12



95-8

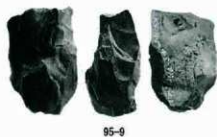


95-5



95-6

図版171 旧石器時代の遺物 (2)





97-1



97-3



97-2



97-4



97-5



97-6



97-7

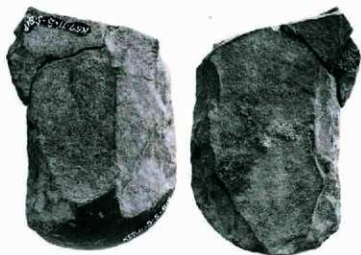
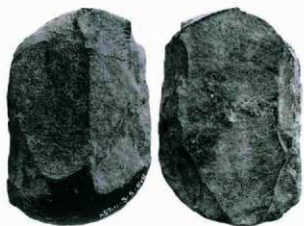


97-8



97-9

図版173 旧石器時代の遺物 (4)



96-16



95-13



96-14



96-7

図版174 縄文時代の遺物 (1)



98-1

98-2

98-3

98-4

98-5



98-6

98-7

98-8



98-9

98-10



98-11

98-12

98-13

98-14



98-15

98-16

98-17

98-18



98-19

98-20

98-21

98-22



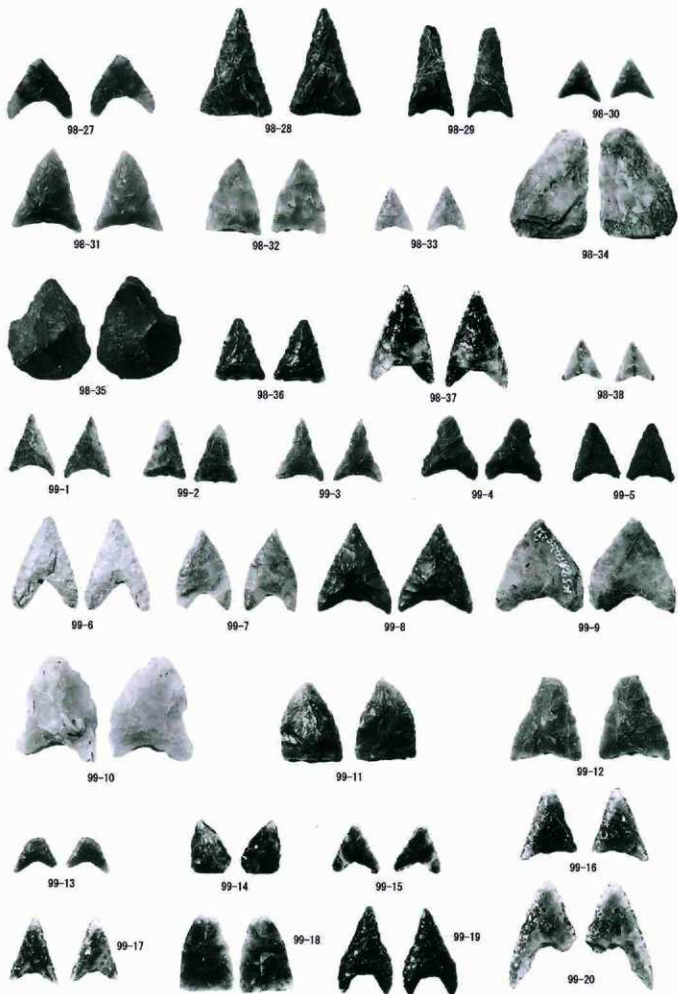
98-23

98-24

98-25

98-26

図版175 縄文時代の遺物 (2)





99-21



99-22



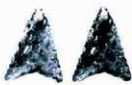
99-23



99-24



99-25



99-26



99-27



99-28



99-29



99-30



99-31



99-32



100-1



100-2



100-3



100-4



100-7

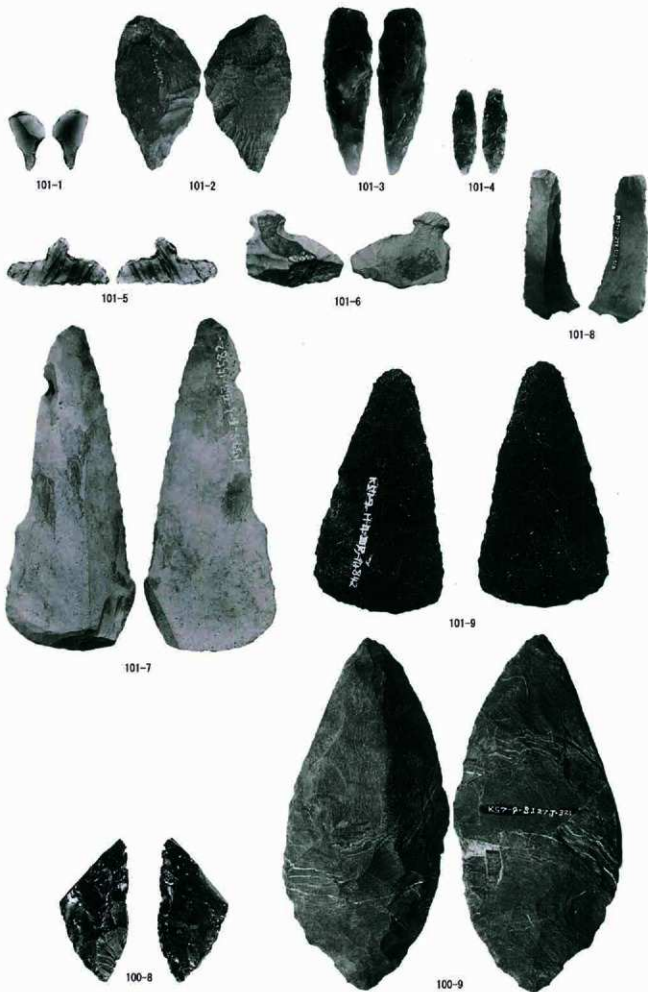


100-5



100-6

図版177 縄文時代の遺物 (4)



図版178 縄文時代の遺物 (5)



102-1

102-2

102-3



102-4

102-5

102-6



103-1



103-2



103-5



103-6



103-3



103-4



104-1



104-2



104-3



104-4



104-5



104-6



104-7



104-9



104-8

図版181 縄文時代の遺物 (8)



105-1



105-2



105-3

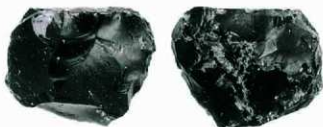


105-5

105-4



105-6



106-1



106-3(4+5)



106-6



106-2



106-8



106-7



107-1



107-2



107-3



107-4



107-5



107-6



107-7



107-8



107-9



107-10



107-11



107-12



107-13



108-1



108-3



108-2



108-4



108-5



108-9



108-6



108-8



108-10



108-7



109-1



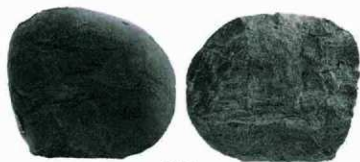
109-2



109-3



109-4



109-6



109-10



109-5



109-12



109-7



109-8



109-9



109-11



110-1



110-4



110-6



110-7



110-2



110-3



110-5



111-1



111-2



111-3



111-4



112-1



112-2



112-3



112-4



112-5



112-6



112-7





112-8



112-9



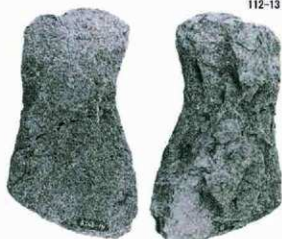
112-10



112-11



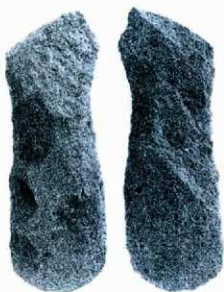
112-12



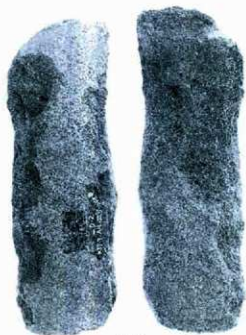
112-13



112-14



112-15



113-1



113-2



113-3



113-4



113-5



113-6



113-7



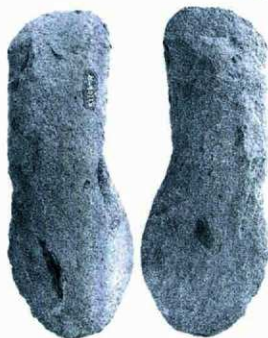
113-8



113-9



113-10



113-12



113-11



113-16



113-18



113-17



113-19



113-14



113-13



113-15



114-1



114-2



114-3



114-4



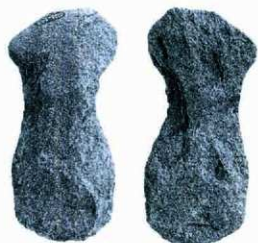
114-5



114-6



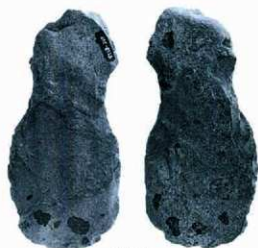
114-7



114-8



114-9



114-10



114-11



114-12



114-13



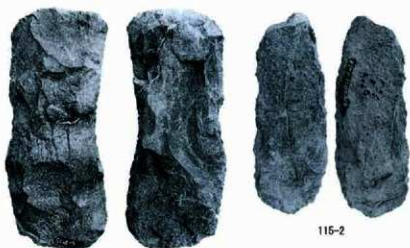
114-14



114-15



115-1



115-2



115-3



115-5



115-6



115-7



117-5



117-6



117-7



117-8



117-9



117-10



117-11



117-12



117-13



116-9



116-10



116-11



116-12



117-1



117-2



117-3



117-4



116-1



116-2



116-3



116-4



116-5



116-6



116-7



116-8



115-8



115-9



115-10



115-11



115-12



115-13



115-15



115-14



115-17



115-16



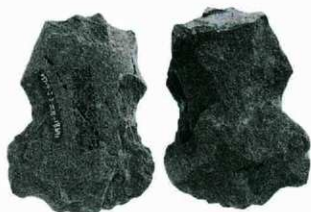
117-14



117-15



117-16



117-17



117-18



117-19



118-1



118-2



118-3



118-4



118-6



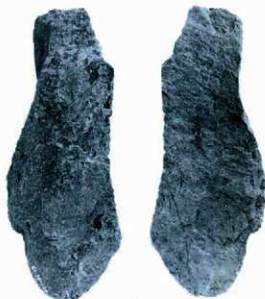
118-9



118-7



118-5



118-8



118-10

118-11

118-12



118-13

118-15

118-16



118-14



119-1



119-2



119-3



119-5



119-4



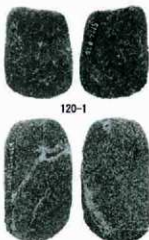
119-7



119-8



119-6



120-1

120-2



120-3



120-4



121-1



121-3



121-4



121-5



121-2



121-6



121-8



121-7



121-10



121-9



121-11



121-12



121-13



121-14



121-15



121-18



121-17



121-16



121-19



122-1



122-2



122-3



122-5



122-6



123-1

123-2



123-3



123-4



123-5

恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅲ

—都営本町四丁目団地建替工事に伴う調査—

発行日 平成15年3月31日
編著者 国分寺市遺跡調査団
© (団長 吉田 格)
発行所 国分寺市遺跡調査会
〒185-8501 国分寺市戸倉1-6-1
TEL 042-325-0111 (代表)
東京都国分寺市教育委員会内
印刷所 〒144-0052 東京都大田区蒲田4-41-11
株式会社 東 プ リ

令和3年(2021)9月9日 デジタル版作成